
遊戯王GX ルールを守って楽しく決闘！

雷光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX ルールを守って楽しく決闘！

【Nコード】

N3776Z

【作者名】

雷光

【あらすじ】

目が覚めたら遊戯王の世界にいた…
やだよこの世界の禁止制限リスト、これだったら現実世界の禁止制限リスト使ってデュエルしてやる！！
正々堂々、やる！！それが俺の主義だ！！
注意！！（作者は初心者です。さらにご都合展開がありますのでそれが苦手な方は今すぐお戻りください）

第1話 始まりの前の始まり（前書き）

無謀なる同時更新!!

第1話 始まりの前の始まり

目が覚めたらどこかの家で横になってた。

俺高校卒業して就職先探してたはず何だけど…
まあいいか。気晴らしにテレビでも見よう。

『ただいまアメリカからKC社長、海馬せ』ピッ

『皆様！！見てください！！あの決闘王武藤遊戯使ってカー』ピッ
デュエルキング

『ダイナソー竜崎選手！！ここで速攻魔法【突進】を発動！！【メガザウラー】の攻撃力を上げ【グレートモス】を倒しインセクター羽蛾を倒しま』ピッ

……まさかこれは二次創作である転生とか憑依というものか！？
てか竜崎、羽蛾に勝ったんだ。

しかし来た世界は遊戯王か…とりあえず今の時期調べよ。

— 3 時間後 —

時期は遊戯王GXの始まり1週間前か…
てか調べて思っただけどこの世界の禁止制限ゆる！！
禁止カードはノーコストでフィールドのカードを破壊する、モンスターと魔法…何故罠が無い？

でもまあ、現実世界でもやだからわかるんだけどさすが制限は緩すぎ！！！

何で【生還の宝札】【リビデ】がかかんねえの！？
未来融合も制限じゃないし！？

こんな禁止制限で勝ったて嬉しくねえよ：

：よしこれならオリジナルの禁止制限作ったほうがいいな

――5時間後――

できた！！よし自分が作ったこの禁止制限リスト結構いいな。現実世界の禁止制限リスト9月1日適応にこの世界の禁止制限リスト、さらにアニメ、ゲーム、漫画の壊れオリカは禁止。それでもほかのオリカは制限行きだけだね。

これでも1k i l l デッキ作れるから大半は遊びデッキにするけど

さあてお次はカード、カード…って多いな…
少し調べるか

…：とりあえずわかったことは全部のカードがあること。

しかも【オレイカルコスの結果】や三幻神、三幻魔、地縛神、N O .
カードといった危ないカードまである。これは速攻で別のトランク
に入れ厳重に保存：

ああー、後、エクシーズやシンクロどうしよう…
これは後でいいか。

―受験当日―

よし、デッキはいっぱい作ったしシンクロやエクシーズのデッキも一応作っといた。
では受験会場に行こう!!

第1話 始まりの前の始まり（後書き）

スマフオうちずらい…

第2話 記念すべき初決闘（前書き）

どうも雷光です。

遊戯王は進む、進む：原作があるからストックがたまる。

そして最初の最強カードはこれだ！！

??? 「最強カードは永続魔法【冥界の宝札】。このカードは自分が2体以上のリリースを必要とモンスターをアドバンス召喚した時デッキからカードを2枚ドローできる！」

作者はこのカード好きですよ。紹介ありがとう、主人公！

第2話 記念すべき初決闘

さて、早速試験会場について筆記試験やってんですが……

「簡単すぎるだろ……」

あまりにも簡単すぎて声に出ちまったよ……まず第1問目

第1問

あなたが通うデュエル・アカデミアのオーナーは？

これ知ってなかったら結構失礼だろ……かの有名なあのですよ？
そう青眼ブルーアイズを使うあのですよ
次もひどいなー

第2問

【強欲な壺】の効果？

みんなわかるよ！！2枚ドローするんだよ！

第3問

現在プロリーグの1位は誰でしょ？

……あー誰だっけ？確か青血さんを盗んだ人でしょ？でも名前わかんないからパス
まあこっからはわかって当然のやつがでてきたね。一部ビツクリしたのあるけど…それは何って？それは…

第36問

【黒魔導師クラン】が被っている頭巾の動物は何でしょう？

知るか！！こんなもの【なぞの手】並にわかんねえぞ！？

―実技試験会場―

はい、とりあえずそれなりにやりました。俺の受験番号は22番：
俺はシャークじゃねえぞ。2が来たって全然不幸な事なんておき
なえよ

『受験番号22番【宗野そうの魁かい】さん。2番の決闘場デュエルフィールド』

呼ばれてので早速ゴー！！

「あなたが宗野魁さんですね」

「はい！」

俺の目の前にいるのはメガネを掛けた知的感を放ってる人……うん、こいつは雑魚だ

強い奴って大抵メガネ掛けないし見た目からして頭よくなそうな奴が強いって結構あるからなー
ディスク構えて準備、準備…

「では始めましょう」

「はい」

「「決闘^{デュエル}!!!」」

先攻は俺からだ！

「俺のターン、ドロー！魔法発動【手札断殺】を発動！お互いの手札を2枚捨て2枚ドローする！俺が捨てるのはこれだ！」

【魔轟神ソルキウス】

【レベル・ステイラー】

「なら私も2枚捨て2枚ドロー」

「そしてドロー。リバースカードを4枚セットしてターンエンド」

「手札交換しモンスターを出さずリバースカードだけでターンエン

ド？手札事故かい？」

ははははははと笑う試験管、あざ笑うほかの受験生達……まあ、確かに軽く事故ってるからな。でもそんな笑い声を後で黙らしてやる

「私のターン、ドロー！【メカ・ハンター】を召喚！さらに装備魔法【デーモンの斧】を装備！これで【メカ・ハンター】の攻撃力は2850だ。そしてさらに速攻魔法【リミッター解除】を発動！これで【メカ・ハンター】の攻撃力は5700だ！」

……さすがに驚いた……まさか原作1話からカイザー亮のサイバーエンドを超えるとは……周りからもあの受験生終わったとかさすが1、2を争う試験官だぜ！とか言ってるし……こいつクロノスと同じくらいなのか……まあこの強さも納得か

「バトル！【メカ・ハンター】で直接攻撃！」
ダイレクトアタック

「相手が直接攻撃した時相手の攻撃を無効にして【バトル・フェーダー】を特殊召喚する。そして相手のバトルフェイズを強制終了させる」

まっ通さないけど

「くっ……リバーズカードをセットしてターンエンド……そしてエンド宣言時【メカ・ハンター】を【リミッター解除】の効果で破壊する（私のセットしたカードはミラーフォース……これであなのすべてのモンスターを破壊する）」

「俺のターン、ドロー！リバーズカードオープン【強欲な瓶】を発動！」

(何をしようがミラーフォースで破壊してやる)

「まだだ！それにチェーンしてリバーズカード一斉オープン。【八汰鳥の骸】 【血の代償】 【積み上げる幸福】。チェーン処理開始。【血の代償】の効果はライフを500払いこのターンもう一度通常召喚ができる。【強欲な瓶】と【八汰鳥の骸】はカードを1枚ドロ―する。【積み上げる幸福】の効果！チェーンが4以降に発動できカード2枚ドロ―する！さらに永続魔法【冥界の宝札】を2枚発動！【冥界の宝札】は自分が2体以上生贄が必要なモンスターを召喚した時デッキからカードを2枚ドロ―できる」

手札が一気に3枚：試験官の顔何するつもりだって顔になってるがそれはすぐわかるよ！

「墓地の【魔轟神ソルキウス】の効果発動！手札を2枚捨てソルキウスを特殊召喚する！さらにソルキウスのLvを2つ下げ墓地の【レベル・ステイラー】を特殊召喚2体特殊召喚する！」

「そんなモンスターを並べて何をするつもりだい？」

……おい、さすがにここまでやったんだからわかるだろ普通？

「ステイラー2体を生贄に【トラゴエディア】を召喚！【冥界の宝札】2枚の効果で4枚ドロ―！さらに【血の代償】の効果発動！500ライフを払いもう一度通常召喚する！ソルキウスと【バトル・フェーダー】を生贄にしてもう1体の【トラゴエディア】だ！【冥界の宝札】2枚の効果で4枚ドロ―！さらに【トラゴエディア】のLvを2つ下げ再びステイラー2体を特殊召喚！500ライフ払いステイラー2体を生贄に【銀河眼の光子竜^{ギャラクツアイズ フォトリドラゴン}】を召喚！さらに4

枚ドロー!」

「うっ……（まだ大丈夫だ…ミラーフォースがある限り私に負けはない!）」

「さらに銀河眼のLV2つを下げまたステイラー2体を特殊召喚!」

すまない、ステイラー…恐らくネオスや【スピード・ウォリアー】以上に過労死してるだろうがそれでも勝つためにリリースするわ。
…そんな眼で俺の心に訴えないでくれ、そんな今にも泣きそうな顔やめてくれ…

「さらに500払いステイラー2体を生贄に再び【銀河眼の光子竜】を召喚!また4枚ドロー!よし来た!速攻魔法【サイクロン】!これでお前のリバースカードを破壊!」

「なっ!?!」

破壊したのはミラフォ…ありきたりだな…

「さらに墓地にある光属性【魔轟神ソルキウス】と闇属性【レベル・ステイラー】を除外して【カオス・ソーサラー】を特殊召喚!」

「まさか世界に数枚しかないカオスシリーズまで出てくるとは…」

あれ?そんなレアなカードなのこいつ?以外だな…こいつゴールドシリーズ買って12枚くらいダブってるぞ
ちなみに開闢はつかわないよ。あんなの使ったらこの世界のゲームバランス崩壊するし確か遊戯しか持っていなかったはずだろ?

だとしたら使わない、使わない

「これで終わり！すべてのモンスターで直接攻撃！ちなみに【トラゴエディア】の攻撃力は手札の枚数×600だから攻撃力は6600です」

「そ…そんな馬鹿な…」

試験官 LP-10900

「ありがとうございました」

…さすがにやりすぎだな…周りざわめいてるし中には「あの銀河眼アイズってカード海馬社長の青眼ブルアイズに似てないか？」とか言っているやついるし

確かに銀河眼ギヤラクソイズは似てるからなー…以後注意しよ

こんなのでシンクロやエクシーズ使ったら注目的間違いなs「Lv8【ドラグニティアームズ・レヴァティン】にLv2【ドラグニティファランクス】をチューニング！！」ってのはあ！！？

「星と星が10を表し時烈火の炎よりすべてを滅ぼす竜が現れる！シンクロ召喚！焼き尽くせ【トライデント・ドラギオン】！効果でフィールド魔法【竜の渓谷】を破壊し2回攻撃！ツイン・ブレイズ！！」

「うわああああ！！」

…あの女…まさか俺以外でも転生者または憑依者がいるとは…しかも何の躊躇いもなくシンクロ召喚するとは…周りがざわついてんじゃねえか！

しかもこっち見たし!! うわあ…銀河眼ギャラクゾイズ使わなきゃ良かった…

—しばらくたった後—

…おっ、十代が来た。そんでクロノスとデュエル…
で原作通り進み最後はスカイスクレイパー・シュート…

これで試験は終了か。とりあえず転生者か憑依者かわからないけど
あの女が来る前に退散退散…

第2話 記念すべき初決闘（後書き）

やっぱり遊戯王は速く書きやすいな…

魁「しかしちゃんとほかの小説もかけよ」

わかってます。

では次回予告

デュエル・アカデミヤの入学が決まった魁！

そして試験会場で現れた転生者！

万丈目の誘い？そんなことより転生者が先だ！

次回！【禁止制限適用転生者VS禁止制限否適用転生者】
漢字が多くてすいません。

魁「しかし早速ライバルと戦うとはな」

いいんだよ別に！！次回もお楽しみに！！

第3話 禁止制限適用転生者VS禁止制限否適用転生者（前書き）

どうも雷光です！

3つも同時に書くんだからやっぱり執筆ペース決めないとね！と思ったので決めました！

魁「執筆ペースは決めておいたか、やっと1つ成長したな」

遊戯王GX 1日1回

白黒学園物語 1週間に1回か2回

リリカルなのは 1ヶ月に1回ぐらい？

……という感じです。まあ、後々変わっていくでしょうけど……これを目安に書きたいと思います。

魁「さて今回の最強カードは！」

【青眼の光龍】……って何で社長のカード？

魁「それは本編を見てくれ。」

効果はこのカードは通常召喚できない。自分フィールドに存在する【青眼の究極竜】をリリースして特殊召喚できる。自分墓地のドラゴン族1体につき攻撃力を300ポイントアップする。このカードを対象にする魔法、罠、モンスター効果を無効にする事ができる。

このカードはブリューナクの効果も無効にできるから召喚すれば結構な制圧力を持つぞ」

ただし現環境ではトリシューラで除外、奈落で除外、神宣で無効！最終的には出す前に自分が倒されるからあまり見ないカードだけど

出れば強いよ！

攻撃力も上がれば1killできるし…墓地にドラゴン族が17体
いれば…

魁「夢話だな」

うるせー！！

第3話 禁止制限適用転生者VS禁止制限否適用転生者

後日、合格通知を貰ってデュエル・アカデミアに通えるんだが……
何故かオシリスレッドでしかも合格通知に手紙が入ってました
手紙の内容は…

入学式の後すぐ校長室に来てください。

鮫島校長

……俺何も悪いことしてないよな…

とりあえず船に乗らなければ話が始まらない

荷物は制服、財布、生徒手帳、アカデミアの通信端末そしてカード
一応すべてのカードを持ってきたけどさ…やっぱり【オレイカルコ
スの結界】とかそういう危ないカードはやめとくべきだったか？

船が出航……順調に進んでるだがそんな俺の後ろに一人の姿があっ
た…

「少し悩んでるとこ悪いんだけど、ちょっと話があるのよ。転生者
さん？」

そこにはオベリスクブルーの制服を着た、髪が何というか…その…
赤身が掛かったような茶髪いや、茶色身が掛かったような赤ような
感じをした肩に掛かるまでの長さの髪を持った少女がいた…あの時
女か…

「何でしょうか？転生者さん？」

俺も同じような返事して振り返った。さすがに転生者だと隠す事はない。すでに知られてるしあっちの情報も知るためにはまずは交友関係を作らないとな

「とりあえず1つ注意事項。あまり人前で銀河眼ギャラクアイズのような一目見ただけで誰のカードと似ていると思わせるようなカードをつかちやダメでしょ？」

「そういうあんたこそ普通にこの時代にはないシンクロ召喚を使ってるだろ…未来を変えるようなやばい行為をやってるお前よりかはマシだろ」

「確かにそうね」

お互いに睨み合いながら話をする…いつどんなことがあるかわからないから

「……で他に用は？」

「あなたの名前が知りたい。それだけ」

即答ですか…名前を教えてまずいことはないし教えとくか

「いいよ。俺の名前は宗野魁。あんたは？」

「宗野魁ねえ…私の名前は【天城サクラ】あまじょう以後よろしく」

「……名前の件の関してはツツコンだ方がいいのか？」

「ダメです」

…そうですか、恐らくあのN.O.カードを集めるハンターの前世の血筋なんでしょうね……

「それじゃ」

「あれ、本当にそれだけなんだ」

その後スタスタと離れたサクラを見てた…天城って呼びずれえよなあーしかしいなくなると暇だな。もうすぐつくんだけどとりあえず何かしてないと暇だ

「おっ受験番号22番君じゃないか」

何して用かな…デッキ作成？ いやこんな人前ではあんなカード見せられないしな。

「22番君聞してるかい？」

「あっ、何でしょうか？」

誰かいたのか…ってあの有名なエアーマンこと■■君じゃないか。あれ？何か名前にモザイクが…

「おーい、そこのあんた!!」

さらに奥からGXの主人公十代が来た…後後ろに翔も

「あんただろ！実技試験で受験生の中でたった1人だけ10000オーバーキルをだした決闘者^{デュエリスト}って！」

「それにあの銀河眼^{ギャラクソイズ}というカードは何だ？世界に数枚しかない青眼^{ブルーアイズ}と同じ感じがするが…どうなんだい？」

「おいおい、いきなり自己紹介もせずに質問かよ…少しは礼儀を覚えろ」

「そうだな。俺の名前は遊城十代！お前と同じオシリスレッド！これからよろしくな！」

「僕の名前は丸藤翔ツス……」

「最後に俺だ。m「おーい！あんなとこにシンクロ召喚とかいう召喚を使った女がいるぞ！」「えっ！？何々！？」だ。よろしく」

……よく聞こえなかったが名前は知っているからいいか。やっぱりシンクロ召喚は注目されるんだね

「こちらこそよろしく。俺の名前は宗野魁よろしくな。とりあえずm「追え！逃がすな！ちゃんと話を聞いてもらうぞ！」銀河眼^{ギャラクソイズ}については確かに青眼^{ブルーアイズ}と同じ世界に数枚しかないカードだ。ほかに質問は？」

「いや、特にない。しいて言うならシンクロ召喚を知っているかい？」

知っているけどここはサクラに押し付けて負担を増やそうか

「全く知らない。知りたければさつきから追っている生徒達が追っている女子生徒。あいつがシンクロ召喚使ってるから聞きに行け」

「そうかわかった。では！」

「おう」

俺は素っ気なくm「なあ、魁！デュエルしようぜ！！」…ことごとくエアーマンの名前が潰されてるな…

「それはついてからにしろ。十代」

「えええーいいじゃん。今すぐここでやろうぜ！」

「却下。それ以上言うとやってやってもいいけど今後一切しないぞ」

「うっ…わかった…でもついたなら必ずデュエルしろよ！！」

「わかってる」

その後俺達は他愛もない話をしてデュエル・アカデミアについた

「さあってと…まさか誰もいないとは…」

部屋についてそうそうこれかよ。とりあえず荷物を置くか。クローゼットに制服を入れ、デッキホルダーを腰に巻いてデッキを8つほど投入…その内3個はエクシーズ、シンクロ、禁止制限を守ったガチデッキ。そして残りはタイプ別の遊びデッキ

あるのはローレベル、ロック、ハndes、ビート、エクゾディア。
昨日の試験で使ったのはこの中のビートデッキだな

それでカードのトランクはどこに置こうか：社長サイズのトランクが30個近くあるんだぞ？危ないカードは自分の引き出しに入れておくか：どっかの漫画のように2重底でな。下の方にいれ上に勉強道具や必需品を入れて、残りのカードはクローゼットの奥に7個：ベットの下に2個：机の上に5個：残りはドアの近くに置いとくかこれでオーケー：後はデュエルディスクを着けて：準備完了！

「おい！魁！速くデュエルしようぜ！」

「おう！今行く！」

グットタイミングだよ十代！

「じゃあ行こうか！」

「おう！」

俺達はデュエル・アカデミアに全力疾走した：：
決して全☆速☆前☆進☆DA！！じゃねえぞ

んで決闘場デュエルフィールドに来たんだが：

「おい！お前ら！ここはお前達オシリスレッドが使っている場所じゃねえぞ！」

そうなんです。原作の通りオベリスクブルーが占領してるんです。となると次は…

「別にいいじゃないか！ここで決闘デュエルしたって！」

「何だと！オシリスのドロップアウトが楯突くk「諸君、そこまでにしたまえ」万丈目さん！！」

ほーら出てきた、出てきた。猿山…いやゴミ山に大将、万丈目準…この頃のサンダーはどう考えてもライバル臭さらにベジータ臭もしたな…

「あいつ誰だ？」

「知らん。てかこんなゴミ山のリーダーと喋ってたって時間の無駄だ。速くやろうぜ」

おおっと…取り巻き達とサンダーはイライラして…怒り出し声をあげた

「貴様ら！万丈目さんを馬鹿にしてるのか！」

「いやしてない。俺はただそんな屑山の大将と喋るのが時間の無駄だと言っただけだ」

「ちっ！貴様らドロップアウトに特別に教えてやる！このお方、万丈目さんは貴様らと同じ1年だがそんなもの月とスポンほど以上に差がある！万丈目さんは中部部からトップクラスの力を持つ超エリートなんだぞ！正しくこの学園最強の1年生なんだぞ！！」

「うわーすごい（棒読み）でも中等と高等を同じにするな。お前らがいるところの力は全然下の下の下。その中の超エリートなんてよくて下の下の下でしょ？」

「貴様！この俺様が黙って聞いてれば次々この俺様の事を馬鹿にしやがって！この俺様が直々にこのアカデミヤの厳しさを教えてやる！」

「断る。今は十代とやらなければいけないのでまた今度」

「ははは！！何か他人をあしらうのは楽しいな！！しかも断られてめっちゃダサイ！」

「いい加減にしろ！このドロップアウト「あなた達いいかげんにしなさい！」て、天上院君！」

出ました！今作GXのヒロイン、天上院明日香！こいつのデッキはサイバーガールデッキで後々になると機械天使になったはず…しかしこのサイズ…とても高1にはできねえぞ

「万丈目君！さっきからオシリスレッドの言葉に惑わされてるけど根本的にはそっちに非があるのよ！ここは素直に謝りなさい！」

「くっ…！誰がそんなことをするか！行くぞお前ら！」

「「「はい！万丈目さん！」」」

ズラズラ行くオベリスクブルー達。しかし俺が銀河眼ギャラクソイズを使ったことを誰も言わないとわ…

うっ？銀河眼？

「あああああ!!」

「うお!どうした魁!」

「すっかり校長に呼ばれてるの忘れてた…十代!また今度!」

「おい!待って!」

急げ!急げ!鮫島校長怒ってるかも!

―校長室―

「お、遅くなって申し訳ございません…ぜえぜえ」

「だ、大丈夫かい、宗野君?」

大丈夫ですって言いたいけどあまりにも疲れすぎてて声が出ない…

「まあ、手紙の件を話さないといけませんね」

「…はい……」

「君がここに呼ばれた理由、それを話そうか」

コクコクと俺は頷き鮫島校長の話を聞き出した

「まず呼ばれた理由と君がオシリスレッドなのは関係している」

…黙って聞く俺

「君がオシリスレッドなのは君が試験中に銀河」
ギャラクシー

以下略!!

つまり俺がオシリスレッドなのは銀河眼ギャラクアイズを持っているで海馬社長直々にオシリスレッドにいろっと言ったらしい。理由はオベリスクブルールーやラーイエローではレアカードが盗まれることが多々あるらしい…

さらに今学期中に海馬社長が来てくれるらしい…まさか銀河眼ギャラクアイズがここまで世界に影響を与えるとはすげえな。以後使わないようにしようかな？

そんで今は夜。デッキ作りとかほかにも禁止制限にするやつあるんじゃない？と思ってカードをいぢくってる

…【ラヴァルバル・チェイン】を制限にしておくか。後【ダイガスタ・フェニックス】も。

次に【真炎の爆発】…制限行き。【A・O・Jカタストル】はどうか…効果体制は無いけど効果強力だしシンクロしやすいし機械族だし闇だし…どうしよう？

ヴォルカザウルス…準制限かな？ホーププレイ…無いな。アニメ限定カード【アーマーシリーズ】…禁止！だけどカイザーに会ったら

渡そう。中の人の都合上

今思ったけど名も無き竜達ってほかに何の姿になるのかな？使ってみたいけど世界に影響を与えるから禁止

ふうー…大変だな。しかし自分自身に枷をして楽しむ！これほどいい遊びはねえ！

うん？メールがある？何だろ？

ドロップアウトボーイ！さっきはよくも馬鹿にしてくれたな！午前デュエルフィールド0時決闘場で待っているぞ！あれだけ馬鹿にしたのに逃げるなよ！

万丈目さん

…最後に万丈目「さん」とは…よっぽどさん付けが好きなのね。あれ？もう一件メールが…

午前0時、オシリスレッド近くの発電所で待ってるわ。ちゃんとデツキを持ってきてね

b y天城サクラ

よしサクラのほうに行こうか！！

…えっ？万丈目？あいつ何て放っておけ。近日中に何故来なかった！とか言って決闘デュエルしてくるでしょ
それにサクラの気になるし

「よし…行くか!」

俺はいきよい良くドアを開け発電所に向かった…

―発電所―

「あら、案外速く来たのね?」

「はは、当たり前だ。女性を待たせるなんて男がする事じゃねえ」

「ふっ…ここに呼んだ理由はわかるでしょ?」

「ああ…」

そう言ってディスク構える俺とサクラ…

「^{デュエル}決闘!」

ここは人目がないから本気でやってやる!

「俺が先攻だ!ドロー!手札より永続魔法【未来融合―フューチャー・フュージョン―】を発動!効果知っているよな!」

「当然」

「なら俺は^{ファイフゴット}【F・G・D】を選択!デッキから^{ドラゴン}【伝説の白石】が2体^{レッドアイズ}【真紅眼の飛竜】が2体^{ワイバーン}【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】を選択!

【伝説の白石】の効果発動！このカードが墓地に送られた時デッキから【青眼の白龍】ブルアイズ ホワइटドラゴンを手札に加える！2枚送ったので2枚手札に加える！」

「ふーん…絶ドラね」

「そういえばそうだけど今は絶ドラじゃねえよ！！」

新しく入ったスターターデッキ【ドラゴニック・レギオン】でレダメが入っているからな！今じゃ絶望じゃなくて希望が見えるぜ！

「さらに手札から魔法発動！【融合賢者】！デッキから【融合】を手札に加える！そして【融合】発動！手札の青眼を融合！来い！青き瞳に宿りし究極の魂！融合召喚！【青眼究極竜】！さらに究極竜を生贄にして！究極を超えし光の竜よ！今その姿を輝かせろ！特殊召喚！【青眼の光龍】！」ブルアイズ シヤボドラゴン

「そして墓地のドラゴンは…9体…」

「光龍の効果で光龍の攻撃力は5700！リバーズカードを2枚セツトしてターンエンドだ！エンドフェイズ！墓地の【真紅眼の飛竜】レッドアイズ ワイバーンを除外して墓地の【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】レッドアイズ ワイバーンを特殊召喚！墓地のドラゴンが減った事で光龍の攻撃力は600ポイントダウンする」

いきなり展開しすぎたな…相手はどう来る！？

「私のターン、ドロー！【天使の施し】を発動！」

禁止カー…ードッ！！でもこの世界では制限だから仕方が

無い！

「デッキから3枚引きその後2枚捨てる。【死者蘇生】を発動！この効果で墓地より【ガガガガール】を特殊召喚！そして速攻魔法【地獄の暴走召喚】！この効果で私は【ガガガガール】をデッキから2体特殊召喚する！そしてあなたも自分モンスター1体を対象にしてデッキ、手札、墓地から同名モンスターを特殊召喚しなさい！」

「デッキから【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】を特殊召喚！」

くそ！俺のデッキにはレダメは2枚しか入ってないよ！

「あら？レダメは2枚しかないの？普通なら3枚入れるのに…まあいいや。【ガガガマジシャン】を召喚！」

『『ガガガ先輩！』『』』

『オ……オウ！』

【ガガガマジシャン】後輩がいっぱいいてビックリしてるぜ。これは見ものだ！

「そして【ガガガガール】の効果発動！このカードのLvを【ガガマジシャン】と同じ4にする！そして【ガガガガール】2体でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！【No.39希望皇ホープ】！！さらに【ガガガマジシャン】と【ガガガガール】でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！【No.39希望皇ホープ】！」

第3話 禁止制限適用転生者VS禁止制限否適用転生者（後書き）

はい、早速次回予告！

始まったばかりなのにいきなり熱き戦いを繰り広げる転生者2人！
そしてサクラが窮地にたった時新たに現れたモンスター！
両者がだす攻撃には一部の隙も無い！！

次回！【究極こえし光VS混沌を光に変える使者！！】

次回もお楽しみに！！

第4話 究極超えし光VS混沌を光に変える使者!! (前書き)

連続更新!!

だが同時にだんだんストックが減ってゆく!

魁「現在どこまでストックがあるんだっけ?」

若本戦まで溜まっていますよ。

魁「じゃあ大丈夫だろ」

そうかな...?

心配だけどそれでいいか!

さて今回の最強カードは!?

魁「【CNo. 39希望皇ホープレイ】!!

エクシーズ素材は光属性Lv4モンスターが3体か自分フィールドの【No. 39希望皇ホープ】の上に乗せエクシーズ召喚する! このカードの効果は自分ライフが1000以下の場合、自分オーバレイユニットを1つ取り除く事でこのカードの攻撃力を500ポイントアップして相手モンスターの攻撃力を1000ポイントダウンさせる!

前話での【ガガガール】のコンボを使った後自分ライフが1000以下の時このカードを出せば勝利の方程式が完成するぞ!!」

後【ファントム・オブ・カオス】の効果で得たホープにも重ねられますよ。

今回はアニメで困ったときの逆転カードでした。ぶっちゃけこのカードと【ガガガール】さえあればアニメの初期

ライフ4000なんて簡単に削れるので台本合わせには持って来いですよね。

第4話 究極超えし光VS混沌を光に変える使者!!

「俺のターン、ドロロー！」【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】の効果発動！墓地より【青眼白龍】を特殊召喚！さらに手札魔法発動！【アドバンスドロロー】！【青眼白龍】を生贄にして2枚ドロロー！さらに手札から魔法発動！【トレード・イン】を発動！手札のLv8モンスター【銀河眼光子竜】ギャラクツアイブオトンドラゴンを捨て2枚ドロロー！」

「これでさらに光龍の攻撃力は300ポイントアップ…攻撃力高いね」

「そりやどうも！行くぞ！シャイニングバースト光龍でホープに攻撃！シャイニングバースト！！」

天城サクラ LP800

シャイニングバースト光龍の光の咆哮がホープに直撃？…何故効果を使わない？

「希望皇ホープの効果…このカードは【N.O.】と名のついたモンスター以外の戦闘では破壊されない…」

原作効果！！？原作ならN.O. 危ないカードじゃないか！？

「お前大丈夫か！？取り込まれてないか！？」

「大丈夫。確かにN.O. 特有の感じがあったけど私に害は無かったから」

それでも危ねーよ！！

たくっ…なんちゅうカード使ってんだ…

「続けてバトル！アルティメットドラゴン究極竜でホープに攻撃！アルティメット・バースト！」

「希望皇ホープの効果発動！オーバーレイユニットを1つ取り除き相手モンスターの攻撃を無効にする！ムーン、バリア！」

オーバーレイユニットがホープの心臓らへんに入りホープが翼で究アルティメットドラゴン極竜の攻撃を防いだ

「【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】でホープに攻撃！ダークネス・ギガフレイム！」

「先ほどオーバーレイユニットを使ったホープの効果発動！オーバーレイユニットを1つ取り除き攻撃を無効にする！」

同じように攻撃を防がれたレダメ
やるな…禁止カードや原作効果を使ってなければ

「リバーズカードを2枚セットしてターンエンド！」

またハンドレスか…手札がほしいな…

「私のターン、ドロー！来た！手札から魔法発動！【ニールングの財宝】！」

ちょっと待てー…！っ…！！原作効果、禁止カードに続いて今度はアニメのオリカですか！？
しかも【ニールングの財宝】の効果って…

「【ニールベルグの財宝】の効果！このカードの発動時自分はカードを5枚ドロースする！」

出たよ壊れオリカ：そんなカード使って楽しいか！？確かに効果は強力だけど！！

「そしてデッキから【ニールベルグの指輪】をレダメに装備させる」

：すまん、レダメのせいなんだけど：つけてる場所が指輪じゃなくて『首』よってこれは【ニールベルグの指輪】改めニールベルグの首輪にしよう

でも首輪の効果はつえ：確か効果はこのカードを装備したモンスターは生贄も効果も使用できずさらに攻撃までできない：ただしおまけ効果にこのカードを装備したモンスターのコントローラーはドロフェイズ時デッキからもう1枚ドロースできる。そしてスタンバイフェイズにドロフェイズにドロースしたカードにモンスターがあった場合ドロースしたカード中のモンスターを1枚墓地に送る：

後者の効果は場合よってはすげえ強くなる：【魔のデッキ破壊ウィルス】を使えば魔法、罫も落とせるし手札も確認できる。：たくジークと社長が組めばある意味最強タッグだったろ：

「速攻魔法【サイクロン】！これで未来融合を破壊！続いて永続魔法【強者の苦痛】！これであなたのモンスターの攻撃力はダウン！いくわよ！オーバーレイユニットがあるホープに対して私はあるカードを重ねる！」

「まさかそれって！」

あの進化すんのが早過ぎの……

「そう、それよ！このカードは自分フィールド場の【No. 39 希望皇ホープ】と名の付くモンスターエクシーズ素材に召喚できる！カオス・エクシーズチェンジ！！今こそその姿を現せ！混沌を光に変える使者！【CNo. 39 希望皇ホープレイ】！！」

『ホオオオー！ー！ー！プツ！！』

まさかあのみんなからハズレカードだと言われ続けてたカード：ホープレイがこんな簡単にフィールドに出るなんて：

でもこっから活用しなければホープレイを出した意味が無いぜ？

十代Side

デュエル
万丈目と決闘してて途中でガードマンがきて中止。今は外で明日香と翔と話しているが：

「おい、何だあの光？」

オシリスレッド近くの森の中がやたらと光ってるんだが……

「さあ？」

「何でしょうね？」

「とりあえず行ってみようぜ！」

俺達は光のところに向かったんだが：
すげえ…すげえとしか言いようがねえ！！

「カオス・エクシーズチェンジ！今こそその姿を現せ！混沌を光に変える使者！【CNO. 39 希望皇ホープレイ】！！」

『ホオオオー！ー！ー！ー！プッ！！』

あそこにいるのは魁！ しかも対戦相手は試験でシンクロ召喚とかいう召喚した天城サクラ！ しかもまたサクラは新たな召喚をしてる……それだけじゃない！ 魁のフィールドには攻撃力5700のドラゴンと2800のドラゴン！

最後のドラゴンは…あれどう見ても【青眼の究極竜】だよな？
ブルアイズ アルティメドラゴン

青眼は海馬さんしか持ってないはず…どうやって場に出したんだ？

「さらに【切り込み隊長】を召喚！効果により手札から【ビック・ジョーズ】を特殊召喚！」

ええ!!? あの鯨LV3で攻撃力1800!!? 強すぎる!

「Lv3【切り込み隊長】と【ビック・ジョーズ】でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！【潜航母艦エアロ・シャーク】！」

「！させるか！罨発動【奈落の落とし穴】！相手が攻撃力15000

以上のモンスターを召喚、反転召喚、特殊召喚した時そのモンスターを破壊し除外する！」

「くっ！防がれたか！ホープレイに対して使わなかったから無いと思っただけど…」

「あいにくそっちが原作効果を使うのをわかってるんでね…恐らく【潜航母艦エアロ・シャーク】が出ると思っただけで使わなかった」

原作効果？

エラッタとかそんな感じの事かな？

「しょうがない…ホープレイの効果発動！オーバーレイユニットをすべて取り除きエンドフェイズ時まで攻撃力を1500ポイントアップ！そして究極竜アルティメドラゴンの攻撃力を3000ポイントダウンさせる！オーバーレイチャージ！！」

その効果強力じゃないか！

【ブラック・マジシャン】、ブルオイズ ホワドラゴン【青眼の白龍】の攻撃力さえ0にして自分は攻撃力4000で攻撃なんて…強力すぎるだろ！

「これで終わりよ！ホープレイで究極竜アルティメドラゴンに攻撃！ホープ剣カオススラッシュ！」

ホープレイの剣が究極竜アルティメドラゴンを破壊した…

魁が負けるなんて…

「異発動！【ガード・ブロック】！このカードは戦闘で発生したダメージを1度だけ0にして1枚ドロ！」

さすが魁！あんなダメージを防ぐなんて！

「決められなかった…だけどホープでレダメに攻撃！ホープ剣スラッシュ！」

「ぐっ！」

宗野魁 LP800

「これで並んだわ…リバースカードを1枚セットしてターンエンド」
お互いのライフは同じ…しかし攻撃力は魁のほうが上！このまま押し切れば勝てる！

「俺のターン、ドロー！（今の光龍シヤオウリウリウの攻撃力は【強者の苦痛】で5300か…攻撃力の維持のため墓地のドラゴンをあまり減らさないでおこう）魔法発動！【死者蘇生】！この効果で墓地より来い！【青眼究極竜ブルアイズリウドラゴン】！バトル！光龍シヤオウリウリウでホーププレイに攻撃！」

これが通れば魁の勝ちだ！

「ダメージステップ時に永続罠【燃える闘志】をホーププレイに対して発動！」

「ま、まずい！」

「【燃える闘志】の効果！このカードを装備したモンスターは装備モンスターの元々の攻撃力より攻撃力が高いモンスターが存在する時ダメージステップ終了時まで攻撃力を2倍にする！」

攻撃力が…

ブルアイズ シャボラゴン
【青眼の光龍】 攻撃力5000

【CNo. 39 希望皇ホープレイ】 攻撃力5000

並んだ！

「行け！ホープレイ！ホープ剣カオススラッシュ！」

「くっ！シャイニングバースト！」

お互いのモンスターは攻撃しあい打ち…

アルティメットドラゴン
「なら究極竜でホープに攻撃！」

これも通れば！勝てる！

「罨発動！【ダメージ・ダイエツト】！このターン自分が受けるすべてのダメージを半分にする！ぐっ！」

天城サクラ LP400

あちゃー防がれたか…でもこのデュエルめちゃくちゃワクワクするぜ！！

「防がれたか…ならメインフェイズ2！俺は魔法カード【貪欲な壺】ブルアイズ ホワイを発動！墓地の【青眼の光龍】と【伝説の白石】が2体【青眼の白龍】ドラゴン2枚をデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロー！究極竜をアルティメットドラゴン生贄に…再びこのフィールドに光をもたらせ！特殊召喚！【青眼の光龍】シャボラゴンを特殊召喚！！墓地のドラゴンは3体減り【強者の苦痛】で

攻撃力ダウン：攻撃力は4100：これでターンエンド」

「私のターン、ドロー！再びホープをエクシーズ素材にしてエクシーズ召喚する！カオス・エクシーズチェンジ！再び姿を現せ！混沌を光に変える使者！【CNo. 39 希望皇ホープレイ】！」

『ホオオオー！ー！ー！ー！プツ！！』

また出た！ホープレイ！

「そしてホーププレイの効果発動！オーバーレイユニット1つ取り除いてこのカードの攻撃力を500ポイントアップする！攻撃力ダウンは光龍には効かない：オーバーレイチャージ！さらに装備魔法【巨大化】！これによりホーププレイの元々の攻撃力を倍にする！よって攻撃力5500！」

まずい！これだと魁が負けちゃう！

「これで終わりだ！ホーププレイで光龍シヤドルゴダに攻撃！ホープ剣カオススラッシュ！」

今度こそ魁は終わりだ！

「…ふっ…今度はそっちが引つ掛かる番だぜ!!」

「何!？」

まさか魁にはこの状況を打開するカードを持っているのか!?

「いくらワールドにリバースカードが無くても手札にも注意しろ

よ！手札から【オネスト】の効果発動！」

「そんな！？」

「【オネスト】の効果！自分フィールド場の光属性モンスターが相手モンスターと戦闘をおこなった時発動できる！手札のこのカードを墓地に送り戦闘してる光属性モンスター…ブルアイズ シャドウゾグ【青眼の光龍】の攻撃力に戦闘されてる相手モンスター…ブルアイズ シャドウゾグ【CNo. 39 希望皇ホープレイ】の攻撃力…5500をブルアイズ シャドウゾグ【青眼の光龍】に加える！！」

『「グルアアアアア！！！！」ブルアイズ シャドウゾグ【青眼の光龍】攻撃力4100↓9600

攻撃力が9600！！？

「迎撃しろ！シャドウゾグ光龍！！光滅の…シャイニングバースト・ストリーム！！！」

「うわあああああ！！！」

天城サクラ LP-3700

「サクラ。俺の勝ちだ」

「そうね。デュエルいい決闘だったわ」

くうーっ！！早く魁とデュエルしてえ！！

「翔！返るぞ！」（ボソッ）

「えっ？待ってよ、アニキ！」（ボソッ）

早く帰ってデッキ調整して魁に挑むぞ!!

第4話 究極超えし光VS混沌を光に変える使者!! (後書き)

はい、という訳で勝者は魁でした!!

魁「いやー実際やって疲れた…」

ちなみに魁が使ったデッキ名は【白き龍の逆襲】で一応ガチデッキ。サクラが使ったのは私の活動報告で書いたデッキ【ホーププレイデッキ】をオリカ、禁止カードを入れた感じのデッキです。

魁「では次回予告!」

今日のはのんびり学園生活!

えっ? 翔がない?

よしだったら探しに行こうぜ!

次回! 【翔争奪戦? 一触即発タッグデュエル!】

次回もお楽しみに!

第5話 翔争奪戦？一触即発タッグデュエル！（前書き）

はあー…

黒野「どうした作者？」

おい黒野。お前はまだこの前書きに出ちゃダメ。

黒野「そうかい。では」

魁「じゃあ代わりに俺が。どうした作者？」

…今回だしたコンボって成立するのかなって…

魁「どうだろうね…オリカどうしのコンボだから不明だよ」

ですよね…

まあ、とにかく今回の最強カードに移ろうか！

魁「そうだな。今回の最強カードは【ドゥーブルパッセ】！

このカードは自分モンスターが相手モンスターに攻撃された時発動！その攻撃を直接攻撃として受け攻撃対象にされた自分モンスターは直接攻撃する！

モンスターを守りたい時以外に使いどころあるかな…？」

ちなみに効果は漫画版です。でも確かアニメ版もこんな感じだよな…？」

第5話 翔争奪戦？一触即発タッグデュエル！

今回は珍しくまともなデュエルの授業……

：なんだけどもんなの頭の乏しさに俺泣きそう……

だってさー：カウンター罠のスペルスピードは？という問題がでたら皆さん一斉にスペルスピードって何だ？っていいだしたんだぞ？

次に【死者蘇生】にチェーンして【サイクロン】を発動するとどうなる？という問題もチェーンって何だ？とも言い出した。とりあえず生徒が答えたんだがその答えは「【サイクロン】で【死者蘇生】を破壊すると【死者蘇生】の効果は無効化されます」と言った……お前ら馬鹿だろ。【サイクロン】で【死者蘇生】の効果は無効にできないよ。

……ちよつと待て！なんで先生正解って言ってるの！？間違ってるよ！先生も間違えてどうする！

こんな感じで授業が進んで今度は俺が指された

「宗野カイー。この問題、フィールド魔法にツイーて説明、及び有効な使い方をだすノーネ」

フィールド魔法か……簡単だな

「フィールド魔法はフィールド場に置く場所が2つある。この場所をフィールドカードゾーンと言う。表側フィールド魔法はフィールド場に1枚しか存在できない。フィールド魔法は相手フィールドにも影響を及ぼす。例えばフィールドが【海】の状態の時自分が魚族を使っていれば攻撃力はアップ。相手が炎族を使っていれば攻撃力ダウン。逆に自分が炎族を使って場合攻撃力がダウン。なおフィールド魔法をサーチできるカードはいくつかあります。フィールド魔法だったラデッキから何でもサーチできる【テラ・フォーミング】手

札にある【アトランティスの戦士】を墓地に送りデッキから【伝説の都アトランティス】があります。この通りフィールド魔法はデュエルの勝敗を決めるのではなくデュエルの流れを自分に変えるために使います。なおフィールド魔法はさまざまカードがあります。例えば基本の攻撃力、守備力を上げるカード【森】や【荒野】【闇】これらは自分が使う種族がフィールドにあっている場合に使われます。守備力を下げる代わりに攻撃力をさらに上げるフィールド魔法【ガイアパワー】や【ウォーターワールド】があります。これらのカードが主にデュエルの流れを大幅に掴むために存在します。ただしフィールド魔法は種族に関係するものばかりではありません。例えば遊城十代が使ったカード【摩天楼―スカイスクレイパー―】や天城サクラさんが使った【竜の溪谷】があります。前者のフィールド魔法は相手に攻撃力のアドバンテージを与えにくく自分が【E・HERO】デッキを使えば一方的にフィールド魔法の効果を得られます。後者のほうはフィールドに影響は与えませんが手札、デッキに影響を及ぼします。デッキからLv4以下の【ドラグニティ】と名のついたモンスターを手札に加えられますしもう1つの効果、デッキからドラゴン族モンスターを墓地に送るという効果。これは主に【ドラグニティ】専門のドラゴンを送ったり一般的な考えで使うなら【ダイヤモンド・ドラゴン】を落として【死者蘇生】を使うといいですがこのやり方はあまりオススメしません。何故ならどちらの効果もこのカードの発動時に手札を1枚減り効果使用に手札をさらに1枚減りそして【死者蘇生】の使用で手札がさらに1枚減ります。手札を3枚も使用して出てくるのが【ダイヤモンド・ドラゴン】では手札の消費枚数と出す価値が合いません。だからこのコンボはオススメしません。後皆さん勘違いしやすい事をいくつか。【マインドクラッシュ】で【伝説の都アトランティス】を選択してアトランティスが手札にあっても墓地には送られません。何故ならアトランティスの効果文の最初にこのカードは名は『海』として扱うという効果があるからです。この効果はデッキ、手札、フィールドに関

係無くどこにあってもルール上『海』という名前で扱われます。これによって【マインドクラッシュ】で宣言したアトランティスは『海』という名で扱われてるので無効にされます。アトランティスを【マインドクラッシュ】で墓地に落とした場合『海』と宣言しなければいけないのでご注意を。なお【アトランティスの戦士】で【伝説の都アトランティス】がサーチできるのは恐らく特別処置がされてるかと思われます。さらにデッキ作成でも『海』として【伝説の都アトランティス】と【海】で3枚ずつデッキに入れられないのでそのところもご注意を。後【死皇帝の陵墓】の効果で召喚された【氷帝メビウス】や【雷帝ザボルグ】の効果は発動されません。これは【帝】モンスターの共通効果、このカードが生贄召喚に成功した時…と書かれているので【死皇帝の陵墓】の召喚された【帝】は生贄召喚ではなく通常召喚なので効果は使用できません」

言った後そのままドスツと席に座る俺。皆さんノートを出して真面目に書いていやがる…とは言ってもオベリスクスブルー男子は全員書いてないと思うけど。

しかもまさかクロノス教諭までメモ帳だして書くとは…：…こんなのデュエルモンスターズの常識だろ？最後のアトランティスと【帝】以外…しかも最後に言ったやつ知っている人は知っているし。なんでだろ？この世界のレベルが低くて涙が出ちゃいそう…：

「メモメモ…今回は貴重な情ホーウ、ありがとうナノーネ！では授業をシュリーヨするノーネ！では各自次の授業の準備をしとくノーね！」

そう言って教室からでたクロノス教諭…
こうなったらいつそ今学期中に俺への用事で来てくれる海馬社長に授業レベルを上げてもらおうかな…

―夜―

しかし本当にカード多いな…【ダイヤモンド・ドラゴン】が46枚
…海馬社長より持っていてどうする…

いつそオークションで売るか？確かこのカードの値段って【真紅
レッドアイズ ブラッドゴン 眼の黒竜】だと現実世界で数百円、こっちだと数十万だろ？

サポートカードが無ければ使えにくい【真紅眼の黒竜】レッドアイズ ブラッドゴン を数十万で
買うか普通？これだったらまだ数万円で機械族でLv5で攻撃力2
500の【サイバネティック・ワイバーン】の方が使えるわ！！

試しにオークションで【ダイヤモンド・ドラゴン】をオークション
にだそう。値段は200円からスタート……っていきなり2200
0円になった！？次に26000円！？ちょっと待て！みんな早過
ぎ！どうしてこんなカードに万を入れる……って今度は10万になっ
たー！…！おかしい！金銭感覚おかしいだろ！！こいつらは全員
馬鹿だ……

気晴らしにデッキ作りしようとしたら通信端末にメールが入ってる
…誰からだ？

翔をオベリススクブルー女子寮で預かってるわ。助けたければ早くき
たほうがいいわ。

b y 天城サクラ

ああ…：そういえばそんなイベントあったな…：

確かクロノス教諭が偽ラブレターを書いたんだけど入れる場所を問

違えそれで翔が行って捕まった…こんな感じでいいんだっけ？
とりあえずデッキを用意するか…今日はどんなデッキに使用かな…

「おーい！ 魁いるか！」

「いるぞ！」

やっぱり十代にもきているか…とにかく早くでよう

「魁！ 翔が捕まった！」

「ああこっちにもそのメールがきてた。早く行くぞ！」

「おう！」

しかし…何故サクラからメールが…

まさか明日香と一緒に風呂入ってるところ見られたか？

いや、それだとメールの文章が少しおかしい…

とにかく行けばいいか

ーブルー女子寮ー

現在小船をギシギシこいでブルー女子寮の裏側に来ています。しかし暗くてよく見えないな…翔はどこだ？

「おーい！！ 翔、どこだ！！！」

「ここッスよ、アニキ！」

「やっと来たのね」

あら翔がみのむしみたいに縄でグルグルに縛られてる…そのすぐ近くに仁王立ちしてる明日香とその横にめんどくさそうに立っているサクラ。そしてほか2名

あいつら2名に名前なんてあったけ？ 仮にあったとしてもモブだろうな…

「おい明日香！ 翔を返せ！」

「ふっ…返して欲しければ、十代！ デュエルしなさい！」

でたよ。この世界特有のルール、デュエル万能説！

デュエルで勝てば罪を免除するし情報を得るにもデュエルだし最終的にはどう考えてもリアルファイト要員の人達もデュエルで決着つけるし…もうホセとかは恐ろしいほど力あるし…だって誰かのリアルダイレクトアタックのDホイールで攻撃を難なく片手で受け止めたからな？ あいつは肉体暴力のほうが強いのと思うぞ

…と話がずれたな。とにかくデュエルでかたをつけるのか…うん？ それだと俺呼ばれた意味無くない？

「おい。俺やることないぞサクラ」（アイコンタクト）

「私はただ明日香があんたともデュエルしたいって言うから誘ったんだけど」（アイコンタクト）

なるほど。となると…

「十代！ それに魁！ あなた達2人で私に勝てた場合翔君を返してあ

げる！」

「ちょっと待て。それ面倒だからタッグデュエルにしねえ？」

「「タッグデュエル？」」

よし。早く帰ってデッキ作りたいからなるべく早く帰るための手段……タッグデュエルにいくつかついてきたぞ！

「そう。ここで態々2回戦うより1回で済ませたほうが効率いいからさ。俺と十代でタッグ、明日香はサクラと組めばいいだろ？」

「ちょっと待って！それには異議が……それ面白そうじゃん！やろうぜ明日香！」ちょっと十代！」

「私は少し反対かな……前に魁とデュエルしたから……今は十代や明日香と戦いたいし……」

ちっ……サクラ……邪魔しやがって……

「それを言うなら俺だって魁とサクラとデュエルしてえよ！！」

「じゃあそれ言うならタッグデュエルのパートナー交代しない？そうすれば私は明日香と十代と戦えるし十代は私と魁に戦える……いい話でしょ？」

ん？段々話がちょっとおかしい方向になってないか？

「わかった！それでいいぜ！」

「ちょ、ちよつと待って！私は十代と魁とデュエル：「別にいいじゃない？明日香も私と戦って見たかったんでしょ？」うっ：」

勝手に話がどんどん進んでってる…まあ俺は誰とでもいいけど…

「じゃあそれで決まり！俺と明日香対魁とサクラでタッグデュエルだ！」

「はあー……………もう別にそれでいいわ。ただし手加減しないわよ？」

「…………じゃあ、始めようか」

とりあえずペアが決まったな…………俺とサクラVS十代と明日香
ルールはお互いライフ共有でライフは8000

ターン順番はサクラ↓十代↓俺↓明日香↓サクラという順番
そして最初プレイヤー、つまりサクラは攻撃できないが十代以降から攻撃できる

フィールド、墓地、除外は共有するが手札、デッキ、エクストラデッキは共有しない…

簡単にいうとTFと同じルールだ

「…では始めるか！」

「「「^{デュエル}決闘！！」」」

「私のターン、ドロー！…リバーズカードを2枚セットしてターンエンド！」

……………昨日のデッキとは違うな…今回はカウンター系か？

「俺のターン、ドロー！俺は【E・HEROスパークマン】を召喚！行くぜ！スパークマンでダイレクトアタック！」

「リバースカードオープン！【ヒーロー見参】！相手モンスターの攻撃宣言時相手は手札をランダムに1枚選択する！さあ、選びなさい！」

手札が4枚もある状態で【ヒーロー見参】？なにか上級モンスターの召喚を狙っているのか？

「俺は一番左のカードを選択する！」

「左のカード：それは【レアメタル・ドラゴン】！」

確かあれって効果が一番短いモンスターですよーね！？効果はこのカードは通常召喚できないという一言で書かれた効果を持つモンスターですよーね？

「くっ：攻撃をやめろ！スパークマン！メインフェイズ2で俺はリバースカードを1枚セットしてターンエンド」

俺のターンか：リバースカードを確認するか：【ドゥーブルパッセ】？

何故こんなカードが？いったい何を狙っているつもりだ？

「俺のターン、ドロー！手札の【ゾンビキャリア】を墓地に送り【THE・トリッキー】を特殊召喚！そして魔法カード【おろかな埋葬】を発動！デッキから【チューニング・サポーター】を墓地に送る！そして【ジャンク・シンクロン】を召喚！効果により墓地から【チューニング・サポーター】を特殊召喚！行くぞ！L V 1【チュ

ーニング・サポーター】にLv4【レアメタル・ドラゴン】にLv3【ジャンク・シンクロン】をチューニング！」

「まさか魁もシンクロ召喚するのか（するの）！？」

「黒き翼に宿りし力！その力をここに現せ！シンクロ召喚！舞い上がれ！【ブラックフェザー・ドラゴン】！【チューニング・サポーター】の効果で1枚ドロ！」

うーん…やっぱりまだこのデッキは回りにくいな…

「手札にあるカードを1枚デッキトップに置き墓地より【ゾンビキヤリア】を特殊召喚！Lv5【THE・トリッキー】のLv2【ゾンビキヤリア】をチューニング！数々の武器を手にする竜よ！その力をここに解き放て！シンクロ召喚！機械竜【パワー・ツール・ドラゴン】！【パワー・ツール・ドラゴン】の効果発動！デッキから装備魔法3枚選択しその内1枚をランダムに手札に加える！パワーサーチ！」

来たカードは……

「…装備魔法【ビックバン・シュート】を【パワー・ツール・ドラゴン】に装備！攻撃力を400ポイントアップする！バトル！【パワー・ツール・ドラゴン】でスパークマンに攻撃！ビックバン・ブレイク！」

「罨発動！【ヒーローバリア】！これでパワー・ツールの攻撃は無効だ！」

「追撃しろ！【ブラックフェザー・ドラゴン】！ノーブル・ストリ

ーム！」

「ぐっ…スパークマン！」

十代& a m p; 明日香 LP6800

「リバースカードを2枚セットしてターンエンド！」

「私のターン、ドロー！手札から【融合】発動！手札の【エトワール・サイバー】と【ブレード・スケーター】を融合！現れなさい！【サイバー・ブレイダー】！」

うお！全身タイツのバイザーをつけた女性！まさしくアレは【サイバー・ブレイダー】！確かこいつの効果って少し弱いけど扱いによつては強くなるって言われてる！でもどうやって使うんだろ？

「【サイバー・ブレイダー】の効果！相手フィールド場のモンスターが2体の場合攻撃力を倍にする！パ・ド・トロワ！【サイバー・ブレイダー】でパワー・ツールに攻撃！」

「させると思うか？カウンター罠【攻撃の無力化】！相手モンスターの攻撃を無効にしバトルフェイズを終了させる！」

「くっ…！私はリバースカードをセットしてターンエンドよ」

「私のターン、ドロー…！【翻弄するエルフの剣士】を召喚！」

「モンスターが3体になったことで【サイバー・ブレイダー】の効果は変化する！パ・ド・カトル！」

これで【サイバー・ブレイダー】の効果でパワー・ツールは【ビツクバン・シュート】の効果を失い攻撃力は元に戻る：それでも【サイバー・ブレイダー】は倒せるけど

「バトル！【ブラックフェザー・ドラゴン】で【サイバー・ブレイダー】に攻撃！ノーブル・ストリーム！」

「罨発動【ドゥーブルパッセ】！このカードは相手モンスターの攻撃を直接攻撃として受け攻撃対象にされた自分モンスターは相手プレイヤーに直接攻撃できる！」

明日香お得意の【ドゥーブルパッセ】。このカード未OCGカードだから強制的に俺の禁止制限では制限いきだけどこれ壊れ効果じゃないからな……普通の禁止制限だと恐らく無制限だろ

十代& amp; 明日香 LP4000

「ぐっ！お返しよ！」

魁& amp; サクラ LP6900

「くっ：だけど次の攻撃は防げない！パワー・ツールで【サイバー・ブレイダー】に攻撃！クラフティ・ブレイク！」

「【サイバー・ブレイダー】が！？」

十代& amp; 明日香 LP3800

「そしてエルフの剣士で直接攻撃！^{ダイレクトアタック} 彗剣斬！」

「ぐっ…この程度!」

十代& a m p; 明日香 LP2400

「ふっ…リバースカードをセットしてターンエンド」

何か企んでる…サクラ…何をする気だ!?

「俺のターン、ドロロー!魔法カード【強欲な壺】!カードを2枚ドロロー!魔法カード【戦士の生還】!これにより墓地からスパークマンを手札に加える!そして【融合】発動!手札のスパークマンとクレイマンを融合!来い新たなヒーロー!【E・HEROサンダー・ジャイアント】!サンダー・ジャイアントの効果!このカードの召喚時このカードの攻撃力より元々の攻撃力が低い相手モンスター1体を破壊する!ヴェイパー・スパーク!」

これによって破壊されるパワー・ツール…

「さらに手札から魔法発動【融合回収】!これにより墓地から融合素材になったスパークマンと【融合】を手札に加え【融合】発動!手札のスパークマンとエッジマンを融合!来い新たなヒーロー!【E・HEROプラズマ・ヴァイスマン】!プラズマ・ヴァイスマンの効果発動!手札を1枚墓地に送り【ブラックフェザー・ドラゴン】を破壊!スパーク・クラッシュ!」

くそ!まさかここまで展開するとは…さすが十代。見事なチートドローだ!

「行け!サンダー・ジャイアントでエルフの剣士に攻撃!ボルテック・サンダー!」

今、俺は確かに見た。サクラの顔が一瞬にして悪役じみた満面の笑みを……いい、いったい何をするつもりだ？

「罨発動！【ドゥーブルパッセ】！このカードの効果は相手モンスターが自分モンスターを攻撃対象にした時発動！この攻撃を直接攻撃として受け攻撃対象になった自分モンスターは相手プレイヤーにダイレクトにダメージを受ける！」

何故！？ここは普通【翻弄するエルフの剣士】だからそれを使わずに耐えればいいのに！？

魁&サクラ LP4500

「くっ…くらいなさい！彗剣斬！」

「ぐあ！」

十代&明日香 LP1000

「くそ、続けてプラズマ・ヴァイスマンでこうげ…」何を勘違いしてるんですか？「えっ？」

この口調…まさか！？

「今は私の攻撃の最中ですよ？」

「何言ってるんだ！今は俺のバトルフェイズだぞ！お前は攻撃できない！」

「リバースカードオープン！速攻魔法【バーサーカーソウル狂戦士の魂】！！」

「げっ！やっぱり…」 「バ、【バーサーカーソウル狂戦士の魂】？」

まさかこんな形で成立させるとは…

「手札をすべて捨て…効果発動！このカードはデッキからモンスターが出続けるまでカードをドローし墓地に送るカード…そしてその数だけ攻撃力1500以下は追加攻撃できる！」

うん、やっぱり出鱈目な効果だね。そして恐らくデッキはほぼフルモンスターなんだろう…

「さあ行くわよ！まず1枚目！ドロー！モンスターカード【レッグル】を墓地に送って追加攻撃！」

「ぐわあああああ！！」

十代&明日香 LP-400

「2枚目ドロー！モンスターカード【バトルフェーダー】！」

「ぐわあああああ！！」

十代&明日香 LP-1800

「ドロー！モンスターカード【トラゴエディア】！」

「うわあああああ！！」

十代& a m p; 明日香 LP-3200

「ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！」

「ぐわあああああああ！！！」

十代& a m p; 明日香 LP-8800

「ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！」

すごいね…えっ止める？無理無理あんだだけ調子に乗ってると恐らく止めに掛かった瞬間H A ☆ N A ☆ S E ！！とか言うだろう。誰かが止める、または止まるまで待とう

「ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！ドロー！モンスターカード！」

「うわあああああああ！！！！！」

十代& a m p; 明日香 LP-25600

「ドロー！……罫カード【ドゥーブルパッセ】。よってここまで」

「「「……………」」」」

……みんなあまりのオーバーキルに唾然としてるよ…十代なんかく

らいすぎで気絶してるし

「じゃあ明日香。翔はつれて帰るぞ」

「…え、ええいいわ。今日は楽しいデュエルだった…わ…？」

…うん普通そういう反応するよね。

よいしょっと…案外十代って軽いんだな…船にませ翔もませ退散、
退散…

第5話 翔争奪戦？一触即発タッグデュエル！（後書き）

うん、ちょっと無理矢理だね…わかってる。
でもこのタッグで組ませたかったんだ！

魁「それにドゥーブルでバーサーカーできるのか？」

ですよねー…ちなみにエルフの剣士でバーサーカーした理由は最初の遊戯王でエルフの剣士は散々な目に合ってたでそれでグレてバーサーカーしたと言う裏話があります…では次回予告！！

次の日は月1テスト！？

たくっ……対戦相手は万丈目か…
よし！ここでネタデッキ使うか！

次回！【宇宙人襲来！脅威のデッキ破壊戦術！】

第6話 宇宙人襲来！脅威のデッキ破壊戦術！（前書き）

どうも雷光です。

まあタイトルで今回使うデッキわかりますよね？

魁「当たり前だ」

そうだよ。では今回の最強カードは！？

魁「今回の最強カードは…【シールド・ワーム】？簡単にデッキ破壊するには普通【ニードル・ワーム】じゃないか？まあいいか…このカードは召喚、反転召喚、特殊召喚に成功した時守備表示になる。さらに自分フィールド場に表側表示で存在する昆虫族モンスターの数だけ相手のデッキのカードを墓地に送る。

この効果は相手ターン特殊召喚しても使えるから結構使えると思うぞ」

作者はデッキ破壊は好きですよ。でもいつか自分に対してのデッキ破壊のデッキを作りたい…

第6話 宇宙人襲来！脅威のデッキ破壊戦術！

今回は月1テストか：

試験問題の時のようにおかしい問題でてこないよな：

とりあえず早く行こうか

ーデュエル・アカデミア内ー

うん、ちょっと早く着いたちゃったね。テストまで残り10分：

何してようかな：

とりあえず実技テストではまだ使っていないデッキを使おう。

使っていないデッキは：ローレベル、ハンデス、ロック、エクゾディア、エクシーズ：そして新たな入れたデッキ破壊、無限ループ、3つ買いスターターデッキ改良版：

やっぱり3つ買いスターターはいいよね。3150円でそれなりの強さを誇るデッキが作れるし

どれにデッキ使おうかな……

ほかにも使いたいカードがあるけどどうもうまく作れない：例えば

【ゲート・ガーディアン】【セイヴァー・スター・ドラゴン】【ライフ・ストリーム・ドラゴン】【機皇神マシニクル】とかその辺活躍させたいな：

とか考えてる間に筆記試験が始まった。じゃあ頑張ろうか！

第1問

【白魔道士ピケル】が被っている帽子は何の動物でしょう？

……だからこういう問題やめてくれませんか？

第2問

永続罨【最終突撃命令】のカードイラストに兵士は何人いる？

…わかるか！こんな問題！

第3問

罨カード【針蟲の巣窟】に蟲は何体いる？

巣窟ってこの頃からありましたっけ？

その後もよくわからない問題が出てきた…

それでもちゃんとした問題が20問もあってよかった…

で現在、実技試験まで休憩タイム…どうやら新しいパックが入荷されたらしいけど俺多分持っているから買いに行きません

「魁！新しいパック買いに行こうぜ！」

十代がこっちに來た

「俺はパス。実技試験でどんなデッキを使おうか考えてるから」

「そうか！じゃあまた後でな！」

「すぐさま立ち去る十代…さあーってと…どんなデッキで使おうかな？」

「またお悩み事？ 魁」

「よおサクラ。実技テストで何使おうか考えてる最中…まだ使っていないデッキを使おうと思ってんだけど…」

「ふーん…そうだ！ドローパン買ってきたから食べる？」

ドローパン…それは全世界共通でデュエル・アカデミアの名物…その名の通り選んで食べるまで何が入っているからわからないパン…まさしくギャンブルパン…

「デュエル・アカデミア名物ドローパンか…よし！1つ貰おうではないか！」

パシっと！俺は1つ取り勢いよく開けドローパンを食べた

「つて辛っ！！！？何この辛さ！？喉が逝かれちまいそう！！」

「あっそれ幻の激辛カレーDX味。確か通常の激辛の56倍の辛さを誇る生徒の中ではハズレと名高い幻のパン…」

KCめ！！よくこんなもん製品化したな！！

「ちなみにこの学園の中でたった1人だけこの激辛カレーDXを食

べれる人がいるらしいわ」

誰だよその生徒！！ぜひ会ってこのパン食べさせたいね！！

「じゃあ私も実技の準備してくるね」

どうぞ勝手に行ってくれ！…たく…今後一生ドローパンなんて食わ
ん！！

その後辛さが引きデツキも決めた俺は十代と万丈目の戦いを見てた
んだが……

「「はあ………」」

「?どうして2人共ため息ついてるの?」

やっぱりサクラも同じこと思ってたか…

「サクラ、今回たまたま十代が勝ちを拾えてよかったな」

「そうね。万丈目がプレイングミスしなければ十代は負けてたわね」

「ちょっと2人共、どういう訳か説明して?」

あら?明日香はわかってないのか?

それともVWXYZの合体を見てその前の事に気づいてないのか?

「お前見てて気づかなかったのか?最初のVWの攻撃で十代のライ

フは2800になっていた。そして次のターン、XとYとZを召喚した。ここで合体してXYZにしたのが万丈目のプレイングミス」

「どうして？」

「それは私が説明するわ。XとYとZ召喚してそのまま攻撃すればいくら【ヒーロー見参】を使っても防ぎきれない。だけど手札にエツジマンがあつたら別だけど…」

その言葉に明日香がそんなミスが…と言っているが気づけよ。あんなの小学生でもミスしないと思うぞ

ほかには【ハネクリボーLv10】が出た時攻撃を中止すれば次のターンVWXYZの効果使ってLv10を除外してフェザーマン攻撃…それでもこの状況が続けば十代が【ホープ・オブ・フィフス】でも引いて自分フィールド、手札が0なので3枚ドローして原作効果バブルマンを召喚2枚ドローとか使って逆転するんだろうけど

「次は俺か。じゃあ頑張ってくる」

「じゃあ頑張ってきて」

そう言つて俺が決闘場^{デュエルワールド}に行くと…

「くっ…十代には負けたが魁！貴様だけには勝つてやる！」

万丈目がいるんですよ…何故？

「あの時散々馬鹿にして来なかった恨み！ここで晴らさせてもらおうぞ！！」

馬鹿にして来なかった恨み……？ああ……そういえばメールで呼ばれてたな……でも俺サクラのほうに行って行けなかったんだよね
よしデッキホルダーからデッキを取り出しディスクにセット……

「^{デュエル}決闘……！」

明日香Side

今まさに魁と万丈目君のデュエルが開始された……先攻は魁から今回はどんなデッキを使うのかしら？

「俺のターン、ドロー！………」

なんかすごい困惑顔になってるんだけど……もしかして手札事故？

「モンスターをセット！リバーズカードを4枚セットしてターンエンド！」

いやこれは試験の時と同じ動き！という事はまた銀河眼を^{ギャラクシャイズ}出すの？

「ふん！早速手札事故か！俺のターン、ドロー！魔法カード【打ち出の小槌】を発動！手札のこのカードを含む手札のカード3枚をデッキに戻し3枚ドロー！」

また出たわね。今度は魁やサクラが言っていたプレイングミスをしなけばいいんだけど……

「【X―ヘッド・キャノン】を召喚！さらに永続魔法【前線基地】！この効果で手札から【Y―ドラゴン・ヘッド】を特殊召喚！ヘッド・キャノンとドラゴン・ヘッドを除外して合体召喚！【XY―ドラゴン・キャノン】！行け！【XY―ドラゴンキャノン】！ハイパー・デストラクション！」

「罨発動！【和睦の使者】！このターン自分モンスターは戦闘では破壊されずこのターン発生する戦闘ダメージは0となる！そしてセットモンスターは【メタモルポット】！【メタモルポット】の効果発動！お互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドロ―する！」

「なんだと…？くそ！俺の【Z―メタル・キャタピラー】が…」

その言葉を聞いた瞬間魁は呆れ顔になった。なんで？

「くっ…ドロ―！リバースカードを2枚セットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロ―！すまん、万丈目…俺の勝ちだ」

魁が勝利宣言？ということはこのターンで万丈目君を倒すつもり？

「俺はモンスターをセット。そしてさらに魔法カード【太陽の書】！これでさっきセットしてモンスター【ニードルワーム】の表示形式を表側攻撃表示にする！【ニードルワーム】の効果発動！相手のデッキの上のカードを5枚墓地に送る！」

「はっ！それがどうした！」

確かにそんな効果どうって事ないわ。でもサクラはあちゃーって顔

してるし…魁は何かをするつもりなの？

「リバースカードオープン！【リビングデットの呼び声】！この効果により【メタモルポッド】の効果で墓地に送られた【シールド・ワーム】を特殊召喚！【シールド・ワーム】の特殊召喚に対して手札から速攻魔法【地獄の暴走召喚】を発動！」

【地獄の暴走召喚】？ いったいどんな効果かしら？

「【地獄の暴走召喚】の効果！自分が攻撃力が1500以下のモンスターを特殊召喚し相手フィールドに表側表示モンスターがいる時発動！相手は自分モンスター1体を選択しそのモンスターと同名モンスターを手札、デッキ、墓地から特殊召喚する！そして自分は特殊召喚されたモンスターを攻撃表示で特殊召喚する！ただし【XYードラゴン・キャノン】は融合モンスターだから特殊召喚できない」

「ふっ！雑魚を並べてどうする！」

「今からお前はその雑魚にやられんだぜ！デッキから【シールド・ワーム】2体を特殊召喚！【シールド・ワーム】の効果発動！このカードの召喚、反転召喚、特殊召喚時このカードは守備表示になる！さらに自分フィールドに存在する昆虫族モンスターの数だけ相手デッキの上のカードを墓地に送る！俺のフィールドに昆虫族は4体！そして特殊召喚した【シールド・ワーム】もこの効果が適用されるから合計12枚を墓地に送ってもらうぜ！」

「まさか…この戦術…」

まさか…この戦術…

「やった気づいたか！このデッキはデッキ破壊だ！そして俺はLV

4の【シールド・ワーム】2体でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！狂いし発条を修正する力！【発条機甲ゼンマイスター】！」

「「「「エクシーズ召喚！！？」」「」「」」

魁はシンクロ召喚を行うからエクシーズ召喚もできると思ってたけど…まさか本当に使うなんて…

「さらにゼンマイスターの効果！1ターンに1度オーバーレイユニットを1つ取り除いて【メタモルポット】を裏側守備表示に変更する！そして手札から魔法カード【死者蘇生】！これにより墓地から【シールド・ワーム】を特殊召喚！【シールド・ワーム】の効果発動！今度は3枚墓地に送る！」

「そんな…俺のデッキが…」

「そしてさらにLv4の【シールド・ワーム】2体でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！狂いし発条を修正する力！【発条機甲ゼンマイスター】！そしてゼンマイスターの効果発動！1ターンに1度オーバーレイユニットを取り除き今度は【ニードルワーム】を裏側守備表示に変更する！エンドフェイズ！ゼンマイスターのもう1つの効果！このターン自身の効果で裏側守備表示にしたモンスターを表側攻撃表示にする！これにより【メタモルポット】と【ニードルワーム】を表側攻撃表示に変更！」

「あ……ああ…」

「まず【メタモルポット】の効果発動！お互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドロウする！次に【ニードルワーム】の効果発

動！相手のデッキの上のカードを5枚墓地に送る！」

万丈目君のデッキが…

「俺の……デッキが……0……」

『……し、勝者宗野カイー！！』

デュエルが終わった瞬間そそくさと逃げ出した魁……まさかここまで強いとは…

第6話 宇宙人襲来！脅威のデッキ破壊戦術！（後書き）

今回はつまらない話ですね。

ただのデッキ破壊ソリティア…かな？

今後はデッキ破壊の出番ないかも

では次回予告！

今日も今日で楽しい学園生活！

怪談話をしてみんなで探検に行こう？

よし話乗った！

次回！【VSタイタン！悪魔と天使の大決戦！】

次回もお楽しみに！！

魁「そして次回ついにストックが切れる！」

それはヤバイ！！

第7話 VSタイタン！悪魔と天使の大決戦！（前書き）

魁「まあ大決戦というほど派手な戦いではないと思うがな」

……ズー……

……ストックが切れたな……やばいな……

魁「そんなに前書きが落ち込んでいると見てくれる人が右上のバツを押すぞ！」

そうだな……

……では！心を再起動させ！魁！今回の最強カードは！？

魁「オッケー！今回の最強カードは【デビルマゼラ】！

このカードは通常召喚できない。このカードは【万魔殿―悪魔の巣窟―】があつて自分フィールドに表側表示で存在する【ゼラの戦士】を生贄にささげて特殊召喚できる！

このカードが特殊召喚に成功した時相手の手札を3枚ランダムに墓地に送る！この効果は【万魔殿―悪魔の巣窟―】がないと発動できないけど召喚時限定なのでなんか微妙効果だぞ！」

【デビルマゼラ】誰かに盗まれました。まあ今はドラグやジャンド使うからいいんだけど……

諸事情によりデュエルを少し変更

第7話 VSタイタン！悪魔と天使の大決戦！

どうも皆様魁です。前回のデッキ破壊はやりすぎた…以後反省
それで今十代達と特殊な怪談話をしてるんですが…

「なにこれえ？またエクシーズモンスターかよ」

「あちゃー…これで魁は3回連続パスか…魁の話も聞いてみてんだ
けどなー…」

「僕はごめんッス」

「俺もなんだな」

そう…この怪談話…デッキから引いたモンスターのLVの数と同じ
LVぐらいと思われる怪談話をしなければならないのだが…そう
エクシーズモンスターはLVではなくランク。それで俺だけエクシ
ーズモンスターを引いてパス…俺だけハブられてる…

「みんな…何してるんだニヤ？」

「うわぁ！大徳寺先生！」

俺も一瞬ビックリした！いきなり出てこないでくれ、大徳寺先生！

「今みんなと怪談話してるッス」

「怪談話かニヤ…」

そう言っ大徳寺先生はカードをめくった：Lv12【F・G・D】
？俺入れた覚えねえぞ。仮に誰か持ってたとしてもこの世界だと数
千万するぞ？

「みんなこういう話聞いたことがあるかニヤ？」

十代はワクワクしながら大徳寺先生をほうに行き翔と隼人はすでに
壁側に行きビクビクしている：お前らビビるの早過ぎ！！

「ここデュエル・アカデミヤには昔、特待生寮があったニヤ」

その後大徳寺先生の話は続き十代はワクワクしたまま聞き翔と隼人
は壁側で耳を塞いでいる

まあ怪談話はいたってシンプル。その特待生寮で行方不明者が出た
らしい

：で大徳寺先生が立ち去った後好奇心旺盛な十代が一言

「よし！その廃寮に探検しに行こうぜ！」

「俺もその意見には賛成。で翔、隼人お前らがどうする？どんな返
事しても拒否権は無いがな」

「ひ、ひどいッス！」「そうなんだな！」

「「じゃあ廃寮の探検に行ってみよう！！」」

実は俺怪談話とか夜の学校探検とか好きなんだよ！！

さあーて、準備準備：

という訳で廃寮に着いたんですが、原作だここで明日香と会うはずなんだけど…俺が入った事で時間がズレて鉢合わせしなかったのかな？

しかし見事な壊れよう…窓ガラスは割れところどころに蜘蛛の巣…廃寮越えてドラキュラ城になってんじゃないか？

「アニキ！もう帰ろうよ！」

「いいじゃん！早く行こうぜ！」

てかこの廃寮に何があるかな？死体は嫌だけどミイラとかあるといいな！

「うわ…真っ暗ッスね…」

「気味悪いんだな」

気味が悪いからこそ面白いんだろ？
それをわかってくれないとは…
ん？下に写真が…

「きゃあああああああああ！！」

「この声！？」

「明日香の声だ！」

そうだ！この写真と悲鳴で思い出した！確かこの先には……

「みんな！声がした方向に行くぞ！」

「ようこそお…我的名前はタイタン…」

出たーーーー！！若本！

この癖のある声…喋り方…こいつは本物の若本だ！

「そこのお…貴様らあ…特に魁と十代とか言う奴う…ここで我とデュエルをしろお…貴様らあが勝ったら…この女を帰してやる…」

「いいぜ！受けてたってや「待て！十代！ここは俺にやらせてくれ！」わ、わかった（魁がすげえワクワクした目になってる…）」

確か若本と戦える最初で最後の場面だろ！ここは俺がやりてえ！

「魁い…貴様から来るのか…いいだろう！受けてやろう！…ただし…闇のゲームだ！」

「いいぜ…受けて立ってやる、闇のゲーム！」

まあ偽なんだけど

「「^{デュエル}決闘！」」

「負けるなよ、魁！」

「頑張れ！」

「気張るんだな！」

ギャラリィ……応援してくれるのは嬉しいけど少し黙ってくれ

「我が先攻…ドロォー！」

あつとか言っている間に先攻とられた

「手札の【ジェネラルデーモン】を墓地に送りデッキから【万魔殿
バンデイモニウム
―悪魔の巣窟―】を手札に加ええ…そのまま発動！」

辺り一帯が気味悪いフィールドになった…うん俺結構こういうの好みだぞ

だけどね…今回の俺のデッキ。それとは真逆だぜ？

「そして【デーモン・ソルジャー】を召喚！リバースカードをセツトしてターンエンドだあ…」

「俺のターン、ドロォー！手札から永続魔法【神の居城―ヴァルハラ】を発動！そしてヴァルハラの効果発動！自分フィールドにモンスターが存在しない時手札から天使族モンスター1体を特殊召喚する！」

「なんだとお！」

「この効果で【天空勇士ネオパーシアス^{エンジェルレイフ}】を特殊召喚！そして墓地にモンスターがいなかったため【ガーディアン・エアトス】を特殊召喚！バトル！ネオパーシアスで【デーモン・ソルジャー】に攻撃！」

「ぐうう！」

タイタン LP 3600

「ネオパーシアスの効果で1枚ドロロー！エアトスで直接攻撃！ダイレクトアタックフオビドウン・ゴスペル！」

『はああああ！！』

エアトスが地面に光の剣を刺しその余波が若本に向かう：

「罨発動！【ドレインシールド】！相手モンスターの攻撃を無効にしその攻撃力分だけ自分ライフを回復させる！」

若本の周りにバリアが張られエアトスの攻撃は2つに割れ周囲の壁にぶつかった

タイタン LP 6100

「これでターンエンド」

「私のターン、ドロロー！手札から装備魔法【早すぎた埋葬】を発動う…」

もういいよ、禁止カードね。はいはい進めて進めて

「この効果によりライフを800払い墓地から【デーモン・ソルジャー】を特殊召喚！さらに【デーモン・ソルジャー】を生贄にしてえ…【迅雷の魔王―スカル・デーモン】を召喚！」

タイタン LP5300

出たよ。リメイク版【デーモンの召喚】確か効果は相手のカード効果の対象になった時だけ発動するはず

「そして装備魔法【デーモンの斧】をスカル・デーモンに装備！これで攻撃力は3500だ！行け、スカル・デーモン！【ガーディアン・エアトス】に攻撃い！怒髪天昇撃！」

「くっ…くそ！」

魁 LP3000

「そしてライフを減ることでこいつの体は消えるう…リバーサイドをセットしてターンエンドだあ…」

俺は光を見ない為に目を瞑り光がやんだら目を開けた。十代達がなんか消えてるとか言っているけど無視

「俺のターン、ドロー！【ジェルエンデュオ】を召喚！そして魔法カード【デュアルサモン二重召喚】を発動！このターンもう1度通常召喚を行える。そして【ジェルエンデュオ】は天使族・光属性モンスターを生贄召喚をする時このモンスターは1体で2体分の生贄にできる！」

「なんだとお！」

「【ジェルエンデュオ】を生贄にして【マスター・ヒュペリオン】を召喚！ヒュペリオンの効果発動！墓地の【ジェルエンデュオ】を除外してスカル・デーモンを破壊！」

後はこれでスカル・デーモンの効果がはずれさえすれば…!

「スカル・デーモンの効果発動! このカードが相手のカード効果の対象になった時サイコロを振り、出た目が1・3・6だったらその効果を無効にして破壊する!」

回りだしたサイコロ…出た目は…2!

「ば…馬鹿な!」

驚いてても万魔殿^{バンデイモニウム}の効果で手札に【デーモン】を加えるのね。えらい、えらい

「これでお前のスカル・デーモンは破壊! 行け! すべてのモンスター^{ダイレクトアタック}で直接攻撃!」

「ぶるるるあああ!!」

タイタン LP300

「ネオパーシアスの効果で1枚ドロー。これでターンエンドだ」

「私のターン、ドロー! ふっ! 魔法発動【命削りの宝札】!」

困った時のご都合ドロー…あれ? もしかして俺に負けフラグ?

「この効果により手札が5枚になるようにドローし5ターン後すべての手札を墓地に送るう! ドロー!」

にやけたぞ! 今引いたカード見てにやけたぞ!

「来たあ…来たぞお…我がデッキの最強カード!!」

「そんな!? スカル・デーモンが切り札じゃないのか!?」

いや十代。誰も切り札とは言っていないぞ。勝手に思い込んでるお前の頭の乏しさに俺は再び泣きそうになるぞ

「私は【ゼラの戦士】を召喚！」

ゼラの戦士…万魔殿…あれをだすつもりか!

「【ゼラの戦士】を生贄に…我が最強の悪魔! 【デビルマゼラ】を特殊召喚! そして【デビルマゼラ】の効果発動! 相手の手札を3枚ランダムに捨てるう…もったもお…貴様の手札は2枚のみだからそれを捨ててもらおうお…」

「くそ! 【天空騎士^{エンジェルナイト}パーシアス】と【堕天使アスモディウス】が…」

「そして装備魔法【デーモンの斧】を【デビルマゼラ】に装備! 【デビルマゼラ】で【マスター・ヒュペリオン】に攻撃! 魔界の咆哮!」

【デビルマゼラ】が右手の爪に闇のパワーを集めそれでヒュペリオンを切った!…えっ? これで咆哮?

魁 LP1900

「驚きすぎて声もお出ぬかあ…これでターンエンドだ」

今、俺のフィールドには【エンジェルスレイブ天空勇士パーシアス】1体のみ…永続魔法のヴァルハラは役にたたない…そして手札は0…面白いわ！ここから逆転してやるよ！

「俺のターン、ドロー！…！…リバースカードをセットしてネオパーシアスを守備表示にしてターンエンド…」

「ははは！私の勝ちはもうすぐだ！ドロー！【デーモン・ソルジャー】を召喚！【デビルマゼラ】でネオパーシアスに攻撃！魔界の咆哮！」

「まずいぞ！このままだと魁が負ける！」

「これで終わりだ！【デーモン・ソルジャー】で直接攻撃！ダイレクトアタックはははは！…！」

「魁ーーーーっ！…！」

「お前ら少し黙れ！！速攻魔法発動【収縮】！これで【デーモン・ソルジャー】の攻撃力を半分にする！」

魁 LP950

「ちっ…倒しそこねたか…これでターンエンドオ…」

これで真正正銘の最後のドロー…負けても死ぬ訳じゃないけど負けるのは悔しい…だから…俺は勝つ…！！

「…俺の……ターン…！！！」

引いたカードは……

「来た！魔法カード【貪欲な壺】を発動！墓地の【マスター・ヒュペリオン】^{エンジェルレイブ}【天空勇士ネオパーシアス】^{エンジェルナイト}【ガーディアン・エアトス】
【堕天使アスモディウス】^{エンジェルナイト}【天空騎士パーシアス】をデッキに戻し
2枚ドロー！」

これで俺の勝利の方程式は完成した……

「たかが手札が2枚で何ができるう？」

「手札が2枚もあれば十分だ！ヴァルハラの効果発動！自分フィールドにモンスターが存在しない時手札の天使族モンスターを1体特殊召喚する！来い！闇に堕ちし大天使の翼！特殊召喚！【堕天使ゼラート】！」

「だが攻撃力2800で何ができる！」

「こうすればいいんだよ！【堕天使ゼラート】の効果発動！手札の闇属性モンスター【クリボー】を墓地に送り相手モンスターをすべて破壊する！」

「バカなあ！！！」

「よっしゃ！！！」

喜ぶ十代、そして行けー！という翔、泣きながらやったんだと言っている隼人……別にこれ命がけのデュエルじゃないから平気だぞ？

「【墮天使ゼラート】で直接攻撃！すべて消し去る一撃……フォ
リン・ジャツジメント！！」ダイレクタタック

「ぐわああああ！！」

タイタン LP-2500

「約束通り明日香は返してもらうぜ」

「くっ…勝手にしろ！」

そう言ってこの部屋から出て行った若本…あっあいつ名詞落としや
がった。とりあえず拾っておくか

「しかし楽しい探検だったな！！」

「「ちっとも楽しくなーーーーい（だな）！！」」

十代が言った一言に翔と隼人は怒った。まあまあ…また今度ここに
来ましようよ

第7話 VSタイタン！悪魔と天使の大決戦！（後書き）

という訳で若本は飲み込まれませんでした。あんなにキャラが濃いの
に原作では出番が少なすぎて私ショックでした。

魁「しかし廃寮探検楽しかった！」

では次回予告！

えっ！？廃寮に探検に行った事がバレ退学！？

しかし処置として十代と翔はタッグ、俺はシングルで勝てば許す！？
良いぜ！その条件受けてやる！

次回！【歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙】

次回もお楽しみに！

第8話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 前編（前書き）

今回は長くなったので前編と後編に分けちゃいました。

もしかしてら今回は糞展開かもしれません！！いやな方は回れ360度！

魁「変わってないじゃん」

または右上のバツを押してください
そして今回の最強カードは！？

魁「もう！？こ、今回の最強カードは【ライフ・ストリーム・ドラゴン】！

このカードをシンクロ召喚する時シンクロ素材は【パワー・ツール・ドラゴン】とチューナー1体が必要だぞ！

このカードのシンクロ召喚に成功した時自分のライフを4000にする事ができる。このカードが表側表示で存在する限り自分への効果ダメージを無効にする。このカードが破壊される時代わりに自己墓地の装備魔法を1枚除外することができる！
専用デッキを作れば結構強いぞ！」

では本編行ってみよう！

第8話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 前編

??? Side

「宗野…魁か…」

今俺はある人物の情報を見ている…
…特におかしいところはないが…

「エクシーズ…召喚…」

デュエル・アカデミアの校長、鮫島から聞いた話によると宗野魁は
謎の召喚方法エクシーズ召喚をしたらしい
俺は宗野魁の情報が入った紙をデスクに置きその隣の紙を見た

「……天城…サクラ…」

デュエル・アカデミアの試験会場で謎の召喚方法シンクロ召喚だした
女子生徒

……そして……遊戯以外に負けた事が無い俺を…倒した…ただ1人
の決闘者…
デュエリスト

俺はしばし考えある結論にたした

「宗野魁は……天城サクラと同じ『転生者』か……」

見たことが無い召喚方法……天城サクラが言っていた情報…
ギョラクアイズ
そして銀河眼…

これだけあれば宗野魁が転生者だとすぐわかる…

「…磯野」

「はっ！」

「ペガサスに例の物が出来てるか聞いて来い」

「はっ！」

ふうん…面白い…

近日中貴様の実力見させてもらおうか!!

魁Side

「へっくしょん!! ああ…寒くなんか無いのにくしゃみとか…誰か俺の噂をしているのか？」

それとも若本と戦った寝ずにデッキ作成していたからそれで風邪ひいたか？

しかしこのデッキ…バランスが…もう少し特殊召喚のギミックを入れるか？

いやそれともモンスター、魔法、罠対策を入れたほうがいいか!？
どうしよう…

「おい! 今すぐここを開けろ! さも無いと爆破させるぞ!」

誰だよ来たの…

しかも今すぐ開けろ？さも無いと爆破？はぁー…今時そんなの子供でも引っ掛かりしないって

「開く気配が無いな…よし今すぐC4爆弾を取り付けるぞ！」
「了解！！」

「ちょっと待て！それ死ぬぞ！扉が盾にもならず死ぬから！！」

俺が勢いよく開けた先にC4爆弾を持っている生徒が数名…怖！！

「倫理委員会の者だ。おとなしくついてこないとこのAK-47で撃つぞ」

「冷静に怖いこと言わないでください！！そして銃刀法違反で捕まりますよ貴女！！？」

「大丈夫です。倫理委員会ですから」

どこが大丈夫なんだよ！！

でも死にたくないから素直について行った…

「「た、退学！！？」」

『あなたがたは深夜立ち入り禁止の特待生寮に入り、中から物を破損及び盗んだという証言がありました』

確かに俺達は立ち入り禁止の特待生寮に入った！しかも俺、中で気味悪い頭蓋骨があったから遊び半分で蹴ったら割れたし！帰る途中にお金（50円）を拾ったし！若本が落とした名刺を拾ったし！くそー！反論できない！証言が完璧すぎる！！

「ちょっと待て！確かに俺達は廃寮に入っただけ物壊したり、物を盗んだ覚えは無いぞ！」

『そうですか……ではここは制裁デュエルで決めましょうか』

「「制裁デュエル？」」

デュエルで決めるんですか……明日香と同じだな

聞いた話によると十代と翔はタッグ、俺だけシングルらしい
勝ったら無罪放免、負けたら退学……正確には俺だけ負けても謹慎らしい……

恐らく成績はそれなりに良いしまだ銀河眼ギャラクアイズの件があるからだな。いや……まさかこんなところまで銀河眼が効いているとは……
そんでやるのは数日後。それまでの間にデッキ調整をしろと……

「とにかくデュエルで勝てばいいんだな！！」

『そういうことですね』

「よし、わかった！翔！帰って早速特訓だ！」

「待ってよ、アニキ！」

いやー……若いていいね……あんな元気で……

……はっ！今、俺すげえおっさんぽい事言っちゃった！！

んで帰って来てただいまデッキ調整……

やはり【巨竜の羽ばたき】を入れておくか？ 本当なら【大嵐】入れたいけどこっちの禁止制限だと禁止だから使えない……

：手札交換のために【手札断札】を入れておくか？ いやむしろ【手札抹殺】を入れておくか

そんな事してる内に日はどんどん進んで行き……

――制裁デュエル当日――

うん！ いい感じに出来てんじゃない？ 前と比べたら事故率が減ったぞ！ ほんのすこし……

しかしこのデッキ【サイバードラゴン】も入れたかったな……

でも【サイバードラゴン】入れても【トレード・イン】のコストにならないし機械族だからこのデッキのシナジーしないし……

だから事故要員になっちゃんだよね。すまん……いつか専門デッキ作ってやるからな

後、前日サクラがカイザーを殴ったらしい。しかも喧嘩じゃないらしいデュエルで……まさかサクラがリアルダイレクトアタックするなんて……でもその前に闇のゲームじゃないから殴っても痛くないだろ？ となるとサクラが直に殴ったのか？ デュエル中にどうやって……？

とか考えてる間に十代達が入場……相手は迷宮兄弟か……

開始1ターン目は皆様子見……かと思いきや弟が【生け贄の^{ドール}人形】

を発動。これで【風魔神―ヒューガ】が出てきた。なるほど…効率は悪いけど【ゲート・ガーディアン】デッキ作成の為に参考になるな…

さらに魔法カード【闇の指名者】兄を指名し【雷魔神―サンガ】を宣言。兄は自分のデッキから【雷魔神―サンガ】を手札に加える。

【闇の指名者】ってそんな使い方があったんだ…

翔が融合を発動…これで【スチームジャイロイド】を召喚。そして攻撃。しかしヒューガがその攻撃を無効。

ヒューガは原作効果か…

個人的には【スチームロイド】召喚して攻撃、その後融合だな。まあどっちにしる防がれるんだけど…

兄は魔法カード【死者蘇生】でさっき【生け贄の人形^{ドール}】で墓地に送られた【地雷蜘蛛】を特殊召喚。そして再び【生け贄人形^{ドール}】の効果で墓地に送られ【水魔神―スーガ】が出た。さらに【カイザーシーホース】を生贄にして【雷魔神―サンガ】を召喚、そしてそのまま合体！【ゲート・ガーディアン】！……今合体しなくていいだろ

その後頑張って十代達は【ゲート・ガーディアン】を倒したが兄のターンでアニメオリジナル魔法カード【ダーク・エレメント】を発動。ライフを半分払いアニメオリジナルカード【闇の守護神―ダーク・ガーディアン】を特殊召喚。でも攻撃力3850で戦闘破壊されない効果って……いらないだろ

んで攻撃。しかし十代は罠カード【ヒーローバリア】で阻止。そんな兄のターンは終了

落ち込んで翔に十代は励ましの言葉を出す

翔は立ち直りました。頑張れ、頑張れ

…えっ？もう少し心配しろ？大丈夫だろ。ここで負けるとアニメが

続かないから勝つって

十代のターン、【E・HEROテンペスター】を融合召喚。スカイスクレイパーを発動。テンペスターでダーク・ガーディアンに攻撃！？何をやりたいんだ十代！？

弟のターン、罠カード【一騎打ち】を発動。だけど外のジェット機の音で効果が聞こえない！

弟はそのままターンエンド。何がしたかったんだ？そいで翔のターン、【ドリルロイド】を生贄にして【ユーフォロイド】を召喚。魔法カード【パワーボンド】効果は知っているから良いけど何言ってるか、外のジェット機の音でわからん！

テンペスターと【ユーフォロイド】を融合。【ユーフォロイド・ファイター】……乗っただけで攻撃力も合体とか……【ゲート・ガーディアン】可哀想……【ゲート・ガーディアン】なんかくつついただけで三魔神の攻撃力合計から2割れたんだぞ？しかも【パワーボンド】だから攻撃力は倍……スタッフ、あんたたちは【ゲート・ガーディアン】が嫌いなのか！？

そんで【ユーフォロイド・ファイター】で攻撃。迷宮兄弟のライフは0。これで十代達の勝利、退学は免れたがその代わりレポート30枚……ひどいね

次は俺か。さあって対戦相手は誰だろうな？

「それでーハ！ただいまより制裁シングルデュエルを始めるノーネ！」

会場は一気にボルテージマックス！！十代達やオシリスレッドが頑張れとか言っているけど対するオベリスクブルーは負けちまえと言っている……俺を倒せる奴なんてそうそういないって

いるとしたらメインの原作キャラ、原作のボスキャラ、サクラぐらいだろ。ああ後、若本

「では対戦相手入所ジョー！！」

ダーーーッ！！とでかい音と煙が出てきてそこから出てきたのは……

「う……そ……だろ？」

対戦相手は……

「ふうん、宗野魁。制裁デュエル及び今学期中の約束と為に態々来てやったぞ」

「宗野カイーの対戦相手はかの有名な会社、KC社長『海馬瀬人』なノーネ！！」

「「「「うおおおおお！！」「」「」」」

あの、白いコート……

気高い目……

腕を組み威風堂々歩いてくるこの姿……

まさしく…本物の海馬社長…

…たく…今回は【フルバーン】のデッキにするつもりだったけどやめだ。ここは数日前から組んでいたこのデッキを使わせてもらおうか…

「手加減はせんぞ」

「わかってますよ」

全力で行かせてもらうぜ！海馬社長！

「^{デュエル}決闘！」

「俺のターン、ドロー！…魔法カード【手札抹殺】を発動！お互いの手札をすべて捨て！その後捨てた枚数分デッキからカードをドローする！」

「くっ！おのれ…！！！」

海馬社長が捨てたカードは…

ブルアイズ ホワサゴン

【青眼の白龍】

ブルアイズ ホワサゴン

【青眼の白龍】

ブルアイズ ホワサゴン

【青眼の白龍】

【融合】

【融合解除】

はあ！！？

【手札抹殺】が無ければ１ターンキルされてたぞ！！

「：手札をモンスターカード【グローアップ・バルブ】を墓地に送って手札から【THEトリッキー】を特殊召喚！さらにトリッキーのLvを1つ下げ【手札抹殺】で捨てた【レベル・ステイラー】を特殊召喚！さらに永続魔法【冥界の宝札】を発動！トリッキーとステイラーを生贄にささげ：【銀河眼の光子竜】ギャラクジイズ フォトンドラゴンを召喚！【冥界の宝札】の効果で2枚ドロ！リバースカードを2枚セットしてターンエンド！」

このデッキは試験の時に使ったデッキをある方面を少し入れたデッキ……生贄召喚が少し少ないけどそれでも【冥界の宝札】が無いと回りにくいデッキ……初手に来てよかった

「俺のターン、ドロ……ふふふ……ふははははははは！貴様、ブルアイズいくら青眼を墓地に送ったとはいえそれで安心するのはまだ早いぞ」

「何だと！」

まさか【ドラゴンズ龍の鏡】を使う気か！

「見るがいい……貴様よく知っているやりかただ……相手フィールドのみにモンスターが存在する場合！このカードは手札から特殊召喚できる！俺は【バイス・ドラゴン】を特殊召喚！」

「バ、【バイス・ドラゴン】！？」

そのカードは5D、sから出たカード……何故海馬社長が持つてる……

「さらにチューナーモンスター【ゾンビキャリア】を召喚！」

まさか……

「Lv5【バイス・ドラゴン】にLv2【ゾンビキャリア】をチューニング！無数なる武器を持つ竜よ！この俺に勝利という名の武器をかざせ！シンクロ召喚！【パワー・ツール・ドラゴン】！」

本当に……シ、シンクロ召喚を……

「手札から魔法カード【魂の開放】を発動！この効果で墓地の青眼^{ブルーアイズ}3体を除外！そしてライフを2000払い【次元融合】を発動！お互いに除外されてるモンスターを可能な限り特殊召喚する！俺の元^{ブルーアイズ}に来い！青眼！」

海馬 LP2000

「さらに魔法カード発動【二重召喚^{デュアルサモン}】！このターンもう1度通常召喚を行える！俺はチューナーモンスター【グローアップ・バルブ】を召喚！」

「【パワー・ツール・ドラゴン】の効果！デッキから装備魔法を3枚選びその内1枚をランダムに手札に加える！ふうん……このカードか……」

来る！もう1度！シンクロ召喚が！

「俺はLv7【パワー・ツール・ドラゴン】にLv1【グローアップ・バルブ】をチューニング！数々の武器を持つ竜を！今真の姿を現せ！シンクロ召喚！【ライフ・ストリーム・ドラゴン】！」

……それで【次元融合】のライフコストを無くすのか……

「【ライフ・ストリーム・ドラゴン】の効果！このカードのシンクロ召喚時ライフを4000にする！アーハハハハハハ！！！」

海馬 LP4000

「さらに装備魔法【ビックバン・シュート】を青眼^{ブルアイズ}に装備！攻撃力が400ポイントアップ！これで終わりだ！【ビックバン・シュート】を装備してる青眼^{ブルアイズ}で銀河眼に攻撃！滅びの…バースト・ストリーム！！！」

「カウンター罠発動！【攻撃の無力化】！相手モンスターの攻撃を無効にしバトルフェイズを終了させる！」

「ふうん…悪あがきか…俺はこれでターンエンド」

いつまでも驚いてる場合じゃない…冷静なれ…そして勝つんだ！負けたら退学だ！（↑負けても謹慎ということを忘れてます）

「俺のターン、ドロー…：墓地の【グローアップ・バルブ】の効果発動！この効果でデッキトップを墓地に送りこのカードを墓地から特殊召喚！銀河眼^{ギャラクアイズ}のLvを1つ下げ墓地からステイラーを特殊召喚！Lv1の【レベル・ステイラー】にLv1【グローアップ・バルブ】をチューニング！アクセル全開！トップスピードでこの決闘場^{エルミールド}を駆け抜けろ！シンクロ召喚！希望の力【フォーミュラ・シンクロン】！【フォーミュラ・シンクロン】の効果で1枚ドロー…：ドローした【ジェスター・コンフィ】を特殊召喚！さらに銀河眼^{ギャラクアイズ}のLvの1つ下げ墓地からステイラーを特殊召喚！【ジェスター・コンフィ】とステイラーを生贄にして【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】を召喚！【冥界の宝札】の効果で2枚ドロー！」

「そんなに頑張っても最高攻撃力は3000：拍子抜けだな…」

「まだまだ行くぜ！【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】の効果発動！この効果により墓地から【ライトバルサー・ドラゴン】を特殊召喚！Lv6【ライトバルサー・ドラゴン】にLv2【フォーミュラ・シンクロン】をチューニング！宇宙に輝く星よ！俺に揺るぎ無き力の一端を！シンクロ召喚！飛翔せよ！【スターダスト・ドラゴン】！リバーカードオープン！永続罫【リミット・リバー】！この効果で墓地から攻撃力1000以下のモンスター【フォーミュラ・シンクロン】を特殊召喚！」

……………クリア・マインド！！

「Lv8【スターダスト・ドラゴン】にLv2【フォーミュラ・シンクロン】をチューニング！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く…光さす道となれ！アクセルシンクロ！！」

「「「「スターダストが消えた！？」「」「」」」

「生来せよ！【シューティング・スター・ドラゴン】！！」

「だが攻撃力は3300！少し足りなかったな！」

「別にいいんだよ！【シューティング・スター・ドラゴン】の効果！デッキの上のカードを5枚めくりその中のチューナーモンスターの数だけこのカードは攻撃できる！そしてめくった後デッキをシャッフルする！」

ここで最低2枚ださなければ次のターン、海馬社長の攻撃は耐え切

れない！頼むぜ俺のデッキ！

「1枚目！【手札断殺】！2枚目！チューナーモンスター【エフェクト・ヴェーラー】！3枚目！【竜の転生】！4枚目！【ダンディライオン】！5枚目！……よし！チューナーモンスター【ゾンビキャリア】！これでシューティング・スターは2回攻撃できる！」

「何い！！？」

「バトル！シューティング・スターで青眼ブルーアイズを攻撃！スターダスト・ミラーージュ！」

「ぐっ……青眼ブルーアイズ！」

海馬 LP3700

「さらに続けてシューティング・スターでもう1体の青眼ブルーアイズに攻撃！スターダスト・ミラーージュニイレンダア！！」

「くそ！決してただではすまんぞ！！」

海馬 LP3400

「銀河眼ギャラクシャイズで【ライフ・ストリーム・ドラゴン】に攻撃！破滅のフォトン・ストリーム！」

「ちっ……」

海馬 LP3300

さすが海馬社長…嫁以外のドラゴンには反応がうすいッスね

「リバーズカードをセットしてターンエンド！」

会場の皆さん、ドデカイ竜がいっぱいいるから唾然としている……
しかし何故海馬社長がシンクロ召喚を？

第8話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 前編（後書き）

最初の？？？の意味ねえWWW
では次回予告！

さすが海馬社長：俺の出した戦略を倒すなんてな…
でも俺も負けちゃいないぜ！
これが俺の切り札だ！

次回！【歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 後編】

次回もお楽しみに！

第9話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 後編（前書き）

昨日ZEXALのカイト様かつこよかった！！

だけどどこから免許を取った……？では今回の最強カードは！？

魁「今回の最強カードは………無し！！？………どういことだ！！？」

それはどれを最強カードにしたらいいかわからなかったから……

はい、嘘です。今回は最強カードを出すと本編のネタバレ臭がする
のでやめました。

では本編にどうぞ……

第9話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 後編

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【天よりの宝札】を発動！お互いのプレイヤーは手札が6枚になるようにカードをドローする！」

うわぁ…最悪効果だな、おい

とりあえずフィールド状況はお互いの手札は6枚、俺のフィールドには銀河眼とレダメ、シューティング・スターとリバーズカード1枚、そして無駄にある永続罠【リミット・リバーズ】

海馬社長は装備魔法【ビックバン・シュート】を装備して攻撃力が3400になつて青眼1体のみ、リバーズカードは無し…

圧倒的に俺が有利だけど手札6枚もあれば立て直せる…油断はできないな…

「さらに魔法カード【強欲な壺】を発動！デッキからカードを2枚ドロー！魔法カード【滅びの爆裂疾風弾】を発動！これで貴様のモンスターをすべて破壊だ！」

「【シューティング・スター・ドラゴン】の効果発動！1ターンに1度フィールド場のカードを破壊する効果を無効にして破壊する！」

「ちっ！ただこれ終わると思うなよ。魔法カード【龍の鏡（ミラー）】を発動！この効果により墓地の青眼2体とフィールドの青眼を除外して来い！最強のしもべ！降臨せよ【青眼の究極竜】！さらに手札の【スポーア】を墓地に送って【THETRIX】を特殊召喚。そして【ジャンク・シンクロン】を召喚【ジャンク・シンクロン】の効果で墓地から【ゾンビキャリア】を特殊召喚！Lv5

【THEトリッキー】にLv3【ジャンク・シンクロン】をチューニング！見るがいい：これが絶対なる力の象徴！シンクロ召喚！【レッド・デーモンズ・ドラゴン】！さらに魔法カード【死者蘇生】を発動。これにより貴様の墓地から【ライトパルサー・ドラゴン】を特殊召喚する。Lv6【ライトパルサー・ドラゴン】にLv2【ゾンビキャリア】をチューニング！吹きすさぶ風から舞い上がる黒羽の翼！その翼の正体をさらせ！シンクロ召喚！【ブラックフェザー・ドラゴン】！」

んな馬鹿な！！ここまでお互いのフィールドにドラゴンなんてそうそう並ぶか！？

てか海馬社長プレイングミスしてる！あるかわからないけどここは【スカーレッド・ノヴァ・ドラゴン】を出そうよ！墓地のバルブの効果まだ使っていないからいけるし！

「そして魔法カード【貪欲な壺】を発動！墓地の【ジャンク・シンクロン】【ライフ・ストリーム・ドラゴン】【パワー・ツール・ドラゴン】【THEトリッキー】【バイス・ドラゴン】をデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロー！バトル！まずはその目障りな竜を破壊してやる：【青眼の究極竜】ブルアイズ アルティメット・ドラゴンで【シューティング・スター・ドラゴン】に攻撃！アルティメット・バースト！！」

「【シューティング・スター・ドラゴン】の効果！相手モンスターの攻撃宣言時このカードを除外をして相手モンスターの攻撃を無効にする！」

ふう、危ない危ない……今思ったけど【天よりの宝札】使って早速手札が1枚とか……どんだけ回したんだよ、海馬社長……

「だけどこの攻撃は避けられまい！【レッド・デーモンズ・ドラゴ

ン】で【レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン】に攻撃！灼熱のクリムゾン・ヘルフレア！！」

「くっ…！ダメージを受けた事で手札から【トラゴエディア】を特殊召喚！そして【トラゴエディア】の攻撃力は手札の枚数×600！よって攻撃力3000！」

魁 LP3800

「【ブラックフェザー・ドラゴン】で銀河眼に攻撃！そしてダメージステップ時に手札から速攻魔法【突進】を発動！これで攻撃力が700ポイントアップ！蹴散らせ！ノーブル・ストリーム！」

「ぐっ…まだまだ！」

魁 LP3300

「俺はこれでターンエンドだ。貴様のフィールドにモンスターが0今の内にサレンダーをするんだn「エンドフェイズ時自身の効果で除外された【シューティング・スター・ドラゴン】の効果！除外されてるこのカードを特殊召喚する！」何！！？」

やっぱり海馬社長にブラフは通じないか…しかしひどい有様…自分モンスターがほぼ全滅…残っているのは【トラゴエディア】とシューティング・スターのみ…リバースカードはブラフの【魔法石の採掘】…だけどこの手札なら…やれる！

「俺のターン、ドロー！【トラゴエディア】の効果発動！このカードはLVを墓地の【ライトパルサー・ドラゴン】と同じLV6にする。そして【トラゴエディア】のLVを1つ下げ墓地からステイ

ラーを特殊召喚！そしてスティラーを手札に戻して【A・ジェネクス・バードマン】を特殊召喚！そしてリバースカードオープン！魔法カード【魔法石の採掘】！この効果により手札から【ボルト・ヘッジホッグ】と先ほど手札に戻した【レベル・スティラー】を捨て【グローアップ・バルブ】の効果で墓地に送られた【死者蘇生】を手札に加える！そしてさらに【トラゴエディア】のLvを1つ下げ墓地から【レベル・スティラー】を特殊召喚！行くぞ！Lv4となった【トラゴエディア】にLv3【A・ジェネクス・バードマン】をチューニング！黒薔薇の竜よ…俺にすべてを無に化す力を与えよ！シンクロ召喚！咲き乱れよ！【ブラック・ローズ・ドラゴン】！」

史上最凶のリセットモンスター、【ブラック・ローズ・ドラゴン】

……

この竜を使ってる十六夜アキって随分16という数字に縁があるらしい…俺は知らんけど

「【ブラック・ローズ・ドラゴン】の効果！このカードのシンクロ召喚時フィールド場に存在するすべてのカードを破壊する！」

「な……に……？そんな馬鹿げた効果があるのか……」

「すべてを無に化す憎しみの暴走！ブラック・ローズ・ガイル！」

フィールド場のあらゆるカードが全滅……これで海馬社長のフィールドはがら空きだ！！

「そしてさっき手札に加えた魔法カード【死者蘇生】を発動。この効果により墓地から【シューティング・スター・ドラゴン】を特殊召喚！これで終わりだ！【シューティング・スター・ドラゴン】で

ダイレクヤタック
直接攻撃！！スターダスト・ミラージュ！！」

これで……俺の勝ちだ！！

「手札から【速攻のかかし】の効果発動！ダイレクヤタック直接攻撃してきた時手札のこのカードを捨てバトルフェイズを終了させる！！」

「くそ！俺はリバーズカード1枚をセットしてターンエンド！」

仕留め切れなかった…

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【命削りの宝札】を発動！このカードの効果により手札が5枚になるようにドローし5ターン後すべての手札を墓地に送る！」

また手札補充のチートカードかい！！
いい加減にしろ！この世界の禁止制限！

「……ふふふふ、ははははは！！この手札で貴様を葬る…手札から魔法カード【早すぎた埋葬】を発動！ライフを800払い墓地からフルサイズ アルティメットドラゴン【青眼の究極竜】を特殊召喚！」

海馬 LP2500

「さらに装備魔法【巨大化】により攻撃力を2倍にする！」

「「「こ、攻撃力9000！！？」」「」」

「そんな！まさか兄さんの【サイバー・エンド・ドラゴン】を超える攻撃力を出すなんて！！」

「これが伝説の決闘者……海馬瀬人の実力……」

確かに攻撃力9000は驚いた……

だけど海馬社長はまだ何かするつもりだぞ！

「さらに【エキセントリック・ボーイ】を召喚！効果により手札のモンスターでシンクロ召喚できる！俺は手札のLv4【ブレイドナイト】とフィールドのLv3【エキセントリック・ボーイ】をチェーンニング！聖なる森に潜みし竜よ！我が青眼の最強の力を手に入れる為の糧になれ！シンクロ召喚！【エンシェント・フェアリー・ドラゴン】！そして魔法カード【受け継がれし力】を発動！これでエンシェント・フェアリーを生贄にして【青眼の究極竜】の攻撃力をエンドフェイズまで2100ポイントアップする！これで攻撃力は11100！！」

攻撃力……10000越え……でもよ……

「最後は盛大な攻撃で終わらせてやる！！」
【青眼の究極竜】ブルアイズ アルティメットドラゴンで【シューティング・スター・ドラゴン】に攻撃！！スーパー・アルティメット・バースト・ストリーム！！」

……お前は馬鹿だ！！

「【シューティング・スター・ドラゴン】の効果을忘れたか！！相手モンスターの攻撃宣言時、このカードを除外する事で相手モンスターの攻撃を無効にする！！」

「しま……」

「そしてエンドフェイズ時【シューティング・スター・ドラゴン】を特殊召喚！！そして俺のターン、ドロロー！……俺はこれにかけるぜ！手札から魔法カード【アドバンスドロロー】を発動！フィールドの【シューティング・スター・ドラゴン】を生贄にして2枚ドロロー！さらに魔法カード【貪欲な壺】を発動！墓地から【シューティング・スター・ドラゴン】【グローアアップ・バルブ】【スターダスト・ドラゴン】【ブラック・ローズ・ドラゴン】【フォーミュラ・シンクロン】をデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロロー！手札の【ダンディライオン】を墓地に送って【THEトリッキー】を特殊召喚！【ダンディライオン】の効果でフィールドに【綿毛トークン】を2体生成！トリッキーのLvを1つ下げ墓地からスティラーを特殊召喚！そして【スポーア】を召喚！」

これで準備は整った！！

「Lv4となった【THEトリッキー】にLv1の【スポーア】をチューニング！科学の英知よ！ここに現れ勝利の方程式の礎となれ！シンクロ召喚！【TG―ハイパー・ライブラリアン】！！そして墓地の【スポーア】の効果発動！墓地の植物族モンスター【ダンディライオン】を除外して【スポーア】を特殊召喚！この時特殊召喚された【スポーア】は除外した植物族モンスターのLvを得る！Lv1となった【レベル・スティラー】にLv4となった【スポーア】をチューニング！正義の名を持つ無慈悲なる機械！ここに解き放て！シンクロ召喚！【A・O・Jカタストル】！ハイパー・ライブラリアンの効果で1枚ドロロー！手札から魔法カード【二重召喚^{デュアルサモン}】を発動！そして【グローアアップ・バルブ】を召喚！Lv1【綿毛トークン】にLv1【グローアアップ・バルブ】をチューニング！！アークセル全開！！トップスピードでこの決闘場を駆け抜ける！シンクロ召喚！希望の力【フォーミュラ・シンクロン】！ハイパー・ライブラリアンと【フォーミュラ・シンクロン】の効果で2枚ドロロー！」

……オーバー・トップ・クリア・マインド……!!

「Lv5【TG―ハイパー・ライブラリアン】とLv5【A・O・Jカタストル】にLv2【フォーミュラ・シンクロン】をチューニング!! 集いし星が絆が1つになる時、新たな絆が未来を照らす! 光さす道となれ! リミット・オーバー・アクセルシンクロ!!」

「なっ!!…デュエルディスクが……オーバーヒート寸前になるまでのシンクロ召喚だど!!…?」

確かに俺のデュエルディスクがプスプス煙を上げているし変な音がするがそれでも俺はもう止められない!!

「進化の光!! 【シューティング・クエーサー・ドラゴン】!!」

これが俺の切り札だ!!

「……ふっ、多少は驚いたがどんなシンクロ召喚してもこの青眼に勝てるモンスターなぞいないか……」

「それはどうかな? 手札から【融合】発動! 手札の【真紅眼の黒竜】レッドアイズ ブラックドラゴン【真紅眼の闇竜】レッドアイズ ダークネスドラゴン【ダークフレア・ドラゴン】ファイブゴット ドラゴン【真紅眼の飛竜】レッドアイズ フライバーン2体を融合! 現れろ! 【F・G・D】ファイブゴット ドラゴン!! さらに魔法カード【受け継がれる力】を発動! 【F・G・D】を生贄にして【シューティング・クエーサー・ドラゴン】の攻撃力をエンドフェイズまで5000ポイントアップ!!」

「攻撃力が……並んだ……」

ブルアイズ アルティメドラゴン

【青眼の究極竜】 攻撃力9000

【シューティング・クエーサー・ドラゴン】 攻撃力9000

「バトル！ 【シューティング・クエーサー・ドラゴン】 で究極竜にアルティメドラゴン 攻撃！！ 天地創造撃ザ・クリエーションバースト！！」

「くっ！ 迎え撃て！ 究極竜！！アルティメドラゴン スーパー・アルティメット・バースト！！！」

お互いのモンスターは相打ち……

これでターン終了かと……思ったら大間違いだぜ！！ 海馬社長！！

「【シューティング・クエーサー・ドラゴン】の効果！！このカードがフィールドから離れた時エクストラデッキから【シューティング・スター・ドラゴン】を効果を無効にして特殊召喚！！」

『クルアアアアアア！！！！』

「そんな……馬鹿な……この俺が遊戯や天城サクラ以外に負けるというのか……」

天城サクラ？……後で話を聞かせてもらおうか……

「【シューティング・スター・ドラゴン】で直接攻撃！！ダイレクトタック 【スターダスト・ミラーージュ】！！」

「ぐわああああああああ！！！！！！！！」

海馬 LP－800

勝った……

「勝ったぞおおおおお！！！！」

「「「「「……わあああああああ！！！！」
「
「
「

勝った……俺は……海馬社長に……

勝ったぞ！！

第9話 歴代ドラゴン集結！青と真紅と五竜と宇宙 後編（後書き）

という訳でVS海馬終了！！

さすがの魁も海馬社長が相手だとリアルな意味の方でガチデツキを使う：

一応タイトル通り、青と真紅と五竜と宇宙を出せてよかった：

では次回予告！

おい、天城サクラ

少し聞きたいことがある

お前は………いったい：

次回！【衝撃の真実！！原作はすでに崩壊していた】

どうい内容か簡単に予想できるけど次回もお楽しみに！！

第10話 衝撃の事実!!! 原作はすでに崩壊していた(前書き)

今日、総合評価が100になりました。バンザーイー!!

魁「まあこんな馬鹿な作者は放っておいて今回の最強カードは……またない!? ちくしょう! 何でだ!？」

それは今回はデュエルがあまりないから……

俺はデュエルにしか興味が無いZE!! もしくは社長大好きの方は今すぐ右上のバツ、またはパソコンの電源自体を消してください。

またアンケートを取りたいと思います。まあ……集まらないと思いますけど……

アンケート内容はこちら←

魁とサクラに精霊を持たせたほうがいいですか？

1. いいんじゃない？
2. ダメ! 絶対ダメ!
3. 魁には精霊を持たせサクラに精霊を持たせない
4. サクラに精霊を持たせ魁には精霊を持たせない

のどれかをお願いします。書く場所は感想、メッセージどちらでもいいです。そして3日間、感想の制限を無くします。

皆さん、アンケートにご協力ください。よろしくお願いします。

魁「お願いします」

では…本編に…どうぞ…

第10話 衝撃の事実!! 原作はすでに崩壊していた

「すげえじゃん!! あの前説の決闘者海馬さんデュエリストに勝つなんて!!」

「すごかったんだな!!」

「兄さんのサイバー・エンドを超えたモンスターに勝つなんて…すごいッス!」

「…でも、皆様

上から順に十代、隼人、翔ですね…みんなすごいの一言は言うんだね…

しかし何故海馬社長がシンクロ召喚を使う? そして海馬社長はサクラに負けた?

これはちよつとサクラや海馬社長に聞かなければな……

「まずは勝った事におめでとう、魁」

「サクラ…」

久しぶりにサクラに会ったな…ドローパンの時いらだから…どれくらい前だろう? 忘れたけど今はそんな事はどうでもいい…

「…サクラ、聞きたいことがある」

「わかってるわよ。それじゃあ行きましょう」

「十代、また今度」

「おう！今度は1対1でやろうぜ！」

「やっと来たか、宗野魁：天城サクラ」

「海馬社長：」

「久しぶりですね。海馬社長」

今、俺達は相談室にいる。そこにいるのはいつものでかいトランクとは少し違うトランクを持っている海馬社長
そして久しぶり？やっぱりサクラは海馬社長に会ったことがあるのか？

「貴様が聞きたいことはわかっている。そして銀河眼ギャラクソイズの事も鮫島から聞いたエクシーズ召喚でとサクラの情報で概ね理解した」

サクラの情報？やっぱりサクラが絡んでいるのか：

「まずは何故俺がシンクロ召喚を使っているのか？それを聞きたいのだろうか？」

「そうです」

「それはだな：約1年ほど前俺は1人の少女に出会った――」

海馬Side

俺は今から過去話を始めた…本来、過去話など虫唾が走るがこいつとの疑問を解く為には話すしかない
そして俺は過去について話だした

あの時、KCで仕事をしている時磯野から電話が掛かってきた

「どうした磯野」

「海馬社長、今KCの受付カウンターで1人の少女があなたに会わせてくれ…と言っておりますが…」

「ふうん、放っておけ。今俺は忙しいんだ」

そう言って俺が電話を切ろうとした時磯野から気になる一言を言った

「しかし海馬社長…この少女はデュエルモンスターのカードがあるのですが…そのカードの中に白い枠のカードがあるのですが…」

「何？」

白い枠のカード？そんなもの世界中のどこに行っても見たことないぞ？

…気になった俺はすぐさまその少女のところに行った…

「貴様…この俺を呼び出すとはいい度胸だ。なにか用でもあるのか？」

「海馬社長…私とデュエルしてくれませんか？」

こいつの言った言葉に俺は意味がわからなかった
この俺が貴様とデュエル？そんな物どんなに頼み込んでも受けてやらん

そう思って俺が引き返した直後…

「もしも私に勝ったらこのカードをすべて差し上げます」

そう言って少女が出してきたカードは見たことがないモンスター、魔法、罠カード…

そして白い枠のカードだった…

俺はそのカードを見た直後こういった

「いいだろう、受けてやる。ただし勝ったらそのカードだけではなく貴様の事に聞く。それでもいいなら受けてやる」

「いいですよ。勝つのは私ですから」

「その言葉…必ず後悔させてやる」

「^{デュエル}決闘！」

だけどそのデュエルで俺は真の恐怖を味わった…

「なっ……こんな馬鹿げた事が…?」

少女の場には究極竜アルティモラゼンに似た三つ首の攻撃力2700が3体

さらに攻撃力2800の歌舞伎のようなモンスターが並んでいて俺の場にはモンスターは無し…そしてリバーズカードもなく手札が0…

「すべてのモンスターで直接攻撃!」
ダイレクトアタック

「ぐわああああああ!!!!」

海馬 LP-6900

この俺が負けた……遊戯以外に負けただと…

「ありがとうございました」

そう言って立ち去った少女……俺はさらに気になることがあったのですぐに社長室に戻りペガサスに電話した

「ペガサス!!この俺が知らぬ間に新しいカードを作ったのか!!!」

「ノー!いくら私でも海馬ボーイにカードの事は隠しませーん!」

俺はその言葉を聞いた瞬間驚愕した

…あのペガサスですら知らないカードがあるなんて…

そこで俺はペガサスに事情を話し

会社の力を使い、少女の電話番号を入手。そしてあの少女に電話を

して後日来てもらおうことにした：

「再び呼ぶなんて：海馬社長、もしかして前回のリベンジですか？」

「違うな。今回呼び出したのは貴様のあの白い枠のカードについてだ」

「：海馬社長：どんな情報もただではあげませんよ？ 私にデュエルで勝てたら教えてあげます」

やっぱりそう来たか：：：いいだろう！ あの日から強化された俺のデッキを見せてやる！

：しかしそれでも：

「行きますよ？ 【キメラテック・オーバー・ドラゴン】^{ブルアイズ}で青眼に攻撃！そして速攻魔法【ハーフシャフト】^{ブルアイズ}！これで青眼の攻撃力を半分にし戦闘では破壊されなくなる！そしてキメラテック・オーバーは融合素材の数だけ相手モンスターに攻撃できる！くらいなさい！エヴォリション・レザルト・バースト、ニジュウレンダアツ！」

「ぐわあああああ！！」

海馬 LP—286000

続いているデュエルも

「【王立魔法図書館】の効果で1枚ドロー。この瞬間手札に【エクゾディア】パーツがすべて揃い私の勝ち。怒りの業火エクゾード・

フレイム！」

「ぐわあああああ！！！」

海馬 LP—？

先攻1ターン目で揃えられ次のデュエルは負け、次のデュエルでも負け、その次も負け…

気がつけば3ヶ月もたち戦績は0勝87敗…それでも俺はあの白い枠のカードの情報の欲しさに挑み続けた…

そしてついに…

「【巨大化】と【ビックバン・シュート】を装備した究極竜^{アルティメットドラゴン}でその壁モンスターに攻撃！！これで俺の勝ちだ！」

「罨発動【魔法の筒】^{マジックシリンダー}。相手モンスターの攻撃を無効にしその攻撃力分だけ相手ライフに与える」

「ぐわあああああ！！！」

海馬 LP—8600

勝てたと思いきや罨を発動され俺は返り討ち…
その瞬間俺は悟った

こいつに勝つには力押しではダメだとな……

例え惨めでもいい…俺は少女にどんな方法を使っても勝つと決めた…
その後はデッキを青眼ブルーアイズを中心としたモンスター効果、魔法、罠無効
デッキやロック、ハンデス、あらゆるデッキを使い少女に挑み続け
た…

そして戦い続けて半年…戦績0勝137敗3分が続いた戦いについに…

「魔法カード【滅びの爆裂疾風弾】バーストストリームを発動！さらに魔法カード【巨竜の羽ばたき】ブルーアイズを発動！青眼を手札に戻しこれで貴様のモンスター、魔法、罠はすべて破壊！」

「けど海馬社長の手札は青眼ブルーアイズを含めた3枚のみ…その内1枚は【融合】…どうやって逆転する？ライフ4000の私に…」

「魔法カード【闇の量産工場】ブルーアイズを発動！これで墓地から青眼2体を手札に加え【融合】ブルーアイズ発動！手札の青眼3体を融合！来い！究極竜を召喚！くらえ！アルティメット・バースト！」

「きやあああああ！！！」

少女 LP-500

こうして俺はやっとその少女に勝ち情報を洗いざらいすべて聞いた…その情報を聞いた時は驚いた。まさか俺達のいる世界がアニメの世界でその少女が転生者で少女がいる世界ではシンクロ召喚、そしてこの俺に見せてない召喚方法があるらしい…

その召喚方法も聞こうとしたが俺は連続でデュエルした結果そのまま俺は全治3ヶ月の疲労で入院、さらに完全回復するまでデュエルはするなと言われた…

魁Side

「なるほど……話を聞いてくださいわかりました。その少女って俺に隣にいる天城サクラでしょ？」

「その通り。そして完全回復し天城サクラに挑もうとしたら入学試験で聞いたことのないカードギヤラクアイズ銀河眼というカードを使用した貴様が現れ……もしかしたら……と思って貴様をしばらく泳がせ見たことない召喚方法エクシーズ召喚を使うのを待った……」

つまり銀河眼は口実……本当に聞きたかったのはエクシーズ召喚の事だったのか……

てかシンクロ召喚聞くことに戦いすぎ……でも海馬社長がデュエルモンスターズも好き過ぎる事がよくわかったとなると……俺が『転生者』ってもう知られてるな

「そして貴様が疑問に思ったこと。俺がシンクロ召喚した理由は入院してすぐペガサスに情報を送り作らせた……その製作期間はおよそ半年。制裁デュエルの少し前だ……」

「だけど魁。ここでもう1つ疑問がある。どうして入学試験でシンクロ召喚を使った私がなんの調査も行われずこのデュエル・アカデミアに入学……少しおかしくない？」

「それはKCやI2社の力があつたからだろ？」

「貴様は馬鹿か。いくら世界を統べるKCとI2社でもほかのakai会社が団結したら勝ち目なんぞない」

「そこでペガサスが私をシンクロ召喚採用のテストプレイヤーという情報を上の会社に伝えた。だからシンクロ召喚は上の会社の人達は大抵知っている。そしてあなたが月1テストでエクシース召喚した瞬間、鮫島校長は海馬社長に情報を与えそのままペガサスに与え上には魁をエクシース召喚採用及びシンクロ召喚採用のテストプレイヤーという情報を流した」

……結構、やり方がすごいですね……

しかし1年前から原作がすでに裏から崩壊していたとは……恐ろしいな
しかも俺が勝手に巻き込まれてる……まあ助かるからいいか

「そして……シンクロ召喚が製作されたので近日中にシンクロが世界に出回ります……!!」

「こうして俺とペガサスはシンクロを実用化させた……最終テストの為に俺にはシンクロに関するカードを貰い今日のデュエルに使った……これですべてだ。ほかに聞きたいことないのか？」

「聞きたいことというか……頼みなんですけど……デュエルディスク直してくれませんか？もう結構危ないんですよ……」

もうギュルン、ギュルンという音と一緒に煙がでてる……ディスクを新しくすればいいんだけどそれだとデュエル・アカデミアの戦績はリセットされるから直すしかない。でも俺は直せないから海馬社長に頼む

「いいだろう…ただし最低でも冬休みが始まる頃に直る…その間貴様はここには通えない。そこでこのアカデミアに通わない間ペガサスにエクシーズ召喚を伝えれば直してやる。受けてくれればこのディスク直すだけではなくをシンクロやエクシーズをしても故障しないように改良してやる…」

どっちにしろ…エクシーズ召喚採用テストプレイヤーって扱いだし情報をあげなければエクシーズ召喚が世に出ずに俺のテストプレイヤーに疑惑が掛かるか…
よし！伝えるか！

「はい、その条件を受けます！そしてディスクの改良ありがとうございます！」

「別に礼なぞいらん。さっさと準備をするんだな」

「はい！」

しばらくアカデミアとはさよならか…

でも俺はディスクが直ったら再び来るぜ！

…さあって寮に帰って事情説明と荷物を準備しなきゃな…

第10話 衝撃の事実!! 原作はすでに崩壊していた(後書き)

以後出てくる敵に強化フラグ……

とは言っても普通のアカデミア生徒や一般人はシンクロ召喚の事に
関してはまだ出たばかりなのであまりわかっておらずしばらく使
わないでしょうけど

そして次回予告!

いやー…まさか海馬社長が俺の事を『転生者』って知っていたとは…
まあ、そのおかげで俺のエクシーズ召喚もペガサスのおかげで
大丈夫そうだな!!

次回! 【さらばデュエル・アカデミア!!…まあ一時的なんだけど
ね】

第11話　さらばデュエル・アカデミア！…まあ一時的なんだけどね（前書き）

ライフ・イズ・カーニバル！！

太陽が真っ二つにならなければ俺の運はつきねえ！！

魁「じゃあ【北風と太陽】を召喚。そして魔法カード【強制転移】。

これで作者の【バスター・ブレイダー】と俺の【北風と太陽】をコントロールーを入れ替えバトル。【バスター・ブレイダー】で【北風と太陽】に攻撃。破壊剣一閃」

馬鹿な！太陽が真っ二つに……

作者　LP400

魁「そしてリバースカードオープン、リビデ。これで墓地から【北風と太陽】を特殊召喚。【北風と太陽】で直接攻撃」

そんな…馬鹿なああああ！！

作者　LPー600

なんかカードあさってたら【北風と太陽】が出てきたのでやってみたかった。

…そして今回の最強カードは！？

魁「今回の最強カードは【アックス・レイダー】

攻撃力1700のバニラで当時ウルトラレアの【ヂェミナイ・エルフ】と【メカ・ハンター】を狙って買ったパックに同じくウルトラレアとして入ってるこれを当て肩を落とした人はたくさんいるで

しょう……

それでも当時は例えハズレでもあなたの主力だったでしょ？思い出そう……昔を……」

俺の昔の主力は【地雷蜘蛛】だったな……

第11話　さらばデュエル・アカデミア!…まあ一時的なだけだね

昨日俺は海馬社長に頼めれペガサスにエクシーズの情報を渡してくれればデュエルディスクを修理+改良してくれるので頼んだ

正確にはデュエルディスクが無い間アカデミアに通えないのでその通えない間でペガサスに情報を渡すと言ったほうが正しいが…

そして十代達にそのことを説明、俺がエクシーズ召喚及びシンクロ召喚テストプレイヤーというある意味嘘の情報を話し、十代達としばし別れるのでみなさんとデュエル

結果は2勝4敗…やっぱり十代達のチートドロ―はすごいね。2勝した分なんてガチシンクロとガチエクシーズだし…あつ、ちなみにデュエルディスクは海馬社長のを借りました

後サクラもしばらくアカデミアにはいない。一応シンクロ召喚テストプレイヤーとしての最終テストの結果を出すという形を作らなければいけないらしい

そして今日、十代達に見送ってもらい海馬社長の直々の小型飛行船運転でサクラと一緒に快適な空な旅をすごしている。以上あらすじでした

「ああー…暇だね、魁。デュエルしない？」

「デュエルするにもこの部屋だと狭いからな…デュエルディスクを使わずにデュエルするならやってもいいぞ」

てかサクラお前の頭の中身、だいぶこの世界に毒されてるな…暇だからデュエル…まあわかるけどもう少し違う遊び考えない？たと

えばモン○ン、ガン○ムVSガン○ムとかやるとかそういうの思いつかんのか？

「こうなったら……あのデュエルをやりますか……」

サクラがそう言うのとデッキを1つ出したが……そのデッキには現実世界の禁止カードと通常モンスターが入っているが中にはポケ○ンのカード【マサキ】や【オーキド博士の訪問】とかがあった……まさか！？

「ワンデッキデュエルか……いいだろう、受けて立ってやる」

「よしじゃあ準備して……」

よいしょ……座席を回してデスクを準備……そして……

「^{デュエル}決闘！」

ここで少し解説を

ワンデッキデュエルとはその名の通り2人で1つデッキを使うデュエルである！

お互いの初期手札は0からスタート。デッキ枚数は40枚ピッタリ。ライフは8000

デッキの中身は禁止制限を守らなくていいと思うぞ！

ちなみに【強欲な壺】は入れちゃダメだよ！入れるなら【マサキ】にしよう！

先攻は先に俺のターンまたは私のターンと最初に言ったほうがもらえる

攻撃する時は技名を言わなければいけない。そして言った技名はそのデュエル中もう1度使ってはダメ

そして墓地とエクストラデッキお互い共有…よってこのデュエルではリビデが【死者蘇生】同然なのである！
後は基本同じ

「私のターン、ドロー！【アックス・レイダー】を召喚！ターンエンド！」

いきなり攻撃力1700か……普通ならあまり強くないけどこのデュエルだと結構強く感じる！

「俺のターン、ドロー！よし！【ゴゴゴゴーレム】を召喚！【ゴゴゴゴーレム】で【アックス・レイダー】に攻撃！ゴゴゴブロー！」

「ライフでうけよう」

サクラ LP7900

しかしこっちの世界に来てからソリッドビジョンばっかでデュエルしてたからな……

たまにはソリッドビジョンなしのデュエルもいいな

「これでターンエンド！」

「私のターン、ドロー！リバーズカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！装備魔法【悪魔のくちづけ】を【ゴゴゴゴーレム】に装備！そして【ゴゴゴゴーレム】でサクラに直接攻撃！ダイレクトアタックえーと…えーと…えーと…ゴゴゴキッス！」

「攻撃の名前がキモい！罨発動【万能地雷グレイモア】！これでゴゴゴゴーレム」を破壊！」

攻撃がキモいって……今に見てろよ…貴様にロックを掛けてやる！

「【悪魔のくちづけ】の効果！ライフを500払いこのカードをデッキトップに置く！これでターンエンド！」魁 LP7500

「あんたひどっ！！私のターン、ドロー！ターンエンド！」

何がひどいだ！このデッキ作ったのはサクラだろ！

「俺のターン、ドロー！【屋根裏の物の怪】を召喚！サクラに直接^{ダイレクト}攻撃！真っ黒コロコロ！」^{アタック}

「何その技名！？」

サクラ LP7350

さあな！！攻撃名なんてひらめきで思いついた名前でやればいいのさ！

「ターンエンド！」

「私のターン、ドロー！こ、これは強い！」

「何を引いた！？」

「【オーキド博士の訪問】」

ちょWWWWこれリアルに使用してるところ見たら笑いが止まらんWW

「このカードの効果によりデッキからカードを3枚引き自分の手札を1枚選びデッキの一番下に置く。そして【シーザリオン】を召喚。魔法カード【デュアルサモン二重召喚】を発動。さらに【マグネッツ2号】を召喚」

どちらのカードも懐かしいな!!

しかも【マグネッツ2号】のフレーバーテキストって電磁コーティングされた鎧は頑丈でしょ? 守備力1000だから【クリッター】ぐらいの攻撃にしか耐えられねえWWW

…しかしこうして昔のカードを見るのもいいな…

「バトル! 【シーザリオン】で【屋根裏の物の怪】に攻撃! 激・流・葬!」

「それ罨カードの名前じゃん!」

魁 LP6250

「さらに【マグネッツ2号】でダイレクトタック直接攻撃! 電磁コーティングの体当たり」

「その立派な剣を参考にした名前を使え!」

魁 LP5750

「ターンエンド」

「俺のターン、ドロー! モンスターをセット! これでターンエンド

「！」

「私のターン、ドロー！【封印されしエクゾディア】を召喚」

…ダメだ…エクゾディアを単体で使っているところを見ると…ww

「【シーザリオン】でセットモンスターに攻撃！フィッシャー・チャージ！」

「セットモンスターは【人食い虫】！これで【シーザリオン】を破壊！」

てか魚を破壊してる時点でもう人食いじゃねえな。ちゃんと人食いにするならこのカードの効果を戦士族、魔法使い族を破壊するにすればよかったのに

「【マグネッツ2号】とエクゾディアで直接攻撃！ダイレクトアタック連携攻撃、怒りの城之内ファイアー！」

「なんかツツコミどころがっ！！」

魁 LP4250

「ターンエンド」

「俺のターン、ドロー！よし来た！強欲なマサキを発動。これでデッキから2枚ドロー！」

「なんで強欲なマサキなのよ。普通に【マサキ】って言いなさい」

だって効果が……これ遊戯王だと【強欲な壺】じゃん……または原作効果のバブルマン

「魔法カード【ブラックホール】！これでフィールドのモンスターは全滅！そして【ブラッド・ヴォルス】を召喚！【ブラッド・ヴォルス】で直接攻撃！ダイレクトアタック血塗られの斧！」

「ほぼカードの名前とイラストのまんまじゃん！」

サクラ LP5450

まんまでええやろ！

お前だって違うカード名をまんま使ってたし！

「ターンエンド」

「私のターン、ドロー！来た！【ゴブリン突撃部隊】！そして攻撃！集団リンチ！」

「お前、パクンな！」

魁 LP3850

「うるさい！自身の効果でゴブリンは守備表示になる。ターンエンド」

「俺のターン、ドロー！【ガガマジシャン】を召喚！ゴブリンに攻撃！ガガマジック！とは名だけのパンチ！」

「まるで意味がわからない！！」

「だよな！何故にパンチ！？と思うよな！これでターンエンド！」

アニメ見た方ならわかると思いますが【ガガガマジシャン】の攻撃、魔法使いなのに殴るんです

どこが魔法使い族だよ！と思いますよね！

「私のターン、ドロー！リバーズカードをセット！ターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！ワイルドマンを召喚！2体のモンスターでダイレクト直接攻撃！ワイルドマジック！」

「2体とも魔法で攻撃してないでしょ！」

サクラ LP2450

「メインフェイズ2でLv4の【ガガガマジシャン】とワイルドマンの2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！【ジェムナイト・パール】！」

「ならその召喚に対して罨発動【奈落の落とし穴】！これでパールを破壊し除外する！」

「くっ！これでターンエンド！」

うん、ちょー楽しい！！

現実世界の遊戯王大会でもこんな展開があればな…

「私のターン、ドロー！魔法カード【貪欲な壺】を発動！墓地から【ガガガマジシャン】【ゴブリン突撃部隊】【ブラット・ヴォルス】

【アックス・レイダー】 【人食い虫】をデッキに戻しシャッフル！
そして2枚ドロロー！…このデュエルもクライマックスだよ！」

「何!？」

「【ゴゴゴジャイアント】を召喚！効果により墓地から【ゴゴゴゴ
ーレム】を特殊召喚！そしてジャイアントを効果で守備表示に！だ
けどそんなの関係ない！Lv4の【ゴゴゴジャイアント】と【ゴゴ
ゴゴーレム】でオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚
！【No.39希望皇ホープ】！」

出たホープ！

しかも効果テキストを見るとOCG版！さすがにこのデッキには原
作効果は入れないか

「そしてホープで直接攻撃！この瞬間ホープの効果発動！オーバー
レイユニットを1つ取り除いてホープの攻撃を無効にする！」

「そんなコンボになんの意味がある！（うわあー……これはあれが
くるな…）」

「意味はあるわよ！手札から速攻魔法【ダブル・アップ・チャンス】
を発動！攻撃を無効にされたモンスターに対して発動できる！この
効果よりホープはもう1度攻撃ができダメージステップの時攻撃力
を倍にする！」

「ば、馬鹿な！」

「かっどべホープ！！希望皇ホープで直接攻撃！ダイレクトタックホープ剣スラッシ
ュ！！！」

「うわあああああ!!」

魁 LP—1150

「かあああ! 負けた! でも楽しかったよ、サクラ」

「こっちも楽しかったわ。それにそろそろ……」

『おい、貴様ら。もうすぐKCに着くぞ。荷物を纏めて出る準備をしておくんだな』

おっ、確かに下を見ると海馬ランドがある。ということ本当にもうすぐだな

さあって準備、準備……

やっぱりカード効果はOCGのほうがいいよな

……十代達の為になんかお土産買って帰ろうかな……
まあ、随分先の話だけど

第11話　さらばデュエル・アカデミア!...まあ一時的なんだけどね（後書き）

今回はこのワンデツキデュエルをする為に書いたも同然!!

反省はしていないし後悔もしていない!

では次回予告!

いやー...誰よりも早い冬休みか

海馬社長の家でしばらくお世話になるな...

では早速町の調べに...うん? あれは!!

次回! 【魁の童実野町巡り】

次回はデュエル無いかもかもしれません! それでも次回もお楽しみに!

第12話 魁の童実野町巡り（前書き）

昨日のワンデッキデュエル改めて見たのですが……
これこの小説のタイトル詐欺じゃね？と思いました。

しかし一度書いたものを執筆者なら途中が放棄することは許されない！

魁「なーに、言ってるんだ作者は？では今回の最強カードは【ワイト】
フレーバーテキストは集まると大変、以上」

【ワイト】 って中々活躍しないんですね…… 【ワイトキング】 ば
つかめだちゃって……

第12話 魁の童実野町巡り

「そうか、ペガサスと面会するには最低でも5日間かかるのか」

『はい、すいません海馬様。なにゆえペガサス社長は忙しい身ですので…』

「別にかまわん。とりあえず1ヶ月以内に面会するようにしてくれ」

『かしこまりました』

……ただいまKCの社長室にいますけど…

すごいね、海馬社長のスケジュール

スケジュール帳にはビッシリ記者会見や海馬ランドの設計、デュエルディスクの新デザイン決め、ペガサスとの情報共有、ジークとの面会……あっジーク生きてたんだ

ペラペラ、ページをめくってくと3ヶ月先まで予定でビッシリ……そしてこんなビッシリ予定があるのに俺の為だけにデュエル・アカデミアに来てくれるとは……忙しいところ本当にすいません

「一応予定は取っておいた。ペガサスが来るまでこれと言ってやることはない。各々自由に過ごせ」

「「はい」」

「それと魁。アカデミアディスクはしばらく修理する為使えないが代わりにこれを使ってデュエルしてろ、以上だ」

海馬社長がくれたのは普及版デュエルディスク……やっぱりデュエ

ルディスクといったらこれだよな

そして俺達はKCから出てサクラは久しぶりにパック買ってきてくるとか言ってるだけに行っただけ……

俺はこれと言ってるだけのことがないので童実野町を巡ることにした

しかし童実野町って広いな……KC周囲にはあまり人がいなかったのに中央街に来ると人がいっぱい……

建っている店は例外と普通。専門カード店は少ししかなく、残りは普通に洋服屋、レストラン、デパート……

と言った感じに並んでる……

次は公園に来たけど遠くでデュエルしてる人を発見。まあ俺には関係ないな……喉が渴いているから自販機で飲み物買おうとしたら……

……どういふ……ことだ……!? 自販機は普通に150円のコーラとか売っているのにその中に3000円という破格のお値段のコーヒー……

……そう【ブルーアイズ・マウンテン】があった!そして他にも2400円の【レッドアイズ・ポタージュ】や4500円の【B・A・ブルーアイズ・ポタージュ

ドラゴンD・マウンテン】と言った無駄に高いお飲み物が……

えーと……財布、財布……あった!中には25万8907円が入っているな……しかし【ダイヤモンド・ドラゴン】の為だけに24万もだすか普通?でもそのおかげでこの飲み物が買える♪

では早速3000円を入れ【ブルーアイズ・マウンテン】を購入。

続いて2400円入れ【レッドアイズ・ポタージュ】を購入。最後

に【B・A・D・マウンテン】を購入……しかしこの飲み物、点をと

るとB・A・D……バッドになるとは……これで今まで究極竜を出しても負け続けてたのか?

そんなことよりまずはレッドアイズから頂く。……体の芯から暖まらせるこの暖かさ……そしてその後にくる優しい辛さ……そして、ほんわかな苦味……これはうまい!!

次にブルーアイズ……こちらも美味……コーヒーの独特な苦味にクルーミーな甘さが少しするミルクとのコラボ……このままだとただのミルクコーヒーだがそこに来るよくわからない独特な味がくる……うまい……

最後に点を取ると不安を感じしかないB・A・Dを頂く……これは……!! マウンテンだからコーヒーがベースになのに先に口に来るのはほんわかなミルクの香りなのに味は見事にコーヒーの苦味とミルクがベストマッチして大変おいしい!!

まさかここまでうまいとは……しかし一番気になる飲み物を見つけた……名前は……【ドロー缶】……

買うまで缶の中身がわからないギャンブル缶……1缶180円と少し高めだが当たれば【ブルーアイズ・マウンテン】【レッドアイズ・ポタージュ】と言った高い飲み物が180円で買える……1缶買ってみるか!

という訳で180円入れ購入……そして出てきた物を取り恐る恐る飲んだ……

……来たか……この体が芯まで暖まるこの感じ!そして少しが苦味がある感じ!しかしこの若干辛くなった感じ……これは【メテオ・ブラック・コーヒー】か!? お値段3500円の奴を当てるとは……今回は運がいいな……

……今思ったけどこれ自販機で買っただけでドローしてないよな? これでドローになるのか?

そのまま俺はメテオ・ブラックを飲んでデューエルを見てるんだけど……

「いくぜ!俺のターン、ドロー!【ランドスターの剣士】を召喚!そして魔法カード【スターブラスター】を発動!ランドスターを生贄にしてサイコロを振る!出た目は4!これで手札から【真紅眼のブラックゴゴン】を特殊召喚!真紅眼で猥良の【ネクロフェイス】に攻撃!」

「させないよ！罨発動【亜空間物質転送装置】！これで【ネクロフェイス】を除外！【ネクロフェイス】の効果でお互いのデッキの上のカードを5除外する！」

「ああ！【アックス・レイダー】【マキシマム・シックス】【悪魔のサイコロ】【蒼炎の剣士】【融合】が……」

……間違いない……あの金髪、白いシャツの上に青ジャケット……そしてギャンブルカード多数……あれは城之内克也だ……そして隣にいるのがさっき名を上げてたけど白い長髪……そして横線が入っていてその上に半袖の水色の服……どう考えても猥良だ……

しかしこつからどうなるのか少し気になるのでこのデュエル見ようか

「でも真紅眼レッドアイズの攻撃はこれで猥良に届くぜ！真紅眼レッドアイズ！直接攻撃！黒炎弾！」

「うわぁ！」

猥良 LP100

「これで俺の勝ち同然だぜ！これでターンエンド！」

「エンドフェイズに【ネクロフェイス】が帰還してくる！僕のターン、リバーカードを2枚セット！そして速攻魔法【非常食】！これでさっきセットしたカードを破壊しライフを2000回復させる！」

猥良 LP2100

「さらに魔法カード【次元融合】を発動！ライフを2000払い除外されてる【モイスチャー星人】【首なし騎士】【デーモンの召喚】を特殊召喚！」

「なら俺は【アックス・レイダー】【マキシマム・シックス】【蒼炎の剣士】を特殊召喚！」

猥良 LP100

「そして手札1枚をコストに魔法カード【ライトニング・ボルテックス】を発動！これで城之内君のモンスターをすべて破壊！」

ライボルか……この世界の禁止制限だと制限なんだよな……

あまり強くないのに……やっぱりこの世界の価値観と現実世界の価値観は違うのか？

あつメテオ・ブラックがもうない……結構美味かったな

「げっ！だけど【蒼炎の剣士】の効果発動！これで融合デッキから【炎の剣士】を守備表示で特殊召喚！」

「さらに魔法カード【シールド・クラッシュ】を発動！これで【炎の剣士】を破壊してすべてのモンスターで直接攻撃！ダイレクトアタック」

「うわああああ！」

城之内 LP-1400

「やっぱりお前のデッキは心臓に悪いぜ……」

結構こっちの世界だといいい戦いなんじゃないか？

てか次の場所行こ：【ブルーアイズ・マウンテン】買っておくか

現在、俺は移動して路地裏に来てるんだけど……

「おい、金だせよ。渡さなければ殴る、素直に渡せば殴る。これの意味わかるよな？」

「だ、誰か助けて！」

いかにも頭が逝っちゃってる不良が女の子に対して金を要求…可哀想だし助けを求めているから行こうか

「おい」

「なんだ、テメェ！」

「デュエルしろよ」

一度言ってみたいと思っただ。このセリフ

「俺がデュエルで勝てばその女の子に手をだすな。仮にお前が勝ったら俺の金すべてくれてやる。ちなみに俺が持っている金額はざっと24万」

「24万……いいぜ！受けてたってやる！それで俺に挑んだことを後悔させてやる！」

「「^{デュエル}決闘！」」

「俺のターン、ドロロー！手札から【融合】発動！手札の【クリッター】と【黒き森のウィッチ】の融合して【クリッター】を召喚！さらに速攻魔法【融合解除】！これで【クリッター】の融合を解除して【クリッター】と【黒き森のウィッチ】を特殊召喚！そして2体のモンスターを生贄にして【ダイヤモンド・ドラゴン】を召喚！これでターンエンドだ！」

ダ、【ダイヤモンド・ドラゴン】……

いくらなんでも攻撃表示でだすなよ…攻撃力2100だぞ？そして【クリッター】と【黒き森のウィッチ】の効果を使え
まあこのデッキに相手モンスターなんて関係ないからいいか

「俺のターン、ドロロー。魔法カード【手札抹殺】を発動。お互いの手札をすべて捨て捨てた枚数分デッキからカードをドロローする。そして魔法カード【死者蘇生】を発動。これで墓地から【ワイト】を特殊召喚」

「はははははははは！！【ワイト】！？まさかそんな雑魚モンスターデユエリストを使っているなんてな！？とんだへボ決闘者だぜ！」

お前にへボとは言われたくないな！でもそんな馬鹿にした態度今すぐ消してやる！

「【ワイト】の特殊召喚に対して速攻魔法【地獄の暴走召喚】を発動。この効果により【ワイト】をデッキから2体特殊召喚。お前は手札、デッキ、墓地から【ダイヤモンド・ドラゴン】を特殊召喚できろぞ」

「くそ！俺のデッキには【ダイヤモンド・ドラゴン】は1枚しかね

え……でもそんな雑魚モンスター並べたって意味ないぜ！」

「お前は少し黙れ。魔法カード【トライアングル・パワー】を2枚発動。自分フィールドのLv1通常モンスターの攻撃力、守備力を2000ポイントアップする。2枚使ったので4000ポイントアップ」

「こ、攻撃力4300が3体も……」

「そして【ワイト】で【ダイヤモンド・ドラゴン】に攻撃」

「ひい……」

不良 LP1800

「残りの【ワイト】で直接攻撃」
ダイレクトアタック

「うわあああああああ……！」

不良 LP6200

「俺の勝ちだ。とっとと立ち去れ」

「は、はい！」

ものすごい速さで逃げた不良……てかあいつ服のセンスないな……しかももうすぐ冬なのに袖なしの服、さらに蜘蛛をプリントしてるし……本当にセンスないな……

「あつ、ありがとうございます……！」

「別にいいよ。偶々通り過ぎただけだし…じゃあ今度から気をつけろよ」

「はい！」

今思うと不良結構な速さで逃げたよな？あれオリンピックに出れるんじゃないか？

あつ、自販機に1900円の【サファイア・サイダー】が…購入、購入

町巡ってたら腹減ったな…ここの牛丼屋で食べるか

看板の名前は【牛丼野郎】…いいセンスだ

「へい！ツユだくの大盛り、お待ち！」

「あつ！これ結構おいしいですね！」

「そりゃどうも！！ところであんた、最近この辺でカードを強奪する輩…【バンデット】っていうグループ知ってるか？」

バンデット？そんな名前のグループ、原作にいたっけ？

「知りません。でも気になるので話してくれませんか？」

「そうかい。実はなここ最近カード盗みが発生しててよ…それで俺の友達ががさカード盗まれちまって…」

カードを盗むか……決闘者として許せない行為だな…

これは解決したほうがいいな…

「すみません。そのバンデットっていうグループ……どこにいますか？」

「おい！もしかして戦いに行くのか！？やめとけ！あいつらは結構強いぞ！」

「そうですよ。戦いに行きます…そしてバンデットを潰す！」

「……わかった、教えてやる」

その後、サービスでおシンコを貰い話を聞いた……夜、この近くのカード店の地下で集まっているらしい…

俺が行こうとした時最後に気をつけろよと言ってくれました

…この人いい人だな…こういうタイプの人、友達にしたいな…

そんで夜、そのカード店に俺は来ている…のだが…

「何故お前もここにいる」

「しょうがないじゃない。海馬社長直々の命令でバンデットを潰せって言われたんだから…」

サクラ…来てくれるのは嬉しいんだけど相手は不良の塊だぞ？それが

女子の力で勝てるのかどうか…

「少し心配だけど…じゃあ、行くか！」

「ええ！！」

「なんだ貴様ら！ここに勝手にはいるも……グハッ！！」

「ごめんね、こう見えても私少し前まで武術やってたから」

いきなりサクラが6人の不良を倒した……てかサクラ強っ！！
これは多分…サクラを連れてきて正解だったな……

「おいおい、テメェら！ここを誰のアジトだと思ってんだ！！」

「「「リーダー！！！！」」」

次に出てきたのはアメリカの国旗をバンダナにして頭に巻いてる金髪
の男がいた…ってこいつ！

「バンデット・キース！！？」

「ほう…まさか俺を知っている奴がまだいるなんてな…今じゃ俺
を知っている奴はそうそういないからビックリだぜ」

「あんたがここのリーダーってことは………」

俺は一瞬考え、ある言葉を言った

「おい、デュエルしろよ。俺が勝ったら今まで盗んできたカードをすべて返してもらう。俺が負けたらあんたに全部のカードをくれてやる！」

「いいぜ……その条件のつた!!」

「^{デュエル}決闘!!」

第12話 魁の童実野町巡り（後書き）

後書きで話すことはなし！

よってすぐ次回予告！

デュエルを始めた俺とキース！

キースが使うデッキは……

機械族、コントロール奪取中心の禁止デッキ！？

次回！【落ちた元全米ナンバー1！恐怖のキャノンバーンデッキ！】

第13話 落ちた元全米ナンバー1! 恐怖のキャノンバーンデッキ! (前書き)

狩らせてもらうか! お前のナンバーズを!

現れる【銀河眼の光子竜】!! 破滅のフォトン・ストリーム!

魁「ただいま作者は久しぶりに遊戯王の情報を見に行ったら新しいパック【GALACTIC OVERLORD】というが出るのが知って大変騒いでおりますが一番の理由は【超銀河眼の光子竜】が出るという噂に盛り上がっております」

出るとしたらいったいどんな効果なんだろう……作者的にはこんな感じだと思います

【超銀河眼の光子竜】 L V 1 0 A T K 3 5 0 0 D E F 3 0 0 0

このカードは通常召喚できない。このカードは自分フィールドの【銀河眼の光子竜】をリリースして特殊召喚できる。1ターンに1度フィールド場のモンスター1体をエンドフェイズまで除外する。この効果で除外したモンスターがエクシーズモンスターだった場合、このカードの攻撃力はそのエクシーズモンスターを除外した時のエクシーズ素材の数×500ポイントアップする。このカードがフィールドから離れた時墓地から【銀河眼の光子竜】を1体特殊召喚する。

って感じかなー……と思ってます。では今回の最強カードは!?

魁「今回の最強カード【スクラップ・ガレージ】遊戯王Rに出てくるオリカだ。

自分墓地に【モーター】と名のついたモンスターが置かれた時発動。墓地のある【モーター】と名のついたモンスターを可能な限り特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターの攻撃力、守備力は0になる

これOCG化すれば制限になるんじゃない？」

でさあ……遊戯王Rのオリカ【エンジンチューナー】ありますよね。アレの効果いまいちわからない……

まあ関係ありませんけど

第13話 落ちた元全米ナンバー1！恐怖のキャノンバーンデッキ！

「俺のターン、ドロー！【モーターシエル】を守備表示で召喚！リバスカードを2枚セットしてターンエンド！」

【モーターシエル】？聞いたことがないな？

「俺のターン、ドロー！フィールド魔法【竜の渓谷】を発動！手札の【ドラグニティーアキュリス】を捨てデッキから【ドラグニティーファランクス】を手札に加え魔法カード【調和の宝札】を発動！手札の攻撃力1000以下のドラゴン族モンスターチューナーを捨て2枚ドロー！」

墓地費やしもこれほどあれば十分か…

そして手札の状況…次のターン、一気にかたをつけてやる！

「【ドラグニティードウクス】を召喚！この効果で墓地の【ドラグニティーファランクス】を装備！そして装備されてる【ドラグニティーファランクス】の効果発動！このカードを自分フィールドに特殊召喚する！Lv4【ドラグニティードウクス】にLv2【ドラグニティーファランクス】をチューニング！遙か彼方の空から来る疾風の竜騎士よ！今こそ大地に降り立ちその力を見せ付けろ！シンクロ召喚！【ドラグニティナイトーゲイボルグ】！」

「ほお……それがシンクロ召喚か…」

何故キースが知っている！？

……まさかペガサスに負けた事に恨みを持ちそれでペガサスの事を調べてたらシンクロ召喚の事を知ったのか？

まあどうでもいいか

「バトル！ゲイボルグで【モーターシエル】に攻撃！ゲイ・ボルグ！」

「ちっ：【モーターシエル】は破壊された時自分フィールドにモーターパーツを攻撃表示で特殊召喚する！」

「リバーカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！【キャノン・ソルジャー】を召喚！」

【キャノン・ソルジャー】……

あいつの効果はモンスター1体を生贄にして相手ライフに500ポイントダメージを与えるバーンモンスター……

「魔法カード【天使の施し】を発動！カードを3枚引きその後手札を2枚捨てる！さらに魔法カード【心変わり】を発動！」

「ちょっと待て！【心変わり】は禁止カードだぞ！」

「別にいいんだよ！勝てればな！この効果によりゲイボルグを貫うぜ！そして【キャノン・ソルジャー】の効果発動！モーターパーツとゲイボルグ、自分自身を射出！」

「うわぁ！！！」

魁 LP2500

「これでターンエンドだ！」

「エンドフェイズ時に永続罠【リビングデッドの呼び声】を発動！これで墓地からゲイボルグを特殊召喚！そして俺のターン、ドロー！【竜の渓谷】の効果発動！手札の【レベル・ステイラー】を捨てデッキから【ドラグニティアームズーレヴェティン】を墓地に送る！そしてドウクスを召喚！効果によりファランクスを装備！墓地の【ドラグニティアームズーレヴァティン】の効果！自分フィールドに【ドラグニティ】と名のついたカードを装備したモンスターつまりドウクスを除外して墓地からこのカードを特殊召喚！疾風の共に現れる！【ドラグニティアームズーレヴァティン】！レヴァティンの効果発動！墓地のファランクスを装備！そしてファランクスを特殊召喚！そして墓地の【レベル・ステイラー】の効果発動！ゲイボルグのLvを1つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】を特殊召喚！Lv8【ドラグニティアームズーレヴァティン】にLv2【ドラグニティーフランクス】をチューニング！烈火の炎より生まれし竜よ！今その姿を現しこの大地を炎で包め！シンクロ召喚！焼き尽くせ！【トライデント・ドラギオン】！」

ドラグニティデッキの主力トラドラ。こいつがいるからこそドラグニティは1kilerが出来るようになった…

しかしこいつってシンクロ召喚した時はまだ顔が1つしかないのか

「【トライデント・ドラギオン】の効果発動！このカードがシンクロ召喚に成功した時自分フィールドのカードを2枚まで破壊する！そして破壊した枚数分のこのターンこのモンスターは追加攻撃できる！この効果によりステイラーを破壊！」

バクっ！食われたステイラー……すまん。いつも出ては生贄要員、シンクロ召喚にいたり…

お前は最高のモンスターだ…

しかしトラドラが食った後首が1つ生えた！なるほど食ったら頭が出てくるのか

「これで終わりだ！【トライデント・ドラギオン】でキースに直接ダイレクトアタック攻撃！ファースト・ブレイズ！」

「ぐっ……異発動！【ダメージコンデンサー】！自分が戦闘ダメージを受けた時手札を1枚捨て発動！自分が受けたダメージより攻撃力が低いモンスターをデッキから特殊召喚する！この効果によりデッキから【モーターバイオレンス】を特殊召喚！」

キース LP1000

「何をしようが無駄だ！【トライデント・ドラギオン】で【モーターバイオレンス】に攻撃！セカンド・ブレイズ！」

「引っかかりやがったな！速攻魔法【リミッター解除】！これで【モーターバイオレンス】の攻撃力を倍にする！迎撃しろ！【モーターバイオレンス】！リミット・ブレイク・ブラスト！」

「そんな！ぐわあ！」

魁 LP1300

「くそ！リバースカードをセットしてターンエンド！」

「エンドフェイズ時【リミッター解除】の効果発動！この効果により【モーターバイオレンス】を破壊！【モーターバイオレンス】の効果発動！このカードが破壊された時自分フィールドにモーターパーツを特殊召喚！そして異発動！【スクラップ・ガレージ】！【モ

「ター」と名のついたモンスターが墓地に送られたとき墓地の【モーター】と名のついたモンスターを攻撃力、守備力を0にして可能な限り特殊召喚する！この効果により墓地から【モーターバイオレンス】【モーターシエル】【モーターカイザル】を特殊召喚！」

…こいつのデッキがわかった…

キースのデッキは【モーター】を中心としたビート&バーン【モーター】モンスター共有のモーターパーツをフィールドに残しておく効果を使ってフィールドにモーターパーツの置き生贄要員にしたり【キャノン・ソルジャー】の効果使いダメージを与えるデッキ…

さすが元全米ナンバー1…落ちてもここまで強いとは…

「俺のターン、ドロー！モーターパーツ2体を生贄にして【デモニック・モーター・Ω】を召喚！さらに魔法カード【天よりの宝札】を発動！これでお互いの手札を6枚にする！そして魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【キャノン・ソルジャー】を特殊召喚！【キャノン・ソルジャー】の効果発動！【モーターバイオレンス】【モーターシエル】【モーターカイザル】を生贄にして相手に1500ポイントのダメージを与える！」

「リバースカードオープン！【ピケルの魔法陣】！このターン受ける効果ダメージを0にする！」

穴埋めのカードで助かるとは…サンキュー

しかしキースは強い…だからこそ気になることがある…

「まだだ！【デモニック・モーター・Ω】でゲイボルグに攻撃！」

「ゲイボルグの効果発動！このカードが戦闘を行うダメージステッ

プ時に1度だけ、自分墓地に存在する鳥獣族モンスター1体をゲームから除外して発動！このカードの攻撃力をエンドフェイズ時まで除外したモンスターの攻撃力分アップする！これで迎撃だ！ゲイ・ボルグ！」

「くそが！」

キース LP300

「リバースカード3枚セットしてこれでターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！……おいキース…なんでお前、盗みなんてやってんだ？」

「あっ？」

結構ドスの聞いた声で返事するな…怖…でも気になるから聞くんだ

「そんなに強いのになんで盗みなんてするんだ？そのカードはすべてキース……お前のだろ？」

こいつのカードを見れば普通にわかる…ところどころに傷がついてるし曲がっている…これは初心者でも結構あるが…一番の理由は…

「……それがどうした…」

「お前はカード・プロフェッサーになってから金の亡者になり勝つためならイカサマもした……それでもデュエルモンスターズを始め

た時はただ純粹に楽しんでたんだろ？」

：どう考えても長年使われて古ぼけたカードの裏と軽い血の跡：
それは何万回もカードをドロローしてできた跡：
これだけあれば昔から使ってことがわかる：

「……………どう：だろうな……………でも俺は俺を蹴落としたペガサスと城之内に復讐すると決めたんだ！！だから強くなる為にカードを盗みをデッキを強化し俺は復讐しようとする！」

「それは違ってる！！元々デュエルというのはその名の通り決闘！誰かが勝てば誰かが負ける！そして再び勝つ為に這い上がる！お前は決闘者としてペガサスと城之内に戦うのか！？それとも復讐者としてペガサスと城之内に戦うのか！？」

「それは決闘者として決まってるだろうが！！だからこそ俺はカードを「決闘者としてならそれは復讐じゃなくてリベンジだ！あんたはただ勝ちたいだけなんだ！ペガサスと城之内を倒したいんだろ！あんたがゆういつ負けた決闘者だから！」違う！あの2人は俺を決闘者としての地位を蹴落としたから復讐するんだ！」

「それはあんたの勘違いだ！！負けたから復讐とは名だけのリベンジをしたいんだ！それを今教えてやる！」

手札の【ドッペル・ウォリアー】を捨てデッキから【Sintウルース・ドラゴン】を墓地に送る！そしてエクストラデッキの【スターダスト・ドラゴン】を除外して手札から【Sinスターダスト・ドラゴン】を特殊召喚！」

「させるか！罨発動【激流葬】！この効果によりフィールドのモンスターをすべて破壊する！」

「墓地の【Sintウルス・ドラゴン】の効果発動！自分フィールドの【Sin】と名のついたモンスターが破壊された時ライフを半分払い特殊召喚する！矛盾超えし真実の竜！【Sintウルス・ドラゴン】！」

魁 LP650

「攻撃力5000だと!？」

「さらに魔法カード【手札抹殺】！お互いの手札をすべて捨て、捨てた枚数分デッキからカードをドロースる！そして手札のモンスター【ボルト・ヘッジホッグ】を捨て【クイック・シンクロン】を特殊召喚！さらに自分フィールドにチューナーがいるので墓地から【ボルト・ヘッジホッグ】を特殊召喚！Lv5【クイック・シンクロン】にLv2【ボルト・ヘッジホッグ】をチューニング！！心を閉ざしている門に熱き力をぶつけろ！シンクロ召喚！燃え上がれ【ニトロ・ウォリアー】！そして速攻魔法【サイクロン】を発動！これでリバーズカードを破壊！」

「破壊されるリバーズカードをオープン！永続罠【リビングデッドの呼び声】を発動！これで墓地から【モーターバイオレンス】を特殊召喚！【サイクロン】でリビングデッドを破壊！これで【モーターバイオレンス】も破壊！【モーターバイオレンス】の効果発動！このカードが破壊された時モーターパーツを2体を攻撃表示で特殊召喚！さらに永続罠【スピリットバリア】！自分フィールドにモンスターがいる限り自分に発生する戦闘ダメージは0になる！」

「それは読んでいた！速攻魔法【エネミーコントローラー】を発動！この効果によりモーターパーツ1体を守備表示にする！」

「はっ！そんなのなんの意味がある！」

意味はあるさ！俺はいつでも無駄なコンボをしない性格なんでね！

「バトル！【ニトロ・ウォリアー】で攻撃表示のモーターパーツに攻撃！ダイナマイト・ナックル！」

「けど永続罠【スピリットバリア】の効果でダメージは0になる！」

「【ニトロ・ウォリアー】の効果！このカードが相手モンスターを破壊した時相手フィールドの表側守備表示モンスターを攻撃表示にして続けてそのモンスターに攻撃できる！」

「馬鹿な！」

「【ニトロ・ウォリアー】でモーターパーツに攻撃！ダイナマイト・ナックル、ニイレンダァ！」

「俺が…また…負ける…」

「トウルース・ドラゴンでキースに直接攻撃！ダイレクタタック矛盾を超えた先の真実！パラダイムシフト！」

「がっ……」

キース LP-4700

「……どうだキース、今あんたは落ちに落ちて地位なんてない。だから俺はあんたを蹴落とす事なんてできない。そして俺とのデュエルに負けた……今あんたは俺の事をどう思う？」

「…負けた事が悔しい…だから今度はお前にも復讐する…！」

「それをリベンジって言うんだ…確かに地位が蹴落とされペガサスと城之内を復讐をするというのはあるだろう…ただどお前が一番思っていることはペガサスと城之内…そして俺に決闘者としてリベンジすることだ」

「……………」

その後不良達は逃げサクラは警察に電話、カード窃盗団【バンデット】を率いていたバンデット・キースは警察に連衡…ただど連れつかれる時キースは邪気がない笑顔をしていた…たぶん最後に言ったあの言葉が効いたんだな

—今度はただの決闘者として一緒に楽しく決闘しような—
デュエリスト デュエル

いつまでも忘れてはいけないこと…楽しくデュエルすること…
それだけは絶対に忘れてはいけないんだ…

第13話 落ちた元全米ナンバー1! 恐怖のキャノンバーンデッキ! (後書き)

はい、今回初めて心理フェイズを行いました。

書くの難しい!そしてまた軽くタイトル詐欺じゃね?

では次回予告!

すでにここに来てから数日たったな……

えっ?ペガサスと面会できる?

よっしゃ!早く行こう!

次回!【ペガサスの訪問!情報提供と決闘】

次回もお楽しみに!

第14話 ペガサスの訪問！情報提供と決闘（前書き）

……早く、アカデミアに戻りてー…童実野町編のネタが尽きたから早く戻りてー

そして早くセブンスターズ編書いてー…

魁「愚痴っても仕方ないだろ。書いたお前が悪い

では今回の最強カードは【トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール】！

このカードは通常召喚できない。自分フィールドに【トゥーン・ワールド】が存在する場合のみ特殊召喚できる。（Lv5以上はリリースが必要）

相手フィールドに【トゥーン】モンスターがいないならこのカードは直接攻撃できる。【トゥーン】が存在する場合【トゥーン】に攻撃しなければいけない。フィールドの【トゥーン・ワールド】が破壊された時このカードを破壊する。墓地の【ブラック・マジシャン】【マジシャン・オブ・ブラックカオス】1体につき攻撃力を300ポイントアップする

原作だとペガサスしか持ってないからすべてのモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃できると同じなので原作だと恐ろしいほど強いぞ」

気になる疑問を1つ

【ブラック・マジシャン・ガール】と【トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール】ってどっちのほうが人気あるんでしょうか？

作者はロリコンだからトゥーンのほうが好きです。

第14話 ペガサスの訪問！情報提供と決闘

キースと戦って数日が経ちました……

俺のデュエルディスクは順調に直っています

しかし海馬邸はすごいね……風呂は露天風呂があったりベッドはでか過ぎ……召使も結構いたし……海馬社長のカードランクは50個以上あったし……料理なんて牛フィレ肉フォアグラソースとか出てきたし……

料理なんて高級過ぎて海馬社長に言っただけ俺は外食したし……あっサクらは海馬邸で食べてますよ

海馬社長を改めてさすが世界を統べる大金持ちだなと思いました。

こんな人間がどうしてエネコンを使って音MADや全☆速☆前☆進☆DAだとか……後、海馬社長再び俺と戦って勝った時の高笑い……いい大人がなにやってんだが……ちなみに海馬社長との戦いでフィールド状況は

海馬社長のフィールド

フルアイズ アルティメタゴン
【青眼の究極竜】×2

ファイブゴット ドラゴン
【F・G・D】×3

【王宮のお触れ】（この時はまだセットされてる状態）

（先攻1ターン目）

……勝てるか！？

どうすればこんな状況になるんだよ!?!? どうやったかわかるけど!!
と来た時から今日までを【エメラルド・ソーダ】(2400円)を
飲みながら思い出してる俺、魁でした

さらに数日後、KCの社長室で海馬社長に会っているんですが……
また増えましたねスケジュール……

「ああ、そうか。では早速そっちに向かわせる」

『わかりました』

誰かと電話している海馬社長……まあ代々想像できるけど

「魁、サクラ。今からI2社に向かう。即刻に荷物の準備をしとけ」

「「はい」」

やっとペガサスと会えるのか……エクシードカードを準備しとかない
とな……

今思ったけどZEXALに出てくるトロンって【トゥーン】デッキ
使っけ言う噂本当かな?

でもいいか。もう現実世界に行けないから出てきたとしても手に入
らないし

という訳で劇場版光のピラミッドでペガサスがいた小島に着いたよ。確かここってペガサスの至福の時では……ペガサス仕事しろ！！そのまま進んでいくとくつろいでるペガサスが……

[[[...]]]

流れる沈黙……あの海馬社長も黙ってしまったている……

「すいません、海馬社長。私帰ってよろしいでしょうか？」

「∴勝手にしろ」

「いや、帰っちゃダメだよ、サクラ」

「だつてさ…」

「言うな」

サクラが言いたいことはよーよーくわかる。でもさすがに帰るのは……

あつ海馬社長がスタスタ、ペガサスのところに行つて…トランクをぶつけた！

「！！！！！！！！」

そのままpegasusは飛びプールにダイブ。いや仕方ないと思うよ

「ペガサス！こっちが来るという事を知っているだろう！貴様はふざけているのか！」

「ストップ！ストップ！このままだと私が死んで世界がマンマミィヤ！」

……ペガサスってこんなキャラだっけ？

「とりあえずペガサス社長、始めまして宗野魁です」

「久しぶりですね、ペガサス」

「オー！あなた達が未知の召喚を使う宗野ボーイですか？」

こっちに来てペガサスが話す…とりあえず左のおでこから血が出て
ることは黙っておこうか

その後しばらく雑談、エクシースについて説明
ペガサスにも俺が転生者って事は話しておいた
さらに移動…旧式の決闘場デュエルフィールドに着いた。蜘蛛の巣がない…ちゃんと手
入れしてるんだね

「では宗野ボーイ……エクシース召喚がどれほどの物か、見させて
もらいマース」

「わかってますよ」

そう言ってお互いに自分のデッキをフィールドに置く

「デュエル決闘！」

「私のターン、ドロー！私は1000ライフを支払い手札から永続
魔法【トゥーン・ワールド】を発動！」

クセレント!! ぜびI2社に欲しいデース!!」

「そうですか! ありがとうございます! でもデュエル中なんでそれはまた後で! ホープで【トウーン・デエミナイ・エルフ】に攻撃! ホープ剣スラッシュ!」

「カウンター罠【攻撃の無力化】! これであなたのモンスターの攻撃を無効にしバトルフェイズを終了させます! あなたに私の愛しのトウーンモンスターに手を出させませーン!」

「ならリバースカードを1枚セットしてターンエンド!」ならエンドフェイズに速攻魔法【サイクロン】! これであなたのリバースカードを破壊します!」げっ! 【エクシーズ・リフレクト】が…」

さすがにデュエルモンスターの生みの親…無駄な動きがない…やっぱり知り尽くしてるか…

「私のターン、ドロー! 手札から魔法カード【強欲な壺】を発動させます! これで2枚ドロー! 魔法カード【コストダウン】を発動させます! この効果により手札の【トウーン・デエミナイ・エルフ】を捨てこのターン中私の手札のモンスターのLvは2下がります。そして【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】を特殊召喚! バトル! 【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】と【トウーン・ゴブリン突撃部隊】で直接攻撃! ダイレクトこれで私の勝ちデース!」

「そんな簡単に勝たせると思いますか? 希望皇ホープの効果発動! このカードに乗ってるオーバーレイユニットを1つ取り除く事で相手モンスターの攻撃を無効にする。俺は2つ取り除き【トウーン・ゴブリン突撃部隊】と【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】の攻撃を無効にする! ムーンバリア!」

「ワッツ!? これは予想外な事ですわ希望皇ホープ……グット! グレイト! ワンダフル! エクセレント! こんなカードがあるなんて……現実世界はとても面白いですね! だけど今度は【トゥーン・ゴ布林突撃部隊】を生贄にささげ【ブルーアイズ・トゥーン・ドラゴン】を特殊召喚! これでターンエンドデース」

「俺のターン、ドロー! 【切り込み隊長】を召喚! この効果で手札から【レッド・ガジェット】を特殊召喚! 【レッド・ガジェット】の効果でデッキから【イエロー・ガジェット】を手札に加える! さらに魔法カード【二重召喚^{デュアルサモン}】を発動! このターンもう1度通常召喚できる! この効果でさらに【切り込み隊長】を召喚! この効果で手札から【イエロー・ガジェット】を特殊召喚! 【イエロー・ガジェット】の効果でデッキから【グリーン・ガジェット】を手札に加える! そして俺はLv3の【切り込み隊長】2体でオーバーレイネットワークを構築! エクシーズ召喚! 【No. 17リバイス・ドラゴン】!」

「また新たなエクシーズモンスター……オウ! グレイト!」

このままレッドとイエローでホープ出したいけどペガサスにエクシーズモンスターはこんなのがありますという感じで入ってるからエクストラデッキにはエクシーズモンスターは1種類、1枚しか入ってないからホープが召喚できないんだよな……

「さらにLv4の【レッド・ガジェット】と【イエロー・ガジェット】でオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚! 【イビリチュア・メロウガイスト】!」

「ワンダフル!!」

さっきからエクシーズモンスターが出るたびに歓喜してるな。いい加減ほかの言葉も出せよ

「リバイス・ドラゴンの効果！オーバーレイユニットを1つ取り除き攻撃力を500ポイントアップ！そして魔法カード【クロス・アタック】！自分フィールドに同じ攻撃力持つモンスター2体を選択にして発動！このターン選択したモンスター1体の攻撃を放棄しもう1体モンスターは直接攻撃できる！この効果で希望皇ホープの攻撃を放棄しリバイス・ドラゴンで直接攻撃！バイス・ストリーム！」

「ワオッ！！中々やりますね」

ペガサス LP500

「さらに【イビリチュア・メロウガイスト】で【トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール】に攻撃！スピリットバーン！」

「なっ…【トゥーン・ブラック・マジシャン・ガール】が倒されるとは…」

ペガサス LP400

「倒しはしたけど墓地にはおくらねえよ！【イビリチュア・メロウガイスト】の効果発動！このカードが戦闘で相手モンスターを破壊したダメージ計算の後オーバーレイユニットを取り除きそのモンスターを墓地に送らず持ち主のデッキに戻す！これでターンエンド！」

結構危ない戦いだな…いくらライフが4000あったも【トゥーン】は相手モンスターに直接攻撃できる効果がある…召喚、反転

召喚、特殊召喚したターン攻撃は出来ないけど【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】は別：あのモンスターだけは召喚したターンでも攻撃できるからな……もしこのターンでまたドローしたりサーチカードの【トウーンのもくじ】を引けば大ダメージだな……でもブルーアイズ・トウーンは攻撃する時ライフを500払わなければいけない……

つまりブルーアイズ・トウーンは攻撃できない……そしてこの並び……恐らく大丈夫だ！

「（あつ魁がなにか考えてる。ダメでしょ、考えちゃ……今すぐ考えるのをやめないと……）」

「私のターン、ドロー！手札から魔法カード【命削りの宝札】を発動デース！この効果で手札が5枚になるようにドローしマース……宗野ボーイ……このデュエル、私の勝ちデース！」

「なんだって！？」「（あちゃー……やっぱりやっちゃた……）」

【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】を2枚引いたのか？いやそれだと都合ドローすぎる！

「手札から魔法カード【魔法石の採掘】を発動！手札のカードを2枚墓地に捨て墓地から【トウーンのもくじ】を手札に加えます！そして【トウーンのもくじ】を発動しデース！これでデッキから【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】を手札に加えます！【トウーン・キャノン・ソルジャー】を召喚！そして【トウーン・キャノン・ソルジャー】を生贄して【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】を特殊召喚！そして装備魔法【巨大化】を【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】に装備！これで【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】の攻撃力を倍にします！」

攻撃力が4000……そして直接攻撃……俺負けじゃん！墓地に
ネクロ・ガードナー】は……ない！当たり前か

「トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】で直接攻撃……！」

「ちよっ！なんで杖を振り上げ……痛っ……！」

魁 L P O

なんで杖で殴るんだよ！ブラバ撃てよ！ブラバを！

「ふう……とてもグレイト・イズ・ビューティフルなデュエルで
した。エクシーズ召喚……採用しましょう！」

これで今回の目的は終わったな……ああ……早くディスク直んねえ
かな……

第14話 ペガサスの訪問！情報提供と決闘（後書き）

ちなみに今回ペガサスが使ったデッキは昔私が使ってたデッキに【命削りの宝札】を入れただけのデッキ。【トウーン・ブラック・マジシャン・ガール】からの巨大化…本当にお世話になった…サクラの考えてることが魁に通じれば魁は勝てたかな…無理かでは次回予告！

ディスクが直ってついに俺は帰ってきた！

久しぶりにレッドの飯食いたいな…

こらそこ！レッドの飯はまずいと言ったな！

次回！【魁の帰還！】

次回もお楽しみに！

第15話 魁の帰還！（前書き）

ついにアカデミアに帰ってきた！これで原作にそって書くから早く執筆できるぜ！

魁「さっさと前書きを終わらせるよ。今回の最強カードは【メタモルポット】

このカードの効果ははリバース効果。お互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドロースる
作者いわくこのカードが台本繋げに使えとか…主に俺の」

だって主人公に【命削りの宝札】とか【強欲な壺】が使えないんだよ！仕方がないじゃないか！

第15話 魁の帰還！

ふふふ……ははははは……

「はーっはっはっはっはっはっはっはっはっはっ!!」

「魁、少し黙って」

「あつ、はい」

ただいま俺は船に乗ってあるところに向かっています……
 そのあるところは……デュエル・アカデミア！
 そう！ ついにデュエルディスクが直ったのだ！ しかもデザインが少し違う

俺は黒を基調にとろどろ白を入れた感じ、サクラも同じデザイン
のデュエルディスクを付けてます……あつ、ちゃんとオシリスレ
ッドとかオベリスクブルーの色、赤と青は入ってるからな
しかし海馬邸の料理は豪華過ぎて食べづらかった……でも俺はデュ
エル・アカデミアに帰ってきた!!

はあ……早くオシリスレッドの料理が食べたい……

そりゃ、確かに主食はご飯とめざしただけどたまにでるエビフライ……あれはうまい……

豪華料理を見ると貧しい料理が食べたくなるってあれ本当だね。今回、海馬邸行ってそれがよくわかった

今日のオシリスレッドの食事は何か……冷奴、サラダ……どれも
久しぶりに食べたいな……

「…よだれでてるよ」

「えっ？ ああ、すまん」

もっと速く進め！ この船！ 俺は早く帰りたいんだ！

十代Side

魁が海馬さんとの事情がアカデミアを去ってから結構経ったな……
魁がいなくなってから色々あったな……万丈目がアカデミアを出て
行ったり、SALとデュエルしたり、魁とサクラがデュエルしたと
ころでサイコ・ショッカーとデュエルしたり……
結構すごいことを起きてたな。でもどれも楽しかったからいいか！！

でも今は綾小路先輩とテニスをやっている……なんでやっているかっ
て？

はは、実はクロノス教諭にボールを当てちまってその罰として綾小
路先輩にしごかれてる…

「十代君、よそ見してると！」

「えっ？ うわあ！」

俺が撃った球がコートの反対側、つまり生徒が歩く通路の飛んでい
ってしまった。その先には俺と同じオシリスレッドの生徒が1人と
オベリスクの女子が1人歩いていた、まずい！ このままだと…

「あだっ!!」

とか思ってるそばから当たった…大丈夫かあいつ!?

「おい大丈夫か!!」

「はい大丈夫です…って十代!？」

「魁!!」

そこにはデュエルディスクのデザインが結構違ってオシリスレッドの制服を着た魁がいた…

「久しぶりだな魁!何ヶ月ぶりだ!？」

「半年ぐらいかな…ところで十代、お前なにやってんだ？」

「ああ、実は今綾小路先輩とテニスしててさ…ところでそのデュエルディスクどうした？」

「ああ、これはなエクシーズ召喚のテストプレイヤーとしての証。サクラも同じのつけてるぞ」

言われてサクラのほうを見ると…本当だ。同じデザインだ、しかし俺もこのデュエルディスク付けたいな……

「ちょっと十代君!早く続きを……」

綾小路先輩がなにか喋ろうとしてたけどそれが途中で止まった。何でだ？

「そのオシリスレッド君……君の名前は？」

「宗野魁です。それがどうしたんですか？」

「僕とデュエルしろ!!」

「」「はぁ!？」」「」

俺と魁とサクラそして明日香がハモツた……なんでいきなりデュエルするんだ？理由がないだろう？

「そんなのうのとサクラ君とペアルックをして!そんなの僕が許すと思うか!だからデュエルしてどっちがフィアンセになるか決めようじゃないか!!」

……むちゃくちゃだろ……

魁Side

「どっちがフィアンセになるか決めようじゃないか!!」

なんだこの馬鹿。俺がサクラとペアルック?お前ペアルックの意味知ってるのか?

だいたい、サクラと付き合わないほうがいいぞ。後の出来る息子達

がすごいことやらかすから…

でもオシリスレッドの飯の時間まで全然あるしな……よし暇つぶしにデュエルするか！

「いいですよ、受けてたちます」

「ふっ、よくぞ言った！それでこそ男だ！」

今回はどんなデッキにしようかな…あまり使わない【ハンデス】にするか？それとも出番が奪われた【フルバーン】にするか？または【ロック】にしようかな……悩むな…

よしランダムにするか！デッキホルダーからデッキを取り出しシャッフル…

そしてその内1つをデッキにセット！これでよし！いったいどんなデッキかな？

「^{デュエル}決闘！」

「先攻は俺からだ。ドロー！」

あっ、今回はたちの悪いハンデスか……

「モンスターをセット！リバーズカードを3枚セットしてターンエンド」

「手札事故かい！？僕のターン、ドロー！」「ドローフェイズに永続罫【真実の眼】このカードが存在する限り相手は手札を公開しなければいけない」なんだって！？」

この人の手札は…

【サービスエース】

【メガ・サンダーボール】

【サービスエース】

【スマッシュボール】

【ゴキボール】

【ファイアー・ボール】

……聞いた事がないカードが多々あるな…アニメオリカか？
しかしこいつのデッキはなんだ？ボールというカードが結構あるな
……まさか…ボールと名のついたカードを適当に入れたデッキか？
そしたら俺はこいつを徹底的にハンデスさせよう

「さらに罠発動【マインドクラッシュ】！このカードは自分はカード名を1つ宣言する。宣言したカードが相手手札にあればそのカードを墓地に送る。俺は【スマッシュボール】を選択」

「くっ！【スマッシュボール】はある！よって墓地に送られる！僕は【ゴキボール】を召喚！バトル！セットモンスターに攻撃！」

「セットモンスターは【メタモルポット】。【メタモルポット】の効果発動。お互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドロースる」

「僕のボールが……」

今思ったけど【マインドクラッシュ】の使いどころ間違えたな。メタモルやった後にすればよかった
さてさて、お次の手札は……

スワイア・オブ・カオス

【混沌球体】

【サービスエース】

ホーリーシャイン ボール

【神聖なる球体】

【レシブエース】

【伝説のビッグサーバー】

……やはりボールデツキか？しかしまた聞いた事がないカードが……

「僕はリバースカードをセットしてターンエンド！」

【レシブエース】を伏せたか

「俺のターン、ドロー！魔法カード【暗黒界の取引】を発動！お互いのプレイヤーはカードを1枚ドローしその後1枚捨てる。俺は【暗黒界の導師セルリ】を墓地に送る！」

「なら僕は【神聖の球体】ホーリーシャインボールを捨てる！」

引いたカードは【デュース】……いったいどんなデツキなんだよ？

「【暗黒界の導師セルリ】の効果発動！このカードがカードの効果で捨てられた時相手フィールドに表側守備表示で特殊召喚する！」

「僕のフィールドに！？」

「そしてこのカードが【暗黒界】と名のついたカードの効果によって特殊召喚に成功した時相手は手札を1枚捨てる！まあ俺の事だ」

「自分で自分の手札を捨てる！？」

「この効果で【暗黒界の軍神シルバ】を捨てる！シルバの効果発動！このカードがカードの効果で捨てられた時特殊召喚する！さらに効果発動！このカードが相手のカードの効果で捨てられた時相手は手札を2枚選択してデッキの一番下に置く！」

「くっ！（手札に【サービスイース】と【デュース】を残しておきたいけど今の状況では役に立たない……戻したくないけど、これを戻すしかないか）僕は手札の【サービスイース】と【デュース】をデッキの一番下に置く！」

おっアニメ専用オリカを送ってくれた。アニメ専用オリカって怖いからな……戻してくれてありがとう！

「そしてリバースカードオープン【魔のデッキ破壊ウイルス】を発動！この効果で攻撃力2000以上の闇属性モンスター、シルバを生贄にして相手の手札、及びフィールドの攻撃力1500以下のモンスターを破壊する！」

「僕の手札とモンスターが！！」

これでお前の手札はハンドレス！いやスッキリするね

「そして速攻魔法【サイコロン】を発動！サイコロを振り出た目によって効果が決まる……出た目は3！……ってあんたのリバースカード【レシーブエース】を破壊！」

「なっ……僕の青春のすべてが！」

青春？なんのことを言ってるんだこいつ？頭大丈夫か？いい病院紹介するぞ

「それで【暗黒界の狂王ブロン】を召喚。そして直接攻撃」
ダイレクト・アタック

「うわぁ！」

綾小路 LP 2200

「そしてブロンの効果発動！このカードが相手に戦闘ダメージを与えた時自分は手札を1枚捨てることができる。この効果で手札の【暗黒界の武神ゴールド】を捨てる！そしてゴールドの効果発動！このカードがカードの効果で捨てられた時特殊召喚する！この効果でゴールドを特殊召喚！これで終わりゴールドで直接攻撃」
ダイレクト・アタック

「うぁぁぁぁぁ！」

綾小路 LP 100

「そんな……ぼぐのぜいじゅん……ぼぐがまげるなんで……っ！」

鼻水と涙を出しながらものすごい勢いで逃げた……あいつも結構速いな……ところであいつの名前なんだ？

「さすがだな魁！久しぶりにお前のデュエル見たけどやっぱり強いな！」

「恐ろしいデッキね……ピーピングとハンドスを両方行うなんて……」

いや大抵のデッキはピーピングしながらハンドスするよ？

このデッキはピーピング、ハンドス、場の除去そして自分をハンド

レスにする、たちの悪い十事故率が高いデツキだぞ？

「ところで魁…」

「なんだ明日香？」

「あなた…サクラのフィアンセになるの？」

サクラのフィアンセ？ああ…そんなこと言ってたな…

誰になるか！あんなナンバーズハンター、銀河美少年の血筋に性的な意味で関わりたくないな！

「そういえばフィアンセってなんだ？」

お前の心はおこちゃまなのか純粹なのやら…わからんぞ十代

「俺はサクラのフィアンセにならない。あれはあいつが勝手に言った事だ。勝手に勝ったほうの賞品にされてるサクラの気持ちも考えずになるなんて変態がすることだ」

「「今、さりげなく、綾小路先輩を変態って言ったぞ…」」

あいつ綾小路って言うのか…ぶっちゃけあいつはどうでもいいけど

「そうそう、魁1つ聞きたいことが…」

「なんだよサクラ」

「魁ってドS？」

「「「えっ？」」」

こんな空気になって会話は終了…

その後オシリスレッドのご飯…大徳時先生優しい！俺が帰ってきたから態々記念にバーベキューにしてくれた！

この普通の肉の感じ…美味しくてたまらん！

しかしなんでサクラは俺をドSと言ったんだ？そんな事を考えながら俺はオシリスレッドのみんなとバーベキューした

第15話 魁の帰還！（後書き）

では早速次回予告！

遊戯のデッキが展示される？

別に俺は興味ないけどな：

…えっ？遊戯のデッキ盗まれた！？

次回！【伝説との対面！開闢の使者VS混沌の騎士】

次回もお楽しみに！

第16話 伝説との対面！開闢の使者VS混沌の騎士（前書き）

今回はみんな大好き！開闢が登場するよ！

魁「では今回の最強カード【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】！

このカードは通常召喚できない。墓地にある光属性と闇属性モンスターを除外して手札から特殊召喚できる。1ターンに1度以下の効果を1つ選択して発動できる

●フィールド場のモンスター1体を選択して除外する。この効果を使用したターン、このカードは攻撃できない

●このカードの攻撃によって相手モンスターを破壊した時もう1度だけ続けて攻撃できる

何々でのみ特殊召喚できるとは書かれてないから正規召喚した後なら【死者蘇生】【リビングデッドの呼び声】で特殊召喚できるぞ！」

このカードは光属性だから【オネスト】に対応してるため戦闘に対してはほぼ無敵の実力を誇る！！

……………なんでこいつ制限復帰したの？

個人的にはこれは永久禁止なんだけど……

第16話 伝説との対面！開闢の使者VS混沌の騎士

ただいま私こと宗野魁はサクラと一緒に食堂で昼食を食べております

「なあサクラ……」

「なによ、デッキ構築の相談？」

「違う。俺が聞きたいのは何故デュエルキング武藤遊戯のデッキが公開されるだけでこんなに騒ぐんだ？」

さつきから食堂がうるさい！！

武藤遊戯のデッキが公開されるとか言っているが俺はどうも思わない！！

だってデッキ内容、予想では結構事故率がすごいからな……しかもうまくはまってもあまり強くない。しいて使うならネタデッキしか使えないトーナメントでやるデッキぐらいだろう

しかもひどくぶっちゃけるとアテムより遊戯のほうが強いぞ？【ガジェット】って事故率低いし手札温存できるし機械族だから【キメラテック・オーバー・ドラゴン】や【キメラテック・フォートレス・ドラゴン】【マシナーズ・フォートレス】とかの融合素材や特殊召喚のコストにできるし……困った時は【ガジェットビート】で【リミッター解除】どう考えても遊戯のほうが強いだよな……あつアテムには好きなきにデッキのカードをドローできるチートあるんだっけ？まあそれでも遊戯のほうが強いけど
たく…アテムも【ブラック・マジシャン】中心にすればそれなりに強いのかな……

「私もそれ思うよ。武藤遊戯だって所詮はただの1人の人間、神と

拝まれるほど偉くないし」

「それはさすがに言いすぎだぞ、サクラ」

アテムのデッキで思い出したんだけど俺も昔は無謀なデッキ作ったな……

例えば【神混合デッキ】三幻神、三幻魔、三邪神、三極神を入れたデッキ……あれはあまりにも無謀だったな……

後【あらゆるHERO混合デッキ】エレメンタルビルデステニヤスクドヴィジョンE・E―D・M・Vをほぼすべて入れたデッキ……漫画版HERO+アニメHEROを入れるのはまだいいだろう……しかしどれも1枚ずつは無謀だったな

最後に【超融合！時を越えた絆デッキver2】……あれはまだ大丈夫だったけどさすがにアテム、十代、遊星、遊馬を組み合わせたのは軽く無謀だった

でも散々アテムのデッキ叩いたけどロマンがあっというね、デッキへの愛が感じられるよ……

よし！久しぶりに無謀なデッキ組むのもいいか！……まあ多少は回るようにするんだけど……

という訳でデッキ作成しすぎた結果夜になったぜ！

デュエルミナル

これは半分無謀だな……なぜならもしも【漫画版明日香がDTの氷結界を入れたデッキを使ったら？】というデッキを作ってしまった……

……もちろん氷結界のシンクロモンスターは入ってない！

……デッキの名前がどこかの小説に似ているが気にしない、気にしない……

でもロマンがあっていいね……まあ使う気はないけど
さて次はどんなデッキを作ろうかな…

——数〇きれな〇花び〇を——犧〇にしてき〇——…

おおっと絶望のアポリアが流れてるな……すいません、切望のフリージアでしたね
しかしこの通信端末の着うたを変えました。だって適当にいじったら変えられたんだもん！……キモいな
どれどれメールの内容は……

武藤遊戯のデッキが盗まれた！！探すのに協力してくれ！！

十代より

………社会的な問題だな…この世界だと一応神と拝まれてるくらいに有名だからな…損失したとわかれれば責任としてアカデミアは取り壊し…ってそれじゃあ原作が進まない！！

たぶん十代がなんとかしてくれんだろうけどそれでも心配だから探さなきゃ！！

てか誰だよアテムのデッキ盗んだの！！恐ろしいほど重い罪に問われると思うぞ！！

しかしいったいどこにいるんだ……「ははははははははは！！」う

ん？崖の近くで馬鹿みたいに笑ってるラーイエローがいる？

「おい、なに高笑いしてるんだ？ただ頭がおかしい人だったらいい病院紹介するぞ」

もちろんKCに頼んで探してもらっただけだな

「ふふふ……おいお前…俺と1つデュエルをしないか？今俺はちょうどこのデッキの実力が見たくてな…」

「そうですか。だけど今俺は遊戯のデッキを盗んだ犯人を捜してる最中なのでお断りします」

「そんなことを言わずにいいだろう？決闘者^{デュエリスト}たるもの挑まれたデュエルは挑むのが礼儀だろ？」

それもそうですけど……早く探さなきゃな…1killーデッキ使って挑むかな？いやそれなりに早く決着がつけるデッキにするか

「いいですよ。ただし1回までですから」

「別にいいよ、それで」

「^{デュエル}決闘！」

「俺が先攻だ！ドロー！手札から魔法カード【融合】発動！手札の【幻獣王ガゼル】と【バフォメット】を融合！いでよ【有翼幻獣キマイラ】！」

1ターンから融合ね……結構やるな

だが海馬社長の手札ほどじゃないな

「リバーズカードをセットしてターンエンドだ！」

「俺のターン、ドロ―！魔法カード【高等儀式術】を発動！デッキから通常モンスター【ネオバグ】2体を墓地に送り手札の【カオス・ソルジャー】を特殊召喚！」

「馬鹿な！？【カオス・ソルジャー】だと！？それは俺しか持った無いはず！？」

……俺しか持った無い？なにを言ってるんだ【カオス・ソルジャー】はこの世界だと世界中に数十枚あるぞ。お前しか持っていないってことは無い。しかも【カオス・ソルジャー】は遊戯も使ってる、そんなの常識だろう？

しかもあいつの言葉……あいつ、俺達が探してた遊戯のデッキを盗んだ犯人だな。遊戯しか持っていないはずなのに（世界のルール上）持っていない〓誰かが今持っている。そして俺しか持っていない発言……こいつが犯人だ
だったらさっさと倒して終わらせよう

「そして墓地の昆虫族モンスター【ネオバグ】2体を除外して手札から【デビルド―ザー】を特殊召喚！さらに【レスキューラビット】を召喚！【レスキューラビット】の効果発動！このカードを除外してデッキからLv4以下の同名通常モンスターを2体を特殊召喚する！この効果でデッキから【甲虫装甲騎士】インセクトナイトを2体を特殊召喚する！バトル！【デビスド―ザー】でキマイラに攻撃！」

「速攻魔法【攻撃の無力化】！」

ちょwww!!それ原作版の【攻撃の無力化】じゃん!

しかも速攻だからスペルスピードが2……OCG版はカウンターだから強化されてるな

「このカードは相手モンスターの攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる!」

「ならメインフェイズ2でLV4の【甲虫装甲騎士^{インセクトナイト}】2体でオーバーレイネットワークを構築!エクシーズ召喚!【No.39希望皇ホープ】!」

「なっ!エクシーズ召喚!?まさかお前がこの学園の中で異端の召喚方法を持つ決闘者並び銀河眼を使ったことから出来た通り名、銀河のように果てしない可能性を持つことから【無限の札製^{アンミリテックオーバーサークス}】の称号を持つ宗野魁か!!」

無駄に長い説明ご苦勞様。称号の名前に関しては……ツッコんだほうがいいんでしょうか?

「おい!魁!」

「あっ!十代!」

「神楽坂のフィールドに【有翼幻獣キマイラ】がいて魁のフィールドには【カオス・ソルジャー】とホープ!そしてまた見たことないモンスター!?!」

久しぶりの出番だねm「ええ!ということは魁君が遊戯さんのデッキを盗んだッスか」

「ちょっと待て！なんで俺が盗んだことになってんだ！！」

「だって遊戯さんしか持ってない【カオス・ソルジャー】使ってるから……」

「【カオス・ソルジャー】は世界中に数十枚あるわ！別に武藤遊戯しか持ってないって訳じゃない！」

「そうだったんツスカ……」

「人が折角カードを盗んだ犯人と戦っているのに……サレンダーしてもいいのか？」

「「「じゃああいつが犯人！？」「」」

「そうですね」

さあ反論なら聞くぞ。ただし俺はちゃんとした理由を持っているからな

「そうさ！この俺があデュエリストの伝説の決闘者武藤遊戯のデッキを盗んだのさ！そしてこれは俺が最強だということを現している！もう誰も俺に勝つことはできない！例えカイザーでもクロノスでも天城でも魁でもな！！！！」

……やっぱり病院紹介したほうがいいな。こいつの頭の中身少しおかしい……

遊戯のデッキを手に入れただけで最強？それはアニメしか見てない子供の考え方だ

「なあ三沢。あいつなんて言うやつだ？」

あっやっと三沢の名前が出た。よかったね！でも俺は目の前の敵に集中しなきゃな…

後あいつの名前は神楽坂か……記憶した

「リバースカードをセットしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！魔法カード【強欲な壺】を発動！これでデッキから2枚ドロー！そして魔法カード【融合解除】！これでキマイラの融合を解除し墓地からガゼルと【バフォメット】を特殊召喚！そして2体のモンスターを生贄にして来い！【ブラック・マジシャン】！」

おおー…こうして見るとブラマジって攻撃力2500のモンスターという感じのオーラじゃねえ！！オーラ的には攻撃力2800くらいあるだろう！？

「すげえ！【ブラック・マジシャン】だ！」

「まさかこんな間じかで見るなんてな…」

「これが【ブラック・マジシャン】…とてつもないオーラを放ってるわね、あなたのにはどう思う亮？」

「独特な味がある」

「「「！？」」」

意味不明な発言すぎるぞカイザー…そしてカイザー始めて見たな

こんなやつがどうして「グオレンダァ!!」とか言うんだろう……
ヘルカイザーになって頭でも狂ったのかな？

「そしてリバースカードをセットして魔法カード【天よりの宝札】
！お互いのプレイヤーは手札を6枚になるようにデッキからカード
を補充する！そして【ワタポン】を特殊召喚！そして魔法カード【
デュアルサモン二重召喚】を発動！【ワタポン】を生贄に【ブラック・マジシャン・
ガール】を召喚！」

「【ブラック・マジシャン・ガール】ッス!!頑張れ、【ブラック・
マジシャン・ガール】！」

おい俺の応援しろよ。てかKCの技術凄いな【ブラック・マジシャ
ン・ガール】が翔に向かって手を振って翔が赤化したぞ

「そして儀式魔法【カオス―黒魔術の儀式―】を発動！手札の【カ
オス・ソルジャー】を生贄にして手札から儀式召喚！【マジシャン・
オブ・ブラックカオス】ブラス降臨！さらにリバースカードオープン！【
ツイン黒・魔・導・連・弾】！この効果により【ブラック・マジシャン】
の攻撃力【ブラック・マジシャン・ガール】の攻撃力分アップする
！」

攻撃力が2800と4500と2000……すまんアテムのデッキ
って回すと結構強いんだね

「バトル！【マジシャン・オブ・ブラックカオス】でホープに攻撃
！デス・アルテマ！」

「ホープの効果発動！オーバーレイユニットを1つ取り除き相手モ
ンスターの攻撃を無効にする！ムーンバリア！」

「なら【ブラック・マジシャン】で【カオス・ソルジャー】に攻撃
ブラック マジック
！黒・魔・導！」

「ホープに効果発動！再びオーバーレイユニットを1つ取り除き相手モンスターの攻撃を無効にする！ムーンバリア！」

「くそ！ほかへの攻撃にも対応するのか！だがこれは防げない！手札から速攻魔法【光と闇の洗礼】を発動！【ブラック・マジシャン】を生贄にしてデッキから【混沌の黒魔術師】を特殊召喚！」

「ただだけ攻撃するんだよ！個人的にはこのデュエル中【狂戦士の魂】
バーサーカー ソウル
でも使うんじゃないの？」

「そしていつも通りの禁止カード！【混沌の黒魔術師】！こいつの効果おかしいだろ！」

「【混沌の黒魔術師】の効果発動！このカードが召喚、特殊召喚した時墓地の魔法カードを手札に加える！この効果で【天よりの宝札】を手札に加える！そして【混沌の黒魔術師】に攻撃！デス・アルテム！」

「希望皇ホープの効果！このカードのオーバーレイが無い状態で攻撃対象にされた時このカードを破壊する！」

「自ら自壊したか…ならメインフェイズ2で魔法カード【天よりの宝札】を発動！これで俺の手札を6枚にする！お前は手札がすでに6枚だからドローできない！そして手札のα、β、γの3体を生贄に【磁石の戦士マグネット・バルキリオン】を特殊召喚！」

「ちょっとお前！遊戯十代顔負けのチートドロージャねえか！！」

よく揃えられたな！

「これでターンエンドだ！どうだ！これが俺の実力だ！」

「……確かにここまでプレイングはすごかったよ……でもさあ……どうしてそんなに強いのに遊戯のデッキなんて盗むんだ？お前にはそんなデッキは必要ないだろう」

「いや、魁。神楽坂は他人のデッキを研究し自分の力にする。その結果自分のデッキが誰かに似るようになってしまっただ」

「そうさ……でも俺はどんなに研究しても強くなれなかった！だから俺は武藤遊戯のデッキを奪い強くなろうとしたんだ！」

：軽くキースが見えたぞ：

でもデッキを真似するのは良いことであり悪いこともある

それを教えないといけないんだけど……今のこいつのテンションからして聞く気なんてないよな

「じゃあ気を取り直して俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【魔法石の採掘】を発動！手札のカード2枚を墓地に送り墓地から魔法カード【高等儀式術】を手札に加える！そして【高等儀式術】を発動！今度はデッキから【ネオバグ】と【甲虫装甲騎士^{インセクトナイト}】を墓地に送って手札からもう1体の【カオス・ソルジャー】を特殊召喚！」

「くそ！ここでもう1体の【カオス・ソルジャー】を出すなんて！」

「十代気づいているか……」

「なにがだカイザー？」

「あれだけ激しい戦いをしているのにお互いのLPはまだ1ポイントも削られていない」

「そういえば！」

魁 LP 4000

神楽坂 LP 4000

そういえばそうだったな……

「だがこれからこの戦況は大きく傾く！」

「いくぜ！手札から装備魔法【黒いペンダント^{ブラック}】を【カオス・ソルジャー】に装備！これで【カオス・ソルジャー】の攻撃力は3500だ！バトル！【黒いペンダント^{ブラック}】を装備してる【カオス・ソルジャー】でバルキリオンに攻撃！カオス・ブレード！」

「くっ相打ちか！」

「だが【黒いペンダント^{ブラック}】の効果発動！このカードがフィールドから離れた時相手に500ポイントのダメージを与える！」

「なんだと！」

神楽坂 LP 3500

「さらに【カオス・ソルジャー】で【混沌の黒魔術師】に攻撃！カオス・ブレード！」

「くそ！【混沌の黒魔術師】が：【混沌の黒魔術師】の効果でこのカードがフィールドを離れた時このカードは除外される」

神楽坂 LP3300

「そして【デビルドーザー】で【ブラック・マジシャン・ガール】に攻撃！」

『きやあああああ！！』

「【ブラック・マジシャン・ガール】：

神楽坂 LP2800

「ひどいッスよ魁君！」

「やかましい！【デビルドーザー】の効果でお前のデッキの一番上のカードを墓地に送る！さらにリバースカードオープン！【リビングデッドの呼び声】！これで墓地から【カオス・ソルジャー】を特殊召喚！【カオス・ソルジャー】で【マジシャン・オブ・ブラックカオス】に攻撃！カオス・ブレード！」

「俺のフィールドのモンスターが全滅！」

神楽坂 LP2600

「リバースカードをセットしてターンエンド！」

「面白い：俺のターン、ドロ！魔法カード【次元融合】を発動！ライフを2000払いお互いに除外されてるモンスターを特殊召喚

する！これで俺は除外ゾーンから【混沌の黒魔術師】を特殊召喚！」

神楽坂 LP 600

「なら俺は【ネオバグ】と【インセクトナイト甲虫装甲騎士】を守備表示で特殊召喚！」

「そして【混沌の黒魔術師】の効果により墓地から【天よりの宝札】を手札に加える！そしてリバースカードを1枚セット！そして【天よりの宝札】を発動！それにチェーンして手札から速攻魔法【非常食】を発動！【天よりの宝札】と伏せた【黒魔術のカーテン】を墓地に送りライフを2000回復！」

神楽坂 LP 2600

「そんな！」

「【次元融合】のコスト、ライフ2000を0にしただと！」

「さすが神楽坂だな…デッキを研究し自分の力にする…武藤遊戯のデッキを完璧に操っている！」

「そして【天よりの宝札】の効果！お互いの手札を6枚にする！」

【天よりの宝札】を3回目……このままだとお互いのデッキが0になるぞ？

「そして装備魔法【エクスカリバー】！これで【混沌の黒魔術師】の攻撃力を倍にする！」

壊れ過ぎのオリカだな、おい……代々そんな壊れオリカいつ出た？

「そしてライフを1000払い【拡散する波動】を発動！これで【混沌の黒魔術師】は相手モンスターすべてに攻撃できる！」

神楽坂 LP1600

「なら速攻魔法【神秘の中華鍋】！これで【カオス・ソルジャー】を生贄にささげ俺のライフを3000回復する！」

魁 LP7000

「いくぞ！【混沌の黒魔術師】で相手モンスターすべてに攻撃！デス・ビックバン！」

「ぐううううう！！」

魁 LP1600

「「「「魁！！」」」」

「これでターンエンドだ！」

「今の攻撃結構くらったぜ…俺のターン、ドロー！…【マンジュ・ゴッド】を召喚！【マンジュ・ゴッド】の効果発動！この効果でデッキから【カオスの儀式】を手札に加える！そして速攻魔法【エネミーコントロール】！俺は第2の効果発動！【マンジュ・ゴッド】を生贄にして【混沌の黒魔術師】のコントロールをエンドフェイズまでもらうぜ！そして【混沌の黒魔術師】で直接攻撃！ダイレクトタックデス・アルテマ！」

「手札の【クリボー】を捨て1度だけ戦闘ダメージを0にする！ありがとうクリボー。さすがは数千枚のカードで選んだだけのことはある」

……………ツッコまんど

「そしてメインフェイズ2！手札から儀式魔法【カオスの儀式】を発動！俺は【混沌の黒魔術師】を生贄にささげて手札から【カオス・ソルジャー】を儀式召喚！」

「「「さ、3体目の【カオス・ソルジャー】！？」「」「」」

「リバースカードをセットしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【死者転生】を発動！手札の【クイーンズ・ナイト】を捨て墓地から【カオス・ソルジャー——開闢の使者——】を手札に加える！」

あれ？いつ開闢なんて落ちたんだ？

「さらに墓地の光属性モンスター【ワタポン】と闇属性モンスター【クリボー】を除外して光と闇！2つの魂が最強の戦士を降臨させる！現れろ！【カオス・ソルジャー——開闢の使者——】！！」

最悪だ…まさかこのモンスターを出すなんて…

「そして速攻魔法【突進】を【カオス・ソルジャー——開闢の使者——】に発動して攻撃力を700ポイントアップ！そして【カオス・ソルジャー】に攻撃！開闢双破斬！」

「ふう…よかったよ考えてることが同じで！速攻魔法【突進】を発動！これで【カオス・ソルジャー】の攻撃力が700ポイントアップ！」

「くそ！また相打ちか！だけどメインフェイズ2で魔法カード【戦士の生還】を発動！これで墓地の戦士族モンスター【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】を手札に加える！そして墓地の光属性モンスター【クイーンズ・ナイト】と【バフォメット】を除外して【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】を再び特殊召喚！！これでターンエンド！さあどうする！宗野魁！いままでのお前のデッキコンセプトを見る限りそのデッキは【カオス・ソルジャー】召喚特化型デッキ！しかしお前の【カオス・ソルジャー】は1体は除外されてて残りの2体はすでに墓地！お前のデッキにはこの【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】を超えられるモンスターはもういない！サレンダーするんだな！」

「ふっ…この俺がサレンダー？馬鹿なこと言うな…決闘者たる者途中で勝負を放棄することは許されない！俺のターン、ドロ―！…魔法カード【天よりの宝札】を発動！」

「それで手札補充か！」

「いや。このカードは自分の手札、フィールドのカードをすべて除外してその後2枚ドロ―する！」

「なっ……効果が違う【天よりの宝札】！？でも手札2枚でなにができる！」

「ドロ―！……なあ…神楽坂…」

「なんだ？」

「お前が使ってる【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】……そいつは恐ろしく強いよ…【カオス・ソルジャー】よりもずっと…」

「当たり前だ！このカオス・ソルジャーは儀式版の【カオス・ソルジャー】をリメイクし強化されたカード！そのカードがリメイクされたカードに負けるわけがないだろう！！」

「だけどさ……【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】にも力の限界がある…でも【カオス・ソルジャー】にはその限界を超える力がある！」

「はっ！【カオス・ソルジャー】が【カオス・ソルジャー―開闢の使者―】を超えるというか！！できるものならやってみろ！」

「それを今からやってやるよ！！手札から魔法カード【ドラゴンズラー龍の鏡】を発動！このカードは自分フィールド、墓地のモンスターを除外して融合デッキからドラゴン族モンスターを融合召喚する！」

「ドラゴン族モンスターを融合召喚！？そのデッキではドラゴン族モンスターは融合召喚できないはず…」

「できるんだよそれが！俺は墓地の【カオス・ソルジャー】と【沼地の魔神王】を除外してあるモンスターを融合召喚する！」

「【沼地の魔神王】！？いつそんなカードを……はっ【魔法石の採掘】の時か！？」

「そう！そして【沼地の魔神王】は融合素材にされる時他の融合素材モンスター^{ブルオイズ アルティメトラザン}の代わりにできる！よって俺は【沼地の魔神王】を【青眼の究極竜】として扱い融合召喚！」

「「「「「【カオス・ソルジャー】と究極竜を素材とした融合！？」」」」」」^{アルティメトラザン}

「現れる！混沌と究極が交わりし生まれる最強の竜騎士！【究極竜騎士】！！」^{マスター・オブ・ドラゴンナイト}

「そんな…攻撃力5000……」

「そして魔法カード【貪欲な壺】…墓地の希望皇ホープ、【甲虫装^{インセク}甲騎士】3体と【カオス・ソルジャー】をデッキに戻しシャッフル……そして2枚ドロー！……魔法カード【二重魔法^{ダブルマジック}】を発動！手札の魔法カード【カオスの儀式^{マスター・オブ・ドラゴンナイト}】を捨て相手墓地の魔法カード……【エクスカリバー】を【究極竜騎士】に発動！これで攻撃力は倍になり攻撃力は10000！！」

「【カオス・ソルジャー】が……【カオス・ソルジャー】開闢の使者——を超えただど！！」

「いけ！【究極竜騎士】！！ギャラクシー・ビッグバン！！！！」^{マスター・オブ・ドラゴンナイト}

『はあああああああ！！』

「うわあああああ！！」

神楽坂 LP-5400

「俺の勝ちだ。神楽坂」

「……やっぱり俺はどんな強いデッキを使っても弱いんだ……俺は武藤遊戯さんのデッキを使ったのにもかかわらず……負けた……やっぱり俺は弱いんだ」そんなことねえよ!!」……十代」

「俺達が来てからあのデュエルを全部見させてもらったけどあそこまで使いこなせるなんてすげえよ!」

「それにお前は弱くない。お前は強いんだ……本当の意味で……」

「本当の意味で……強い……?」

これを言うとき少し気恥ずかしいんだけどこいつが強くなる懸け橋のためになんか……

「ああ、お前は何度も何度も負けて、その度にデッキを研究しデッキを作った……お前は決闘者^{デュエリスト}に一番必要な『向上心』があるんだ」

「!」「向……上心……」

「そして他人のデッキを真似するのは別に悪いことじゃない。他人のデッキを使って問題点があればそれを改良……そしてまた問題点が出てきて改良……向上心があるお前にはこの行為を続けられるだろうな……だからこそ言わせてもらう……」

俺は神楽坂に近づき神楽坂を顔を正面に向かせこう言った

「……お前がその向上心を忘れなければお前は世界で一番強い決闘者^{デュエリスト}になれる」

亮Side

俺はあのデュエルを見終わった後自分の寮へと帰ってる最中、1つのことを考えていた
それは魁が言ったあの言葉……

『向上心』

そうだったな……今まで俺はパーフェクトと呼ばれ気づかぬ間に墮落し向上心を忘れていた……
この状態で卒業してプロを目指す？無理に決まっている……
このままではいずれ十代、翔、三沢、明日香今はアカデミアにいない万丈目に越されてしまうな……
……俺はみんなと対等でいたい！いつまでもデュエルをし続けたい！
その為にも向上心を忘れないで成長しないと……

第16話 伝説との対面！開闢の使者VS混沌の騎士（後書き）

あれ？またタイトル詐欺？本当は開闢と混沌の騎士が白熱の戦いを
するはずだったのに……どうしてこうなったWWW

そして気づかない間にカイザーのヘル化フラグをへし折った！？

ちなみ今回、主人公魁がいくら相手のカードとはいえアニメオリカ
を使ってしまいました。だから批判が多くきたらこのデュエルを書
き直します。みんなどんどん批判してね！（おい

では次回予告！

えっ？転人生ががやってきた！？

しかもそいつは俺のルームメイト……

てかこいつ妙に女々しいな……

次回！【恋する乙女参上！】

もしかしたら前編とか中編とかになるかも知れません。それでも次
回もお楽しみに！

第17話 恋する乙女参上! 前編(前書き)

更新が遅れてしまってますいません! 予告通り前編になりました

魁「では急いで今回の最強カードは【恋する乙女】!

このカード表側攻撃表示で存在する限り戦闘では破壊されない。このカードを攻撃したモンスターは乙女カウンターを1つ乗せる結構面白いカードだぞ!」

では本編にゴー!

第17話 恋する乙女参上！ 前編

あの日の一件以来すっかり仲良くなった俺と神楽坂
それで現在食堂で食べながらデッキ作成中

「ここをこうすれば手札効率がいいぞ」

「へえー…こんなコンボもあるんだ…」

「しかし遊戯のデッキをここまで強くするとはな…」

「ああ！安定率ならこのデッキ高いけど爆発力はないから遊戯さんのデッキよりかは劣ると思うけど…」

こいつのデッキはすごいぜ…遊戯のデッキを改良して【ガジェット
ビート】にして奥の手に【エクゾディア】を仕組んでるからな！
確かに場持ちがいい【ガジェット】で殴り守り、その間に【エクゾ
ディア】を揃える…結構いいデッキになるぞ、これ

「じゃあこれを入れるには？」

「いやむしろこれを入れるべきだ」

とか言う感じで話題が進む……てか誰だろうな俺の部屋に【エビフ
ライ定食】の販売券置いたの？

まあ誰でもいいか。おかげで680円浮いたし

そんで後日、転入生がやってきたんだが…

「転入生の早乙女レイ君だニャ」

「女の子みたいに綺麗な子なんだな」

確かに女の子ぽいな……

「オシリスレッドで落ち込んでのかな？」

「かもな。でも俺はオシリスレッド好きだぞ」

「そうか！なら」

いきなり応援しだした十代…いったいどうした？

その後大徳寺先生から転入生だからオシリスレッドになったことが判明。そして俺のルームメイトになった……当たり前か、俺だけ1人部屋だし

「あそこがお前の荷物置くところな」

「うん……いや、わかった」

何故態々訂正させる？まさか…こいつ…

「何で見てるの？…見てるんだ」

「…えい！」

「えっ！？あっ！返して、僕の帽子！」

帽子を取ると髪留めごと取れ一気に長い髪が…
なるほど…そういうことか…

「はあ…どうしてこの学園に女の子がいるのかな」

「ええ…と」

「とりあえず訳を聞かせてもらおうか」

「わかりました」

聞いた話によるとカイザーの事が好きで好きでたまらなくてこの学園に身元を偽装してまで来たらしい…さらに小学5年生…本人いわく恋する乙女は強いらしい…
しかも偽装の仕方がすげえ…ハッキングとか…

「なんというか…すごい偽装の仕方だな…」

「結構頑張って身につけました！」

「自慢することじゃない」

シュンとなるレイ…

その間にサクラに電話、電話…

「もしもし」

『なによ魁。こっちは今デッキ作成してるんだけど』

「実はな俺のルームメイトの……」

『ああ早乙女レイね。もしかしてもうわかつちやった？』

「そりゃ見ればな」

「見ればって……」

再び落ち込みだしたレイ：いやお前の男装はあなど無意味だ。一目見ればほぼわかるし

『もう言う事はわかったわ。シャンプーとリンス、ボディソープ及び身だしなみの為に化粧用品、ブラシを用意すればいいのね』

「なんか無駄に多いけどその通り。それを持ってきてな」

『了解』

これでオツケー…

後は…

「レイ。知っていると思うけどこのアカデミアではデュエルですべてが決まる、お前のデッキ見させてもらおうぞ」

「わかった」

さてさてデッキの内容は……こ……れ……は……

「弱いな……」

「弱いって……そんな簡単に言わなくても……」

おお、悪い悪い……でも同時に

「……だが面白いな」

「えっ？」

「これ、【恋する乙女】を中心としたデッキだろう？ お前のデッキへの愛が強く伝わってくるよ。それに改良すれば結構強くなるぞ」

「えっ／＼／＼……じゃ、じゃあ改良お願いします……」

「よし、任せとけ！」

【恋する乙女】を中心としたデッキ……【キューピット・キス】でコントロールを奪うデッキ……だがコントロールを奪うにも2回攻撃しなければ速効性がないな……

しかも【ハッピー・マリッジ】は乙女カウンターと【恋する乙女】は関係ないのか……だったら【精神操作】【エネミー・コントロール】で相手モンスターを奪って装備させて攻撃力アップ……となればこの世界だとまだ制限の【洗脳ーブレイン・コントロール】が使えるな……いや使わないでおこう。【強制転移】を入れるのもいいか……それだと【アメーバ】を入れておくか？ いやむしろライフ消費が激

しいから【グリグル】を入れておくか。そして念の為に【帝】を入れておいて…いや…ここはサイコ・シヨッカーにしておくか？

ふーん…このデッキ考えるのが楽しいな…後【恋する乙女】のサーチの為に【クリッター】【シャインエンジェル】【見習い魔術師】でも入れておくか…コントロールは奪取の為の生贄要員として【黄泉ガエル】を1枚入れておくか…

とりあえず【強欲な壺】と【天よりの宝札】は抜いて…【シャインエンジェル】は3積み【恋する乙女】も3積みと…【キューピット・キス】は…1枚でいいか…【ハッピー・マリッジ】は3積みと……後攻撃力低いから【体力増強剤スーパージ】に【ホーリージャベリン】を2枚ずつ投入…【帝】は各1枚ずつでいいか…可愛い＋ライフ回復の意味で【白魔道士ピケル】を入れるか？

「魁！レイの為に持ってきたよ！」

「あっ魁さん来ましたよ」

「ほいほい、入っていいよ」

「ではお邪魔します。転入生の為にシャンプー、リンス、ボディソープ及びブラシを持ってきました」

化粧用品は持ってきてないんだな…当たり前か、子供がまだするこ
とじゃないし

「あのあなたは…」

「私の名前は天城サクラ。あなたの身元は転入当初からわかってるから」

「つまり……」

「そう、サクラも知っているからサクラに対しても女言葉でいいよ」

「わかりました」

「ところで魁、なんのデッキ作成してるの？」

「作成じゃなくて改良な。レイのデッキを改良してるんだ」

「どんなほうに？」

「【恋する乙女】で奪って奪って最終的にはビート……そういう感じのデッキにするつもり」

「【恋する乙女】か……普通だったら奪って奪って奪いまくってそれを【キャノン・ソルジャー】で射出、または奪ったやつでビートするでしょ……【恋する乙女】でどうやってビートするの？」

「それはだな……」

その後、サクラとデッキ作成の相談……

でもこいつはなんで【強欲な壺】や【運命の宝札】【天よりの宝札】を入れたがるんだ……！

さっきから魁さんとサクラさんが僕のデッキを改良してくれてるんだけど……

「だからなんでお前は【強欲な壺】を入れたがる！ここは普通【貪欲な壺】だろ！」

「あんたこそなんで貪欲を入れたがるのよ！普通は【強欲な壺】または【天よりの宝札】でしょ！」

ものすごい口喧嘩してます…確か【強欲な壺】は2枚ドロ―して【貪欲な壺】は墓地のカードを5枚デッキに戻して2枚ドロ―でしょ？【強欲な壺】を使うほうが圧倒的にいいと思うんだけど…

「いいかよく聞け！【貪欲な壺】はな【シャインエンジェル】とかのリクルーターモンスターをデッキに戻せるんだぞ！それに仮に相手がデッキ破壊を使用した場合の保険にもなるし！そして【強欲な壺】は禁止だろう！」

「それはあっちの世界の話でしょ！？こっちの世界では制限なのよ！ここは容赦なくデッキを作るのが一番いいわ！そしてこうなったら【命削りの宝札】も入れるべき！」

あっちの世界？もしかしてプロリーグのことかな？でもプロも【強欲な壺】使ってるし…あっちの世界ってなんだろう？

「ちゃんとOCGのカードで組もうぜ！【恋する乙女】【キューピッド・キス】【ハッピー・マリッジ】以外はさ！その代わりにこっちの禁止・制限でこのデッキ組むから！」

「しょーがないな……それでいいわ。じゃあ【強欲な壺】投入。そして【悪夢の蜃気楼】も……そしてライフ回復に【非常食】ライフ回復も基本はフリーチェーンにしたほうがいいと思うし……」

「……結構ガチで組むな……」

苦笑いしながらサクラさんのほうを見る魁さん……

……たぶんこの人達、相性結構いいと思うな……お互いの意見を出してぶつかってそしてお互い妥協して……

でもこの2人の関係を見てると心が少し痛む……なんでだろう？

「【シャインエンジェル】は3積みで【見習い魔術師】も3積み……そして……ここはこっちのほうでいいと思うよ」

「………【帝】ですか……」

「ライフ回復が異常に回復するからこれも入れる？」

「却下。それはレイに渡しちゃいけないだろう」

「でももう童実野町で販売されてるし……」

「そうだけど……」

今度はこれを入れるべきか入れないべきか話している……いったい何を入れるつもりなんだろう？

「レイ。このカード知ってるか？」

「ええ…と…」

魁さんは僕の目の前にある1枚のカードを出した……

それはとても綺麗で真っ白なカード…カード名は【エンシェント・ホーリー・ワイバーン】…このカード…デュエル週刊誌で見たことがある！

「はい。見たことあります。確かペガサスが新たに開発したカード……確かシンクロモンスターでしょ？」

「正解、よしサクラ！レイは知っているからこのカード採用！」

「じゃあ【エンシェント・フェアリー・ドラゴン】も入れておこうか。そして【天空の聖域】を積む…」

「これは…頑張れば攻撃力20000超えられるな…」

2、20000……恐ろしいほど魔改造されてる…いったいどんなデッキになるんだろう？

「よし…あなど出来たし…レイ」

「は、はい！」

「デュエルするぞ」

「はい？」

なんでいきなりデュエルなんて……

「お前も改良された自分のデッキの力みたいだろう？だからな」

「そういうことですか…わかりました！受けます！…でもシンクロモンスターについてよくわかりません」

「じゃあシンクロモンスターについてはサクラに聞いてな。じゃあ帽子を被って発電所まで行こうか」

そう言って魁さんからデッキを受け取った……って何これ！？
恐ろしいほど強化されてる…【恋する乙女】を中心とし【恋する乙女】を無駄にしない戦法……そして【恋する乙女】を使うのにライフの減りが…あまりない！いやむしろ増える？

このデッキ……本当に頑張れば攻撃力20000出せるかも…

サクラSide

魁とレイがデュエルするから発電所に来た。しかし自分でも思うわ、さすがにあのデッキはやりすぎたって…

…とか思っている間にデュエルの準備が終わったわね…

「^{デュエル}決闘！」

「先攻は僕から！ドロー！僕は【恋する乙女】を召喚！そしてリバーカードを2枚セット！これでターンエンド！」

早速あのコンボを使う気ね…これはとても怖いわ

「俺のターン、ドロー！魔法カード【融合賢者】！これでデッキから【融合】を手札に加える！そして【融合】発動！これで手札の【E・HEROオーシャン】と【E・HEROフォレストマン】を融合！来い！【E・HEROアブソットZero】！そして【E・HEROエアーマン】の召喚！そしてエアーマンの効果発動！これでレイのリバースカードを破壊！」

対する魁は【HERO】デッキ…これは神の悪戯かな？

「あ！僕の【ホーリージャベリン】が！」

「そしてバトル！Zeroで【恋する乙女】に攻撃！瞬間氷結！」
フリージング・モニユメント

「その攻撃を待っていた！罠発動【体力増強剤スーパージ】！これで2000ポイントダメージを受ける前にライフを4000回復する！そしてこの効果でZeroに乙女カウンターが乗る！」

レイ LP5900

「続けてエアーマンで攻撃！」

「くっ！だけどこの攻撃でエアーマンにも乙女カウンターが乗る！」

レイ LP4500

「リバーカードをセットしてターンエンドだ」

「僕のターン、ドロー！手札から装備魔法【キューピッド・キス】と手札を1枚捨て【閃光の双剣―トライス】を【恋する乙女】に装備！」

自ら攻撃力を下げてまでコントロール奪取を……しかし【恋する乙女】に双剣…大変似合わない…

「そして【恋する乙女】でZeroとエアーマンに攻撃！これでダメージは受けるけどモンスターはすべてもらったよ！」

レイ LP200

レイのデッキに入れたギミックその1。1killシステム…基本は【ホーリージャベリン】スーパージでライフを回復して相手に乙女カウンターを乗せる、そして次のターン、トライスとかを装備させて相手モンスターに攻撃…大抵相手のライフは残るけど【恋する乙女】によって発生するダメージでスーパージを使うということは相手の場に攻撃力2400以上がいることを意味する…そしてこの世界の人間は全員ビート使い…普通に攻撃力1600以上のモンスターを出す。そしてそれを奪って倒す…これが入れたギミックの1つ…

「そしてもらったZeroとエアーマンで魁さんダイレクタタックに直接攻撃！これで私の勝ちだ！」

「カウンター罠【攻撃の無力化】これでHEROの攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる。さてこのままだと負けるぞ」

「む！ならメインフェイズ2で僕は魔法カード【強欲な壺】を発動！カードを2枚ドロー！そして永続魔法【悪夢の蜃気楼】を発動！

そしてリバースカードをセットしてターンエンド！」

まさかここでドロコンボをやるなんて…中々のドロセンスじゃない

「俺のターン、ドロ！」

「相手のスタンバイフェイズ時に【悪夢の蜃気楼】の効果で僕の手札を4枚にする！そして速攻魔法【非常食】！この効果で【悪夢の蜃気楼】とトライスを墓地に送ってライフを2000回復」

レイ LP2200

フュージョン・リカバリー

「……【融合回収】を発動！これで墓地から融合素材となったオーシャンと【融合】を手札に加える！オーシャンを召喚！そして手札1枚を捨て速攻魔法【超融合】を発動！」

「【超融合】？」

いくらひと気がないからって原作に支障がでるかもしれない【超融合】を使うの？十代達に見られたたらヤバイね…

「【超融合】の効果！このカードは自分、相手のフィールド上のモンスターを融合させるカード…この効果でZeroとオーシャンを融合！再び現れる！アブソルートZero！そして融合素材にされたZeroの効果発動！このカードがフィールドから離れた時相手モンスターをすべて破壊する！」

「エアーマンと【恋する乙女】が！」

「そしてZeroでレイに直接攻撃！瞬間氷結！」
ダイレクヤタック フリージング・モニュメント

「手札にある【クリボー】の効果発動！手札のこのカードを捨て自分が戦闘ダメージを0にする！」

「これでターンエンド！」

「僕のターン、ドロー！…僕はリバースカードを1枚セットしてターンエンド」

このデッキの弱点が出てきたか……【恋する乙女】…正確には自分のフィールドのモンスターが破壊されると結構きつい…その分もやっぱり改良してあげよう

「俺のターン、ドロー！…バトル！Zeroでレイの直接攻撃！瞬間氷結！」
ダイレクヤタック フリージング・モニュメント

「速攻魔法【スケープ・ゴート】！これで僕の場合に【羊トークン】を4体守備表示で特殊召喚！」

「ならZeroで【羊トークン】に攻撃！これでターンエンド」

「僕のターン、ドロー！魔法カード【トークン収穫祭】を発動！これで【羊トークン】3体を破壊してライフを2400回復！」

レイ LP4600

回復コンボは健在…これは…もしかして…

「そしてフィールド魔法【天空の聖域】を発動！そして永続魔法【

神の居城―ヴァルハラ】を発動！ヴァルハラの効果で手札の【天空^{エンジエ}勇士ネオパーシアス^{ルブレイブ}】を特殊召喚！そして【天空の聖域】があり自分ライフポイントが相手より上なのでその差だけ攻撃力上昇！攻撃力2900！そして攻撃！」

「くそっ！だけどZeroの効果でレイのネオパーシアスは破壊だ！」

魁 LP3600

「だけどその前にネオパーシアスの効果で1枚ドロ！そしてドロ―したカードは……モンスターをセット！これでターンエンド！」

結構いい戦いしてるじゃない…

これはどっちが勝ってもおかしくない！！

第17話 恋する乙女参上！ 前編（後書き）

早速次回予告！

激闘する俺とレイの戦い！

そしてついにレイが女だとバレた！

…そして、みんな！頼むから俺の扱いを惨めにしないでくれ！

次回【恋する乙女参上！ 後編】

次回もお楽しみに！

第18話 恋する乙女参上! 後編(前書き)

…恋する乙女編はむずいな…

魁「では今回の最強カードは【悪夢の蜃気楼】

このカードの効果は相手のスタンバイフェイズ時に手札を4枚になるようにドロースる!そして自分のスタンバイフェイズに加えたこの効果で手札に枚数分手札をランダムに捨てる!

今も絶賛禁止入り!こいつの使い方は十代の戦いかたでわかる!」

このカードはマジチート効果

第18話 恋する乙女参上！ 後編

「俺のターン、ドロー！魔法カード【ミラクル・フュージョン】を発動！これで墓地のオーシャンとフォレストマンを除外して【E・HEROジ・アース】を融合召喚！バトル！アースでセットモンスターに攻撃！アース・インパクト！」

「セットモンスターは【メタモルポット】！このカードの効果でお互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドローする！でもお互いに手札は0：捨てるカードはない：でもお互いに5枚ドローする効果は適応される！」

これでお互いの手札は5枚か：

レイの手札状況次第では簡単に1killされるからな：手加減せずに全力で行かなければな！

「俺はリバースカードを2枚セットしてターンエンド！」

「僕のターン、ドロー！魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【クリボー】を特殊召喚！そして速攻魔法【増殖】！これで自分フィールドの【クリボー】を生贄に捧げ【クリボートークン】を可能な限り生成！そして魔法カード【トークン収穫祭】を発動！」

「ちょっと待て。いくらなんでもひどい回復だな」

「そういう効果だから仕方がない。【クリボートークン】をすべて破壊してライフを4000回復！」

レイ LP8600

「そして【グリグル】を召喚！そして【強制転移】を発動！これでジ・アースと【グリグル】のコントロールを入れ替える！そして【グリグル】の効果で僕のライフは3000回復！」

レイ LP11600

……やっぱり回復系のカード入れすぎだな…

「そしてジ・アースで【グリグル】に攻撃！アース・インパクト！」

「くっ！やるなレイ！」

魁 LP1450

「だが罠発動【ヒーロー・シグナル】！自分フィールドのモンスターが戦闘で破壊され墓地に送られたとき発動！デッキから【E・HEROフォレストマン】を守備表示で特殊召喚！」

「リバーズカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！フォレストマンの効果発動！この効果で墓地から【融合】を手札に加える！そして【融合】発動！手札のワールドマンとフィールドのフォレストマンを融合！融合召喚【E・HEROガイア】！ガイアの効果発動！これでレイのフィールドのいるジ・アースの攻撃力を半分にして…」ならその効果にチェインして速攻魔法【神秘の中華鍋】！この効果でジ・アースを生贄にしてライフを2500回復させる！」いい加減にライフ回復やめろよ…」

レイ LP14100

「作ったのは魁さんとサクラさんだから僕に言われても困ります」

確かに作ったのは俺とサクラだから反論できないな…

「でもまだいくぜ！魔法カード【ミラクル・フュージョン】！これで墓地のワイルドマンとフォレストマンを除外して【E・HERO ガイア】を召喚！さらに魔法カード【戦士の生還】！これで墓地からエアーマンを手札に加えそのまま召喚！そしてエアーマンの効果でデッキから【E・HERO ザ・ヒート】を加え魔法カード【融合】発動！これで手札のザ・ヒートとフィールドのエアーマンを融合して【E・HERO ノヴァマスター】を召喚！そしてバトル！すべてのモンスターで直接攻撃！」

「きゃあ！！！」

レイ LP7100

「これでターンエンド」

「僕のターン、ドロー！魔法カード【天使の施し】を発動！カードを3枚引き2枚捨てる！そして魔法カード【貪欲な壺】エンジェルブレイブを発動！墓地の【恋する乙女】エンジェルブレイブ【グリグル】【クリボー】エンジェルブレイブ【天空勇士ネオパシアス】エンジェルブレイブ【ハネワタ】をデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロー！」

いったい…なにを引いた！？

「ヴァルハラの効果発動！この効果で手札の【エンジェルナイト天空騎士パーシアス】を特殊召喚！そしてチューナーモンスター【極星天ヴァルキュリア】

を召喚！いくよ！生まれて始めてのシンクロ召喚！Lv5【エンジェルナ天空騎士^{イト}パーシアス】にLv2【極星天ヴァルキュリア】をチューニング！聖域の彼方から来る守護の竜よ！僕に力を貸して！シンクロ召喚！光臨して！【エンシェント・ホーリー・ワイバーン】！」

「……レイ…そのモンスターの攻撃力は？」

「ホーリー・ワイバーンの攻撃力自分が相手よりライフが多い場合相手ライフの差の分攻撃力アップさせる！魁さんと僕のライフの差は5650…よってホーリー・ワイバーンの攻撃力は7750！！」まさか初めて使ったデッキでその攻撃力を出すとは…レイはセンスあるな

「これで終わり！【エンシェント・ホーリー・ワイバーン】でガイアに攻撃！エンシェント・フラッシュュ！」

「うわあああああ！！！」

魁 LP—6300

「たあー………負けた…でも楽しかったよ」

「僕も楽しかった！今までデッキならここまで戦えなかったよ！本当にありがとう！」

「じゃあ寮に帰ろうかレイ」

「うん！」

そう言ってレイはレッド寮に先に帰っていった……
しかしよくあのデッキを初見で使いこなしたもんだ……

「優しいね、魁って」

「……なんのことだ」

「もう1枚のリバースカード……【奈落の落とし穴】でしょ？」

「そう……だな……この奈落さえ使っていれば次のドロ―次第だけどれイを倒せたな」

「どうして負けてあげたの？」

「……この世界でデュエルとデッキは自分らしさが出るんだ……今あいづはカイザーに恋をしている……そしてレイのデッキは【恋する乙女】を中心としたデッキ……このデュエルで勝てれば自分に自信がつく……同時にデッキも同じ意味を持つからカイザーに告白する自信も出てくる……だから俺は負けてあげた。楽しいデュエルと目的があるデュエルは違うからな……」

「カイザーがどんな返事しても知らないよ」

「それならそれでいい。レイの気持ちが伝えられたんだから……それで人生の大きな経験になる……」

「……そんなふうにはレイの事考えてたんだ……」

「そうだな……じゃあサクラまた明日な」

「うん、それじゃあね」

サクラは走って自分の寮へと帰っていった：

まあ奈落を使わなかった理由はまだあるんだけど：落とし穴だからレイの恋に不安も出てくるしな：：：だから使わなかった：

別にこれが本当にレイの気持ちに反映するかわからないけどさて：帰って寝るか！

で次の日のアカデミア：

ノース校がうんぬんかんぬん言ってるけど俺には関係ない：どうせ今年もカイザーだろう？

そして今はレイと一緒にオベリスクブルー寮の横にいる

「なあ：お前本当にカイザーの部屋に忍び込むのか？」

「うん！恋を成功させる秘訣は先手をうつこと！これで亮様に僕の想いを：」

：天然なのやら純粹なのか馬鹿なのか：

恋を成功させるのはそれなりの交友関係とアプローチだろ：まあ子供らしくていいか

それで木を登ってカイザーの部屋に侵入：窓を開けておくなカイザー！：

「おい！レイ、魁！そんなことをしているとノース校のスパイだと勘違いされるぞ！」

「そんなんじゃない！」

「早く出るぞレイ、魁！」

十代はそう言うのとレイを掴んで連れてこうとするが：

「…あ……」

「レイ、お前！」

帽子が取れてしまいました…しかも同時に髪留めも落ちて長い髪が…髪留め結構緩いんだな

「レイ！帽子持ってすぐさま立ち去るぞ！」

「うん！」

「おい待てよ、魁！」

「十代！身代わりよろしくな！」

なんか十代が嘆いているけど無視！近くで足音が聞こえるからな…そのまま俺とレイが木から飛び降りた
そして十代が捕まって拉致されてるけど…ごめんな…後日飯奢ってやるから…

全速力でオシリスレッドに走る俺とレイ…あれ？

「レイ！髪留めはどうした！」

「えっ？　そういえば亮様の部屋に忘れてきた！」

「このお馬鹿！」

「ううう……」

泣くな！　俺の良心が痛む！　そして同時になんか苛めたくなるからやめて！

それで夜になり……十代が俺の部屋に来て崖下に移動
訳を話せと十代が言ったらレイは無理といい最終的には…

「デュエルしようぜ？」

「「全く意味がわからない！？」」

「デュエルじゃ誰も嘘をつけない」

全く理屈がわかんないな……
もしかして十代…ただデュエルしたいじゃないか？

「「決闘^{デュエル}！」」

で結局始まるんだな…じゃあ俺は少し離れよう

「僕のターン、ドロー！　僕は【恋する乙女】を召喚！」

「か、可愛い！」

あれ？崖上に翔と隼人それにカイザーと明日香、サクラが……いつからいた？

「さらにリバースカード2枚セットしてターンエンド！」

あれ？この戦法は……

「俺のターン、ドロロー！【融合】を発動！これで手札のフェザーマンとバーストレディを融合！来い！【E・HEROフレイム・ウィングマン】！」

レイのやつ驚いてるな

十代が俺と同じHEROを使ってるからな……でも十代……攻撃力2100で助かったな……それで2400でも出したらお前死んでたぞ

「そしてスパークマンを召喚！バトル！フレイム・ウィングマンで【恋する乙女】に攻撃！フレイム・シュート！」

「罨発動【ホーリージャベリン】！このカードは相手モンスターが攻撃した時発動！攻撃してきたモンスターの攻撃力分、ライフを回復させる！」

「でもバトルを止める訳ではない！このままダメージ計算だ！」

「くっ……【恋する乙女】は表側攻撃表示で存在する限り戦闘では破壊されない！」

レイ LP4400

「そしてバトルした相手モンスターに乙女カウンターを乗せる！」

「だぁー！フレイム・ウィングマン！ヒーローらしくないぞ！」

いったいどうした十代は？翔も十代のことどうしたんだろうと心配してるしサクラは口抑えて笑うの我慢してるし……サクラ、お前にはどういうふうになっているのかわかるのか？

「くそ！これ以上ヒーローの無様な姿は見れない！俺はリバーカードをセットしてターンエンド！」

「僕のターン、ドロー！僕は魔法カード【ダブルアタック】を発動！手札のモンスター【シャインエンジェル】を捨て捨てたモンスターよりLvが低い自分モンスターは2回攻撃できる！【シャインエンジェル】のLvは4！よってこれよりもLvが低いモンスター【恋する乙女】を2回攻撃できるようにする！装備魔法【キューピッド・キス】を【恋する乙女】に装備！さらに装備魔法カード【ハッピー・マリッジ】を【恋する乙女】に装備！」

1killシステムは健在だな：

しかもとどめは【恋する乙女】か……まあ十代のリバーカードがなにか気になるけど

「【恋する乙女】でフレイム・ウィングマンに攻撃！」

「攻撃力が低いモンスターで攻撃！？なにをする気だ！？」

「きゃ！……でもこれで【キューピット・キス】の効果が発動する！」

レイ LP2700

「なんだと!?!」

「【キューピット・キス】の効果!このカードを装備してるモンスターが乙女カウンターを戦闘し装備モンスターのコントロールが戦闘ダメージを受けた時戦闘を行ったモンスターのコントロールを得る!」

「フレイム・ウィングマアアアアンツ!!」

「うるさい、十代!少し黙ってろ!」

「お、おう」

案外すぐ黙るんだな十代って…しかし今回の十代は少し変だ。主に戦ってる感じが

「そして【ハッピー・マリッジ】の効果!このカードを装備してるモンスターの攻撃力を自分フィールドに存在する元々のコントロールが相手モンスターの攻撃力分アップする!フレイム・ウィングマンの攻撃力は2100!よって【恋する乙女】の攻撃力は2500!そしてフレイム・ウィングマンでスパークマンに攻撃!フレイム・シュート!」

「罨発動【ヒーローバリア】!自分フィールドに【E・HERO】がいる時相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする!」

「なら【恋する乙女】でスパークマンに攻撃!」

「スパークマン!」

十代 LP3100

「これでターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！バブルマンを召喚！効果で自分フィールドにほかのカードがないので2枚ドロー！」

出たよ原作効果のバブルマン…

こいつの効果はおかしいだろう…チートドローを持つ十代なら初手に来ていきなり7枚スタートできる悪魔のカード…何故こいつがこっちの禁止・制限で禁止になってない…むしろ無制限なんだ？まるで意味がわからん…

「魔法カード【強欲な壺】！これで2枚ドロー！そして魔法カードフュージョン・リカバリ

【融合回収】で墓地のフェザーマンと【融合】を手札に加えさらに魔法カード【戦士の生還】で墓地からスパークマンを手札に加える！そして【融合】発動！手札のフェザーマン、スパークマン、フィールドのバブルマンを融合！現れろ！【E・HEROテンペスター】！」

おお…よく融合素材の代わりとか使わずにこいつを出したな…さすがは十代のチートドロー

「テンペスターでフレイム・ウイングマンに攻撃！カオス・テンペスト！」

「フレイム・ウイングマンが破壊されたので【恋する乙女】の攻撃力は400に戻る！」

レイ LP2000

「そしてメインフェイズ2で永続魔法【悪夢の蜃気楼】を発動！そしてリバースカードをセットしてターンエンド…」ならエンドフェイズに速攻魔法【サイクロン】を発動！これでセットしたカードを破壊！」【非常食】が！」

まさか【サイクロン】とは…あれ？だったら【ヒーローバリア】をセットした時に破壊すれば勝てたな……レイはプレイングミスをしたな

「そして僕のターン、ドロー！」

「【悪夢の蜃気楼】の効果で4枚ドロー！」

「でも次のスタンバイフェイズで墓地に送られるんでしょ？だったらそんな手札怖くない！僕は【強欲な壺】を発動！これでデッキから2枚ドロー！リバースカードを2枚セット！これでターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！スタンバイフェイズに手札を4枚をランダムに捨てる！へへ…いいカードが墓地にいったぜ…墓地のネクロダークマンの効果発動！このカードが墓地にある時1度だけ【E・HERO】の召喚に生贄は必要なくなる！この効果でエッジマンを召喚！」

お前は引き運だけではなく手札からランダムに墓地に送るカードすらチートなのか！？俺もほしいなそのセンス！

「バトル！テンペスターで【恋する乙女】に攻撃！カオス・テンペ

スト！」

「そんな簡単に負けないよ！罨発動【ガード・ブロック】！この効果で1度だけ戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロ！そして攻撃したテンペスターに乙女カウンターを乗せる！」

「だああああ！！また俺のヒーローがああああ！！」

「はよ、進めろ」

「はい、エッジマンで【恋する乙女】に攻撃！パワーエッジ・アタック！」

「さらに罨発動【体力増強剤スーパージ】！このカードは自分が戦闘で2000ポイント以上のダメージを受けた時発動！ダメージ受ける前にライフを4000回復する！」

レイ LP3800

「【恋する乙女】の効果でエッジマンにも乙女カウンターが乗る！」

「いい加減にしろよおおおおお！！おまえらああああ！！」

「だからさっさと進めろ」

「はい、これでターンエンド」

さっきから十代がうるさいな…
しかも崖上を見るとサクラが手を地面に叩き続けながら笑いを堪えている…いったいどうした？

「僕のターン、ドロー！」

「【悪夢の蜃気楼】の効果で4枚ドロー！」

「ライフを800払い【洗脳―ブレイン・コントロール】を発動！これでテンペスターのコントロールをエンドフェイズまで得る！そして【ハッピー・マリッジ】の効果で【恋する乙女】の攻撃力は3200になる！バトル！テンペスターでエッジマンに攻撃！カオス・テンペスト！」

レイ LP3000

「エッジマン！」

十代 LP2900

「これでとどめ！【恋する乙女】で十代に直接攻撃！」
ダイレクトアタック

「墓地の【ネクロ・ガードナー】の効果発動！このカードを除外することで相手モンスターの攻撃を無効にする！」

墓地に落ちたのが良すぎるだろう…

「そんな方法で攻撃を防ぐなんて…：僕はこれでターンエンド」

「俺のターン、ドロー！スタンバイフェイズに【悪夢の蜃気楼】が発動する前に速攻魔法【サイクロン】！これで【悪夢の蜃気楼】を破壊！これで【悪夢の蜃気楼】の効果で捨てる効果はなくなる！」

ここで【サイクロン】か……やっぱり十代はチートドローだな

「そして【ホープ・オブ・フィフス】を発動！墓地の【E・HERO】と名のついたモンスターバブルマン、スパークマン、フェザーマン、エッジマン、フレイムウィングマンをデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロー！【融合】発動！手札のクレイマンとバーストレディを融合！【E・HEROランパート・ガンナー】を召喚！さらに魔法カード【融合回収^{フュージョン・リカバリ}】を発動！これで墓地からバーストレディと【融合】を手札に加える！そして【融合】発動！手札のフェザーマンとバーストレディを融合！【E・HEROフレイム・ウィングマン】を召喚！」

鬼だな十代……攻撃力2000と2100と2800……これ完璧に十代の勝ちだろう

「そしてこれで終わりだ！フレイム・ウィングマン、テンペスター、ランパート・ガンナーで【恋する乙女】に攻撃！ファイブ・オブ・エレメント！」

「きゃあああああああ！！！」

レイ LP—2700

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ！」

「いいデュエルだったぞ、レイ」

「魁さん……」

「後お前の想いを伝える人が上にいるぞ」

「えっ？」

さて結果はどうなるかな……

しかし本当になんでサクラは笑ってたんだ？ しかも十代もなんかおかしかったし……

このデュエル少しおかしかったのか？

そしてレイは自分のカイザーの想いを伝え始め……

カイザーの返事は……

「……お前の気持ちは嬉しい……だが今の俺はデュエルの新しい可能性を見つけようとしている……そんな状態でお前と付き合うのは失礼だ……すまないなレイ……」

でしょうね……小5と高3が付き合うのは色々問題だしな……

「……わかった……亮様の返事が聞けてよかった……」

「……無理をするなレイ……泣きたきゃ泣け……」

「う……うっ……！」

俺はそう言うときレイの体を優しく包み込んであげた……

一気に泣き出すレイ……

お前はまだ子供だからな……人生のいい経験になっただろうな……

「……ところで1つ聞いていいっスか？」

「いいぞ翔」

「魁ってドSって聞いたけど……本当はロリコンだったんスね」

「「「「はあっ!？」」「」」」」

「そういえば昨日からの行動がレイを中心としてたし……一緒に寝てたし……」

「「「一緒に寝てた?」「」」」

「魁ってそういう趣味あったんだ……」

「違う!一緒に寝たというのは同じ部屋で寝たという意味で同じベツドで寝たという意味ではない……」

「「「「「……………(じーーーーー)」「」」「」」」」

「見るな……そんな目で俺を見るな!!」

「「「「「……………(じーーーーー)」「」」「」」」」

「みんなの馬鹿ーーーーっ!!」

畜生!そんな目で見んな!

そう思って俺は全速力で自分の寮に帰った……

そして後日

「ついに別れの日だね」

「そうだな」

レイと俺は話し合う：みんなの眼差しが痛い：
そして船の出航の音が聞こえた：

「じゃあ元気でな」

「うん！来年小学校卒業したらここにまた来るから！」

「ああ」

船は出航し俺達はレイを見送る

「カイザー、来年また来るって」

「その時は俺は卒業している。それに多分今のあいつの心は…」

「魁様——！！元気でね——！！」

「ほらな」

「……………魁君…」

「魁…」

「見損なったわ」

「これはこれで私的には面白いな」

「だからそんな目で俺を見るな――っ!!」

くそ! レイに優しくした結果がこれか!

代々子供に優しくするのは当たり前だろう!

大人は子供は守るために存在するんだろぅが!

第18話 恋する乙女参上! 後編(後書き)

攻撃力200000は本当に頑張ればだせるデッキですよ!今回出番
なかったけど!
では次回予告!

ノース校対抗戦の代表決め!?

代表は十代、三沢、サクラ、俺!?

しかも俺の相手はサクラかよ…

次回!【代表決定戦!激突する極神と邪神!】

次回もお楽しみに!

第19話 代表決定戦！激突する極神と邪神！（前書き）

今回は自分でも一番面白い回です。

皆さん、若干期待して見てください！

魁「では今回の最強カードは【邪神アバター】

このカードは特殊召喚できない。このカードを通常召喚する時モンスター3体を生贄にして召喚する

このカードを召喚した場合相手のターンで数えて2ターンの間相手は魔法、罠は発動できない

このカードの攻撃力、守備力はフィールド上で【邪神アバター】以外の攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力+100になる

召喚すれば絶大な制圧力をほこる！このカードほとんどのモンスターの戦闘では破壊されないから戦闘では開闢の使者並みの戦闘能力を誇るぞ！！」

今回の話は熱くなるぜー！っ！……たぶん

第19話 代表決定戦！激突する極神と邪神！

「十代君、魁君、君たちは学園対抗戦の代表に選ばれたニヤ」

「よっしゃ！代表に選ばれたぞ！」

「俺が代表に？」

確か学園対抗戦って前に校長がうんぬんかんぬん言ってたやつだよな？

今年もカイザーだと思ったんだけど…まさか俺と十代が選ばれるなんてな…

「ちなみに三沢君とサクラ君も代表になってるニヤ」

「三沢もか…こりゃワクワクしてきたぜ！」

「サクラも出るって…これは代表を決まる戦いで相手になったやつ不幸だな」

「その対戦相手が魁君だニヤ」

…マジかよ…

童実野町で何回も戦って戦績は23勝47敗…

たく…なんであいつの1k i l l デッキはたちが悪いんだ…こっちもガチで行かなければ普通に負けるし…

発電所で戦った時なんて偶々サクラが改良した遊馬デッキを使ってくれたから勝てたもんだ…

しかもあいつは【インフェルニティ】はたちが悪い…【終末の騎士】

【ダーク・グレファア】とか墓地費やしカードを抜いて現実世界で禁止の【天使の施し】【強欲な壺】とか使いつつ中には原作効果の【魔法再生】とか【手札断殺】……さらにアニメオリカの【トラップ・ブースト】とか使って手札を捨てつつ【血の代償】とか使って……

あれは酷かった…アカデミアではガチデッキはあまり使わない主義らしいけどそれでも十分強いし…主に現実世界の禁止カードやアニメオリカ、原作効果使ってな…

さらにあいつはガチカードも普通に積むし…【神の宣告】【奈落の落とし穴】【第六感】…何故【第六感】は準制限なんだ？後この世界だと準制限の漫画オリカ【壺の中の魔術書】とか使って1ターン目で【エクゾディア】とか…試しにそのデッキ使うなって言ったらハンデス三種の神器の【いたずら好きな双子悪魔】【押収】【強引な番兵】を使い手札の【クリボー】とか【バトル・フェーダー】【速攻のかかし】を墓地においてアニメオリカの【時の女神の悪戯】を使って俺のターンをスキップして即自分のソリティア開始…そして俺は負ける…

今思うとよくトラウマにならなかったな…しかも本音の話はこの話よりみんなにしばらくロリコン扱いされ冷たい視線を見られてたほうが辛かったな……

何故俺の相手がサクラなんだ…でもやるんだったら全力でやろうかとか思っただけ廊下を歩いているとサクラに出会った

「どうも魁。代表決定戦の話聞いた？」

「聞きました、聞きました。俺の相手はサクラなんだろう？」

「そう。大丈夫だよ、ガチデッキは使わないから」

「それは本当か？」

「本当。ちなみにこれが私が代表決定戦で使うデッキ」

サクラに投げ渡されたデッキを見ると……

…やばくね？【邪神アバター】【邪神ドレッド・ルート】【邪神イレイザー】とか……これある意味神のカードだろ？

「その件に関してはノープログラム。OCG効果の邪神はすでに世界中にとってもないレアカードとして回ってるから……しかも今回は少し自重して邪神もOCG効果にしてるし……」

こいつは読心術でも持っているのか？

確かに効果はOCGだな……これが原作でも耐性がついているだけだからそこまで強くないけど

「わかった、確かに確認した。その代わりに俺がどんなデッキ使うか教えてやるよ」

「なにかしらね？使うデッキ……」

「お前が邪神でくるならこちらは極神で行く……それだけだ。この情報聞いてそのデッキに好きなだけアンチカードを組むがいいさ」

「そんなことはしないわよ、ネタデッキで……それじゃあ代表決定戦楽しみにしてるわ」

「こっちこそ」

俺はサクラにデッキを返し寮に帰った……

さて早速極神デッキ作るか……とりあえず専用チューナーは3積みするか？ いやそれだとシンクロがしづらいな……

うーん……【極星天ヴァルディーナ】は3積みだな……【極星霊リョースアールヴ】は3積みかな……【極星天ヴァルキュリア】【極星霊デックアールヴ】【極星獣グルファクシ】は2枚ずつかな……

とか考えてる間にあっという間に代表決定戦……

まだ最終調整やってないんだけど……まあそれなりに回るようになってるからいいか

「そんじゃ始めるかサクラ」

「そうね」

「「決闘！」」^{デュエル}

「俺のターン、ドロー！」

初期手札は……これひどいな！ 1ターン待てばいけると思うけど……

「モンスターをセット、リバースカードをセットしてターンエンド！」

「ふーん……私のターン、ドロー！ 手札から魔法カード【テイク・オーバー5】……これでデッキトップのカードを5枚墓地に送る。そして墓地の【ライトロード・ビースト ウォルフ】の効果で墓地か

「このカードを特殊召喚！そして魔法カード【レベル・クロス】！この効果で手札のカード【レベル・ステイラー】を墓地に捨て自分フィールドのLv4以下のモンスター、ウオルフをのLvを倍にする！そしてウオルフのLvを2つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】2体を特殊召喚！」

くそ！【テイク・オーバー5】で【レベル・ステイラー】が1体墓地に送られてたか……

しかも早速3体……となると……ここで発動させておくか！

「罨発動【神の桎梏グレイプニル】！この効果でデッキから【極星】と名のついたモンスター【極星獣グルフアクシ】を手札に加える！」

「なにか勘違いしてるね……確かにフィールドにモンスターは3体いるけど……邪神を召喚するとは言っていないよ。ウオルフと【レベル・ステイラー】2体を生贄にして【神獣王バルバロス】を召喚！」

「3体！？という事は……」

「そう！これでああなたのフィールドのカードは破壊！」

「【極星獣タングリスニ】が……」

「やっぱりね……グルフアクシを手札に加えた時点でツールを出すと思ったよ。バトル！バルバロスで魁に直接攻撃！ダイレクトアタックトルネード・シエーパー！」

「ぐわあああああああ！！」

魁 LP1000

結構きついのがあったな……

周りからもさすがにざわついているよ……『さすがはサクラ様ですわ！』とか『やっぱりどんなカードを使ってもオシリスか……』とか……まあ所詮は雑魚の遠吠え……数に身を任せるしかない連中だ……放っておいて構わんだろう

「そしてバルバロスのLvを2つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】を2体守備表示で特殊召喚！そしてリバースカードをセットしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！しかし……本当に二重に策を仕掛けておいてよかった……」

手札には罠カード【ガード・ブロック】速攻魔法【サイクロン】があるんだがあえて伏せなかったのは……モンスターを召喚するには邪魔だったから……とは言ってもバルバロスが出るとは思わなかったけど

「俺は速攻魔法【サイクロン】を発動！これでリバースカード破壊する！」

「くそ！【神の宣告】が……」

お前完全にガチで来てるだろう！
デッキのモンスターは恐らく邪神を召喚する為のカードなんでしょうけど魔法、罠はガチだろう！

【テイク・オーバー5】とか【神の宣告】……シンクロ召喚に運用しやすい【レベル・ステイラー】……専用デッキ作んなくてもそれなりに強いバルバロス……どう考えても半分ガチだろう！

「【極星天ヴァルキュリア】を召喚！ヴァルキュリアの効果発動！召喚時自分フィールドにこのカード以外が存在せず相手フィールドにモンスターが存在する時で手札の【極星】と名のついたモンスター―【極星獣グルファクシ】と【極星霊デックアールヴ】を除外して【エインヘリアル・トークン】2体を特殊召喚！サクラ！容赦なくいくぜ！」

「どうぞご自由に」

「Lv4【エインヘリアル・トークン】2体にLv2【極星天ヴァルキュリア】をチューニング！戦死者の魂を集めここに最高神の力を見せろ！シンクロ召喚！北欧神話の最高神【極神聖帝オーデイン】！」

「「「攻撃力4000!?」」」」

「このカード…神のカードと同じくらい存在感があるんだな…」

まあ確かに神のカードだからな…
だが性能は微妙だな

「オーデインでバルバロスに攻撃！ヘヴンズ・ジャッジメント！」

「くっ…バルバロス…」

サクラ LP3000

「そしてリバースカードをセットしてターンエンド！」

「私のターン、ドロー！【テイク・オーバー5】の効果で墓地のこのカードを除外して1枚ドロー！そして【ジェスター・コンフィ】を特殊召喚！そして【レベル・ステイラー】2体と【ジェスター・コンフィ】の3体を生贄にして【邪神ドレッド・ルート】を召喚！」

「「あっちも攻撃力4000」」

「あっちも神のカードと同じくらい存在感あるんだな……でもなにか嫌な感じなんだな」

「てか攻撃力4000同士のモンスターだぜ！クー……このデュエル見ててワクワクするぜ！」

やっぱり神のカードは目立つか：

いくら海馬社長とペガサスの力があるからってやり過ぎかな：

「ドレッド・ルートの効果発動！このカードがフィールドに存在する限りこのカード以外のモンスターの攻撃力、守備力を半分にする！これで終わりよ！ドレッド・ルートでオーディンに攻撃！フィアーズ・ノック・ダウン！」

「がっ……くっ！罨発動【ガード・ブロック】！これで戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロー！」

「ならリバースカードをセットしてターンエンド！」

「エンドフェイズ時に墓地のオーディンの効果発動！墓地の【極星天】と名のついたチューナー【極星天ヴァルキュリア】を除外して特殊召喚！そしてオーディンの効果で1枚ドロー！そして俺のターン、ドロー！魔法カード【手札抹殺】！これでお互いの手札をすべ

て捨て捨てた枚数分ドローする！サクラの手札は0だけど俺の手札は2枚！よって俺だけ2枚ドロー！来たぜ！【極星天ヴァルディース】を召喚！そして手札の【レベル・ステイラー】を捨て【TH Eトリッキー】を特殊召喚！そしてオーディンのLvの1つ下げ墓地からステイラーを特殊召喚！Lv5【THEトリッキー】とLv1【レベル・ステイラー】にLv4【極星天ヴァルディーナ】をチューニング！雷と農耕を司る戦神よ！武勇を重んじ激昂し弱者に恵みをあたえよ！シンクロ召喚！北欧最強の神【極神皇トール】！」

「まずい！これではドレッド・ルートが…」

「まずはオーディンの効果発動！これでこのターン魔法、罠の効果を受け付けない！そしてトールの効果でドレッド・ルートの効果を無効！これで攻撃力は元に戻る！くらえ！オーディンでドレッド・ルートに攻撃！ヘヴンズ・ジャッジメント！」

「迎え撃て！ドレッド・ルート！ファイアーズ・ノック・ダウン！」

お互いの攻撃がぶつかり合い、オーディンの攻撃がドレッド・ルートに当たり、ドレッド・ルートの攻撃はオーディンの腹に命中しお互いの攻撃に爆発が起き煙が晴れると両方のモンスターはいなかった

「だけど…この程度で攻略したと思わないことね。罠発動【レベル・レジストウォール】！このカードは自分モンスターが破壊された時発動！破壊されたモンスターと同じLv分だけ自分デッキから同じLvになるようモンスターを2体以上特殊召喚する！この効果でデッキからLv1【レベル・ステイラー】Lv3【魂を削る死霊】Lv1【黄泉ガエル】Lv3【ジャンク・シンクロン】Lv2【ドッペル・ウォリアー】をすべて守備表示で特殊召喚！」

「くそ！ トールで……… 【ジャンク・シンクロン】に攻撃！ サンダー… パイル！！ そしてこれでターンエンド」

「私のターン、ドロー！ 魔法カード【壺の中の魔術書】！ これでお互いはカードを3枚ドロウする！ そして【黄泉ガエル】 【レベル・ステイラー】 【ドッペル・ウォリアー】の3体を生贄にして【邪神アバター】を召喚！」

うわ… これは酷いな…

お互い超下級のモンスターが並んでるし……

攻撃力は4000と3500と4100… これはやばいな

「そしてアバターの効果発動！ このカードの召喚時相手ターンを数えて2ターンの間相手は魔法、罠を発動できない！ そしてこのカードの攻撃力はフィールド上の攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力に100加えた数値になる…… よって攻撃力は4100！」

「そんな！ その効果ってどうやっても戦闘では破壊されないって言うっているもんッス！」

「なんていうカードなの……」

「たとえば【パワーボンド】を使ったサイバー・エンドを出しても攻撃力は8100になり勝てなくなる…… これほど強いカードがあるとは……」

確かにアバターは場に出したら2ターンの間フィールドのほぼすべてを支配する……

大抵の皆さんはライコウでオツケとか、ならずでオツケとか言っ

いるけどそんな簡単に手札にあると思うか!? ライコウだって皆さん本来の使い方は破壊じゃなくて墓地費やしでしょ!? みんな破壊なんておまけと思ってるから手札にそうそうおいとかねえよ! アバターは重いから召喚するのに数ターン掛かるからライコウをセットして場にだすターンと合わないんだよ! ほぼ破壊なんて2ターン待たなければ無理だろ……

「そしてアバターでツールに攻撃! ダークネス・ヘヴンズ・ジャツジメント!」

「ぐっ…まだまだ!」

魁 LP400

「そしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー! ……モンスターをセット…そしてオーディンを守備にしてターンエンド」

「その程度? 私のターン、ドロー! アバターのLVを3つ下げ【レベル・ステイラー】を特殊召喚! そして【レベル・ステイラー】3体を生贄にして: 【邪神イレイザー】を召喚! イレイザーの攻撃力は相手の場のカードの枚数×1000! よって攻撃力は2000: だけどこれだけあれば十分: イレイザーでセットモンスターに攻撃! ダイジェステイブ・ブレス!」

「セットモンスターは【メタモルポット】! これでお互いの手札をすべて捨てその後お互いに5枚ドロー!」

「ふーん…ありがとうね…手札補充してくれて…アバターでオーデ

インに攻撃！ダークネス・ヘヴンズ・ジャッジメント！そしてこれでターンエンド！」

「エンドフェイズにオーデインの効果で墓地の【極星天ヴァルディナ】を除外してオーデインを守備表示で特殊召喚！オーデインの効果で1枚ドロー！そして俺のターン、ドロー！」

次のターンから魔法、罫が発動できる……なるべく守備を固めなきゃな

「モンスターをセット！リバーズカードを2枚セットしてターンエンド！「な・ら♪永續罫【王宮のお触れ】！これであなは罫の効果は無効にされる！」嘘だろう！」

「そして私のターン、ドロー！魔法カード【強欲な壺】！これで2枚ドロー！ここでイレイザーの効果発動！このカードを破壊する！そしてイレイザーのもう1つの効果！このカードが破壊され墓地に送られた時フィールドのカードをすべて破壊する！ブラッド・ゾーン！」

「……………そんな」

「そして！手札から【ジェスター・コンフィ】を特殊召喚！魔法カード【レベル・アワード】を発動！これで【ジェスター・コンフィ】のLVを8にする！そしてLVを3つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】を特殊召喚！そして【レベル・ステイラー】3体を生贄にして【邪神ドレッド・ルート】を召喚！そして装備魔法【神の進化】！これによりドレッド・ルートの攻撃力、守備力を1000ポイントアップ！さらに魔法カード【レベル・アワード】…これで再度【ジェスター・コンフィ】をLVを8に…そして魔法カード【

スターレベル・シャッフル】！これでLv8の【ジェスター・コン
フィ】を墓地に送り墓地に送られたモンスターと同じLvを持つモ
ンスターを特殊召喚！これにより墓地から【神獣王バルバロス】を
特殊召喚！どう！？これで仮に【ネクロ・ガードナー】がいても攻
撃力5000と1500：これでああなたのライフは0！これで終わ
り！バルバロスで魁に直接攻撃！
ダイレクヤタツク

「墓地の【ネクロ・ガードナー】を除外して攻撃を無効にする！」

「やっぱりあったね！【邪神ドレッド・ルート】で魁に直接攻撃！
ダイレクヤタツク
フィアーズ・ノック・ダウン！」

「うわあああああ！！」

「これで私の勝ち「……なんてね」えっ？」

「言っただろう？【ネクロ・ガードナー】の効果を発動したって…
…」

「…どういう…こと…？」

「お前がイレイザーの効果を発動した瞬間墓地の【ネクロ・ガード
ナー】の効果を発動させたのさ…」

「待って！それだとさっきの除外は…」

「その矛盾点の直すのがイレイザーの効果でセット状態のまま破壊
された【ジ・エンド終焉の精霊】……このカードの効果はこのカードが破壊さ
れた墓地に送られた時除外されている闇属性モンスターをすべて墓
地に戻す…ここまで言えばわかるだろう？」

「そういうことか……私がイレイザーの効果を使った瞬間墓地の【ネクロ・ガードナー】の効果を発動し攻撃を無効にする権利が与えられ除外……そしてイレイザーの効果でセット状態で破壊された【終焉の精霊】^{エンドスピリッツ}の効果で除外されている闇属性モンスター【ネクロ・ガードナー】を墓地に戻し私の攻撃を2回とも無効にした……」

「そういうことだ。結構賭けだったよ……お前がもし【レベル・ステイラー】を2体以上召喚してたら俺はこのコンボを使っても負けていた……」

「くっ……メインフェイズ2で速攻魔法カード【神秘の中華鍋】！これでバルバロスを破壊してバルバロスの攻撃力3000をライフで得る！」

サクラ LP 6000

「これでターンエンド！」

「だがエンドフェイズ時に破壊されたオーディンの効果発動！墓地にある【極星】と名のついたモンスター……【終焉の精霊】^{ジ・エンドスピリッツ}の効果で墓地に戻された【極星天ヴァルディーナ】を除外してオーディンを特殊召喚！そしてオーディンの効果で1枚ドロー！そして俺のターン、ドロー！このターンでアバターの効果は消え魔法、罠カードは使用できるようになる……魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【極神皇トール】を特殊召喚！トールの効果でドレッド・ルートの効果を無効にする！そして【極星霊リョースアールヴ】を召喚！この効果でオーディンを指名し指名したモンスターよりLVが低い【極星】と名のついたモンスターを1体手札から特殊召喚する！この効果で【極星霊デックアールヴ】を特殊召喚！オーディンのLV

を1つ下げ墓地から【レベル・スティーラー】を特殊召喚！Lv4
【極星霊リョースアールヴ】とLv1【レベル・スティーラー】に
Lv5【極星霊デックアールヴ】をチューニング！気まぐれなる北
欧の神よ！この地に天災という名の悪戯を招け！シンクロ召喚！北
欧のトリックスター！【極神皇ロキ】！」

「三極神を揃えた……でも！いくら効果を無効にされてもドレッド・
ルートの攻撃力は5000！三極神の攻撃力では誰1人勝てない！」

「だったら1人で戦わず……結束して戦えばいいんだよ！装備魔法【
団結の力】！これをオーディンに装備！これでオーディンの攻撃力
は6400！」

「……私の……負けか……」

「オーディンでドレッド・ルートに攻撃！ヘヴンズ・ジャッジメント
ト！」

「……………来なさい！」

サクラ LP3600

「これで終わりだ！ロキとトールで相手プレイヤーに直接攻撃！」
ダイレクタタック

「きゃあああああ！！！」

サクラ LPー3200

「よっしゃ！勝ったぞ！」

「ああ…負けちゃった…」

結構ギリギリだったな…【ネクロ・ガードナー】と【ジ・エンド スピリッツ終焉の精霊】が無ければ負けてた…

「サクラ…結構楽しいデュエルだった」

「こっちもよ。神と神の対決なんだから…」

しかし疲れたな…

十代達の戦い見ないで寮に帰ろう…

第19話 代表決定戦！激突する極神と邪神！（後書き）

早速次回予告！

代表決定戦も大詰め！

俺の相手は十代！

こいつのチートドローに勝つにはどうすればいいんだ？

次回！【HERO対決！十代VS魁！】

次回もお楽しみに！

第20話 HERO対決！十代VS魁！（前書き）

あけましておめでとうございます！！

神社でおみくじ引いたら小吉が出た雷光です！

ちなみに今日は2本投稿：1本は本編、もう1本は予告とアンケートです。アンケートはなるべく皆さん協力してください！お願いします！！（土下座）

魁「では作者の頼みはスルーして今回の最強カードは【ミラクル・フュージョン】！

墓地の融合素材を除外して融合デッキから【E・HERO】を融合召喚するカード！

このカードは結構強いですよ」

なにが強いってそれは簡単に手札1枚で【E・HERO】が出せるから…

第20話 HERO対決！十代VS魁！

前日の戦いで疲れた俺、宗野魁は再び決闘場デュエルフィールドに來ています。何故なら代表決定戦の最後の戦い…十代と俺の戦いがあるんですよ…

「魁、楽しいデュエルにしようぜ！」

「そうだな、今回俺が使うデッキはお前も楽しめるようにしてるデッキだから期待してろ」

「俺が楽しめるデッキ？ なんだかよくわかんねえけど楽しみだぜ！」

これで勝ったほうが学園對抗戦の代表になるのか…

相手の学園はノース校…：相手誰だろうな…

まあ今はそんなことより十代とのデュエルだな。このデュエルはサクラと違って変な緊張感がないから心が楽だな

「いくぜ魁！」

「いつでもオツケーだ十代！」

「デュエル決闘！」

「俺のターン、ドロー！俺はクレイマンを守備表示で召喚！そしてリバースカードを2枚セットしてターンエンドだ」

普通に様子見か…

リバースカードは2枚…十代のドローセンスから見て1枚は【ヒーローバリア】だな。もう1枚は…：わからん！

「俺のターン、ドロ―！見せてやるよ十代……お前がまだ知らないHEROをな！」

「俺が知らない……HERO……？」

「手札の【沼地の魔神王】の効果！このカードを手札から墓地に捨てる事でデッキから【融合】を手札に加える！そして【E・HEROエアーマン】を召喚！」

「すっげえ！新しいE・HEROだ！これが俺も楽しめるデッキ……うー、超ワクワクしてきたぜ！」

「そしてエアーマンの効果発動！この効果でデッキから【E・HEROザ・ヒート】を手札に加える！そして【融合】発動！手札のエアーマンとザ・ヒートを融合！【E・HEROノヴァマスター】！十代、このヒーローの融合素材は【HERO】と名のついたモンスター1体＋炎属性モンスター1体だ！」

「属性と名前での融合モンスター！？そんなモンスターがいるのか……やっぱワクワクするぜ！」

「じゃあいくぜ！ノヴァマスターでクレイマンに攻撃！ヘル・プロミネンス！そしてこのカードの効果発動！このカードが戦闘で相手モンスターを破壊した時カードを1枚ドロ―する！」

【ヒーローバリア】を使用しない？ということはあれはもつと別のカードか？

「そしてリバースカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【天使の施し】を発動！これでカードを3枚引き2枚墓地に送る！そして墓地に送ったネクロ・ダークマンの効果によりエッジマンを生贄なしで召喚！そしてエッジマンでノヴァマスターに攻撃！」

「ノヴァマスターに攻撃！？相打ち狙いか！？」

「いや違う。リバーiscardオープン！速攻魔法【突進】！これでノヴァマスターの攻撃力を上まったぜ！くらえ！パワーエッジ・アタック！」

「くそ！こうも簡単にノヴァマスターが破壊されるとは……」

魁 LP3300

「そしてこれでターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【手札抹殺】を発動！これでお互いの手札をすべて捨てその後捨てた枚数分ドローする！そして魔法カード【戦士の生還】！これで墓地からエアーマンを手札に加えそのまま召喚！この効果でデッキからオーシャンを手札に加える！そして【融合】発動！手札のオーシャンとスパークマンを融合！【E・HERO Theシャイニング】を召喚！そして魔法カード【ミラクル・フュージョン】！これで墓地のオーシャンとザ・ヒートを除く【E・HEROアブソルートZero】を召喚！シャイニングの効果発動！除外されている【E・HERO】の数だけ攻撃力を300ポイントアップする！これで攻撃力は3200！さあって……早々に決着だ十代！シャイニングでエッジマンに攻撃！オプティカル・ストーム！」

「うわぁ！やるな…」

十代 LP3400

「残りのモンスターでダイレクト直接攻撃！」

「させるとするか！罨発動【ヒーロースピリッツ】！【ヒーロースピリッツ】の効果でアブソルートZeroの戦闘ダメージを0にする！そしてエアーマンの攻撃は通る！ぐわぁ！」

十代 LP1600

伏せカードは【ヒーローバリア】じゃなくて【ヒーロースピリッツ】か！

この程度の戦法も理解できないなんて…くやしいな

「楽しい…楽しいぜ…魁…こんなにワクワクするのは初めてだ！」

そりゃありがとう。このデッキ適当に組んだデッキだからな…使える物は使える感じでガンガン入れていったデッキだからそうやってワクワクするとか言われると嬉しいな

「俺はこれでターンエンド」

「俺のターン、ドロー！バブルマンを召喚！バブルマンの効果で自分フィールドにほかのカードがないので2枚ドロー！そして魔法カード【強欲な壺】！この効果でデッキからカードをさらに2枚ドロー！【融合】発動！これで手札のフェザーマンとバーストレディを融合！【E・HEROフレイム・ウィングマン】を召喚！そして魔

法カード【融合回収】と【戦士の生還】で墓地から【融合】とバーストレディ、クレイマンを手札に加え【融合】発動！バーストレディとクレイマンを融合！【E・HEROランパートガンナー】を準備表示で召喚！ここで魔法カード【天よりの宝札】！これでお互いの手札を6枚になるようデッキからカードを補充する！」

ここで手札増強カード：

相変わらず十代のドロローは怖い、怖い：

「魔法カード【死者転生】を発動！手札のカードを1枚墓地に送り墓地のフェザーマンを手札に加え【融合】発動！フィールドのバブルマンと手札のスパークマンとフェザーマンを融合！【E・HEROテンペスター】を召喚！」

おいおい：レイの時と同じ状況かよ：しかもレイの時と違って手札はまだ2枚残ってるし：

「さらに手札からフィールド魔法【摩天楼―スカイスクレイパー―】を発動！このカードは【E・HERO】が相手モンスターと戦闘しその戦闘モンスターより攻撃力が低い場合攻撃した【E・HERO】の攻撃力を1000ポイントアップする！いくぜ！ランパートガンナーの効果で守備表示の時直接攻撃できる！その場合このカードはダメージ計算時のみ半分になる！ダイレクトアタック魁に直接攻撃！ダイレクトアタックランパート・シヨット！」

「ちょお前待て！ゴハッ！」

魁 LP2300

ランパートガンナーの効果って相手モンスターがいると直接攻撃でダイレクトアタック

きないでしょ！？なんでできるの！？まさかこれも原作効果か！

「そしてテンペスターでシャイニングに攻撃！攻撃力が相手より低いので攻撃力は1000ポイントアップ！カオス・テンペスト！」

「くそつたれ！だがシャイニングの効果で除外されている【E・HERO】を2枚手札に加える！これで除外からオーシャンとザ・ヒートを手札に加える！」

魁 LP1700

「そしてフレイム・ウィングマンでZeroに攻撃！スカイスクレイパーの効果で攻撃力1000ポイントアップ！くらえ！スカイスクレイパー・シュート！」

魁 LP1100

「そしてフレイム・ウィングマンの効果でZeroの攻撃力2500を相手に与え…「それはどうかな？」なんだって！？」

一気に十代のフィールドのモンスターが氷付けになり始めた…その現象に困惑を隠せない十代…まあ当たり前か

「Zeroの効果発動…このカードがフィールド離れた時相手フィールドのモンスターをすべて破壊する！」

「なんだと！フィールドから離れただけで【サンダー・ボルト】と同じクラスの破壊能力を持つモンスターになるのか！？メインフェイズ2でリバースカードをセットしてターンエンド…」

「俺のターン、ドロー！手札から【融合】を発動！オーシャンとフ
オレストマンを融合！【E・HEROジ・アース】！そして魔法カ
ード【ミラクル・フュージョン】！これで墓地のオーシャンとフォ
レストマンを除外して再びジ・アースを召喚！魔法カード【魔法石
の採掘】を発動！手札のカードを2枚捨て墓地から魔法カード【ミ
ラクル・フュージョン】を手札に加える！そして【ミラクル・フュ
ージョン】を発動！墓地のスパークマンと【沼地の魔神王】をフレ
イム・ウィングマンとして扱い除外して融合！【E・HEROシャ
イニング・フレア・ウィングマン】！このカードの効果で墓地の【
E・HERO】の数だけ攻撃力を300アップする！墓地の【E・
HERO】の数は6体！よって攻撃力は1800アップして430
0！そして【サイクロン】！これでお前のリバースカードは破壊だ
！」

「【攻撃の無力化】が…」

最後のカード【攻撃の無力化】か……

しかし総合攻撃力11100……ちよつとやりすぎたかな？まあい
いか…

「そしてすべてのモンスターで直接攻撃！」
ダイレクトタック

「うわああああ！！！」

十代 LP-9500

「この瞬間、学園対抗試合では宗野魁君が出るようになりました。
おめでとう宗野君」

そこら中から『おめでとー！』とか『オシリスなのに代表か！？』

とか言っています

ところでオベリスクブルーよ……色だけで力を判断するのはおかしいぞ…

「だあー……負けたあ……でも、ガッチャー!! 楽しいデュエルだったぜ!」

「そうだな。俺も楽しかった! じゃあ俺もガッチャー! 楽しかったよ十代」

「おう! またやれるといいな!」

十代……別に戦ってもいいんだけど…

やっぱり…その…チートドロの神の加護を捨ててくれ…

そいつがいると…めっちゃくちゃ心に悪いデュエルになるから…

第20話 HERO対決！十代VS魁！（後書き）

今回は短かったですね。すいません。

この次の話は予告＋アンケートなので皆さん是非参加ください。
では次回予告！

学園対抗か……

相手はいつたいどんなやつなんだろうな
今から楽しみだぜ！

次回！【復活のサンダー！】

セブンスターズ編予告＋アンケート（前書き）

2012年を迎えたという記念。

もうすぐセブンスターズ編ということで予告を書きました。

そして予告の後のアンケート、参加してくださると嬉しいです。

セブンスターズ編予告＋アンケート

——それは突然の出来事だった——

『『『セブンスターズ!?』』』

『はい、あなた達にはこの七精門の鍵を守ってもらいます』

——突如渡された鍵——

『よし俺は参加するぞ!』

『なら俺もだ!』

『俺も!』『私も!』

『じゃあ俺も：お前はとうするんだ?』

『私は……パス』

——セブンスターズに戦いを挑む勇敢な7人——

——だが——

『レッドアイズ真紅眼を特殊召喚！さらに魔法カード【黒炎弾】！』

『うわあああああ！！』

『見せてあげるわ：【幻魔の扉】発動！』

——感じたのは——
——死の予感——

『（これが闇のゲーム？こんなに痛くて苦しいのか……）』

——そして駆け巡る戦慄——
——体の自由を奪う恐怖——

『（死ぬ死ぬ……怖い怖い怖い怖い）』

『いやだ…私は負けたくないイイイイ！！』

『（こんな相手にどうやって勝てばいいんだ…）』

——それはあまりにも残酷で——

『彼はあのデュエルで意識不明の重体になりました』

『いくら鍵を持っても持っているやつが瀕死では無いも同然だろう！』

『俺は……この戦いを…降りる…』

——挫折する心——

『いったい俺はどうしたらいいんだ……』

——悔しさに溢れる涙——

『貴様が立ち直れない理由……それは……背負うべき物がないからだ！……！』

『背負う……べき物…』

——与えられた助言——

『俺が……背負うべき物……！』

――迷いが晴れた時――

――そして――

――決着の時――

『さあ！三幻魔の復活だ！』

『いくぜ魁！』

『わかってる十代！いつでも準備は出来てるぜサクラ…』

『そう』

『『『デュエル
決闘！』』』

『これが俺の最強モンスターだあああ！！』

『馬鹿な！こんなモンスターが…』

『俺達は…勝てるのか…？』

『勝てるかじゃない…勝つんだ！！』

セブンスターズ編 予告

とまあこんな感じに今はセブンスターズを書いているんですが……
ここでアンケートを取ります。皆さん参加してくれると嬉しいです。

アンケート内容はこちら←

VSセブンスターズ編ラスボスで自作オリカを出していいか？

1. 出してもいいと思います
2. 出してはいけない

…のどちらかにお願いします。作者の中では自作オリカは出したい
んですけど……ここは読者の意見も取り入れます。
アンケートの返答は感想に書いてください。
ちなみに自作オリカを使うのは魁ではありません、魁はどんな時で
もルールは守ります。そこだけは絶対です。

では皆さん、アンケートにご協力お願いします。

第21話 復活のサンダー！（前書き）

皆さん！今回はついにあいつが来る！
さあ！みんな一緒に！

一！
十！
百！
千！

魁「万丈目：サンダーアー！ツ！！では今回の最強カードは【アームド・ドラゴンLv10！】

このカードは通常召喚できない。自分フィールドの【アームド・ドラゴンLv7】を生贄に捧げることです手札から特殊召喚できる！手札のカードを1枚墓地に捨て相手フィールドの表側表示モンスターをすべて破壊する！

進化すれば結構強いLvモンスターの最終形態！場に出してロマンを味わうぜ！」

第21話 復活のサンダー!

ついにノース校との戦いの日なり皆さん、港で出迎えしてます
校長同士がトメさんがどうこう言っているが……欠かせないってど
ういう事だ?

「ちょっと魁」

「なんだよサクラ?」

「ここだけの話、トメさんが欠かせない理由は……」

……マジかよ……

勝ったほうの学園の校長がトメさんのキスがもらえるとか……
確かにトメさんはいい人だけどキスをもらいたいと思うほどじゃな
いな……

「ところで俺の相手は誰でしょうか、ノース校の校長?」

「ああ彼だよ」

校長が指差すがノースの生徒が4人くらい集まっているが……

「誰が相手ですか?」

「だから彼です」

「誰ですか?」

「だから彼です」

「だから誰ですか？」

「だから彼です」

「だから誰ですか？」

「だから彼です」

「だから誰でs「お前らしい加減にしろ！」誰だ！」

奥から声が聞こえるとノースの生徒が道を開けそこには…

「あっ万丈目」

「『サンダー』…お前の相手は目の前にいる」

「目の前…誰だよ？」

「俺だ！」

「ああ…万丈目か…」

「だから『サンダー』と言っているだろう！」

ほお…ノース校の代表は万丈目…いやサンダーか…

あっ！そうだ、思い出した！確かここでサンダーがアームド・ドラゴンが使うんだ！

でよくわからんがサンダーがサンダーと呼ばれるようになるんだ！

うん？ちょっと意味がわからないな…
あれ？遠くからへりの音が…

「あのマークは万丈目グループの…」

「久しぶりだな！準！」

「長作兄さん！正司兄さん！」

ほほお…あれが万丈目グループかつサンダーの兄さん達か…
その後このデュエルはテレビ中継するらしい…
何故テレビ中継するんだ…

しかしなんでテレビ中継するんだろうな…
一応テレビに出るからな…トイレの鏡で容姿のチェックするか…
あれ十代が前にいる

「よっ、十代。いったいなにしてるんだ？」

「いや…トイレ行こうとして…」

「そうか。俺も行くところだし一緒に行くか」

「そうだな」

しばらく雑談しながら一緒にトイレに行く…
だがその時声が聞こえた

「ダメだ！ダメだ！」

「なんだこの声…」

「しっ！静かにしろ十代」

そうやって俺と十代はトイレの前に静かに移動し…
いるのは万丈目…しかも何か抱え込んでる感じがする…

「ダメだ！くそ…勝て勝て…俺は兄弟の落ちこぼれであるはずがない…勝って勝って勝ち続けるんだ！」

万丈目……

「勝つんだ！明日も明後日もその次もその次の次も……くっ…勝って勝って勝ち抜くんだ！」

……

「誰も俺が背負ってる物の重さなんてわかりやしない……勝てと言っただけだ…いつも…勝てと…」

「……………十代…俺は先に行く…」

「……………わかった」

万丈目…お前がどんなに重い物を背負っているかはわからない…
力になってあげたい…でも…あの言葉から聞くにして…このデュエルで勝たなければいけない…
どうする……このデュエルでわざと負けるか？それとも勝つか？ど

うすればいい…

「ただいまより学園対抗試合が始まります！」

「」「うわあああああああ！！」「」「」

この歓声がうざったい…

みんなは何も知らずに俺達のデュエルを楽しみにしている…

……今すぐ俺はこのデュエルの意味を伝えたい…

でもそれは万丈目の思いを踏みにじることになるかも知れない……

本当に俺はどうすればいい…

「まず紹介するのは本校だいヒョーウ、アンミリテッガーザークス【無限の札製】の称号を持つ決闘者！宗野カイー！」

「頑張るんだな！魁！」

「頑張るッス！」

「対するはノース校…「いらん、俺の名前は俺が告げる。黙って引っ詰めと言ったんだ、オカッパ野郎！」オカッパじゃないノーヨ！」

マイクのコードがクロノスの足に絡まり決闘場から落ちた

デュエルフィールド

どうでもいいけどクロノスいるのか？

「お前達！この俺を覚えているか！この学園で俺が消えて清々した

と思っている奴！俺の退学を自業自得だとはざいた奴！知らぬなら一回聞かせるぜ、その耳かっぽじってよく聞かがいい！地獄の底から不死鳥のごとく復活してきた俺の名は！一、十！

「「「百、千！」「」」」

「万丈目サンダー！」

「「「うわあああああああ！！」「」」」

「「「「万丈目サンダー！！！！」「」」」」

…万丈目…お前…心の中は辛いくせに場を盛り上げる為にこうするとはな…

お前は強いな…いや、自分の心を隠す為にとった行動かな？でも…これだけはわかる…お前は今心の底では辛いってことが…

「俺は！？」

「「「「サンダー！！！！」「」」」」

「万丈目！」

「「「「サンダー！！！！」「」」」」

しかしここまで声が騒ぐとか…

万丈目は相当カリスマがあるな…

「いくぞ、魁！俺はこのデュエル負ける訳にはいかない！」

「…………ああ、わかった」

「^{デュエル}決闘！」

「俺のターン、ドロー！俺は【^{マスクドドラゴン}仮面竜】を守備表示で召喚！そしてリバーズカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！モンスターをセット！そしてリバーズカードを2枚セットしてターンエンド！」

「手札事故か！？（いや…もしかしてまたデッキ破壊か？）俺のターン、ドロー！【ドラゴンフライ】を召喚！そして【^{マスクドドラゴン}仮面竜】を攻撃表示にしてバトル！【ドラゴンフライ】でセットモンスターに攻撃！」

「セットモンスターは【ジャイアントウイルス】！このカードが戦闘で破壊された時相手に500ポイントのダメージを与えデッキから【ジャイアントウイルス】を任意の枚数、攻撃表示で特殊召喚できる！この効果でデッキから【ジャイアントウイルス】を2体特殊召喚！」

万丈目 LP3500

「今度はウイルスデッキか！だが【^{マスクドドラゴン}仮面竜】で【ジャイアントウイルス】に攻撃！」

「ぐっ！やるなサンダー…だが【ジャイアントウイルス】の効果で相手に500ポイントのダメージを与える！」

魁 LP3600

万丈目 LP3000

「俺はこれでターンエンドだ！」

…負ける訳にはいかないか…

こんなデュエル…全然楽しくない…

サンダーはそれでも何かの答えるように戦っている…

俺はそれに答えなければいけない！

「俺のターン、ドロー！【ジャイアントウイルス】を生贄にして【マスクドドラゴン邪帝ガイウス】を召喚！ガイウスの効果で【仮面竜】を除外！そして墓地の悪魔族モンスター【ジャイアントウイルス】3体を除外して【ダーク・ネクロフィア】を召喚！バトル！ネクロフィアで【ドラゴンフライ】に攻撃！」

「ちっ！だが【ドラゴンフライ】の効果発動！このカードが戦闘で破壊された時デッキから攻撃力1500以下の風属性モンスターを1体デッキから特殊召喚する！この効果でデッキから【ドラゴンフライ】を特殊召喚！」

万丈目 LP2200

「そしてガイウスで【ドラゴンフライ】に攻撃！」

「【ドラゴンフライ】の効果で今度は【アームド・ドラゴンLV3】を特殊召喚！」

「ならこれでターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！【アームド・ドラゴンLV3】の効果発動

！スタンバイフェイズにフィールドのこのカードを墓地に送って手札、デッキから【アームド・ドラゴンLv5】を特殊召喚する！この効果でデッキから【アームド・ドラゴンLv5】を特殊召喚！そして魔法カード【レベルアップ！】この効果で【アームド・ドラゴンLv5】を生贄にしてデッキから【アームド・ドラゴンLv7】を無条件で特殊召喚！そして【アームド・ドラゴンLv7】を生贄にして手札から【アームド・ドラゴンLv10】を特殊召喚！Lv10の効果発動！手札1枚を墓地に送り相手フィールド上の表側表示モンスターをすべて破壊する！」

「なっ……こんな簡単にLv10を……」

「そして【アームド・ドラゴンLv10】で魁に直接攻撃！アームド・ビッグ・パニッシャー！」

「あっ……！ぐっ……！今のは効いたぜ……」

魁 LP600

「だがリバースカードオープン！【ダメージ・コンデンサー】！この効果で手札を1枚捨てデッキから受けたダメージ以下のモンスターを1体特殊召喚する！この効果でデッキから【暗黒界の龍神グラファ】を特殊召喚！」

「ならメインフェイズ2でもう1度手札を1枚墓地に送り相手モンスターを全滅だ！」

「あちゃー……【暗黒界の龍神グラファ】が破壊されたか……俺にもう勝ち目はないかな……」

あくまで自然に負けを装う…

こうすればサンダーの考えてる何かに答えることができる…
これがたぶん一番正しいんだ…

「…貴様！いい加減にふざけてデュエルするのもやめろ！この俺がお前が本気を出してないことに気づかないと思ったか！？俺は1度お前と戦ったからわかる！あの時のお前はデッキ破壊を使って俺を馬鹿にしたように見えた！だがそれでもちゃんと闘気は感じた！でもどうだ！今のお前には闘気が感じられない！そんなお前に勝っても俺は…勝ったと思わんぞ！」

……そうか…

俺は馬鹿だ…勝手にサンダーがこのデュエルで勝てればいいと思っ
てた…

だけどそれは違う！サンダーは本気の俺と戦わなければいけない！
例えそれが…サンダーが勝っても、俺が勝っても！

「そうだな！俺はどうかしていた！いくぜ！こっからが本当のデ
ュエルだ！」

「やっとわかったか！」

「ああ！サンダーのエンドフェイズ時に破壊された【ダーク・ネクロ
フィア】の効果発動！相手モンスターのこのカードを装備させて
相手モンスターのコントロールを得る！」

「なら手札から速攻魔法【サイクロン】！これで魔法、罨ゾーンに
置かれた【ダーク・ネクロフィア】を破壊する！」

「くそ！俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【暗黒界の取引】

を発動！デッキからカード1枚ドロし手札の【暗黒界の龍神グラファ】を捨てる！そしてグラファの効果発動！このカードがカードの効果で捨てられた時相手フィールドのカードを1枚破壊する！この効果で【アームド・ドラゴンLv10】を破壊！」

「なっ！うわあああ！」

こっからが…俺の…全力だ！

「リバースカードオープン！【リビングデッドの呼び声】！これで墓地から【暗黒界の狂王ブロン】を特殊召喚！そして【暗黒界】と名のついたモンスター【暗黒界の狂王ブロン】を手札に戻して墓地からグラファを特殊召喚！」

「【暗黒界の狂王ブロン】！？そんなカードいつの間に…【ダメージ・コンデンサー】か！？」

「そうさ！そして【暗黒界の術師スノウ】を召喚！そしてスノウを手札に戻して墓地からグラファを特殊召喚！これで終わりだ！グラダイレクトファで直接攻撃！」

「させると思うか！罨発動【レベル調整】！相手にカードを2枚ドロさせ墓地から【アームド・ドラゴンLv5】を特殊召喚！ぐわあ！」

万丈目 LP1900

「…全力でデュエルする事…そうだった…それを楽しむって事だった！ありがたいなサンダー、気づかせてくれて！これでターンエンドだ！」

「ふっ、これで俺も全力でデュエルできる！俺のターン、ドロー！手札から魔法カード【強欲な壺】を発動！この効果で2枚ドロー！そしてさらに魔法カード【貪欲な壺】を発動！この効果で墓地から【アームド・ドラゴンLv3】Lv7、Lv10と【ドラゴンフライ】2体をデッキに戻しシャッフル！そして2枚ドロー！そして魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【アームド・ドラゴンLv5】を特殊召喚！そして魔法カード【レベルアップ！】これで【アームド・ドラゴンLv5】をLv7に進化させる！そしてLv7を生贄にして【アームド・ドラゴンLv10】を特殊召喚！」

「またLv10か……さすがだなサンダー！」

「【アームド・ドラゴンLv10】でグラフィアに攻撃！アームド・ビッグ・パニッシャー！」

「だが攻撃のやりかたを間違えたな！フィールドの悪魔族モンスターグラフィアと手札のスノウを墓地に捨て手札から【ダークネス・ネオスフィア】を特殊召喚！」

「攻撃力4000だと！」

もしサンダーがLv7の状態で効果を使っていたら負けていた…サンダーのかっこつけが原因でこのピンチを乗り切ったぜ！

「俺はこれでターンエンド！」

「そして俺のターン、ドロー！俺は【暗黒界の狂王ブロン】を召喚！そしてブロンを手札に戻し墓地からグラフィアを特殊召喚！バトル！ネオスフィアで【アームド・ドラゴンLv10】に攻撃！ダーク

ネス・ジ・エンド！」

「うわあああああ！」

万丈目 LP900

「そしてグラフアでサンダーダイレクタタック直接攻撃！ブラック・ジェノサイド！」

「おい！カットだ！カットだ！」

「ちょっと待て！カメラが止まらないぞ！」

カメラが止まらない？なにかトラブルでも起きたのかな？

「ぐわあああああ！！！」

万丈目 LP1800

「準！何故負けた！お前にはカードゲーム界を支配する計画を台無しにしておって…」

「兄さんカメラがまだ回ってる！」

「しまった！」

馬鹿だろう…カメラが止まらないって思いっきり言ってたじゃん…しかし何で止まらなかったんだろうな

「止まらなかった理由…それは私がカメラのシステムを…というかテレビ局のシステムとカメラのシステムを買い取ったから」

「サクラ！」

「元々こうなることはわかってたからね……態々カード売ってお金を稼いでこの時間帯のテレビをすべて買って……このカメラのシステムをすべて買って……いやー……ひと苦労したよ」

サクラが原因か……

でもそのおかげで決闘場全体にブーイング発生

最後に十代がかっこいいこと言って万丈目のお兄さん達を帰らせた……後日、万丈目グループの株価は大暴落……万丈目グループは一気にそのの会社と同じ権力となった……

しかもこのデュエルを機にこのアカデミアにもシンクロのパックを入れるらしい……

1パック450円5枚入り1boxで買うとお値段が300円安くなる！

どうでもいいな……

でさあ……

「何故万丈目がオシリスレッドにいるんだ？」

「しばらくアカデミアから出ていたから出席日数が足りずオシリスレッドになったんだ。しばらくお前の部屋でお世話になる」

「別にいるのはいいんだけどさあ……荷物入れすぎだよ！まずベツドでかすぎだし！タンスいらないし！ソファもいらないし！」

「この俺がこんな庶民的場所に住めるか！」

「今のお前は思いっきり堕ちてるしお前のお兄さんの万丈目グルー
プは庶民会社になってるからそんなプライド意味ねえだろ！さっさと
これ売れ！」

「誰が売るか！」

「だから売れ！」

「売らない！」

「売れ！」

「売らない！」

「売れ！」

「売らない！」

「捨てろ！」

「売ら……捨てない！」

こんな無限ループがしばらく続いた…

結局最後は万丈目が折れベッドは外の万丈目倉庫に置かれた

第21話 復活のサンダー！（後書き）

サンダーにおジャマ・イエロー使わせたかったけど内容の結果使えなかった…

サンダーがおジャマ三兄弟を手に入れたら使ってあげるから…

では次回予告！

大徳寺先生の考えで十代達と課外授業！

遺跡探検…面白そうだな！

でもいきなり世界が…変わって…どういうことだ！

次回！【課外授業！精霊との出会い！】

次回もお楽しみに！

第22話 課外授業！精霊との出会い！（前書き）

今回からセブンスターズ編に突入！

だけど昨日更新できなくて申し訳ございません。

今回の敵は【墓守】だぜ！とか思っていざカード見てみると……

……使い方がわからない……

このデッキのコンセプトを理解するのに1時間消費しデッキ作りに2時間……

そしてその結果生まれた【墓守】はパワー面及び破壊面がどっちも中途半端……

【墓守】は私の性格に合っていないことがわかりました。

魁「結構苦勞したんだな。では今回の最強カードは【墓守の大神官】！

このカードは【墓守の】と名の付いたモンスター1体をリリースして召喚できる！

このカードの攻撃力は墓地の【墓守の】と名の付いたモンスターの数×200ポイントアップする！

このカードが破壊される時代わりに手札の【墓守の】と名の付いたモンスター1体を捨てる事ができる！

作者がわからないということとは俺もわからない！つまりこのカードの有効活用の仕方はわからない！」

では本編にどうぞ

第22話 課外授業！精霊との出会い！

本日は大徳寺先生の錬金術の授業

なんでも中世の人はこうやって金を作ってたとか……あつ爆発した

「でも作れる訳ないんだニャ！」

じゃあやんなよ！

作れないだったらやんなよ！

そしてアカデミアのチャイムになる……

しかし十代……そんな古典的なやり方でよく大徳寺先生の授業寝れたな……

「魁君！このプリントみんなに配ってほしいのニャ」

「案外早く復活しましたね……それでどんなプリントなんですか？」

「今度の日曜に島に眠る遺跡のピクニックに行くのニャ！」

それは面白そうだな……

そういう遺跡とか興味がでてる……

よし！俺行こう！

「大徳寺先生、俺は行きます！その遺跡見に行きたいです！」

「そ、そうですかニャ。ではみんなにプリント配ってほしいニャ」

「わかりました！」

さて、どんなピクニックになるのかな…
これから楽しみだぞ！

で日曜日

「みんな集まってくれて嬉しいのニャー」

「みんなって6人ッスよ。しかもほとんどオシリスレッドだし…」

「馬鹿言え！この俺はオベリスクブルーだぞ！」

「『元』な、『元』」

「お前は少し黙れ！」

大徳寺先生のピクニックに参加したのは7人

十代と翔と隼人と明日香とサンダーとサクラそして俺。サンダーはサクラから聞いた情報、明日香も行くと言ったら即効で行く！って言ったからな

こいつ明日香が好きだな

翔は半ば無理矢理連れて来られて、隼人は興味がある…俺と同じだな、いや大半はこういう理由で来るか

明日香は行方不明になった兄さんの手がかりがあるかもいれないと思っ
て来て、サクラは来ていない

十代はオシリスレッドの義理で来たらしい……でもそのわりには顔が楽しんでるぞ

「この古代遺跡は古代人のお墓とも言われてるニャ」

参考資料を見てみると…こりゃ随分古ぼけてるな…

こういうところって本当になにかあったりするんだよね

「さぁみんな出発だニャー」

「おー！」

「サクラ…前から思ってたけど十代ってうるさいな」

「こういうところでは十代みたいなノリは必要だと思うよ」

「そうですか…」

そう言って俺達は出発した

最初は平面、坂だけかと思ったら岩を登りどう考えても誰かが作為的に作った1本丸太の渡り橋…後途中で明日香のあれが見えた。そのたびにサンダーの顔が赤くなったけど…これは…黙っておこう…言ったら殺される…

そんなことを何回かしていくうちに…

「おお！着いたのニャー！」

「ここがその遺跡というやつか！」

「ほほー、参考資料のやつより迫力あるな…とってもワクワクしてきたぞ！」

「大徳寺先生と万丈目君、魁君は元気ッスね…どうしたらそこまで元気なんスか？」

大徳寺先生は錬術師として

サンダーは明日香に良い所見せたいから

俺は……楽しんで……帰って疲れる感じだな。ほら子供の頃遠足行くと疲れなかったけど帰って家に帰ると一気に眠くなる感じ、あんな風だろう

「本格的に探検する前に昼飯しようぜ」

「えっ！？まさか十代がデュエル以外の事を口に出すなんて……」

「なんだよ。それじゃあ俺が年中デュエルやってるデュエル馬鹿みたいじゃないか」

「「「えっ！？十代ってデュエル馬鹿だろ（でしょ）？」」「」」

「俺ってそんな目でみんなに見られてたのか……」

「しょうがないツスよアニキ。基本の動きがそれだから……」

「そうなんだな」

「で、ではこれから探検前に昼食にしますかニヤ」

「「「よっしゃ！」」」

今日も元気だな、十代……

軽くお前の心にダメージ与えたんだけど物ともしないか……さすが主人公

とりあえずみんな弁当の準備……

しかし大徳寺先生がリュックから出した物は……ファラオ？

「……先生の弁当ってファラオのご飯詰めですか」

「違うのニャ！ファラオに全部お弁当を食べられてしまったのニャ！」

もう体中からズーンという表現が出てる大徳寺先生……

まさかファラオにすべて食べられるとは……哀れだな

しかもさっき弁当は分けないって言ったから十代達も分けない……

この時の明日香の顔が可愛かったのかサNDERがいきなり転がりだしたのは黙っておこうか

あれ？ファラオがなにか彫ってる……

「なに彫ってるんだ、ファラオ？」

「ニャー」

そこにはなんか円盤みたいな形をした物があつた……

へえー……これはもしかしてオーパーツか？それとも古代の遺産か！？

どっちも考古学的に価値があるな……これは持って帰ろう！

そう思って円盤を手にとるといきなり光が……

「ああ！太陽が！太陽が！」

「3つになってるだど！？」

「なんだこの現象！？」

たぶん俺が円盤を手にしたのがきつかけだと思います！

けどそれでも円盤手にした程度で太陽が3つになるとか…これは古代の力だと無理だ現象だろ！？

いや！現代の力を使っても無理だ！今の科学で太陽を意図的に3つにするなんて…無理だ！

とか言ってる間に光が辺りを包み込んで…って皆さんいつの間に遺跡の中に非難したんだ！

光が！光が！こっちに来る！

「——ここはどこだ…」

目を開けたら辺りにはピラミッドがあり参考資料で見た門らしき物がアーチ型の門になっていた…

まさかあの円盤にタイムスリップの効果があるとは…予想外だ

「おーい！魁！大丈夫か！」

「ああ！大丈夫だぞ！…ってそれってハネクリボー！？」

俺が見た先には十代とハネクリボーがいた…

ハネクリボーが精霊って知ってるけど俺は今まで見えなかったぞ！それにその手にあるでかいリュックはなんだ？

「この世界に来たらいきなりハネクリボーが実体化してよ…あれ？魁、お前いつから精霊持ってたんだ？」

「精霊？俺にはそんなものないだろう」

「いやいるぞ。実体化してないけど2体精霊がいて…1体は…なんか疲れ気味の天道虫に…もう1体は…髪が突き通ってる水色で…なんかボロ雑巾みたいな服を着てる女だぞ？」

お疲れ気味の天道虫？なんか想像ついたぞ…

そして髪が水色でボロ雑巾みたいな服を着た女？そんなモンスターあつたけ…

代表としては氷結界の女系カード…いやそこまで女系はなかった気がした。後は…【水霊使いエリア】か？

「疲れ気味の天道虫ってもしかして…この【レベル・ステイラー】か？」

「そう！この天道虫！しかしなんで疲れ気味なんだ？」

「十代は知らないと思うけどこの【レベル・ステイラー】…2体とはいえ入学試験だけで6回も出してすぐに生贄要員としてご退場…しかも【カオス・ソーサラー】の召喚の為に墓地から除外したし…」

「1回のデュエルでそこまで出すとは…そのままだと【レベル・ステイラー】が過労死するぞ」

お前に言われたくないな！

いくら原作知識が少ししか無いとは言え、お前がネオスを過労死させるのは覚えてるぞ！

あれ？でもネオスも1回のデュエルでそこまで出たっけ？そうなる…哀れだなステイラー…

「で、もう1体の精霊ってこいつ「おい！あそこに怪しい奴がいるぞ！」あっそう言えばここが別の世界だって忘れてた」

一気に囲まれた十代と俺

さっき聞いた声で気づいたんだけどこいつら別の世界の人間なのに言葉が通じてる…

これがアニメのご都合主義かい？いや、ドラ○もんの秘密道具でも使ったのか？

どちらもダメだな…アニメでしかできないな…つくづくこの世界が遊戯王だと思うよ

「こいつらを早く連れてゆけ！生きたまま埋めろ！」

「それって死ねってことじゃないかおじさん！どうにかしてそれは何とかならないのか！？」

「デュエルで決着をつけよう」

「やっぱりか」

この世界特有、デュエル万能説は本当にすごいな…

普通なら金をだせば許すとかなか条件をのめば許すとかあるだろう…

あらゆる罪もデュエルで決める…この世界は違う意味でもう終わってる

「だったら魁！このディスクを受け取れ！」

「おう！てかそのリュックの中身デュエルディスクなんだ！？」

「隼人が常に入れてるからな！そのおかげで今回は助かりそうだな！」

隼人：お前はいつもディスクを持って行くのか：

十代達にパシられていないよな？ディスク持てとか部屋の掃除やれとかドローパン買ってこいとか：

うーん……翔ならやりそうだな：

とか考えてる間に決闘場についた……
デュエルフィールド

下のほうを覗くと……サンダー達が棺桶の中に入ってる：

「すみません。このデュエル勝てたらあの棺桶に入ってる人達も解放してくださいね」

「承知した。ただしお前が負けたらその隣にいる少年も生き埋めしてやる！」

「それはおろかな埋葬だな……いやどちらかと言うと早すぎた埋葬だな。でもそんな事勝てばどうでもいいか！」

デュエル
「決闘！」 「儀式、開始！」

こっちの世界だと儀式開始か：

あのおじさんいったいどんなデッキ使うのかな？儀式とか言ってるから儀式デッキか？

まあそんなこと戦えばわかるか

「俺のターン、ドロー！魔法カード【調律】発動！これでデッキから【ジャンク・シンクロン】を手札に加えシャッフル！そしてデッ

キトップのカードを1枚墓地に送る！落ちたのは早速【レベル・ステイラー】かい…」

「魁！もう早速声が泣き始めてきたぞ！」

「俺は精霊とか見えないから召喚しなければわからないよ！そして【ジャンク・シンクロン】を召喚！効果で墓地の【レベル・ステイラー】を特殊召喚！」

『ピーピー！（うわあああん！早速働かせるのかよ！）』

……ステイラーはどうやら本当に精霊みたいだな…

しかもピーピーしか言っていないのになんて言ったかわかる…

すまん【レベル・ステイラー】…今回の戦いでも過労死するかもな

「俺はLV1の【レベル・ステイラー】にLV3【ジャンク・シンクロン】をチューニング！暗黒の力を表のカードにてその姿をさらし出せ！シンクロ召喚！悪夢の囁き【漆黒のズムウェルト】！リバースカードをセットしてターンエンド！」

「ほほお……それが新しい召喚方法シンクロ召喚か…面白い、私のターン、ドロー！モンスターを裏側表示でセット！さらにリバースカードをセットしてターンエンド！」

めずらしくこの世界の住人がモンスターをセットか…
いったいどんなモンスターだ？

「俺のターン、ドロー！…手札のモンスターカード【スピード・ウオリアー】を捨て手札から【クイック・シンクロン】を特殊召喚！

【クイック・シンクロン】のLvを1つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】を特殊召喚！」

『ピー…ピー（お前…結構ひどいな…）』

「大丈夫だって。このデュエル終わったらたっぷり休ませてやる。Lv1の【レベル・ステイラー】にLv4となった【クイック・シンクロン】をチューニング！残骸の中に眠る兵士よ！ここにその力を解き放せ！シンクロ召喚！【ジャンク・ウォリアー】！バトル！【漆黒のズムウェルト】でセットモンスターに攻撃！」

「裏側表示モンスターは【墓守の番兵】！【墓守の番兵】の効果で【ジャンク・ウォリアー】を手札に戻す！」

「【ジャンク・ウォリアー】はシンクロモンスターの為手札に戻らずエクストラデッキに戻る！そして【漆黒のズムウェルト】の効果発動！このカードが相手モンスターを破壊した時相手のデッキの一番上のカード3枚を墓地に送る！」

「ありがたい…そのおかげでいいカードが墓地に送られた…畏れ発動【降霊の儀式】！この効果で墓地から【漆黒のズムウェルト】の効果で墓地に送られた【墓守の大神官】を特殊召喚！」

相手のデッキは【墓守】か…

【墓守】の特徴ってなんだっけ？有名なカードじゃないから効果はいまいち知らないな…

「【墓守の大神官】の攻撃力は墓地の【墓守の】と名の付いたモンスター1体につき200ポイントアップする！墓地の墓守は3体！よって攻撃力は2600！」

「俺はこれでターンエンド」

「私のターン、ドロー！私は魔法カード【早すぎた埋葬】を発動！この効果で墓地から【墓守の暗殺者^{アサシン}】を特殊召喚！そしてフィールド魔法【王家の眠る谷―ネクロバレー】を発動！」

辺り一面が岩山に囲まれていく…

うわあ！俺の足元が狭！結構危ないな！

「さらに【墓守の暗殺者^{アサシン}】を生贄にして我自身を召喚！」

「―じ、自分自身？」

召喚したと同時におじさんは消えモンスターゾーンに現れた…

あのおじさんモンスターだったんだ

「我自身の効果で墓地から【墓守の末裔】を特殊召喚！そして末裔の効果で我自身を生贄にして相手のモンスター【漆黒のズムウェルト】を破壊する！」

「なんだと！」

また消えて所定位置に出てきた！

あの人軽く疲れるだろ

「【王家の眠る谷―ネクロバレー】の効果で【墓守の】と名の付いたモンスターの攻撃力、守備力は500ポイントアップする！そして墓地の【墓守の】と名の付いたモンスターは3体！よって【墓守の大神官】の攻撃力は3100！そして【墓守の末裔】の攻撃力は

2000！これで終わりだな！【墓守の末裔】で直接攻撃！」
ダイレクサタック

「うぐっ！これは…本当の衝撃…？」

魁 LP2000

「そして【墓守の大神官】で直接攻撃！」
ダイレクサタック

「罨発動！【ガード・ブロック】！このカードの効果により戦闘ダメージを1度だけ0にしてカードを1枚ドロウする！」

「ならメインフェイズ2で魔法カード【天よりの宝札】！お互いの手札を6枚になるようデッキからカードをドロウする！そして魔法カード【王家の生け贄】！この効果でお互いの手札のモンスターカードをすべて墓地に送る！私の手札のモンスターカードは5枚！よって【墓守の大神官】の攻撃力はさらに1000ポイントアップ！」

「俺の手札にモンスターカードは4枚…よってこれらすべてを墓地に送る…」

「私のターンはこれで終了だ。一応説明しておくが【王家の眠る谷―ネクロバレー―】は墓地を対象にする魔法、罨、モンスター効果は無効化され墓地のカードを除外することもできない！」

なっ…それだと手札にある【死者蘇生】が使えない…しかももう1枚の手札は【貪欲な壺】…どっちの効果も使用できない…

つまりほとんど俺の手札は偽似ハンドレス…このドロウにすべてが掛かってる！

「……俺のターン…ドロウ！」

この手札だと何もできない…【王家の墓―ネクロバレー】の効果は墓地を対象にする魔法、罠、モンスター効果を無効にする効果………待てよ…『墓地を対象』にする効果？

「なるほど…つまり…これは可能って訳か！墓地の【黄泉ガエル】の効果発動！スタンバイフェイズ時に自分フィールドに魔法、罠が無かった時墓地からこのカードを特殊召喚できる！」

「馬鹿な！ネクロバレーの効果で墓地の効果は無効になるはず…」

「ああ！『墓地を対象にする効果』は無効になるけど『墓地で発動する効果』は無効にできないんだよ！蘇れ【黄泉ガエル】！そして墓地の【グローアップ・バルブ】の効果発動！デッキの一番上のカードを墓地に送って墓地から【グローアップ・バルブ】を特殊召喚！」

「まさかこんな方法を使ってこの状況を突破するとはな……」

「そして手札の【貪欲な壺】を捨て手札から【THEトリッキー】を特殊召喚！Lv1【黄泉ガエル】とLv5【THEトリッキー】にLv1【グローアップ・バルブ】をチューニング！黒薔薇の竜よ…俺にすべてを無に化す力を与えよ！シンクロ召喚！咲き乱れよ【ブラック・ローズ・ドラゴン】！【ブロック・ローズ・ドラゴン】の効果発動！このカードのシンクロ召喚時フィールド上のカードをすべて破壊する！これでお前のカードをすべて破壊する！ブラック・ローズ・ガイル！」

「そんな…馬鹿な…」

「そして魔法カード【死者蘇生】を発動！これで墓地から【ブラッ

ク・ローズ・ドラゴン】を特殊召喚！【ブラック・ローズ・ドラゴン】で墓守の長に直接攻撃！憎しみの象徴、ブラック・ローズ・フレア！」

「ぐわあああ！」

墓守の長 LP1600

「これでターンエンドだ」

おじさんが【王家の生け贄】を使ってくれたおかげで逆転できたな…使ってなかったらLv6になっていた…俺は【氷結界の竜ブリューナク】は使わないから負けてたな…

「私のターン、ドロー！モンスターを裏側表示で召喚！これでターンエンドだ！（私が召喚したモンスターは【墓守の偵察者】…これで時間を稼ぐ！）」

「俺のターン、ドロー！【ブラック・ローズ・ドラゴン】の効果発動！墓地に存在する植物族モンスター【グローアップ・バルブ】を除外して相手守備表示モンスターを攻撃表示にし攻撃力を0にする！ローズ・リストラクション！」

「なんだと！」

「すげえ効果だな魁！」

「これで助かるんだな！」

「よかったニャー！」

「よし！これで勝ちだ！」

各々感想を出すな！もうすぐデュエルが終わるんだから！

セットモンスターは【墓守の偵察者】……番兵じゃなくてよかった

「【ブラック・ローズ・ドラゴン】で攻撃力が0となった【墓守の偵察者】に攻撃！ブラック・ローズ・フレア！」

「うわあああああ！！！」

墓守の長 LP—800

ふうー…だいぶきつかったな…

ネクロバレーの効果を教えてくれたからいいけど教えてくれなかったら知らずに【貪欲な壺】使って負けてたぞ…

あのおじさん……もう少しタクティクスを学んだほうがいいな

「さあて…下の仲間達を解放してもらおうか」

「わかった…皆の者、ただちに下の者達を解放してやれ！」

「「わかりました」」

「翔達を助けてくれてありがとな！」

「うるさい十代！少し黙れ！」

たく……相変わらず十代はうるさいな……
でもこんなうるさいやつでもいなくなったら寂しいよな……

「……何故お前はこのデュエルを受けた後笑ってられる？」

「おじさん……それは仲間だからさ」

「仲間？」

「ああ、確におじさんとのデュエル1回だけの攻撃とはいえ実際痛かったしな……でもデュエル自体は楽しかったしなにより仲間が大丈夫で安心したんだ」

「……少年よ……これを受け取れ」

おじさんから渡されたのはあの触った円盤がまるで半分になった感じ……てか同じやつが出てきた……

「これは？」

「これは——」

「話が長くなりそうなので遠慮します。それよりも帰る方法を教えてください」

「むっ……帰る方法なら天の光——」

無駄に長いので省略

つまり3つの太陽が重なれば光の膜ができてその間にアーチ型の門をくぐれば帰れるらしい……

その後コピペのように大量生産された墓守の兵士が現れ裁こうとしたが隣にいた暗殺者^{アサシン}が道を開けてくれた
名前はサラだそうだ：なにかうんぬんかんぬん言ってるけどスルー

「最後に1つ：これを聞いてほしい：」

「なんでしょうか」

「あなたが持つ精霊：今、あなたの目にはその天道虫しか映ってないでしょう：」

「そうですね」

「ですが：もう1つ精霊：彼女はきっとあなたの力になります：必ずその精霊を大事にしてください」

そういえばもう1体の精霊いたな：

確か髪が透き通った水色で服がボロ雑巾の女なんだっけ？

「わかりました。ではさようなら！また会える事が会ったら会いましょう！」

そう言って俺達はアーチ型の門に走る

その途中隼人が転んだけどその直後デスコアラが現れた：ってえっ！？デスコアラって精霊！？

しかもそのまま隼人を背負ってデスコアラは走り出した：速いな：こうして俺達の不思議な遺跡探検は終了した：

『ピーピー（今後あまり俺のこと使わないでくれ：疲れそうなんだ）』

「わかった。過労死させないように頑張るよ」

「いったい誰と話してるんツスカ？」

「構わん、放っておけ」

また数日間みんなから生暖かい目で見られるようになった…

やめて…そんな目で俺を見ないで…

しかしサラが言った言葉…もう1つ精霊が力になるってどういうことだ？

とにかくどのカードがわからないけど大切にするか

第22話 課外授業！精霊との出会い！（後書き）

次回予告！

校長室に俺達と呼ばれた！？

どうやら用件は鍵を守ってほしいとのこと…

よし！俺はその任務受けるぞ！

次回！【逆鱗する真紅眼！】

次回もお楽しみに！

第23話 逆鱗する真紅眼！（前書き）

タイトル通り…あの真紅眼がでるよ！

魁「どうでもよろしい。今回の最強カードは【真紅眼の黒竜】！
ただのバニラでLv7で攻撃力2400だけどこいつの進化系はや
たらと使えるぞ！例えば……レダメくらいしか無いな？でも専用の
魔法【黒炎弾】はライフ4000だと破格の威力をもつぞ！」

では本編にどうぞ

第23話 逆鱗する真紅眼！

——キン、コーン、カーン、コーン

「ああー…やっと昼ご飯か……ところでサンダー、昨日の嵐すごかったな」

「そうだな。あの嵐のせいで俺の倉庫が大打撃をくらったぞ」

それはなんとも不幸だな…

サンダーになった結果お前はギャグ要員にされたからな…

なんか気になったので十代のほうを見ると……何故あいつは頭にあんな可愛らしいお面をつけてるんだ？まさかまた授業中に寝たのか…十代が弁当を食べようとした直後大徳寺先生が十代に校長室に行つてほしいとのこと…

サンダーが退学とか言ってるけどそれはお前のことだ。お前が出席日数が悪いからな……

とか思ったら明日香、サンダー、三沢…あれ？珍しく三沢の名前に妨害が無い？

ともかく明日香、サンダー、m「後それに魁君にサクラさんもニヤ」いつも通りの妨害だな

校長室に行く途中大徳寺先生も呼ばれたらしい…いったいなにをするつもりだ？

そして校長室の前でカイザーとクロノス教諭に遭遇…どうやらカイザー達も呼ばれたらしい

そんで校長室に入ると……

「三幻魔のカード？」

そういえばこちらへんで三幻魔出るんだった：

確か相手は……仮面……筋肉ムキムキ………後の連中忘れた……

校長がうんぬんかんぬん説明中：

古よりとか言ってるけどこの学園そんな前からあったっけ？

しかもそのカード狙って戦いを挑んできた連中がいるらしい……その名も……

「「「セブンスターズ！？」「」」」

「はい、全く謎に包まれた7人ですが……すでにその内1人がここに侵入してるそうです」

警備員仕事しろ！

そんなどう考えても怪しい奴普通にわかるだろう！

しかも昨日定期船なんて来ないから空または海から来たし！ばれな
い時間帯は夜しかないし！

昨日の夜嵐だし！よくこれたな！普通は死ぬだろう！

校長の説明を聞いてこの七星門の鍵を守ってほしいらしい……

「守ると言っても………いったいどうやって」

「もちろん……デュエルです」

……鍵捨てればいいじゃん……または壊す、折る、粉碎、破損させる
とか……あっ全部同じか

再び校長がうんぬんかんぬん言い出した……つまり学園屈指の決闘者
を集まってもらったらしい……
デュエリスト

そして校長が鍵のケースを開けると……
………これは………鍵なのか？

「おもしれえ！よし、俺は参加するぜ！」

「なら俺も参加する」

「俺もだ！」 「私も！」

「……じゃあ俺も……お前はどうするんだ？ サクラ」

「私は……パス」

ほうほう……結構用心深いですね……

その後、三沢大地とクロノス教諭が取った……これで大丈夫だろう

十代がいつから行くとか言ってるけど俺はどうでもいい……

俺はそのまま校長室から出た……

しかし……サラが言っていたもう1体の精霊ってなんだ……？
あなたの力になるって……どういう意味だ？

「おい、魁。さっきからなにポケーつとしてる。いつ敵が俺達に戦いを挑むかわからないぞ」

「そうだな……俺は今、もう1体の精霊の事を考えてて……」

「もう1体の精霊？お前の精霊はその天道虫だけじゃないのか？」

「ああ、どうやらそうらしい…」

気になって気になって仕方が無いけど時間が経てば次第にわかるだろう…

そう思って俺は寝た……のだがいきなりおじさんからもらったあの円盤が光りだして…

「うわ！眩しい！これはいったいなんだ魁！」

「知るか！って光があー…！！！」

…

…

…

…

「——ここは？」

またあの世界に來たかと思っただけよく見たら火山の中…下には今にも破けそうな光の膜が…
いきなり炎から人が！

「誰だ、お前！」

「我が名はダークネス…セブンスターズの1人…宗野魁…貴様が最初の相手だ」

「ふうーん……」

「何故かわからんがこのペンダントに導かれた……だがほしいのはその胸に揺れる七星門の鍵！」

「あっそ。そんな事知ってるよ。早くデュエルやるぞ」

「いい忘れたがこのデュエルで負けた者はこのカードに封印される……」

出されたのはペガサスが海馬社長の魂を入れたあのカード……これはヤバイだろう……

「そしてお前が負けるまたは特定時間内に勝たないとあそこにいる男は死ぬ！」

『ここから出せー！』

サンダー……お前も巻き込まれていたのか……
とりあえずダークネス、サンダーは鍵を持ってるぞ？ 死んだら鍵丸ごと無くなるぞ？ それでもいいのか？

「その条件でやる意味はないと思うけど……いいだろう！ 受けてやる！」

「そう来なくては……」

「「決闘！」」
デュエル

「俺のターン、ドロー！魔法カード【手札抹殺】！これでお互いの手札をすべて捨て捨てその後捨てた枚数分デッキからカードをドローする！モンスターをセット！これでターンエンドだ！」

「私のターン、ドロー！【スピア・ドラゴン】を召喚！【スピア・ドラゴン】でセットされてるモンスターに攻撃！」

「セットモンスターは【ライトロード・ハンター ライコウ】！効果により【スピア・ドラゴン】を破壊！そして俺はデッキの上から3枚墓地に送る！」

「だが【スピア・ドラゴン】には貫通能力がある！【スピア・ドラゴン】の攻撃力は1900、ライコウの守備力は100！その差1800をくらってもらおう！」

「ぐわあ！！」

魁 LP2200

体中がいてえ：

…おじさんの時より遥かにいてえ：

「ふふ、苦しいだろう…それはこれが闇のゲームだからだ！もっと足掻き苦しんでもらうぞ。私はリバーズカードを2枚セットしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！魔法カード【光の援軍】を発動！これでデッキの上のカードを3枚墓地に送りデッキから【ライトロード・ハンター ライコウ】を手札に加え魔法カード【ソーラー・エクステンジ】！この効果で手札に加えたライコウを墓地に送り2枚ドロ

ー！そしてデッキの上のカードを2枚墓地に送る！そして【ジャンク・シンクロン】を召喚！【ジャンク・シンクロン】の効果で墓地から【ドッペル・ウォリアー】を特殊召喚！Lv2【ドッペル・ウォリアー】にLv3【ジャンク・シンクロン】をチューニング！残骸の中に眠る兵士よ！ここにその力を解き放て！シンクロ召喚！【ジャンク・ウォリアー】！そして【ジャンク・ウォリアー】の効果にチェーンしてシンクロ素材にされた【ドッペル・ウォリアー】の効果発動！自分フィールドにLv1で攻撃力400の【ドッペル・トークン】を生成！そして【ジャンク・ウォリアー】の効果！シンクロ召喚時自分フィールドのLv2以下のモンスターの攻撃力の合計分、このカードの攻撃力をアップさせる！攻撃力は3100！バトル！【ジャンク・ウォリアー】で直接攻撃！スクラップ・フィスト！」

「永続罠【正統なる血統】を発動！これで墓地から【手札抹殺】の効果で墓地に送られた【真紅眼の黒竜】レッドアイズ ブラックドラゴンを特殊召喚！ぐうっ！」

ダークネス LP3300

「そして真紅眼レッドアイズが破壊されたので罠発動【レッドアイズ・スピリッツ】を発動！この効果で真紅眼レッドアイズを特殊召喚！」

「くそ！リバースカードを2枚セットしてターンエンド！」

「私のターン、ドロー！魔法カード【黒炎弾】を発動！このターン真紅眼レッドアイズの攻撃を放棄して相手のライフに2400ポイントのダメージを与える！」

「！速攻魔法【神秘の中華鍋】！この効果で【ドッペル・トークン】を生贄してライフを400回復する！うわあああ！」

魁 LP200

あ…熱い…苦しい…

こんなデュエルをいつも遊戯や十代…遊星はやっているのか…？

「かろうじて生き延びたか…だが真紅眼は進化する！レッドアイズ ブラックドラゴン【真紅眼の闇竜】を生贄して^{レッドアイズ}【真紅眼の闇竜】を特殊召喚！闇竜の効果発動！墓地のドラゴン1体につき攻撃力を300ポイントアップさせる…私の墓地のドラゴンは5体！よって攻撃力は3900！^{レッドアイズ}闇竜で【ジャンク・ウォリアー】に攻撃！^{レッドアイズ}ダークネス・ギガ・フレイム！」

炎がこっちに迫ってくる

いやだ…死にたくない…気がつけば俺の右腕が震えている…

初めて直面した死の恐怖…どうしようもない恐怖…今まで俺は心のどこかで闇のゲームでもデュエルモンスターズは遊びだっと思ってた…

だが今の状況はどうだ？今の俺の目の前に死の恐怖がある…死ぬ死ぬ…怖い怖い怖い！死にたくない！

「墓地にある【ネクロ・ガードナー】の効果発動っ！！【ネクロ・ガードナー】を除外して相手モンスターの攻撃を無効にする！」

「生き残ったか…私はリバーズカードをセットしてターンエンド」

「俺のターン…ドローっ！！俺は【グローアップ・バルブ】を召喚！そして自分フィールドにチューナーがいるので墓地から【ボルト・ヘッジホッグ】を特殊召喚！Lv5【ジャンク・ウォリアー】とLv1【ドッペル・トークン】とLv2【バルト・ヘッジホッグ】にLv1【グローアップ・バルブ】をチューニング！氷結界に伝わ

りし伝説の槍よ！竜の姿になりてフィールドに裁きを下せっ！！シンクロ召喚！【氷結界の龍トリシューラ】！トリシューラの効果発動！相手のフィールド、墓地、手札のカードを1枚ずつ除外する！フィールドの効果で闇竜を除外っ！！墓地のカードで真紅眼レッドアイズを除外っ！！手札のカードはランダムに除外っ！！」

「なっ…一気に場のカードが…」

俺は……負けたくない！！死にたくない！！

「トリシューラでダークネスに直接攻撃っ！！」
ダイレクトアタック

「ぐおおおっ！！」

ダークネス LP600

「リバーズカードをセットしてターンエンド！」

「ここまでの力が出せるとは…どうやら人質はいらなかったようだな……私のターン、ドロ―！魔法カード【強欲な壺】を発動！これでデッキからカードを2枚ドロ―！そして永続罠【闇次元の解放】！これでゲームから除外されてる【真紅眼の黒竜】を特殊召喚！そして魔法カード【融合】発動！手札の【メテオ・ドラゴン】と【真紅眼の黒竜】を融合！【メテオ・ブラックドラゴン】を融合召喚！これをくらえ！【メテオ・ブラックドラゴン】でトリシューラに攻撃！メテオ・フレア！」

「罠発動【弱体化の仮面】！これで相手モンスターの攻撃力をエンドフェイズまで700ポイントダウンさせる！ぐわああああっ！！」

魁 LP100

意識が…朦朧としてる…

視界が霞む…でも負ける訳にはいかない！

「俺のターン、ドロー！リバーズカードオープン！【針虫の巣窟】
！これで俺のデッキの上のカードを5枚墓地に送る！俺にチェー
ンして速攻魔法【非常食】！これで俺のライフは1000回復！」

魁 LP1100

「そして魔法カード【死者転生】…！！手札の【ライトロード・ビ
ースト ウォルフ】を捨て墓地から【ジャッジメントドラグーン裁きの龍】を手札に加える！
そして！墓地の【ライトロード】の種類はライコウ、ライラ、ウオ
ルフ、ジェイン、ルミナスの4種類以上が存在するので【ジャッジメントドラグーン裁きの龍】
の効果発動！ライフを1000払いフィールド上のこのカード以外
のカードをすべて破壊する！ライトロード！」

魁 LP100

「そんな馬鹿げた効果があるのか！！？」

ライフコストでも痛い…

体中から力が…でも…これで…俺の勝ちだ！！

「【ジャッジメントドラグーン裁きの龍】で攻撃！クリエイト・ジャッジメント！」

「ぐわあああああああ！！！！」

ダークネス LP2400

か…てた…だけど足にも手にも力が…
視界が…くら…く…な…

万丈目Side

魁があゝの仮面野郎を倒して俺達は火口のすぐ近くに転送された
いったいどうやって転送してるんだ？そんなことを考えてるうちに
十代達がこっちに来た

「サンダー！大丈夫だったか！？」

「ああ俺は大丈夫だ。だが魁が…」

あいつは地面で横になっている…あそこまで攻撃をくらったんだ、
無事ではないだろう

天上院君が魁の安全を確かめているが…羨ましいな…
どうやら大丈夫らしい…よかった…

天上院君が仮面野郎のところに向かうと驚くべき事実、仮面野郎の
正体は天上院君のお兄さん、天上院吹雪だった…

第23話 逆鱗する真紅眼！（後書き）

次回予告！

死の恐怖から離れられない魁！

体中が痛くて苦しい…

そんな彼が出した答えは…！？

次回【折られた気持ち】

次回は少しシリアス風味かもしれません。

第24話 折られた気持ち（前書き）

ごめーん、待ったー？ ☆（周りがメルヘンチックなり走る作者＋女の子走り）

魁「キモッ！！！！！！」

うん、キモイね。更新遅くなって申し訳ございません。

今回はこれと言って理由がありません。久々にゲーム弄ってたらドラクエ7が出てきたからやってしまったり昨日、秋葉原に行って韓国版のブラパック買ったり：DTパック買ったり：ヘルカイザー編買ったり：ゴールドシリーズ2012、1box買って開闢でたり……ところで何故今年のゴールドは【ウィジャ盤】入ってるの？これは今年以降は【帝】と同じで【死のメッセージ】枠か？だとしたらいらねえ：すべて3枚ずつ持ってるし：

魁「放っておいて今回の最強カードは：【サイバー・エンド・ドラゴン】

【サイバー・ドラゴン】3体の融合で融合召喚される正しくエンドに恥ない実力を持つ機械竜！

効果は守備貫通のみのシンプル効果！だが【リミッター解除】とかを使って攻撃力を上げれば1k i l l も可能！」

ゲームで1回【パワーボンド】 【リミッター解除】 【魔法石の採掘】使いう1度【リミッター解除】のコンボ使って攻撃力を32000にCPUがやりやがった：

でも【魔法の筒】で跳ね返したんだけど

第24話 折られた気持ち

十代Side

あの日から魁は保健室で絶対安静状態になっている：鮎川先生いわく『彼は意識不明の重体になりました：峠は越えたから大丈夫だと思うけど……みんなは無理しないでね』と言っていた：

魁がこの闇のゲームの恐ろしさを俺達に教えてくれた：あのいつも強くて元気でデュエルを楽しんでる魁があんな状態になるなんて：

しばらく廊下を歩いていると校長室に来ていてその扉の前に万丈目と明日香、サクラが集まっていた：

「みんな、どうしたんだ？」

「決まっているでしょ。今回のデュエルを校長に教えようと思って」

「天上院君と俺も同じ、その事を校長に教えに行こうとしてる」

「私も同じ理由で。今回のデュエルで校長に教える事があって…」

「じゃあ俺も行く。俺もこの結果を教えようと思う」

たぶん俺はみんなと同じ事を思っていたらここに来たと思う…だから俺も行くぞ！

そしてみんな校長室に入った

「校長先生」

「…なんだい…サクラ君…」

「校長先生はすでにあの話は聞いていますか？」

「はい…聞いています…」

「今回のデュエルで魁は『意識不明の重体』を負いました。そう『意識不明』の…この意味は校長先生だったらわかりますよね？」

黙って聞く俺達…サクラは『意識不明』の部分を強調して言う…

その言葉を聞いて校長の顔が暗く沈んでいく…

「いくら十代達が七星門の事を言ってなんの躊躇わず取った事に非があります…でも…その前に1つ聞きたい事があります…」

「…なんででしょう…」

「あなたは…生徒の事をどう思いますか？」

「…大切な存在です…」

「だったら…！」

いきなりサクラが服の掴み校長先生を殴ろうとして…っておい！

「落ち着けてサクラ！なんで殴ろうとすんだよ！」

「この馬鹿な校長にイラッとしたんだ！大事ならなんで生徒を巻き

込んだ!! 巻き込むのは古のしきたりだから!!? そんな古い考えなんてどうでもいいでしょ!! 『本当』に生徒が大事ならこの鍵を壊せばよかったんだ!! 海に捨てればよかったんだ!! 生徒に守らせるんじゃないくて海馬や遊戯とかに持たせればいいでしょ!!」

サクラはいままで溜まっていたなにかを吐き出すように一気に自分の思いを伝え始めた:

でもサクラの言っている事はあまり不思議ではないが……サクラの気がおかしい? なんでこんなにサクラが狂いだしたんだ?

「それに私は知っている!! あなたがカイザー亮のサイバー流の師匠である事を!! サイバー流は第一にリスペクトってことも!! あなたはデュエルにリスペクトをしてればいいのか!!? 違うでしょ! デュエルだけではなくほかの人の命もリスペクトしなさいよ!! それが大切であれば大切であればあるほど!! 身近であれば身近であるほどリスペクトしなさいよ!!」

ついには泣き出しながらサクラは校長に言い出す:

今日のサクラはおかしい: いつもはみんなとそれなりの交友関係を築いて弱気を出さず……むしろ落ち込んでる生徒を励ましたりしていた:

「所詮あんたの『大事』ってその辺の子供の宝物と同じよ……夢は詰まっているかもしれない: でも時が経つにつれてその事を忘れる!! 違う物に興味を示す様になりそれを求める!! あなただって最初はサイバー流全員の事を見ていた!! だが時が経ちあなたはカイザー亮しか見なくなっていた!!」

「おい! 天城君! 話が全然関係がなくなっている!!」

「はあはあ…はあ……………ありがとう万丈目……………私少しどうにかしていた…」

そう言ってサクラは落ち着き後ろに下がった…

まあとにかく話すこと話すこと！なんだけど…話が出しにくい…

「校長、それで魁が意識不明の重体になりましたが…その…鍵のほうはどうなるんでしょうか？」

ナイスだ、万丈目！よくこの少し重い空気を出したな！

「魁君は予定通絶対安静…鍵は彼本人に聞いて、どうしようか決めましょう」

「そうですか」

「そして最後に1つ…この島に吸血鬼が来たらしいです……………セブンスターズかも知れませんが皆さん気をつけて」

「「わかりました」「おう！」「…はい」

みんな校長に一礼して部屋を出た…

「サクラ…あなた今回、結構荒れていたけどどうしたの？」

「なんでもない……………ところで万丈目はどうして鍵の件を話したの？」

「いくら鍵を持っていたても持っている奴が瀕死では無いも同然だろう！敵は恐らく魁を最初に狙う確率が十分にある！それだけだ！」

「そうですか」

みんなそのまま解散…

このまま購買で見舞いセット買って魁に渡しに行こうっと！

魁Side

ここは……

「…知らない天井だ」

「あら！目が覚めたの魁君！」

「鮎川先s…痛っ！！」

体中がいてえ……いったいどうしたんだ？

「動いちゃダメよ！絶対安静なんだから！」

「絶対…安静…？」

……思い出した…確か俺はダークネスと戦って…デュエルで勝ったんだ…

確かダークネスのデュエルは…痛かった…でもそれだけじゃなかった気がする…

「おい！大丈夫か魁！」

「半分くらい大丈夫だぞ、十代」

「そうかよかった…これ買って来たから一緒に食おうぜ！」

渡されたのはフルーツセット…俺は病人か？病人だけど…
ほかには痛み止めか…十代にしては気が利いてるな

「ありがたいな、十代…ところでセブンスターズの情報が入ったのか？」

「ああ、一応あるぞ」

吸血鬼がこの島に来たらしい…
どう考えても怪しいだろう…セブンスターズの1人だろうな

「十代…まだ体が大分痛むからまた寝るな。情報が入ったら教えてくれ」

「おう！任せとけ！」

いてて…こりや大分きてるな…

しかしこの痛みだけじゃなかったはず…もっと違う物を浴びた気がするんだが…

とにかく痛いから痛み止め飲んで…お休み…

翌日、十代から吸血鬼ことカミューラはクロノス教諭とデュエルし勝ってクロノスを人形にした…

そうだ…ダークネスの戦いの1つ…闇のデュエル…負けたほうがカードに魂を封印される戦いだったな…

だがまだ記憶の片鱗に残るなにかが気になりカイザーの戦いの時に俺も無理言っ て見に行けるようにしてもらった

でも俺は気がつかなかった…来なければその記憶の片鱗が蘇ることはないのに…

しかし来て見ればでかい城だな…わずか1日でこんな物建てたのか？
いったいどうやって？とか思っていたら始まった…

最初のターン、カミューラは【ヴァンパイアレディ】を召喚しリバースカードをセット…よくある初手の一手だな

カイザーのターン…いきなり【パワーボンド】を使ってサイドラ3体融合【サイバー・エンド・ドラゴン】を出した…積み込みしたな！それでもカイザーか！後いくら守備貫通ついているとはいえ2回攻撃できる【サイバー・ツイン・ドラゴン】のほうが無敵強いぞ？
仮にカミューラのリバースカードが【激流葬】でも先に手札に残る【サイバー・ドラゴン】を特殊召喚…そんで使ったら使ったらでオツケー…そしてその後【パワーボンド】を使うな…

そして攻撃したがカミューラがリバースカード【妖かしの紅月】レッドムーンで手札のアンデッド族を捨て攻撃を無効にしバトルフェイズを終了…さらに【サイバー・エンド・ドラゴン】の攻撃力8000をライフに加えライフが12000となったかと思ったがカイザーは【融合解除】を使い原作効果の【パワーボンド】の効果を無力化しつつ【

妖かしの紅月^{レッドムーン}】のライフ効果を無効にした…そしてリバーズカードをセットしてターンエンド…

カミューラのターン…レディを生贄にして【ヴァンパイアロード】を召喚そのまま生贄にして進化系の【ヴァンパイアジェネシス】を召喚。そして攻撃。だがカイザーは【アタック・リフレクター・ユニット】で【サイバー・ドラゴン】を【サイバー・バリア・ドラゴン】に進化させ効果で攻撃を無効。そのままカイザーのターン……
エンド宣言してないぞ

魔法カード【フォトン・ジェネレーター・ユニット】で【サイバー・ドラゴン】2体を生贄にして【サイバー・レーザー・ドラゴン】を召喚、効果でジェネシスを破壊…そのままダイレクト…バリアも攻撃…リバーズカードをセットしてターンエンド…

カミューラのターン…すげえ顔だな…

魔法カード【幻魔の扉】を発動…あのカードを見た瞬間、俺の中のなにかがこう言った…『思い出したくない』と…

いったいなにを思い出したくないんだ？ 気になって仕方が無い…これを見たらいやでも思い出せそうだしな…

カミューラがカイザーに攻撃…この瞬間…俺は…思い出した……いや思い出してしまった…

あのどうしようも無い攻撃力…なにも無いフィールド…

ダークネスの戦いを深く思い出した…

【黒炎弾】の体中が焼けるように痛かったあの…痛み…

モンスターがいてもあの攻撃力ではくらった瞬間負けていた…あれを思い出すだけで体が震える…怖くて怖くてたまらない…

死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ…あの瞬間……思い出したくない

このまま忘れていたかった…あの死ぬ思いは思い出したくない…

そんなことを思っている間にカミューラはカイザーに攻撃…カイザーは負け…俺の目の前で人形になった…

……これが敗者の末路…俺もこうなっていたかもしれない、現実…

思うだけで体の自由を奪う戦慄……

忘れられない死の恐怖…なんで…なんで十代達はこんなことを見てまだやる気がだせるんだ？

普通は無理だろう…次は自分もこうなるかも知れない恐怖で怖くなるはず…

どうしてまだやろうと思うんだ！

俺はあまりにも恐怖でその場を走り出した…後ろから十代達の声が聞こえるけどそんな声を振り払って俺は進む…

そしてついたのは校長室…言いたいことは1つだけ…

すぐさま俺は校長室に入ってしまった

「！………あなたの言いたいことはおおよそわかりました…言ってみてください…」

「……校長先生………俺は…！」

悔しさとみんなを裏切る気持ちしが積もり舌を噛むがどうしても俺はこの戦いを…！！

「俺は……この戦いを…降りる…」

そう言って俺は七星門の鍵を校長に出し俺は校長室から出て自分の寮に帰った…

すまないみんな……俺はこの戦いから……逃げ出す…

そんな悔しさとみんなを裏切った気持ちがついに口の皮を切り口の
中には鉄の味でいっぱいになった……

第24話 折られた気持ち（後書き）

今回はデュエル無し…主人公挫折回です。

では次回予告！

挫折によりひどい落ち込みを見せる魁…

そんな魁に精霊、レベル・ステイラーはあるところに連れて行く…
そのあるところは…？

次回！【誇りと勇気と戦う意味】

次回は復活します。

では次回もお楽しみに！

第25話 誇りと勇氣と戦う意味（前書き）

更新また遅くなってすマソップ!!

魁「反省の色が無いだろう…」

ちょっと前から学校が始まったので更新が遅くなりました！
これからは2日に1回更新になるかも知れません。

魁「…だそうだ…では今回の最強カードは【正義の味方カイバーマ
ン】！

自分フィールドのこのカードをリリースする事で自分手札から【青
眼の白龍】を特殊召喚できるぞ！

リリースだから【黒竜の鱗】と違って【マクロコスモス】があつて
も白龍が出せるので結構便利だぞ！ただし【生贄封じの仮面】には
弱いから注意しな！」

第25話 誇りと勇氣と戦う意味

あの日から次の日…十代が俺の持っていたペンダントを持って行き
カミューラに勝ち、大徳寺先生が俺の代わりに七星門の鍵を守る者
になった…

よく十代はデュエルできるな…今の俺には到底無理だ…しかし大
徳寺先生ってデュエルできるのか？

でもそんな事はどうでもいい…一番気になるのは今日見たあの夢だ…

とてもつもなく禍々しい力を持つモンスターが現れその決闘者は半
分泣いていて半分は極上の笑みで笑っていて不気味だった…

しかもそのモンスターは大きい剣を2本持っていて体中がボロボロの
せいで色彩が腐っていてよくわからなかった…

いったい何だったんだ、あの夢は？夢にしてはどうもリアル過ぎる
…俺が闇のゲームに恐怖してるせいで生まれた恐怖が夢の中で形に
なって出てきたのか？

……本当に何だったんだろうな？

『ピーピー（なあ…そろそろ立ち直ってくれよ…）』

「…頑張ってるさ…でも俺にはそんな心の強さは無い…」

『ピー…（そうか…）』

これからはもつと恐ろしい闇のゲームが来るかもしれない…

デュエル中に死ぬかもしれない…そんな恐怖からいつも抜け出せな
いんだ…ダメだよ俺って…

気がつけばまた俺は泣いていた…外を見るとすでに夕方近くか…

『ピーピー（この波動…？ねえねえ！ちょっと行ってほしいところがあるんだけど！）』

「…やる事無いしな…行くか」

そう言っただけ俺は一応デッキを1つ持ち外に出た…
だけど俺が行った先は…

「なぜ温泉？ここに来てなにをするんだ？」

『ピーピー（ついて来て！）』

そうレベル・ステイラーに言われ俺は温泉の先に進んでいく…
そしたら一気に周りが湯気に覆われた…
かと思ったらいきなり温泉の底が深くなって！

「ぐbあぶあbあ！！（溺れる溺れる！）って痛っ！！」

いきなり落ちて来たかと思ったら周りが温泉とは真逆の水の洞窟みたいなのところについた…

ここどこだよ？そう思っただけさらに周りを見るとキーマイス、逆切れパンダ、D・ナポレオンがいる…ここはまさか精霊界か？

「ふうん…今日は精霊界に来る人間が多いな…」

「誰だ！」

「貴様もよく知っているモンスターの関係者だ」

俺の目の前に……言わなくてもわかるな……

海馬社長と同じ服、ペンダント似てる態度……そして海馬社長には無い
ブルーアイズ
パーツ青眼のヘルメット……これはどう見ても【正義の味方カイバ
ーマン】だ

「どうやら貴様も精霊に導かれあいつと同じく大きな悩みを抱えているな」

「さあ、どうだろうな。そんな事より早く俺を向こうの世界に帰らせてくれ」

「断る」

シャイニングドラゴン
「光龍と【伝説の白石】あげるからさ」

「……………だが断る」

「無駄に長い沈黙だったな……」

「黙れえ！ではこうしようではないか。貴様が俺にデュエルで勝てたらあっちの世界に帰らせてやろう。だが貴様が負けたらそのカードを貰おう。いい条件ではないか」

「どこがいい条件なんだか……」

デュエルか……カイバーマンだから闇のゲームじゃないから大丈夫だろう

そう思ってデッキに手を伸ばし取ると手が震えていた……

「やはり……今のお前はあの遊城十代と似た心境……いやそれ以上か？」

だがこれだけは教えてやる。デュエルは己が進むべき未来を決めてくれる。デュエルすればその震えの原因がわかるだろう…ではないぞ！」

「勝手に話を進めるな！」

デュエル
「決闘！」

「俺のターン、ドロー！手札のカード1枚を墓地に捨て手札から【THEトリッキー】を特殊召喚！そして【ジャンク・シンクロン】を召喚！効果は使用しない。Lv5【THEトリッキー】にLv3【ジャンク・シンクロン】をチューニング！巨大なる戦士が今大地に立ち上がる！シンクロ召喚！【ギガンテック・ファイター】！【ギガンテック・ファイター】の効果により墓地の戦士族は【ジャンク・シンクロン】とトリッキーで送った【ネクロ・ガードナー】がある為攻撃力は200ポイントアップし攻撃力は3000！これでターンエンド」

最初のターンの守りは良いほうだな…ギガンテックは戦闘で破壊されても復活するし攻撃力は3000…青眼が出て大丈夫だ

「俺のターン、ドロー！魔法カード【強欲な壺】！これでデッキからカードを2枚ドロー！俺は【正義の味方カイバマン】を召喚する！そしてこのモンスターを生贄して伝説を見せてやる…我が忠実なるしもべ！降臨せよ【青眼の白龍】！そして魔法カード【滅びの爆裂疾風弾】を発動！これで貴様のモンスターは全滅！魔法カード【融合】発動！手札の青眼2体とフィールドの青眼を融合し【青眼の究極竜】を召喚！」

…一瞬にして背中に嫌な汗が伝った…

また手が震えている…歯がカタカタ音をたてている…

「……アルティメットドラゴン 究極竜で貴様に直接攻撃！ダイレクトアタック アルティメット・バースト！」

「！墓地の【ネクロ・ガードナー】を除外して相手モンスター1体の攻撃を無効にする！」

半透明の姿でガードナーが現れアルティメットドラゴン 究極竜の攻撃を防いだ

この嫌な汗…体が震える感じ…あの時と同じ…いや…それ以上の…

「うっ……くっ……」

「どうした？その攻撃でもう貴様の決闘者として誇りは折れたのか？」

「仕方が無いだろう！！1度デュエルで死ぬ思いをしたんだ！闇のゲームとは言えデュエルで殺されそうになったんだ！それに……負けたほうがカードに封印されるルールだ…俺はあのデュエルでダークネスを殺したんだ！自分のこの手で！もう楽しくデュエルなんてできるか！」

代々今の攻撃でダークネスドラゴン 闇竜の攻撃【真紅眼の黒竜】レッドアイズ ブラックドラゴン がいる結果魔法カード【黒炎弾】の2400より遥かに上のダメージ4500をくらうかも知れなかったんだ…

いくら闇のゲームじゃないって頭でわかってても体と心は恐怖して震えるんだ！

「…なるほど…貴様はそこらにいるポンコツ決闘者よりも決闘者としての誇りが無い様だな…」
デュエリスト デュエリスト

デュエリスト
「俺の決闘者としての誇りが無い…?」

「そうだ…貴様の誇りは無いという訳ではないがそこらのポンコツ以下の誇りなのだよ…貴様の誇りは誇りではなく埃だ。ゴミ当然なのだ」

今の言葉には少しカチンときたぞ…

俺の誇りが侮辱された…!

「お前な!いくら俺がデュエル恐怖症とは言えそこまでボロクソ言うか!!俺の誇りが無い!?!なにを言っているんだ貴様は!俺は現実世界及びこの世界の禁止・制限を守って…」だからそれがゴミだと言っているのだ!!」え?」

「その禁止・制限なんぞこの世界の人間も貴様が元いた世界のルールだろう…それを守るのは決闘者^{デュエリスト}として最低限のルールだ。守れないやつは決闘者^{デュエリスト}では無く守っているやつは一応、決闘者^{デュエリスト}だ…それをお前の誇りと言うのか?」

そ…それは…

「そう!それは貴様の誇りではない!貴様が勝手に勘違いをして最低限のルールを自分の誇りだと思っていたのだ!」

…そうだ…俺の今まで誇りだと思ってた禁止・制限はこの世界だとすぐくても現実世界だと当たり前前の事だ…

じゃあ俺の誇りはなんだ?俺はなにをする為にデュエルするんだ?

「自分の誇りを見失って困惑してるようだな…だがデュエルをすればおのずと結果は出てくる…早くデュエルを進めろ!」

「いや、あんたのターンだから」

「……これでターンエンドだ……だがこれだけは教えておく……誇りと戦う意味はほとんど同じだ。その2つがわかれば勝手に貴様が戦う勇気となる」

誇りと戦う意味は同じ……それさえあれば勇気も自然に出てくる……

「…俺のターン、ドロー。モンスターをセット。リバーズカード2枚をセットしてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！【ブラッド・ヴォルス】を召喚！【ブラッド・ヴォルス】でセットモンスターに攻撃！」

「セットモンスターは【シールド・ウィング】！このカードは1ターンに2度まで戦闘では破壊されない！」

「そんな効果読めてるわ！！速攻魔法【禁じられた聖杯】！これで【シールド・ウィング】の効果が無効にして【ブラッド・ヴォルス】アルティメットドラゴンで戦闘破壊！そして究極竜で直接攻撃！アルティメット・バースト
！」

「買発動【奇策】！この効果で手札のモンスター【シールド・ウォリアー】アルティメットドラゴンを捨て究極竜の攻撃力を800ポイントダウンさせる！ぐわあ！」

魁 LP300

「今の攻撃をくらって恐怖したか？」

「いや…してないよ…だんだんこのデュエルで俺の必要な物がなんなのかわかってきた!!」

「そうだ…貴様に必要な物…それは背負うべき物だ!!」

背負う…べき物…

俺に必要な物…それは戦う意味…戦う意味はやがて誇りとなる…

『ピーピー（やっといつもの魁に戻ったか）』

「ああ！これからは全力でいくぜ！俺のターン、ドロー！これに賭ける！魔法カード【カップ・オブ・エース】！この効果でコイントスをして表が出れば俺が、裏が出ればあんたがカードを2枚ドロースする！コイントス！」

高い音と共に鳴り響くコインの音…

ほかの精霊が静かに見つめる中…コインは地面につき判定は…！

「よっしゃーっ！！表！！これで俺はデッキからカードを2枚ドロー！魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【ギガンテック・ファイター】を特殊召喚！【ギガンテック・ファイター】の攻撃力は墓地の戦士族モンスターの数×100ポイントアップする！俺の墓地には【ジャンク・シンクロン】【シールド・ウォリアー】…あんたの墓地の戦士族【正義の味方カイバーマン】が存在するので攻撃力は300アップし攻撃力は3100！そして【ギガンテック・ファイター】で【ブラッド・ヴォルス】に攻撃！」

カイバーマン LP2800

「ちっ…だがそんなモンスターでは究極は倒せない」
アルティメット

「それはどうかな？ 罨発動【バスター・モード】！！これで【ギガンテック・ファイター】を生贄にしてデッキから【ギガンテック・ファイター／バスター】を特殊召喚！このカードの効果で自分デッキから戦士族モンスター【終末の騎士】2体を墓地に送る！そして【ギガンテック・ファイター／バスター】の効果で自分墓地の戦士族モンスターの数×相手モンスターすべての攻撃力を100ポイントダウン！俺の墓地には【ジャンク・シンクロン】【シールド・ウオリアー】【ギガンテック・ファイター】【終末の騎士】2体！これで相手モンスターの攻撃力を500ポイントダウン！そして速攻魔法【突進】を発動！これで【ギガンテック・ファイター／バスター】の攻撃力を700アップし攻撃力4000！これで究極竜の攻撃力と同じだ！」

究極竜とギガンテック・ファイターの攻撃力がぶつかり合い大爆発…
お互いのモンスターが破壊された

ブルーアイズ
「青眼！！？だが次のターンにこの状況を…ガッ！！」

カイバーマン LP-600

煙からいきなり【ギガンテック・ファイター】が姿を現しカイバーマンを殴った…油断するところなるぜ？

「【ギガンテック・ファイター／バスター】の効果発動！このカードが破壊された時墓地から【ギガンテック・ファイター】を特殊召喚できる！これでデュエルは俺の勝ちだ！」

「くっ…俺の敗北か…だが貴様の迷い晴れたな」

「ああ……俺が……戦う意味……正確にはこれからの戦う理由……それはこれから俺みたいなのゲームの恐怖を体験しデュエルをやめる決闘者デュエリストを出さないこと。そして他者……いや仲間を守ることが俺は誇りに思いたい……その為ならどんなデュエルも勇気がでる……！闇のゲームにも屈しない……！これが俺の答えだ！」

「ふうん、その雰囲気ならもう悩みは晴れたな……だが貴様のこれから戦うロード……まだ始まったばかりだ。これからその決心が揺るぐ可能性もある……そんな甘っちょろい覚悟で生きていけると思うか？」

「だったらここで宣言してやる！俺はこれから仲間を守り……いかなる闇のゲームにも屈せず……！これからのデュエルをどんなに辛くても楽しんでやるよ……！その証拠にカイバーマン、お前を何度でも倒してやろうか？何回も何十回も何百回もの暴虐と言う名のデュエルでな……！！」

そうやって俺はデュエルディスクを再び構える

今の俺にはこの決心さえあれば何でもできる……！心の奥底から沸く溢れる力……！

どんな事にも屈しない無敵の勇氣……！今と言う自分の存在を出すための熱く燃え滾る誇り……！

「……貴様の帰る方法を教えてやる……ここで元の世界に戻りたいと強く願え…………また会う時その決心が揺るがぬようにな」

「カイバーマン……後レベル・ステイラー」

「なんだ」

『ピッ？（なに？）』

「ありがとな！」

「ふうん…」

『ピーピー（マスターの為ならこれぐらいはしますよ。さすがに過労死はごめんだけど）』

「ははっそれはすまないな」

さあって帰る為に元の世界に強く願い始める俺…

その瞬間また水が現れ浮上し俺は温泉の岩場の後ろに戻っていた…あれ？なんで俺制服着たまま出てきたんだ？入った時脱いだ筈なのに…

まあ岩場を通り抜け帰ろうとすると…

「あっ…！」

「……なんでここにいるのかな…魁君？」

俺の目の前に若干顔を赤めてるサクラがいるんだが…

あの…その…えっと…とにかく…何と言うか

すごいね、サクラのおっp（ここから先は書き続けると捕まりそうな公開できません）

「早く出て行けこのエロ野郎…！」

「誤解だって…！」

「問答無用！パトリオット・ミサイルキック！！」

「どっかの男の娘の技名使うな！ひでぶっ！！」

サクラに蹴飛ばされ温泉の壁をぶち破り俺はそのまま海に飛ばされた…あれ？これ死ぬんじゃない？

「ステイラー！」

『ZZZZZZ……』

「寝たふりすなー！ーっ！！！」

「（ついカットなって蹴飛ばしちゃったけど魁君いつもの調子に戻ったんだ…よかった…って助けなきゃ）」

落ちるかと思ったらなにかに掴まれた…

ゆっくり掴まれたほうを見ると…

「……【マジック・アームドシールド】？」

「とりあえず救助完了……大丈夫魁君」

「大丈夫だけど……何故実体化できるんだ？」

「…なんでだろうね。それは私にもわからない」

一瞬サクラの顔が悲痛に感じた…

今は軽く笑ってわからないって言ってるけど…なにかあったのか？でももちろん女風呂に来たのは怒ってたらしくその後見事にフルボ

ツコ

俺は闇のゲームとは全く関係無く保健室に運ばれまた安静状態された：

——Side

暗き夜のオシリスレッドの1部屋：

その内1つの部屋にはパソコンの明かりがついていた

『最後のセブンスターズはまだ回収できないのか？』

「はい：なにせ、いつも持ってる訳ではございませんから：」

『ちっ……早くあやつがあのカードを持ってくれさえすれば我が計画は完成するのに……!!』

「そうですね。精神面で少し弱いと思われる魁は闇のゲームの恐ろしさを知り途中でリタイア：後はあのカードの力を解放できれば七星門の鍵を守護する中にあれに敵う者はございません」

『少しばかり遅いとは言え計画は進行中か：ではなるべく早く回収するのだぞ』

「わかりました」

そう言い部屋の主はパソコンの電源を切り少し考え事を始めた

「（あのセブンスターズには今いる七星門を守護する者では誰も勝てないニャ。いくら私が作り出している賢者の石があってもセブンスターズ最強で最凶の最狂には誰1人敵わないニャ……しかもここで賢者の石を使うと今度は影丸に勝てなくなる……ここは魁君を頼る

以外あいつを倒す手段がないのニャ……彼女サクラ君では到底勝てない……いや、絶対勝てない……あいつには……」

暗がりの夜の中……

この部屋の主はとてつもなく恐ろしい事を思っていた

第25話 誇りと勇氣と戦う意味（後書き）

という訳でなんか魁はサクラの裸を見てしまいました…ラッキー回
だな今回は

では次回予告！

ついに俺は復帰した！

鍵を持ってない俺に今できること…
それは！

次回！【絶対デッキ改造計画】

次回もお楽しみに！

第26話 絶対デッキ改造計画（前書き）

頑張れば誰だって書けるんだ！という訳で連日更新！肩が痛いよ！

今回はタイトル通りもち十代達のデッキ改造計画！
もちろんそれなりのデッキにするつもりです！

魁「では今回の最強カードは【速攻召喚】！

アニメオリカの1枚だな。速攻魔法で効果は手札からモンスターを
通常召喚すると言ったシンプル・イズ・ベストな効果！！

このカードの効果はマジで恐ろしい…OCG化すれば制限行きでは
ないでしょうか？」

第26話 絶対デッキ改造計画

十代Side

数日前カイバーマンのおかげで立ち直った俺はその次の日に新たなセブンスターズ、タニヤが現れ三沢との婿取りデュエルを開始…
三沢は負けタニヤにメロメロ状態にされオシリスレッド食堂でタバスコなどを生で飲み始めた…すごいな三沢！

そのなんでもかんでも飲食するから一緒にいたサクラがオシリスレッドのゴミ袋を持ってきて三沢に食わせた。大丈夫なのか！？中には俺のくつ下や隼人の鼻水がついたティッシュとかは食べられるんだろうけど…万丈目のボロくなった釣竿はさすがに…入った！！？しかも三沢は嘔まずにそのまま飲み込んだ！？本当に大丈夫なのか！？

その後三沢は腹痛にならずむしろタニヤの闘気を感じたと言ってきた。三沢には精霊がついているのか？

三沢の言うとおりのコロシムに行くと言ったタニヤがいてタニヤと俺はデュエル…激しい殴り合いのすえ俺はデュエルに勝った！そしてタニヤの正体は白き虎だった……

後日、授業が終わって今回もせっかく闇のゲームの恐怖を克服し安静状態から解放されたのに全く別の理由で再び保健室で安静状態にされてる魁のお見舞いしに行こうとすると…

『十代君、万丈目君、明日香君、大徳寺先生。急遽校長室に来てください』

「アニキ、校長先生に呼ばれたッスよ」

「いったいなんだろうな？じゃあ俺は行って来る！万丈目も一緒に行くぞ！」

「『サンダー』！」

一々訂正を入れるとは…万丈目らしいな
教室を出た後明日香とも会ったので明日香も一緒に行った

校長室に来たんだが…校長はどこだあ？

「やっと来たのね」

「サクラも来ていたのか？」

「俺もいるぞ」

「「「魁！！？」」」

サクラの後ろから目が腫れてて後ろ首を通して右腕に包帯を通して
魁がいた…

安静直後は足は捻挫、目の焦点はあっておらずむしろ変な方向に向
いていたのに

「もう大丈夫なのか？」

「これを見て大丈夫と言えるお前がすごい。右腕は骨折はしてない
けどヒビが入ってるし、目の腫れなんて色は思いつきり紫色だし」

「そんな怪我を作った原因は魁自身でしょ」

「ははは…怪我を負わされた側からすればいくら俺が原因でもお前を恨むけどな」

話の内容からして魁がサクラになにかした結果ボコボコにされたんだな…
いったいなにをした？

「ところで校長はどこにいるんだ？」

「放送をした後すぐに仕事に職員会議でいません。それに今回呼んだのは校長からの頼みじゃなくて私と魁の頼みで来てもらったの？」

「いったいどんな用事で俺達をここに呼んだんだ？俺はこれから憂さ晴らしにこいつにラクガキしようと思ったのに…」

『やめてくれよ、アニキ！』

あつ、おジャマ・イエロー…今日も万丈目に憂さ晴らしされてるのか
とか思っていたらいきなり魁が笑い出した

「あははははははは！…！万丈目…てかおジャマ・イエロー…お前にとって良い話がある」

「おジャマ・イエローってモンスターの事よね、十代？なんでそっちにも言ってるの？」

「あいつには精霊が見えてるんだ、明日香」

「精霊………？（ついにこの中でまだまともな魁まで電波人間になっってしまうなんて…）」

明日香が可哀想な目で俺と魁を交互に見だした…そして溜め息…むっ精霊は本当にいるんだぞ！本当だぞ！

「これなーんだ？」

『『おジャマ・イエロー！』』

『ブラック兄ちゃん！グリーン兄ちゃん！』

「【おジャマ・ブラック】に【おジャマ・グリーン】！？魁、お前はこの攻撃力0が兄弟を探しているのを知っていたのか！？」

「まあ、それなりに。授業に参加しないのにここにいるのは少しおかしいだろう？皆さんの授業中に森の中の井戸からうるさい声が聞こえたから見に行ったらLv1や攻撃力500以下のモンスターがたっぷりあってよ…その中にこのおジャマがあったのさ」

「ふん…一応感謝しとこう…でもこれだけの為に俺達を呼び出したのか？」

確かにそれだけだと俺達が呼び出された意味が無いな…
魁のことだからよほど重要な事だと思うけど

「俺とサクラが十代達を呼び出したのはお前達のデッキを改良する為だ！」

「『改良!?!』」

「そうだニャ。私はすでにデッキ改良してもらったニャ。そのおかげで十分このデッキが強くなったニャ」

「本当は三沢がまだいる時にしたかったんだけど……俺が安静状態だったから無理だったんだよな。それはともかくまずはみんなに渡すカード」

俺の目の前に【E・HEROエアーマン】オーシャン、フォレストマン、クノスぺ、ブルーメ、ガイア、ジ・アース……

万丈目には【おジャマ・カントリー】【おジャマ・レッド】【おジャマ・ブルー】……【ホルスの黒炎竜Lv4】Lv6Lv8【ライトアダダクネス光と闇の竜】ドラゴンとかのドラゴン族カード……

明日香には【一族の結束】【荒野の女戦士】【地盤沈下】【コモンドナイト】……よくわからないけど【氷結界】と名のついたモンスターが入ってるカードがトランクに何枚も入ってる……しかもシンクロモンスターまで入ってる!

「こんなカード使ってもいいのか!?!」

「別に構わん。すでにシンクロは一般販売されてるからな。でもまだシンクロの強さに気づいてない人達が多くてな……デッキ改良のついでに十代達に宣伝してもらおうと思って」

「なるほど……これ遠慮なく使わせてもらうぜ!」

「別に構わんって言ったろ……」

おっ【沼地の魔神王】……融合素材の代わりになるし手札から捨てれ

ばデッキから【融合】を手札に加えられるのか

【E・HEROガイア】は名前と属性の融合！？しかもアブソルートZeroの効果が【サンダー・ボルト】！？これは正規融合のランプート・ガンナー、サンダー・ジャイアントより遥かに使えるだろう…

とりあえず【融合】を手札に加えられるフォレストマンは入れておくか、俺の拘りを残す為にフェザーマン、バーストレディ、スパークマン、クレイマン、バブルマンは入れておいて…エッジマンは重くなるから抜いておくか？ワイルドマンと【沼地の魔神王】でジャーマン出せるし…

シンクロモンスターを入れてみるか！でもどうすればいいんだ？あれ端にカードが…

「【超融合】…？」

「あっ！！そのカードは使っちゃダメ！！手札消費が激しい融合デッキでそれはあわないから入れないほうがいいぞ！」

「お、おう。わかった」

あのカード結構気になるな…
気になる…気になるな…

「十代、そんなしょげた顔をするな。代わりにこれをあげるから。でも作るなら専門デッキにしろ」

「それを使うなら私はこれを」

「おっ！これは！」

魁から手渡されたカードを見ると【クリボーを呼ぶ笛】 【ハネクリボーLv9】 【バーサーカー・クラッシュ】：

サクラから手渡されたカードは効果が違う【ハネクリボーLv9】

【錬金術の研究成果】：

これは【ハネクリボー】 関連のデッキか！

『クリクリ♪』

「嬉しいのか、ハネクリボー！」

これは【E・HERO】デッキ【ハネクリボー】デッキとは別に作ったほうがいいな！

これを入れてこれを入れて…！

万丈目Side

魁から渡されたトランクを見るとそこには大量のカード…これでデッキを改良するのか…感謝しとこう…

まずは【ホルスの黒炎竜】シリーズ…俺のデッキにはLvモンスターが乏しくてデッキ枚数が足りず無駄なカードで穴埋めしてたからな…【闇よりいでし絶望】よりまだ実用性がある【ホルスの黒炎竜Lv8】を入れその前の【ホルスの黒炎竜Lv4】とLv6を入れておくか

名の通り邪魔な【おジャマ・イエロー】を抜こうとしたら俺は渡さ

れた【おジャマ】を見た：

攻撃力、守備力を入れ替える【おジャマ・カントリー】：これさえあればレッドの効果で手札のグリーン、イエロー、ブラックを特殊召喚。デルタハリケーンから【融合】して【おジャマ・キング】と【おジャマッスル】と【おジャマトリオ】のコンボで攻撃力6000でダイレクト：これは中々使えるコンボだ：雑魚にもこんな使い方があるとはな：でも専用デッキじゃなければあまり強くないから【Lv】デッキとは別だな

最後に【光と闇の竜】……

ライトアダドクネネラゴン

……何故だがこのカードに触っていると安心する：それに初めて見たカードじゃない気がする：とにかく俺はこのカードが気に入った！こいつの為だけのデッキを作ってやろうではないか！！

明日香Side

まさか魁とサクラからカードを貰えるなんてね：あなた達がくれるカードは本当に強いからこれからのセブンスターズの戦いに助かるわ

まずは【一族の結束】……なるほど：確かに私は基本、戦士族しか使わないおかげでこのカードの効果が使える：

【沼地の魔神王】を入れると【一族の結束】の効果が使えなくなっちゃうから【融合賢者】を入れましょう

【サイバー・エンジェル】にも使いたいけど融合と儀式はさすがに

無謀ね…ここは別々のデッキを入れたほうがいいわね

【地盤沈下】のおかげで【サイバー・ブレイダー】の効果も限界まで使えるわ

次によくわからず入っていた【氷結界】…

主力はシンクロモンスターのトリシューラ、ブリューナク、グングニール、ドウローレンと効果モンスターのグルナード、ガンターラね…

このカード達を見てるとなにかもう1人の自分に目覚めそうな感じするわ…なにか相手をいじめたくなる……はっ！私はなにを考えてるの！気をしっかりしなさい！

トリシューラの効果をうまく使うためには……こうすればいいのね！そしてこのカードをこうすることで…これならLv別のシンクロも簡単にできるじゃない！

魔法使い族が比率的に多いから【ブリザード・プリンセス】も入れましょう。後はこれとこれを入れて…

魁Side

みんな張り切ってデッキ作成してるな…

俺は半分ガチ半分お遊びのカードを入れたのに…

ガチは大抵のデッキに役立つ【グローアップ・バルブ】【ライトロードハンター ライコウ】とかその辺のカード

半分は漫画版のカードや漫画版と関係ありそうなカード…もしかし

たらこいつこのカード使うんじゃない？とか思ったカードを入れたかな
しかし【超融合】を入れてたとは…あやうく十代が覇王になるところだった

おっ！明日香が一番最初に終わったか

「デッキ調整がしたいからこのデッキの試させてほしいわ。いいでしょう？」

「ああ、いいぜ！」

「^{デュエル}決闘！」

「私のターン、ドロー！リバースカードをセットして魔法カード【手札抹殺】！これでお互いの手札をすべて捨てその後捨てた枚数分お互いはカードをドローする！さらに魔法カード【早すぎた埋葬】！これで墓地から【氷結界の虎将ガンターラ】を特殊召喚！さらにガンターラのLvを下げ墓地から【レベル・ステイラー】を特殊召喚！」

『ピーピッ（頑張れよ。俺見たいに過労死するなよ）』

俺もそれを願うよ。ステイラー…

ステイラーって長いから後でちゃんとした名前つけてあげよう

「そして【氷結界の風水師】を召喚！さらにリバースカードをセットしてターンエンド！エンドフェイズにガンターラの効果で墓地から【氷結界】と名のついたモンスター【氷結界の術者】を特殊召喚！」

「俺のターン、ドロー！明日香の魔法カード【手札抹殺】で捨てられた【黄泉ガエル】を特殊召喚！そして魔法カード…」

「させないわ！速攻魔法【速攻召喚】！手札のモンスター1体を通常召喚する！【氷結界の風水師】を生贄にして【ブリザード・プリンセス】を召喚！【ブリザード・プリンセス】の効果でこのターンあなたは魔法、罠を発動できない…」

明日香が表情が怖っ！！

絶対零度を纏っているかの用な笑顔が怖っ！！

しかも【ブリザード・プリンセス】の効果で手札から発動しようとした魔法カード【死者転生】…これで墓地からサモン・プリーストを手札に加え効果で魔法捨ててエクシーズ使用と思ったのに！

「……リバースカードをセット！これでターンエンド！」

「私のターン、ドロー！リバースカードオープン！【大寒波】！これでお互いのプレイヤーは次の私のターンまで魔法、罠は使用できない！」

いくらなんでもひどーい！！

これじゃあ伏せた罠カード【ガード・ブロック】無意味じゃん！

「そして【氷結界の術者】を生贄にして【サルベージ・ウォリアー】を召喚！【サルベージ・ウォリアー】の効果で墓地から再び【氷結界の術者】を特殊召喚！Lv6となった【氷結界の虎将ガンターラ】とLv1【レベル・ステイラー】にLv2【氷結界の術者】をチェーンニング！彼方より来る伝説の龍よ！絶対零度の鎮魂歌^{レクイエム}を大地に響かせなさい！シンクロ召喚！解き放て！【氷結界の龍トリシュー

ラ】！トリシューラの効果でフィールドの【黄泉ガエル】墓地の【召喚僧サモン・プリースト】手札のカードをランダムに除外！」

「よりによって除外されたの【バトルフェーダー】！？」

「そしてデッキの一番上のカードを墓地に送り墓地から【グローアップ・バルブ】を特殊召喚！LV5【サルベージ・ウォリアー】にLV1【グローアップ・バルブ】をチューニング！遙か伝説を超え現代に現われし槍よ！その姿を変えここに復活せよ！シンクロ召喚！解き放て！【氷結界の龍ブリューナク】！そしてトリシューラのLVを1つ下げ墓地から【レベル・ステイラー】を攻撃表示で特殊召喚！バトル！すべてのモンスターで直接攻撃！」

魁 LP—4400

……まさかライフ8000でもkillするデッキを作るとは……これはひどいな。散々魔法、罠を使わずkill……普通の生徒だと心折れるだろう。このデッキはDSなデッキだな

「これは結構強いわね……もう少し改良しよ！」

ものすげえいい笑顔で明日香は再びデッキ調整に戻った……いやあれをもっと改良するのか？怖すぎるぞ……サクラも微妙に震えてるし……

第26話 絶対デッキ改造計画（後書き）

皆様、万丈目兄弟はどうした？と思いますので少し解説タイム

復活のサンダーの時に万丈目兄弟の極悪非道な行為が全国に流れ万丈目グループの株価は大暴落！

その結果デュエル・アカデミアを買い取る力は無くなった為買収無し！よってあのイベントは無くなった！

では次回予告！

デッキ改良を進める俺達！

ついに十代とサンダーのデッキが完成！

さあ！どっちが勝つんだろうな！

次回！【ライバル対決！進化した翼と光と闇と…】

第27話 ライバル対決！進化した翼と光と闇と…（前書き）

魁「作者はただいま肩が痛くて無駄な文字を避けるため今回は最強カードのみ紹介！今回の最強カードは【ハネクリボー】！」

このカードが破壊され墓地に送られた時このカードのコントロールははこのターン受ける戦闘ダメージをすべて0にする！以上！」

第27話 ライバル対決！進化した翼と光と闇と：

明日香の戦いから13分経過：

明日香はデッキとかカード見ながらとってもいい笑顔（というのは名だけの大変恐ろしい笑顔）でカードをデッキに入れたり抜いたりを『ふふふふ…これをこうすればもっと相手を叩きのめせる…』という発言をしながらデッキ調整中…怖いよ！確かS明日香になるのは白が来てからだろう！？どうしてこうなった！？

大徳寺先生もサクラにアドバイス聞きながらデッキ調整してるし…しかし大徳寺先生のデッキは驚いた

2つデッキがあって1つは錬金術をモチーフにした【除外デッキ】でもう1つが【ネコマネキング】【またたびキャット】【レスキューキャット】とかを入れたネタ確定の【猫デッキ】：

【猫デッキ】は俺の興味が出て改良…そのおかげで前と比べてたら圧倒的に強くなった：

【除外デッキ】はサクラが担当…墓地にモンスターが貯まりずらいから【ガーディアン・エアトス】を入れたり【カオス・グリード】入れたり【カオス・エンド】入れたり【魂吸収】入れたり【ネクロフェイス】を入れたり…これは怖い除外デッキになるだろうな

「ダーーーーッ！！どうすればいいのか全くわかんねえ！！」

十代よ…悪戦苦闘をしているのか…

……頑張ってたまえ

「【HERO】デッキは完成したのに【ハネクリボー】のデッキが作れないー！！どうすればいいハネクリボー？」

『クリクリ』

「えっ？このカードを入れる？でもこれを入れるとなると…」

『クリクリ！クリクリー！』

「そうか！これを入れればこのコンボに威力が上がって…ナイスだ、ハネクリボー！もう一踏ん張りだ！」

ハネクリボーのアドバイスを聞いてようやく基本がわかったのか…この調子なら大丈夫そうだな。後はサンダー…

「効果モンスターの【ダークエンド・ドラゴン】とシンクロモンスター【ライトエンド・ドラゴン】とシンクロモンスターの【ライトエンド・ドラゴン】…どっちを入れれば良いんだ？シンクロならデッキにドロカード入れ効果ならコンボになる【表裏一体】【陰の光】…どちらをいれても損にはなりづらい…」

基本どっち入れても変わらないと思うぞ？そこはサンダーの趣味だから放っておくけど…

十代は『これとこれ！それにこれ！』とかうるさく

サンダーは冷静に『このカードを入れれば事故率が低くなるな…』と言

明日香はもはや黙々とデッキ作りをしてるけど目の奥がすっげえ、腹黒い目をしてるし…

いくらセブンスターズの戦いの為とは言えデッキを強化する事でみんなの性格が少し変化するとは…やりすぎだな。でもこれはこれ以上俺みたいな被害者を出さない為にやっているのだ！

いきなり大徳寺先生が大はしゃぎ：

ついに【除外デッキ】が完成したらしい：そしてすぐにまたカードを探し始めた：まだデッキ改良するのか？昨日もやっただろう

「よっしゃーっ！！これでハネクリボアのデッキが完成した！

ライトアダダドクネネラゴン

！」「できた：できたぞ！【光と闇の竜】のデッキが！！」「うん？」

「ほほお：十代：お前も完成したのか。ではデッキの試し撃ちにデュエルするか？」

「その話乗った！挑まれたデュエルは戦うのが礼儀！それに俺もこのデッキの強さ知りたいしな！」

十代とサンダーがデュエルね……

原作ライバル同士の対決ってあのプレイングミスしまくりの月1テストしか見てないからな：

今回のデュエルで初めてまともなデュエルだから見物するか

「「決闘^{デュエル}！」」

「俺のターン、ドロー！魔法カード【テラ・フォーミング】！これでデッキから【天空の聖域】を手札に加える！」

えっ！？十代が【天空の聖域】！？ってツツコミたいけどそんな事よりあのチートドロローがサーチカードを使いやがった！？天変地異の前触れか！？

「そしてモンスターをセット！リバースカードを3枚セットしてタ

ーンエンドだ！」

ガ、ガン伏せ……これは本当に十代のデッキなのか？作ってる最中にカウンターデッキになったなら洒落にならんぞ！

「俺のターン、ドロー！【ウィッシュ・ドラゴン】を召喚！そして魔法カード【デュアルサモン二重召喚】！これでもう1度通常召喚が行える。そして【ウィッシュ・ドラゴン】の効果発動！このカードを生贄にして自分フィールドに【ドラゴン・トークン】を特殊召喚する！そして2体の【ドラゴン・トークン】を生贄に捧げ！光と闇の狭間から現れる！【ライトアダダドクネネラゴン光と闇の竜】！！そしてセットモンスターに攻撃！ダーク・パプティズム！」

「セットモンスターは【魔導雑貨商人】！【魔導雑貨商人】の効果発動！」

「ならその効果にチェーンして【ライトアダダドクネネラゴン光と闇の竜】の効果発動！このカードの攻撃力、守備力を500ポイント下げ、あらゆるカードの効果が無効にする！」

「そんな効果でくるか！だったらその効果にさらにチェーンして永続罠【アビリティ・リミテーション】！このカードがフィールド上に存在する限りすべてのモンスター効果を無効にする！ただしプレイヤーはライフを500払う事でモンスター1体の効果を使用できる！さあどうする万丈目！」

「『サンダー』！ライフは払わず【ライトアダダドクネネラゴン光と闇の竜】の効果は無効にされる！そのまま【魔導雑貨商人】を破壊！」

効果を使用すればいいのに……確かに攻撃力、守備力は下がるけどそ

の処理が終わった後また【アビリティ・リミテーション】の効果で効果が無効にされ攻撃力、守備力が元に戻るのに：

「【魔導雑貨商人】の効果発動！このカードがリバースした時デッキから魔法、罠カードが来るまでデッキの一番上のカードを墓地に送る！魔法、罠が来た時そのカードを手札に加える！1枚目【神獣王バルバロス】！2枚目！【可変機獣ガンナードラゴン】！3枚目！【クリボーを呼ぶ笛】！これで【クリボーを呼ぶ笛】を手札に加える！」

「リバースカードをセット。ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！ここでフィールド魔法【天空の聖域】を発動！どうする万丈目！」

「効果は使用しない！」

「なら【アビリティ・リミテーション】の効果でライフを500払い融合デッキ：じゃなかった！エクストラデッキの【スターダスト・ドラゴン】を除外して【Sinスターダスト・ドラゴン】を特殊召喚！さらに魔法カード【クリボーを呼ぶ笛】！「それも無視だ！」そうか！ならデッキから【ハネクリボー】を特殊召喚！そして【ハネクリボー】を生贄にして【ライティングギア光神機―轟龍―】を妥協召喚！」

十代 LP3500

うわー：【スキドレデッキ】の亜種版かよ：

【ハネクリボー】と【天空の聖域】の効果でダメージが受けにくいから【アビリティ・リミテーション】のライフは維持でき【ハネクリボーLV10】の時はライフを500払えばよし：しかも【バ

「サーカークラッシュ」用に高攻撃力モンスターも入れしかもSinが入ってるとか見るとトゥルスも入ってそうだな…怖い、怖い…俺は入れてないから入れたのサクラだな。さすがにレインボードラゴン、青眼ブルーアイズは入ってないよな？

「そして轟龍で【光と闇の竜】に攻撃！」
ライトアダドクネズラゴン

「そんな簡単に破壊させると思っただけ？ 罨発動！フオトン・ライジング・ストリーム【反射光子流】！ 光属性、ドラゴン族が攻撃対象にされた時発動！ 攻撃対象にされたモンスターはダメージステップ終了時まで攻撃してきたモンスターの攻撃力の数値だけ攻撃力を上昇させる！ 迎撃しろ！ シャイニングブレスー！」

「うわあ！！ だが轟龍は天使族の為【天空の聖域】の効果でダメージは0！ だけどこっちもそう簡単に負けないぜ？ 【Sinスターダスト・ドラゴン】で【光と闇の竜】に攻撃！ ぐううっ！」
ライトアダドクネズラゴン

十代 LP3200

「なにをするつもりだ！ 自滅なんかして！」

「いや？ これでいいのか！ 【アビリティ・リミティション】の効果でライフを500払い自分フィールドの【Sin】と名のついたモンスターが破壊された時ライフを半分払い手札から【Sinトゥルス・ドラゴン】を特殊召喚！」

十代 LP1350

「攻撃力5000だと！？」

「今度は【S i n t ウルース・ドラゴン】で攻撃！」

「ぐわああああ！！」

万丈目 L P 1 8 0 0

「だがただでは破壊されない！【アビリティ・リミテイション】の効果でライフを500払い【ライトアダプトクネボラゴン光と闇の竜】の効果発動！自分フィールドのカードをすべて破壊しその後墓地からモンスター1体を特殊召喚する！この効果で墓地から【ウィッシュ・ドラゴン】を特殊召喚！」

万丈目 L P 1 3 0 0

「リバーズカードをセットしてターンエンド」

十代の手札は0：対する万丈目は2枚：フィールドの状況も圧倒的に十代が有利：

だが万丈目のフィールドには【ウィッシュ・ドラゴン】が1体：効果を使い新たな上級モンスターを召喚するつもりか！

「俺のターン、ドロー！魔法カード【強欲な壺】！これでデッキから2枚ドロー！【アビリティ・リミテイション】の効果でライフを500払い【ウィッシュ・ドラゴン】の効果発動！自身を生贄にして【ドラゴン・トークン】を2体特殊召喚！そして2体の【ドラゴン・トークン】を生贄に捧げ！深き闇より現われしドラゴン！【ダークエンド・ドラゴン】召喚！」

万丈目 L P 8 0 0

あつ効果モンスターのほうの【ダークエンド・ドラゴン】入れたんだ。まあ確かにそっちのほうがかっちの世界で色々使いやすいから当たり前か

「そして再び【アビリティ・リミティション】の効果でライフを500払い【ダークエンド・ドラゴン】の効果発動！1ターンに1度、攻撃力、守備力を500下げ相手モンスター1体を墓地に送る！俺はトゥルース・ドラゴンを選択！ダーク・イヴァポレイション！」

万丈目 LP300

「…ん？【ダークエンド・ドラゴン】の攻撃力が減ってないだど！？どういことだ！？」

「あちゃー…ついにバレたか。【アビリティ・リミティション】はフィールド、手札、墓地、除外のあらゆるところの効果はライフを500払わなければ使用できない。妥協召喚はルール効果だから【アビリティ・リミティション】の効果は適用されないからライフを払わなくて済むんだけど妥協召喚した後の攻撃力がダウンした攻撃力は元の数値に戻る。それと同じ現象さ。例えば【可変機獣ガンナードラゴン】を妥協召喚した時自身の効果で攻撃力が1400になるけどこれは効果だから【アビリティ・リミティション】の効果で無効、その結果攻撃力が元の2800に戻る。それと同じで【ダークエンド・ドラゴン】の攻撃力は下がったけどそれは自身の効果だから攻撃力の処理が終わった後【アビリティ・リミティション】の効果で再び無効にされるから攻撃力は元に戻る。わかりやすいだろう？」

「馬鹿な！」

「十代が…」

「まとな…」

「説明…」

「を…」

「「「「「しているだと（なんて）（ニヤ）！！？」」「」「」

ありえない！！十代が効果説明をこんな簡単に話す、しかも本当にわかりやすい！！
これがあの十代なのか！？

「みんなひどいな！」

「くっ…妙なプレッシャーが…ん？」

十代 LP 6350

「あっ、そうそう【ダークエンド・ドラゴン】の効果にチェインして速攻魔法【神秘の中華なべ】を発動させた。これでトウルース・ドラゴンを生贄にしてその攻撃力5000の分だけ俺のライフは回復したからな」

「そこまで知的プレイをするとは！！十代のやつ！俺をダイレクトアタック翻弄さす気か！ええい！【ダークエンド・ドラゴン】で十代に直接攻撃！ダーク・フォッグ！」

「うわあ！！」

十代 LP3750

「さらに速攻魔法【表裏一体】を発動！自分フィールドの光属性、または闇属性モンスターを生贄にして発動！闇属性を生贄にした場合光属性モンスターを！光属性を生贄にしたら闇属性モンスターを手札から特殊召喚できる！闇属性【ダークエンド・ドラゴン】を生贄にして光属性モンスターを特殊召喚！闇の中から輝きをはなてっ！！【ライトエンド・ドラゴン】ダイレクトアタック光臨！！そして【ライトエンド・ドラゴン】で十代のに直接攻撃！シャイニング・サプリーメイション！」

「うわああああ！！」

十代 LP1150

「リバーズカードをセットしてターンエンド」

「すげえ…強すぎるぜ万丈目！めちゃくちやワクワクしてきやがった！！いくぜ！俺のターン、ドロー！魔法カード【強欲な壺】を発動！これでデッキからカードを2枚ドロー！きたぜ！逆転のカード！魔法カード【死者蘇生】！これで墓地から【ハネクリボー】を特殊召喚！」

「そんな雑魚でなにができる！」

『クリクリ！』

「【ハネクリボー】を雑魚って呼ぶと痛い目にあうぜ！俺は速攻魔法【バーサーカークラッシュ】を発動！これで墓地の【Sintウ

ルース・ドラゴン」を除外して【ハネクリボー】の攻撃力、守備力を除外したモンスターと同じにする！これで【ハネクリボー】の攻撃力は…5000！」

「馬鹿な！？　こうも簡単に攻撃力が…！？　」

「いけ！　【ハネクリボー】！　【ライトエンド・ドラゴン】に攻撃！　バーサーカークラッシュユ！」

「罨発動！　【ガード・ブロック】！　この効果で1度だけ戦闘ダメージを0にカードを1枚ドロウする！」

「ちくしょう…これでターンエンド」

「俺のターン、ドロウ！　魔法カード【壺の中の魔術書】！　この効果でお互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドロウする！…はっ！　聞こえる…聞こえるぞ！　お前の声が！　魔法カード【死者転生】を発動！　手札の【未来融合―フューチャー・フュージョン―】を捨て墓地から【光と闇の竜】ライトアダダドクネネラゴンを手札に加える！　そして【ミンゲイドラゴン】を召喚！　そして速攻魔法【速攻召喚】！　この効果で【ミンゲイドラゴン】を生贄にして【光と闇の竜】ライトアダダドクネネラゴンを召喚！」

『グルアアアアアアア！…！』

あの声…あの感じ…
まさかライダーは…

「ステイラー…あれってまさか…」

『ピー（精霊だな）』

ありえないだろう!!? 俺が普通のカード渡したただぞ!!? それなのに漫画版、万丈目の用にライダーが精霊になったのか!!? すごいなカードへの愛って!!?」

「ライトアダドクネネラゴン【光と闇の竜】で【ハネクリボー】に攻撃! シャイニングブレス!」

「【ハネクリボー】は天使族! よってフィールド魔法【天空の聖域】の効果でダメージは0!」

「まどろっこしいフィールドだ! ターンエンド!」

「俺のターン、ドロー! やっぱり最後はお前だよな! リバースカードを2枚セット! これでターンエンド!」

「俺のターン、ドロー!...!!...!!ライトアダドクネネラゴン【光と闇の竜】で十代に直接攻撃!」

「ならその攻撃に対して罨発動【リミット・リバース】! これで墓地から攻撃力1000以下の【ハネクリボー】を特殊召喚!」

リバースカードが1枚...そして手札は2枚...これはもしかして

「けど攻撃は続行だ!」

「もう1枚のリバースカードオープン! 速攻魔法【進化する翼】! この効果で手札のカード2枚を捨て【ハネクリボー】を【ハネクリボーLv10】に進化させる!」

『クリクリー!!』

「そして【アビリティ・リミテイション】の効果でライフを500払い【ハネクリボーLv10】の効果はつど：「その戦術は読めていたぞ十代!」何!？」

「手札から速攻魔法【禁じられた聖杯】を発動!これで【ハネクリボーLv10】の効果を無効にして攻撃力を400ポイントアップ!消し去れ!【ハネクリボーLv10】!ダーク・パプティズム!」

「だけどLv10も天使族!【天空の聖域】の効果で戦闘ダメージは0だ!」

「ターンエンド」

「このドローに賭けるぜ……俺のターン、ドロー……!!……魔法カード【魔法再生】を発動!これで墓地から魔法カード【強欲な壺】を手札に加えそのまま発動!!これでデッキから2枚ドロー……!!さらに魔法カード【貪欲な壺】!墓地から【ハネクリボー】【ハネクリボーLv10】【魔導雑貨商人】【可変機獣ガシナードラゴン】【Sinスターダスト・ドラゴン】をデッキに戻しシャッフル!そして2枚ドロー!……ありがとうなハネクリボー……俺は【ハネクリボー】を召喚!」

「ここでもた【ハネクリボー】だと!？」

「そして魔法カード【錬金術の研究成果】を発動!それにチェーンして速攻魔法【サイクロン】!これで【アビリティ・リミテイション】を破壊!そして【錬金術の研究成果】で墓地の【ライトニングギア光神機―轟龍―】【神獣王バルバロス】魔法カード【進化する翼】の効果で捨て

た【S i n t ウルース・ドラゴン】を除外して【ハネクリボー】を
【ハネクリボーLv9】に進化させる！」

【ハネクリボー】が急に光出したら墓地にカードを吸収し始め光が
収まったら翼は大きくなる全身に鎧をつけてる【ハネクリボーLv
9】が誕生した

「こ…攻撃力10900…」

「【ハネクリボーLv9】の攻撃力は【錬金術の研究成果】で除外
されたモンスターの攻撃力の合計になる！これで終わりだ！【ハネ
クリボーLv9】で【光と闇の竜】ライトアダダドクネネラゴンを攻撃！バーサーカークラッシ
ュ！！」

「うわああああー！ーっ！ー！」

万丈目 LPー7800

…またライフ8000でも1killできるダメージをだしやが
った…

もう十代達に勝てる気がしないのは気のせいだろうか…ははは…

「すまない【光と闇の竜】ライトアダダドクネネラゴン…お前を使いこなせなかった…」

『グルウウウ……』

「あっ…そろそろ時間か…ではデッキ改良はここまで！後は各自で
デッキ強化しといってくれ！」

たく…わずか1時間でここまで十代、サンダー、明日香、大徳寺先

生4人は強くなったな…

これだけの実力があればセブンスターズも結構大丈夫だろう
てか最初に十代の伏せ3枚の内2枚はなんだったんだ？すげー気
になる…

——Side

『それで…今日はあのカードを調べたのかね?』

「はい…やはりあのカードにはとてつもなく強い闇の力がでています…」

『それにアムナエルのデッキが強化されたおかげであいつとは互角に戦えるようになったのか?』

「いや…確かに強くなりましたがそれでも全然敵いません…これだから最強で最凶の最狂の最後のセブンスターズは…」

『ではなるべく早くあいつの解放…いや復活を期待しておるぞ』

そう言われパソコンの画面は暗くなった

この前と同じこの部屋の主はまた考え事をしていた

「(今日はみんなのデッキ改良でみんなのデッキを見たが…：魁君以外勝率はほぼ無に等しいニャ…魁君ですら勝てる確率が2割ぐらいニャ…：やはりここはこの賢者の石を使うべきだろうか…)」

再び大きな悩みを抱え込んでる部屋の主…
その目は閉じているが奥底では希望なんてなく…あるのはただの絶
望だけだった…

第27話 ライバル対決！進化した翼と光と闇と…（後書き）

今回も最後のセブンスターズの情報をチラッと…いったい誰でしようね？

では次回予告！

探偵を派遣してきた！？

ってあれって…どう見ても…

黒蠍盗掘団じゃん…

次回！【セブンスターズ襲来！その名は黒蠍盗掘団！】

次回もお楽しみに！

第28話 セブンスター襲来！その名は黒蠍盗掘団！（前書き）

黒蠍なんてすぐ終わりますけどなにか？ただこの回が面白かったからそのツツコミの為に書いたも同然！

魁「では今回の最強カードは【おジャマジック】！

このカードが手札またはフィールドから墓地に送られた時デッキから【おジャマ・イエロー】【おジャマ・ブラック】【おジャマ・グリーン】を手札に加える！

デッキに上記のカードが1枚ずつ無いと発動しても手札に加えられるぞ！

第28話 セブンスター襲来！その名は黒蠍盗掘団！

今日も楽しく学園生活満喫中の魁です

あれから十代と明日香が怖い、怖い……十代は容赦なく融合しまくってZeroとかガイアとかシャイニングとかシャイニング沼地マン出したり：明日香はもっと強化したいらしくエクシーズもしたいとか言ってきたし：まあエクシーズはあげなかったけど

万丈目はまだ対応できる：漫画版に少し性格が似たせいかライダーを異様に使う結果あれはネタデッキになったからな：素直に【おジャマ】使おうぜ

それぞれデッキに特徴が出てきたな……この流れだとなんか翔とかカイザーが魔改造されそうだな。頼まれたら断らないと思うけど

しかし前日のあの成金野郎はなんだ？

いきなりこの学園に来たらシンクロモンスター、エクシーズモンスター売ってくれと言ってきたし：もうエクシーズの噂は出てるんだな：後3ヶ月ぐらいでエクシーズは一般販売かな？

ともかく売ってくれと言って来たからとりあえず適当に売った。すべて50万で買わせてやったよ：【No. 17リバイス・ドラゴン】（OCG効果です）や【氷結界の龍グングニール】の50万はまだわかるけどまさか【レインボー・フィッシュ】【深海のディーヴァ】【ペンギン・ソルジャー】にまで50万とか……今思うとエクシーズ売って大丈夫だったかな？

何千枚も衝動買いしてしまったせいか成金野郎のサイフは冬が来て俺のサイフには春ではなく早過ぎる夏が来た。しいて5億：しばらくカードを売らなくて済みそうだな

そして成金野郎は帰っていった……本当にあいつはなんだ？

そして今日という素晴らしい日を満喫中……なんだが……

「どうも警部のマグレです」

「誰だよこいつ？」

「学園が派遣した警部だそうだ」

廊下の前でこの胡散臭い警部と一緒にサンダー、十代、明日香がいた

「お前らなにをしてるんだ？」

「この警部の命令で鍵をどこかに隠そうと思ってな」

「隠すなら海の中、森の中、体の中、汚物の中、嚴重な物の中にしとけ。さもないと簡単に盗まれるぞ」

「す、すごいところに隠そうと思いますね」

「基本隠す物は相手にバレず自分が辛うじて覚えられる場所または自分でも忘れるような場所、自分でもわからない場所に置いとくのが普通だろ」

自分でも忘れる場所に置いてる時点で隠しとか以前にそれだと無くしたも同然。自分でもわからない場所なんて隠すんじゃないくて無くしただからな…

しかしこのマグレ警部どこかで見た気が…

とりあえずみんなで隠し場所を決まる事にした

「俺の鍵はここに保管しよう」

「保管と言うのかこれは？」

「これだと気づきにくいですね」

サンダーが隠した場所はオシリスレッド近くの地面の中5m。つまり地中である

本当はサンダーいわく30mまで掘って埋めたかったらしいがそれだと本当に忘れそうなので却下したそうだ。そのほうがいいけどな
あれはオシリスレッドの管理人のゴーグさんだ。今日も塗装お疲れ様です

あの金髪オシリスはなんだ？…なんか見覚えがあるんだが：

「俺は…この井戸の中かな」

「ここは嫌な噂がありますからな。大丈夫でしょう」

十代は俺がおジャマ達を拾った井戸か

この中って確か精霊達がいっぱいあったからすべて回収して1枚1枚丁寧に引き出しの中に入れといてあるんだよな。まあ出番あるかわからないけど

そしたらこの学園を警備してるクリフさんを見た。あの人どちらかと言うと警備より強盗のほうが向いてる顔してるぞ

「なら私はここで」

「態々ここまでする必要はあるんでしょうか？」

「同じくそう思いますマグレ警部。サクラはどう思う？」

「それ以前にどういう話の流れか教えなさいよ」

どうしてサクラがいるか説明しよう。明日香の隠し場所はまずオベリスクブルー女子寮になった。そこでサクラと合流。一緒に行く事になりました、以上

しかし明日香の隠し場所がすごいな：最初に自分の部屋の宝石箱に入れるかと思ったらそこになんらかの紙入れて今度は校長室の植木の中に再び紙を入れ次に購買部のロッカーの中に紙を入れ最後には宝石箱の紙の下に置いた。いったいなにがしたいんだ明日香は？

「魁、ここだけの話。さっき入れた宝石箱は二重底で鍵はその下に置き上のほうに紙を入れておいたわ。紙に書かれてる内容は校長室の植木の中、購買部のロッカーの中、最後の紙にはオベリスクブルー女子寮から西へ158歩、北に567歩、東に37歩、そこで穴を掘るって書いておいてある。だけど掘った穴の中身はドッキリ箱でそのドッキリ箱の内容はロケットパンチ。これだけやれば見つける人の心は折れるでしょ？」

……聞かなかった事にしよう

明日香が段々黒くなっていく……というか絶対零度のように冷たくなっている気が：気のせい……ではないか

いったいなにが原因でこうなった！？カードになにか悪い悪霊でもついていたか！？

そしてオベリスクブルー女子寮から出る時に女医のミーネに出会っ

た。安静状態の時お世話になりました

「で、私の鍵はここがいいのニヤ」

「ここでやっと普通のところに隠したか。普通のせいで今までの先入感があつてここになら見つかりづらいな」

「むしろ海に捨てたほうがよくない？」

それは俺も言ったぞ、サクラ。でもみんな行なってないし……大徳寺先生だけ普通でよかったよ。そのおかげで俺の心が少し落ち着いた……

———その夜

「十代とサンダーの鍵が盗まれた!？」

「そうなんだ。天上院君やマグレ警部を誰か呼んできてくれ」

「じゃあ十代頼む」

「任せとけ!！」

まさかあの嚴重に保管しといった鍵が盗まれるとは……でもさすがに

明日香のは無理だったか
誰かが盗んだとしたら見てた人達……マグレ警部ぐらか？でも警部だからないかもな

「……何故俺の部屋なのだ」

「わかるかそんなもん」

サンダーの部屋に皆さん集結。マグレ警部の隣にゴーグさん、金髪オシリス、警備のクリフさん、女医のミーネ……こいつら並んだ瞬間に今更わかった……こいつら黒蠍盗掘団じゃね？こいつらが盗んだんろうか？

精霊でここまで実体化できるとは……これは闇のアイテムが原因か？どうなのだろうか？

「ステイラー…長ったらしいから別の名前に変えていいか？」（小声）

『ピッ（別にいいぞ）』

「じゃあステイラーのステとラを取ってステラな。精霊ってここまで実体化できるのか？」（小声）

『ピー、ピッピッ、ピー（いや普通無理だよ。精霊がこの世界で実体化するにはLv8以上ないと無理だし。中には例外がいて何かの力が作用または何かの協力があれば実体化できるよ。俺をソリッド

ビジョンで召喚すると実体化するのと同じだ）』

へえー……納得した。黒蠍もセブンスターズの1人だと言うから恐らく闇のアイテムが原因だろうな
とか思っている時にサンダーが推理ショーを始めようとしていた

「この事件は必ず俺が解いてみせる！万丈目サンダーの名に掛けて
！」

……ツッコんだほうがいいのか？

「俺はみんなが集まる前にすべての犯行現場を回ってきた」

「そっか！犯行現場にはいくつもの証拠が残ってる！」

「そう言えば盗まれて無いとは言え私の部屋につけ爪が落ちていた
わ」

思いつきりバレバレのリアクションで黒蠍の1人ミーネは驚く。そ
こまで驚くなみんなにバレるぞ！

ここでサンダーの推理ショーが終わると詰まらんからもっと持ちこ
たえてくれ！

「天上院君。真剣に犯人を捜す気はあるのか？部屋はコマめに掃除
しろ」

「！ま、毎日してるわよ！」

ああよかった：明日香はまだ性格が曲がってなくて：
もしあの状態のまんまだったら俺が怖い：あの態度見るだけで全身

に怖気が走る！

「そんな物は俺が捨てておいた」

「ご、ごめんなさい…」

肝心な証拠を処分するなサンダー！！それは立派な証拠だ！！それでもじっちゃんの名に掛けて推理できるのか！！

サクラが急に部屋の端にいきなにかしている…なにをしているんだ？

「そう言えば会議室の金庫の前にも足跡が…」

なに根本的な馬鹿な行為をしてるんだ！？しかもなにその『やべっ！バレた！』って顔！？普通にバレルし顔にそこまで出てる犯人だと思われるぞ、クリフ！犯人だろうけど！

「学園内は土足厳禁！ちゃんと上履きを履く！足跡なら俺が拭いておいた」

サンダーーーーーッ！！お前のバカーーーーーッ！！

なんでそんな決定的証拠を処分しちゃうの！？普通取って置くだろう！！

「そう言えば俺が隠した井戸には蓋もなにもされてないのに壊されてたな」

「学園の物に傷をつけるな！後で弁償代が高くつく！そんな物は俺が直しておいたぞ」

なんでそんな無駄な事をやったのゴークさん！！！？本当に無駄すぎ

るよ!!!

なにか!?! 入る時に入り口が狭かったから壊して入ったのか!?! だったら小柄なその金髪オシリスのチックにやらせろよ!?

「それじゃあ犯人は誰なのニャ?」

「ふっ…お前! お前! お前! そしてお前だあ!!」

名で呼べ!! 可哀想なモブキャラみたいな扱いをするな!!
それだと黒蠍の連中怒るぞ!?! あっ黒蠍がそんな事を言うなら証拠があるんだろうと言ってきた。それはそうだな

「あるとも」

「なに!?!」

「しかし…証拠らしき物はすべて君が…」

そうだな。サンダーがすべて証拠を排除してしまったせいで決定的な証拠が無い……というかその決定的な証拠もサンダーが排除したんだけどな

「ふふっ……証拠はこれだ!!」

「「ツツコミどころがありすぎて困るわーーーーっ!!!!」」

「へブチッ!!」

豪快なハリセンの音がオシリスレッド全域に響き渡る…
てかさつきからツツコミどころが多すぎるんだよ! サンダーが証拠

を排除するし！サンダーが証拠を排除するし！黒蠍はバレバレのリアクションするし！証拠はまさかのおジャマだし！そんな証拠一般人には意味不明の証拠もしくはただのカードと認識するわ！

サクラがこのハリセンくれなかったらあやうく声でツッコむところだったよ！！ナイスだサクラ！

「目撃者！？そんなどこにいるの？」

『おうおう！お前らにはこのジュツテが！』

『桜吹雪が！』

『紋所がみえねえのかい！』

「「「全然見えない」」」

「見えてるじゃねーっ！っ！」

「あんた達いつまでふざけてんのよ！」

「そしてマグレ警部！あなたがこの事件の黒幕だ！」

その後ツッコミどころは無くサンダーが見事？な推理？をして黒蠍が正体を現せた

「「「「黒蠍盗掘団？」」」」

「俺は知っていたからおどろかねえ…」

「私は数年前、七星門の鍵を奪う仕事を受け部下をこの島に送り込

「んのだ!」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「時間を掛けた割には仕事が雑だぜ」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「なんかおもしれえぞ、こいつら」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「一応言っておくけどそのポーズを取っていると隙だらけよ。意外とまが抜けてるのね」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「とか言われたのでその隙の間に七星門の鍵を取り返しました」

「ごくろう、サクラ。お前らそれでも盗掘団か?」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「そろそろ見飽きてくるぞその返事」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「だから飽きるって」

「「「「それが!黒蠍盗掘団!」」」」

「…こいつら人の話を聞かないのか？」

「「「「それが！黒蠍盗掘団！」」「」」」

「本当は聞いているのか？」

「「「「それが！黒蠍盗掘団！」」「」」」

「聞いてないのか？」

「「「「それが！黒蠍盗掘団！」」「」」」

「「いい加減にその名乗りも飽きたわ！！！」」

スパーーンッ！！と今回一番いい音がオシリスレッドに響いた
その後黒蠍が開き方を教えてくれと言ったのでサンダーとデュエル
し倒したら開くと半分嘘情報を流した

十代、明日香、大徳寺先生も倒さなければ開かないって！！

そしてただいま現在オシリスレッドの前の外。今からサンダーと黒
蠍とのデュエルが始まるところです

「^{デュエル}決闘！」

「俺のターン、ドロー！試作デッキの調整にはちょうどいい！俺は
【おジャマ・ブルー】を召喚！そしてリバースカードを2枚セット
！これでターンエンド！」

「私のターン、ドロ！魔法カード【強欲な壺】！これで2枚ドロ！私は【首領^{ドン}・ザルグ】を召喚！せっかくだからここは私自身がフィールドに出よう！」

自分自身召喚！カイバーマンとおっさんで少し耐性がついていたけどちょっと前の出来事のせいでツツコミしたい！

しかしサンダーは【おジャマ】デッキか…どんな風に回すつもりだ？しかもブルーを攻撃表示…何故だ？

「そして魔法カード【黒蠍団召集】！これで手札から【黒蠍】と名のついたモンスターをすべて特殊召喚する！」

「そんな簡単に場に並べさせると思うか？罨発動！【おジャマトリオ】！これで相手フィールドに3体【おジャマ・トークン】を特殊召喚する！」

『すみませんね』

『お宅の場なのに』

『お邪魔しちゃって』

うぜえ！！これはうざい！！折角【地獄の暴走召喚】で1killモンスター並べられる！と思った瞬間と同じくらいにうざいだろ！！

「ちっ…なら頼むぞミーネ！」

「あいよお頭！」

「そしてミーネで【おジャマ・ブルー】を攻撃！」

「棘の鞭！！」

「ぐっっ！！」

万丈目 LP3000

「【おジャマ・ブルー】効果発動！このカードが戦闘破壊された時デッキから【おジャマ】と名のついたカード【おジャマジック】【おジャマ・デルタサンダー！！】を手札に加える！」

「ミーネの第一の効果でデッキから【必殺！黒蠍コンビネーション】を手札に加える！私自身でお前に直接攻撃！ダイレクトアタックダブルリボルバー！」

「ぐわあああ！」

万丈目 LP1600

「そして【ドン首領・ザルグ】の効果で相手の手札をランダムに1枚墓地に送る！私は右から2番目のカードのカードを選択」

「送られたのは【おジャマ・デルタブリーフ】！」

「そしてリバースカードをセットしてターンエンド！」

「俺のターン、ドロー！罨発動！【ロスト・プライド】！このカードの効果で手札の魔法カード【おジャマジック】を捨て相手墓地の魔法カード【強欲な壺】を手札に加える！ただしこのカードの効果

で手札に加えた相手の魔法カードを発動する時1000ライフを払わなければいけない！さらに【おジャマジック】の効果でデッキから【おジャマ・イエロー】【おジャマ・ブラック】【おジャマ・グリーン】を手札に加える！そして俺は【強欲な壺】を発動！ただし【ロスト・プライド】の効果でライフを1000払う！」

万丈目 LP600

今思ったんだけど：これ本当に闇のゲームかな？

黒蠍はセブンスターズだと思うから闇のゲームだと思うんだけど：なんかサンダーにリアルダメージが負ってる気がしない：

まさか俺って不幸人！？まともな闇のゲームって実はダークネスしかやらないの！？だったら俺チョーショック！！今までの悩みはなんだったの！？もう終わったからいいけど！

「そして【強欲な壺】の効果で2枚ドロ！俺は【おジャマ・レツド】を召喚！効果で手札から【おジャマ・イエロー】【おジャマ・ブラック】【おジャマ・グリーン】を特殊召喚！そして魔法カード【おジャマ・デルタサンダー】！自分フィールドにおジャマ三兄弟が揃っている時相手の手札、フィールドの枚数×500ポイントのダメージを与えその後デッキ、手札から【おジャマ・デルタハリケーン！！】を墓地に送る事で相手フィールドのカードをすべて破壊する！貴様のカードの総計枚数はリバーズカード1枚モンスター2枚トークン3枚手札4枚！合わせて10枚！よって5000ポイントのダメージ！そして追加効果で相手フィールドのカードをすべて破壊！破壊された【おジャマ・トークン】の効果で相手に300ポイントのダメージ！3体破壊したので900ポイントのダメージだ！総計ダメージは5900！」

「なんだとお！！うわあああああ！！」

ザルーグ LP-1900

「「「お頭!!!」」」

「まだ攻撃はやめないぞ!」

うえええええ!!!?

やめてあげなよサンダー!相手のライフはもう0だよ!?

「そしてフィールド魔法【おジャマ・カントリー】!これでフィールドのすべてのモンスターの攻撃力、守備力を入れ替わる!そしてライフを500払い魔法カード【ダブル・フュージョン二重融合】!このカード1枚で2回融合できる!フィールドのおジャマ三兄弟で融合!そしてフィールドの【おジャマ・レッド】と手札の【おジャマ・ブルー】を融合!【おジャマ・キング】と【おジャマ・ナイト】を召喚!!そして最後の手札……それは魔法カード【トライワイトゾーン】!これで墓地からLv2以下の通常モンスター3体を特殊召喚!蘇れ!雑魚共っ!!!」

『『『どうもです!』』』

万丈目 LP100

なんというぶん回し【おジャマ】デッキ……

デルタサンダーなんかサーチせずにデルタハリケーンでも勝てるじゃん!

「そしてすべてのおジャマで直接攻撃!ダイレクトアタック必殺!おジャマ・コンビネーション!」

「うわあああああ!!」

ザルグ LP—10400

「「「お頭!!!死ぬな——っ!!」」」」

そう言って黒蠍は全員消えた…カードの中に戻ったんだろうな

十代が闇のゲームとか言ってるけどそれはよくわからないな。罰ゲームでこうなったか負けたからカードの中に戻ったか…今はどっちでもいいけど

理由は無かったがとりあえず落ちている黒蠍のカードをすべて回収した

………のだが…

『やはり私達はこのほうが楽でいいな!!』

『これから仲良くやりましょう!!』

『ピー！（今日は宴だ!）』

『騒げ！騒げ！』

「お前らうるせー！ーっ！！サンダーの耳栓どれだけ高性能なんだよ！！こんなにうるさいのに普通にスースー寝てるし！！」

「「「「「「それが！新生・黒蠍守護団！！」（ピー、ピッ、ピッ、ピッ！！！！）」「「「「「」

「いつ名前を変えたー！ーっ！！！！？？」

こんなツツコミどころ満載やつらがうるさい事は知っていたがここまでうるさくなるとは！これじゃあ夜が全然寝れない！！今度通販でサンダーと同じ耳栓買おう！！

第28話 セブンスターズ襲来！その名は黒蠍盗掘団！（後書き）

サンダーソリティア！ただサンダーが強くなって事を書くために書いたのに…そしたらこんなに強くWWW

では次回予告！

ついに動きだした…最強

誰にも負けない強さを誇ると言われている…最凶
いかなる時でも相手を苦しませる…それが最狂！！

次回！【セブンスターズ最強で最凶の最狂の復活！】

次回ついにセブンスターズ最後の1人が誕生！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3776z/>

遊戯王GX ルールを守って楽しく決闘！

2012年1月15日01時55分発行